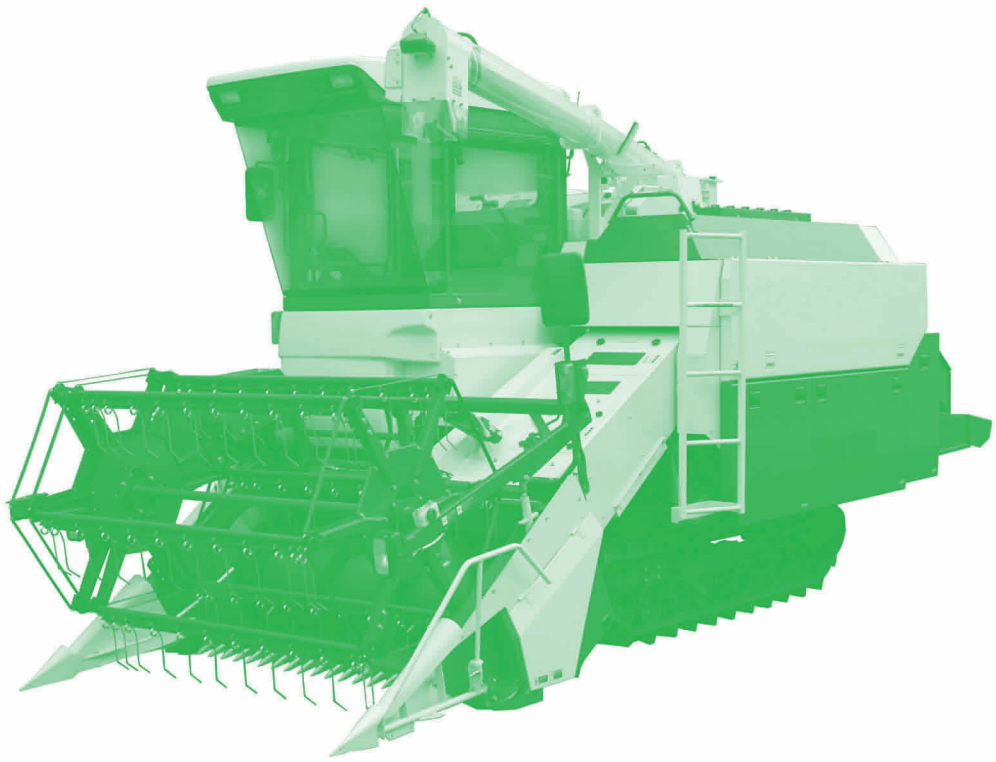
コンバイン

取扱説明書

VCH650



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに，この取扱説明書をよくお読みいただき，安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は5ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の他に，大豆・小豆・そばなど適応作物（作物別調整表（Aページ）参照）収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

作物別調整表

	稲	麦	大豆
ロータ回転数	高速（720rpm）	高速（720rpm）	低速（310rpm）
ロータ拡散板	0	3	3
トウミファン回転数	950rpm（内側ライナ３枚）	950rpm（内側ライナ３枚）	900rpm（内側ライナ２枚）
二番還元位置	ロータ※１	ロータ※２	揺動
送塵ガイド角度	4	4	6～7
チャフシーブ開度	5	4	10
揺動グレンシーブ	25Pクリンプ網	25Pクリンプ網	パンチングφ12
受網	クリンプ18P＋25P	クリンプ18P＋25P	格子網
一番底板掃除フタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
二番底板掃除フタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
一番タッチ部掃除フタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
二番タッチ部掃除フタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
グレンタンク底板掃除フタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
排出縦パイプフタ	稲用穴無し	稲用穴無し	大豆用穴有り
プラットホームオーガと底板のすき間	6～8	6～8	12～15
プラットホームオーガ回転数	169rpm	169rpm	169rpm又は143rpm
フィーダハウス底板	稲用穴無し	稲用穴無し	泥抜きスリット付き（大豆用）
プラットホーム底板	稲用穴無し	稲用穴無し	泥抜きスリット付き（大豆用）
ビーンスラット	無	無	有
デバイダガイド	無	無	無
刈刃	３インチ	３インチ	３インチ又は２インチ

［注意］

上表は調整の目安です。実際の刈り取り条件に合わせて微調整を行って下さい。

大豆の収穫には専用キットが必要になります。

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，安全作業のために からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

キャビンについて キャビン仕様機の取扱いは？

各装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-26)

（安全作業説明編）

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき……5

1．各部の名称…… 5
2．運転装置の取扱い…… 6
1．スイッチ・計器関係…… 6
2．ペダル・レバー・ステップ関係……16

運転のしかた……24

1．運転まえの点検……24
2．エンジンの始動と停止……26
1．エンジン始動のしかた……26
2．エンジン停止のしかた……26
3．走行・停車のしかた……27
1．走行のしかた……27
2．停車のしかた……29
4．自動車への積込み・積降ろし……29
1．自動車・アユミについて……30
2．機械の積込み要領……31
3．４ｔトラックへの積込み……31
5．ほ場への出入り……31
1．ほ場への出入りのしかた……31

作業のしかた……32

1．作業まえの準備……32
1．作物の条件について……32
2．ほ場の条件について……32
3．ほ場の準備……32
4．機械の準備……33
2．刈取り作業のしかた……38
1．刈取り操作の手順……38
2．刈取り手順……40
3．強制かき込みスイッチの取扱い……44
4．倒伏刈スイッチの取扱い……44
5．リフトシャットの取扱い……45
6．こく粒の排出操作方法……45
7．グレンタンク補助樋口の取扱い……49
8．夜間作業……50
9．エンジン自動停止の取扱い……51
10．刈取り作業終了後の取扱い……52
11．警報装置について……53

自動装置について……54

1．刈高さポジションコントロール……54
1．運転装置……54
2．自動での作業のしかた……54
3．手動での作業のしかた……55
2．水平自動制御……56
1．運転装置……56
2．自動での作業のしかた……56
3．リール回転自動制御……57
1．運転装置……57
2．自動での作業のしかた……57
4．排出オーガ自動制御……57
1．運転装置……58
5．送じん量自動調節……59

キャビンについて［キャビン仕様］…60

1．各部の名称……60
2．各部の取扱い……61
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……61
2．スイッチ類の取扱い……63
3．モニタの取扱い……64
4．室内装備の取扱い……66
5．エアコン……67
6．格納のしかた……69

手入れのしかた……70

1．定期点検整備……70
「定期点検整備表」……70
2．給油・注油・給水のしかた……72

「給油・注油・給水表」……73
1．燃料の補給……74
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…74
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……76
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…77
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイル
フィルタ・HST(走行)オイルフィルタの交換…78
6．ロータギヤケースのオイル点検・交換…80
7．刈刃駆動ケースのオイル交換……81
8．グレン入力ギヤケースのオイル点検……81
9．ウォッシャタンク［キャビン仕様］……82
10. 給脂箇所……82
11. 各部の注油……83
3．各部の点検と掃除のしかた……85
1．ラジエータ吸気部の掃除……85
2．エアクリーナの掃除……86
3．燃料フィルタの掃除・交換……86
4．燃料回路のエア抜きのしかた……87
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除……88
6．ヒューズの交換……88
7．電気配線の点検と掃除……92
8．バッテリの点検と充電……92
9．各部の開閉と脱着のしかた……98
10. 各部の掃除のしかた…… 110
11. 各部の点検と整備のしかた…… 115
12. チョッパスプレッダの点検・整備のしかた… 121
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 122
2．脱こく・刈取クラッチ…… 123
「各部チェンの点検・調整」
3．リール変速入力チェン…… 124
4．プラットホームオーガ駆動チェン…… 124
5．リール駆動チェン…… 125
6．ヘッダ駆動チェン…… 125
7．１番バケットコンベアチェン・
２番スラットコンベアチェン…… 126
「ベルトの点検・調整」
8．走行ベルト…… 127
9．コンプレッサ［キャビン仕様］…… 127
10. ファンベルト（オルタネータ）…… 128
11. ファンベルト（ラジエータ）…… 128
12. リール変速ベルト…… 129
13. 刈刃駆動ベルト…… 130
14. 脱こく駆動ベルト…… 130
15. 脱こくカウンタベルト…… 130
16. １番上方横ラセン駆動ベルト…… 131
17. ロータ駆動ベルト…… 131
18. トウミ駆動ベルト…… 131
19. １番ラセン駆動ベルト…… 132
20. 選別ベルト…… 132
21. グレン入力ベルト…… 132
22. グレンタンク横ラセン駆動ベルト…… 133
23. スプレッダ駆動ベルト…… 133
「クローラの点検・調整」
24. クローラ…… 134
長期格納のしかた ……135
1．機械の掃除と洗浄…… 135
2．錆止めと注油…… 135
3．エンジンの手入れ…… 135
4．点検・整備…… 135
5．格納…… 136
6．再使用にあたって…… 137
不調時の処置 ……138
1．エンジン部…… 138
2．走行・運転操作部…… 140
3．電気・自動制御部…… 142
4．ヘッダ部…… 143
5．脱こく部…… 144
6．グレンタンク部…… 148
7．キャビン部［キャビン仕様］ …… 149
付　　表 ……151
1．主要諸元…… 151
2．ベルト一覧表…… 152
3．主な消耗部品…… 153
4．付属品一覧表…… 155
5．アタッチメント（別売り） …… 155
6．潤滑油について…… 156

も　く　じ

1．エンジンオイル…… 156
2．油圧作動油…… 156
3．ギヤオイル…… 156
4．グリス…… 156
5．防錆・潤滑油…… 156
7．専門用語…… 157

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）

⚠１日の作業が終わったら……（安-17）

⚠長期格納するときは……（安-18）

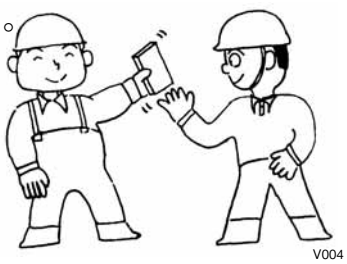
2．表示ラベルについて……（安-19）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。
・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V001
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V002	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。  V003
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V004	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠安全作業のポイント


V005

●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時は，エンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
●ヘッダ部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定してヘッダ部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性がありますので，業務用無線やアマチュア無線等の無線機器を設置しない。

エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動は，座席に座って行う。
●始動のときは，周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●ヘッダ部のデバイダを取外す。
●ナローガイド，排出オーガを収納する。
●機械に子供など，人や物を乗せない。
●走行する前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
●発進時は，周囲を確かめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
●運転中は，子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

●ナンバープレートの交付を受ける。
●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所でヘッダ部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●副変速は，［標準］に入れておく。
●傾斜地では，駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは，車止めをする）
●機械を離れるときは，始動キーを抜取る。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台の高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では，進路変更や変速操作をしない。
- キャビン仕様以外は機械から降りて行う。

ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，［標準］であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときは，アユミを使用し，機械から降りて行う。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬよう余裕をもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。

手こぎ作業

- 手刈りしたものは，プラットホームに投げ込まない。

作業中途の点検

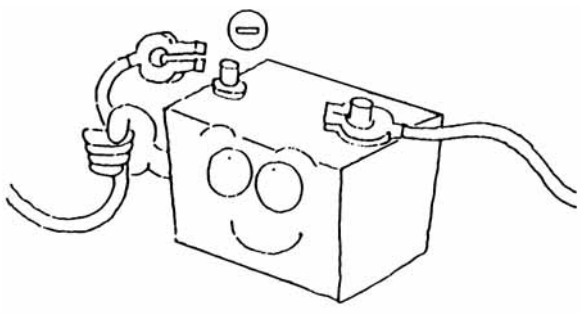
- 平坦な場所でヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- グレンタンクをオープンしたときは，ストッパをかける。
- ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。
- 走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。
- ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。
- ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので、注意して使用してください。
- ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止等の処置をしてください。
- チョッパスプレッダ［S仕様］をオープンしたときは，ストッパをかけ，安全カバーを装着します。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは，冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所でヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。



V008

⚠ 作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械を適応作物（稲，麦，大豆等）の収穫作業以外の用途には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆毎日の運転まえには，「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行ってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。

⚠ 点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換してください。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行ってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆ヘッダ部を上げて，作業をするときは，油圧を固定してヘッダ部の下に固定脚を置く。 ●作業前にエンジンを必ず停止して，駐車ブレーキをかけてください。	機械にはさまれて，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。  V017
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。  V018
⚠危険 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ◆㊉，㊀を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。
⚠警告 ◆ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。 ◆走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。 ◆ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。 ◆ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので，注意して使用してください。 ◆ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止等の処置をしてください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ◆クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ◆ベルトカバー内のワラクズは取除いてください。	火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行ってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。 V013

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。
⚠警告 ◆刈刃やチョッパスプレッダ［S仕様］の切断刃・受刃を調整・交換するときは，厚手の手袋を着用し，直接刃先に触らないでください。	刃先で傷害事故を起こすことがあります。
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行ってください。 ●屋外では，電線などに引掛けないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。

⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	→ 守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《中立》にしてください。 ●変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認してください。 ●周囲を確認し，合図してから始動してください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《中立》，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。

⚠ 路上走行をするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い	⟶	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V029
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆路上走行するときは，ヘッダ部のデバイダを取外し，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ◆ヘッダ部先端を40㎝程度上げます。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ◆坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ◆急傾斜地を走行しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆坂道では，駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●ヘッダ部は，下げておいてください。 ●機械から離れるときは，始動キーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。 ◆アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。	
⚠警告 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で，副変速は標準で行ってください。 ◆キャビン仕様以外の積込み・積降ろしは，機械から降りて行ってください。 ◆水平自動スイッチを「切」にして，機体を一番下げた状態で行なってください。	バランスを崩して，転落・転倒事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，ヘッダ部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキを掛けてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープ掛けフック（４箇所)］にロープを掛けてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落のおそれがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

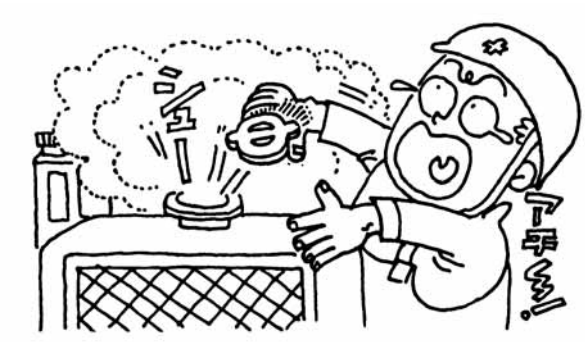
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使ってください。 ●アユミ上では，進路変更しない。 ◆グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ◆キャビン仕様以外は機械から降りて行う。	バランスを崩して，転倒事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ◆キャビン仕様以外は機械から降りて行う。 ◆あぜが崩れないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆手刈りしたものをプラットホームに投げ込まないでください。	回転する刃やリールに巻き込まれ，傷害事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆ヘッダ部の下にもぐったり，手足を突っ込まないでください。	機械にはさまれて，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆夜間作業をするときは，作業灯を使用してください。 ●夜間作業をするときは，作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。	周囲の状況がわかりにくく，思わぬ事故を引起こす原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。 ◆ロータやチョッパスプレッダ［S仕様］に詰まったワラなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除いてください。 ◆素手で刃先には触らないでください。	傷害事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆補助者は作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，パワークラッチ(脱こく・刈取）スイッチ操作をしてください。 ◆チョッパスプレッダ［S仕様］での事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。 ◆エンジンが作動中は，チョッパスプレッダ［S仕様］のそばに手・足・衣服を近づけないでください。 ◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。 ◆作業中は，機械に人を近づけないでください。 ◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。 ●特に，チョッパスプレッダ［S仕様］や搬送部・脱こく部・ヘッダ部付近には，作業中は近づかないでください。 ◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。 ◆運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業をしてください。	傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やチョッパスプレッダ[S仕様]の掃除をしないでください。 ●チョッパスプレッダ［S仕様］にワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。チョッパスプレッダ［S仕様］のカバーを開閉するときは，エンジンを停止してください。 ◆チョッパスプレッダ［S仕様］をオープンしたときは，ストッパをかけ，安全カバーを装着してください。	カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。	マフラの排気で火災になることがあります。
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には，手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ◆走行の前に，排出オーガがオーガレストに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。

⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。

⚠ 長期格納するときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行って，各部の保安を確保してください。  V054	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

①

⚠ 警 告

09603200074

■路上走行する時は

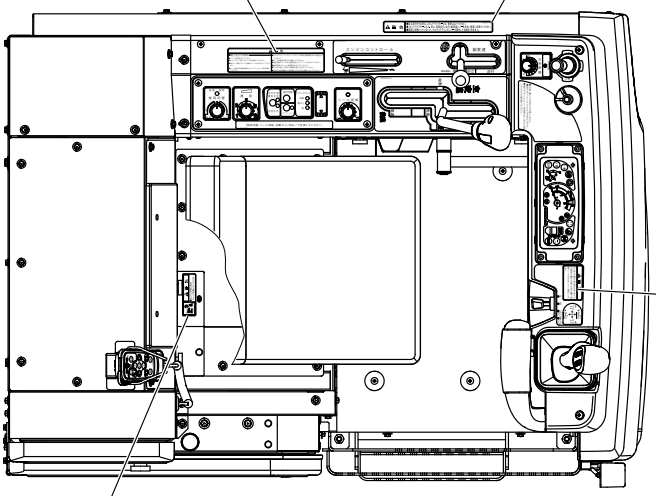
- ●デバイダを取外して下さい。
- ●ナローガイド,排じんケースを収納してください。
- ●脱こく・刈取クラッチ,自動スイッチを《切》にしてください。
- ●オーガレストを格納位置にセットして、オーガを収納してください。
- ●マルチステアリングレバーでデバイダ取付部前端を40cm程度上げてください。
- ●リールを後端、最下げ位置にしてください。
- ●油圧固定スイッチを《油圧固定》にして、フックをかけてください。
- ●急発進,急ブレーキ,急旋回はしないでください。
- ●デコボコ道,下り坂では速度を落して走行してください。
- ●公道では作業機など突起物となるものは装着しないでください。

②

⚠ 警 告

358685317OO

- ●路上走行をする時は、スピンドライブターンは、使用しないでください。
- ●スピンドライブターンの入,切は、前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。
- ●確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。



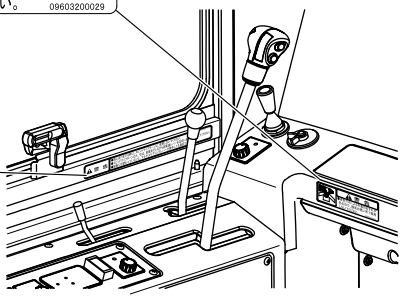
37110032

③

⚠ 警 告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。 09603200029

［キャビン仕様］



37110026

④

⚠ 警 告

中立《N》位置でも動く場合がありますので、機械から離れる時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

切 ACC 入 始動

37118531500

⑤

⚠ 警 告

09603200013

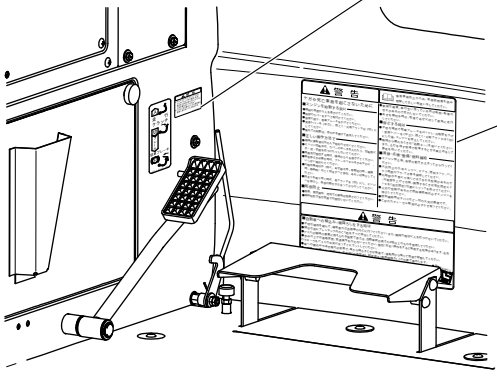
●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

⑥

⚠ 警 告

- ● マルチステアリングレバー又はジャストディレクタで旋回(左右)操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
- ● ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

355685250011



37110028a

⑦

⚠ 警 告

ケガや死亡事故を起こさないために

■エンジンを始動する前に

- ●機械の周囲から人を遠ざけてください。
- ●各部のカバーをすべて取付けてください。
- ●座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- ●変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- ●屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で

- ●機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- ●エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- ●発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- ●緊急停止が必要な時は、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏込んでください。
- ●刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）はこく粒をすべて排出、あるいは降ろしてください。
- ●詰まりを取り除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止

- ●発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- ●傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

- ●軟弱な路肩,草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- ●あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は

- ●平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- ●機械から離れるときは「始動キー」を抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給

- ●エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- ●火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラ・クズ等を掃除してください。
- ●刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックを掛けてください。
- ●火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- ●燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- ●こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

⚠ 警 告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は

- ●平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周辺に人を近づけないでください。
- ●積込む前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ●アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用してください。
- ●歩みの上では進路変更、変速操作を行わないでください。旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- ●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で移動してください。
- ●自動車への積込み・積降しは、主変速《前進低速》、副変速を《車両積降ろし》の位置で操作します。
- ●自動車への積込みは,昇降・旋回レバーを《上る》に操作し,刈取部を上げます。
- ●積込みが終わったら昇降・旋回レバーを《下る》にして刈取部を一杯下げます。



37118525100

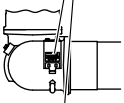
⑧

注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500

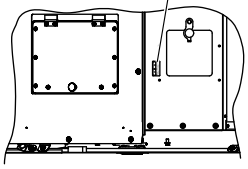


⑨

注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



⑩

注　意

●エンジン始動時は手を排出口に近づけない
●排出中は手を排出口に近づけない
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出オーガは手押し厳禁

37118538000



⑪

警　告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

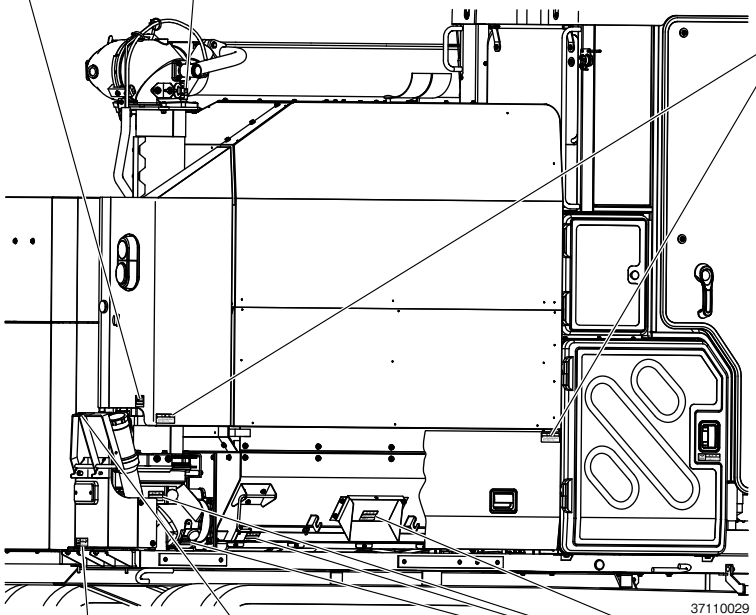
35878542000

⑫

注　意

● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



37110029



［グレンタンク回動状態］

⑬

注　意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027

⑭

35598523500

注　意　乗らないでください

⑧

注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500

⑮

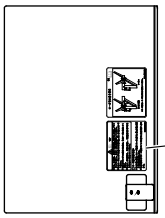
⚠ 注 意

■走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
■排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
■傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
■排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

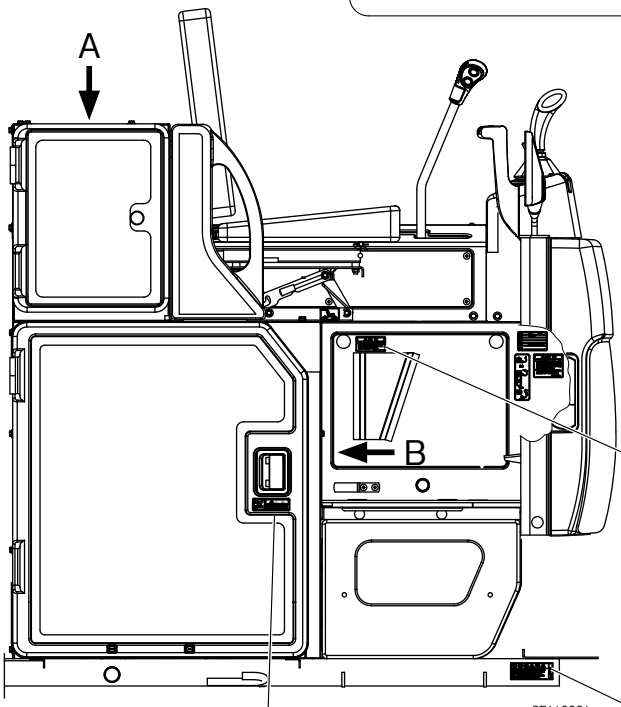
■オーガ旋回自動の取扱い

■排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
■収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

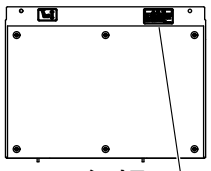
36598555100



A矢視



37110031a



B矢視

⑫

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑯



火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

⚠ 危険

● 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
● 充電は風通しのよいところで行う。（充電時火気厳禁）
ショートやスパークをさせない。
● バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
● バッテリー液注入済（横倒し厳禁　液漏れ注意）
● 急速充電厳禁 ●開封厳禁（密封タイプ）

09603000020

密封タイプ

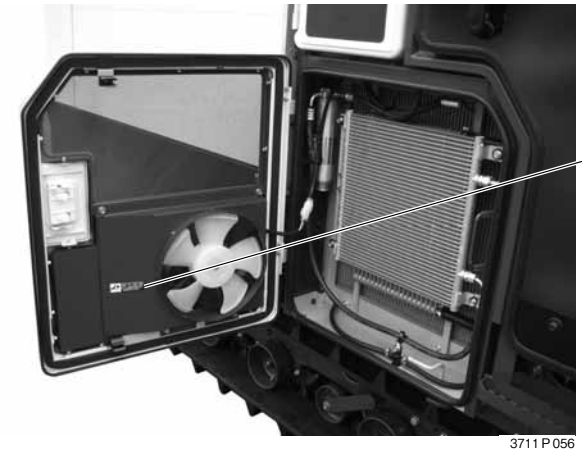
⑬



09603100027

⚠ 注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。



3711 P 056

⑰



26737142000

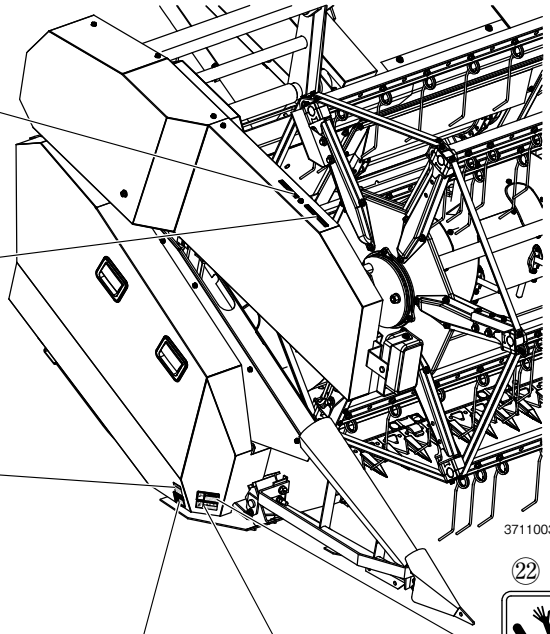
⚠ 警 告

●ファンは自動的に始動します。
手を触れないでください。

⑱
09603200072
⚠ 警 告
● 手刈りした作物を、プラットホームに投げこんで処理しないでください。
刈刃やリールに巻き込まれケガをするおそれがあります。

⑲
09603200071
⚠ 警 告
● 掃除をするときや、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、エンジンを停止してください。

⑫
⚠ 注 意
● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017


37110033

⑱
09603200072
⚠ 警 告
● 手刈りした作物を、プラットホームに投げこんで処理しないでください。
刈刃やリールに巻き込まれケガをするおそれがあります。

⑲
09603200071
⚠ 警 告
● 掃除をするときや、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、エンジンを停止してください。

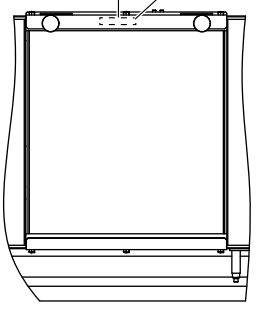
⑳
デバイダ
09603100028
⚠ 注 意
● 路上走行するときは、デバイダを取りはずしてください。

㉑
09603000019
⚠ 危 険
● 刃部に手をかけないでください。
● 着脱作業時は手袋をしてください。

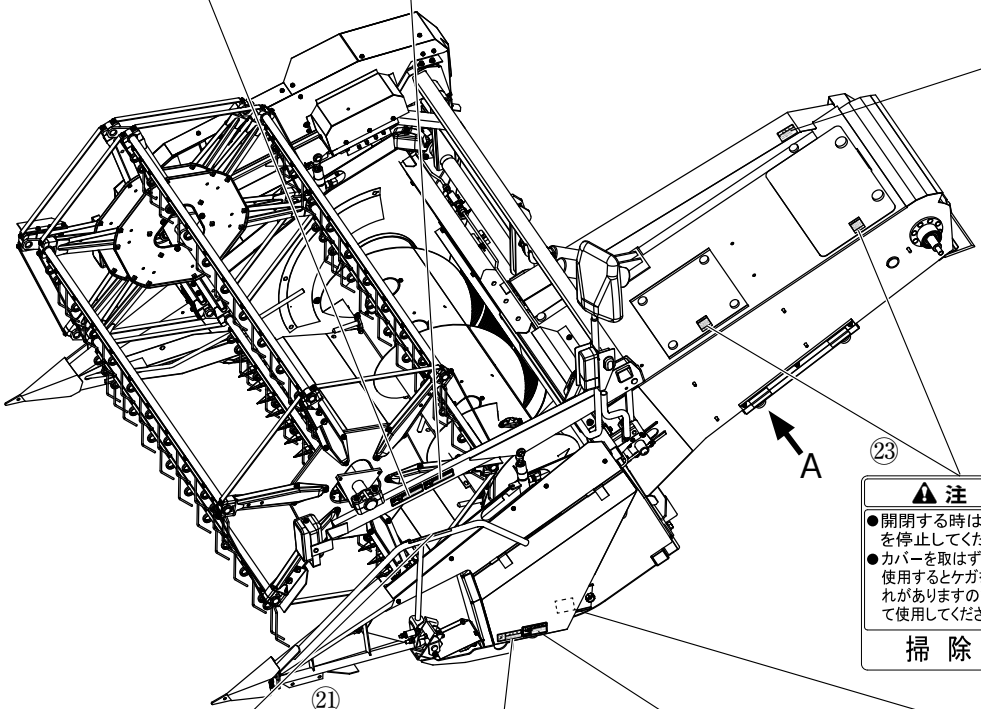
㉒
09603200073
⚠ 警 告
● ワラ屑のまきつき、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、必ずエンジンを停止してください。

⑫
⚠ 注 意
● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

カバーの内側


37110035

A矢視



37110034

㉓
⚠ 注 意
● 開閉する時はエンジンを停止してください。
● カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
掃 除 口
35868527100

㉑
09603000019
⚠ 危 険
● 刃部に手をかけないでください。
● 着脱作業時は手袋をしてください。

㉔
⚠ 注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024

⑳
デバイダ
09603100028
⚠ 注 意
● 路上走行するときは、デバイダを取りはずしてください。

⑧
⚠ 注 意
● 開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

㉓

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100

㉕

⚠ 警 告

●エンジン停止または脱こくクラッチを切っても脱こく部はすぐに止まりません。脱こく部が完全に停止するまではカバーを開けないでください。
●まもらないとケガをするおそれがあります。

3711B529001

㉓

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100

㉗

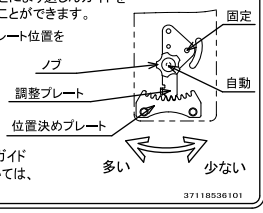
⚠ 注 意 調節時は、各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

送じん量調節取扱のポイント

ノブボルトのしめつけ位置を変えることにより送じんガイドを「固定」あるいは「自動」に切りかえることができます。

作業状態により、下記の場合は調整プレート位置を調整します。

- ロータ負荷が高く、能率が悪い時 →《多い》方向へ調節
- スレッシングロスが多い時 →《少ない》方向へ調節



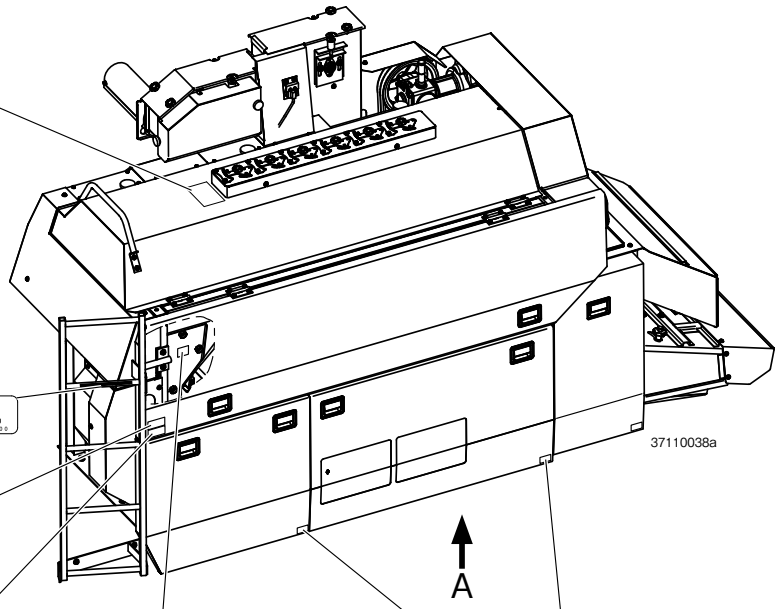
詳細 ■ 作物の条件、種類に応じたガイド初期位置の設定範囲については、取扱説明書をご覧ください。

37118536101

㉘

⚠ 注 意 ハシゴにのぼる時はエンジンを停止してください。

37118503100



37110038a

㉙



09603100029

⚠ 注 意

- 脱こくクラッチを切ってもロータはすぐに止まらないので、ロータが完全に停止するまではカバーを開けないでください。

㉓

⚠ 注 意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。
- カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100

⑫

⚠ 注 意

- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

㉛

⚠ 注 意

37118532400

- 脱こく部を開閉する時はエンジンを停止してください。
- 脱こく部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
- 脱こく部を開閉する時は人を近づけないでください。
- 脱こく部の開閉はゆっくり行なってください。

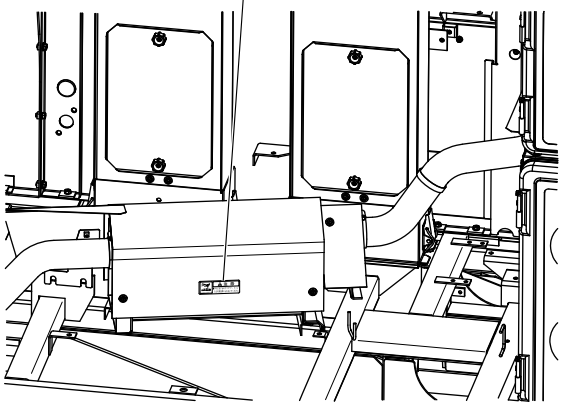
⑬



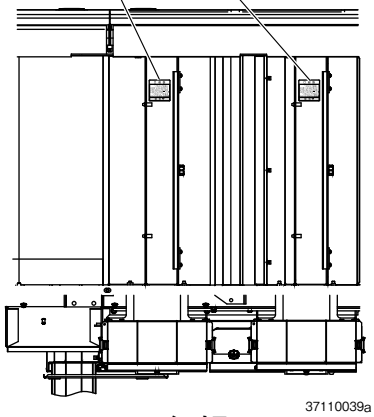
09603100027

⚠ 注 意

- やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。



37110040



37110039a

A矢視

㉚［S仕様］

⚠ 危　険



- チョッパの点検・調整・部品交換、わら、雑草などの巻付きや詰りを取除く時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が完全に停止した事を確認してから行ってください。
- 回転中はカバーの中に手を入れないでください。
- 危険ですので回転刃にはふれないでください。

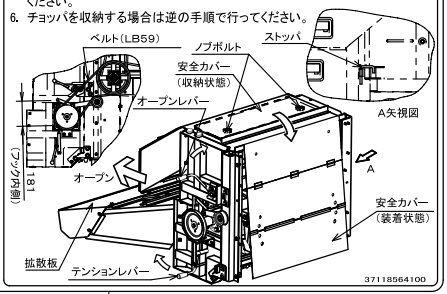
⚠ 注　意

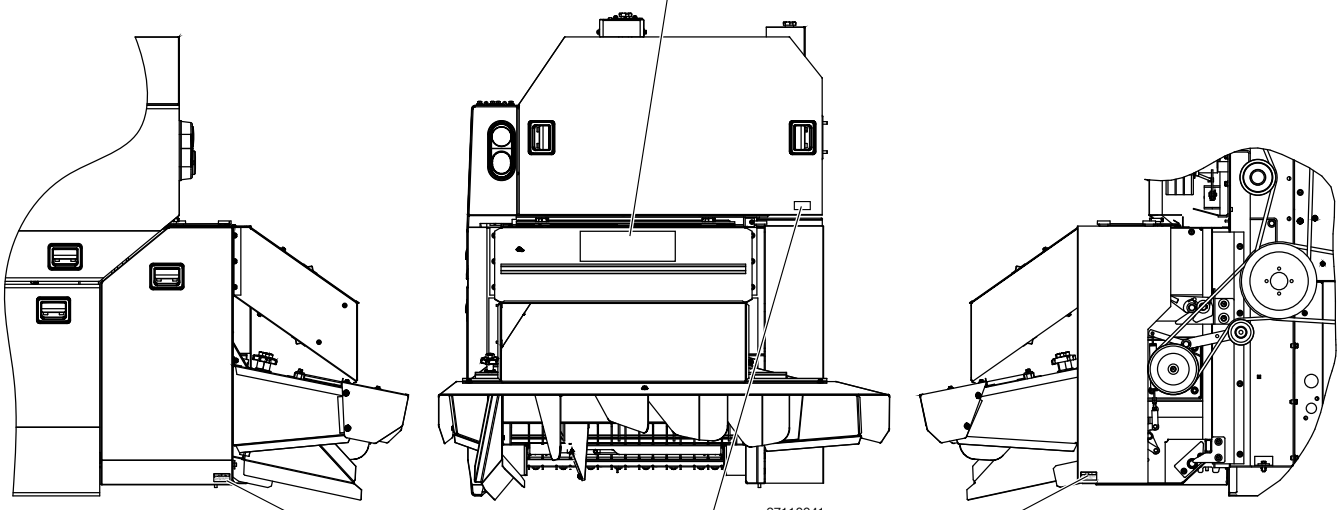
- チョッパの上面部及び拡散板の上に乗らないでください。破損して転倒する恐れがあります。
- チョッパをオープンした時は安全カバーを装着してください。ケガをする恐れがあります。
- チョッパを作業状態にする時は、安全カバーを収納状態にし、ノブボルトで固定してください。装着したままでチョッパを閉じると破損します。

チョッパオープンの手順

作業の仕方については取扱説明書をご覧ください。

1. ロータサイドカバーを開き、脱こく左後カバーとチョッパカバー（左・右）を外します。
2. テンションレバーを矢印方向に上げて、ベルト（LB59）を外します。
3. オープンレバーを矢印方向に上げて、固定を解除しチョッパを後方へオープンします。
4. チョッパ回動防止のため、ストッパで固定します。（A矢視図）
5. チョッパをオープンした後は、上部にある安全カバーを下図の様に装着してください。
6. チョッパを収納する場合は逆の手順で行ってください。





⑫

⚠ 注　意

- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

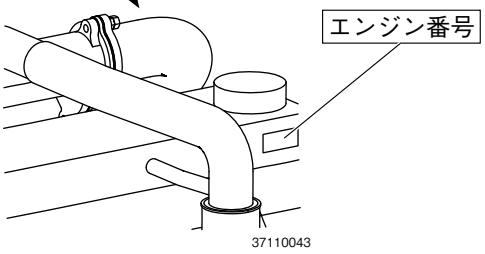
No.	部品名称	部品番号	備考
①	LABEL W, LOAD	0960 3200 074	
②	ケイコクマーク	3586 8531 700	
③	ケイコクラベルハイキ	0960 3200 029	
④	LABEL warning	3711 8531 500	
⑤	ケイコクラベルラジエータ	0960 3200 013	
⑥	ケイコクラベル	3556 8525 001 1	
⑦	LABEL CAUTION	3711 8525 100	
⑧	チュウイラベル	3586 8537 500	
⑨	チュウイラベルカイヘイ	0960 3100 015	
⑩	チュウイマーク	3711 8538 000	
⑪	ケイコクラベルケイユ	3587 8542 000	
⑫	チュウイラベルカバー	0960 3100 017	
⑬	LABEL C, MUFFLER	0960 3100 027	
⑭	チュウイラベル	3559 8523 500	
⑮	LABEL CAUTION	3659 8555 100	
⑯	LABEL CAUTION	0960 3000 020	
⑰	ケイコクラベルファン	2673 7142 000	
⑱	LABEL W, reel	0960 3200 072	
⑲	LABEL W, reel	0960 3200 071	
⑳	LABEL C, divider	0960 3100 028	
㉑	キケンラベルカリハ	0960 3000 019	
㉒	ケイコクラベルロータ	0960 3200 073	
㉓	チュウイラベル	3586 8527 100	
㉔	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	
㉕	LABEL warning	3711 8529 001	
㉖	チュウイラベルカッターカバー	0960 3100 020	[排じんケース仕様]
㉗	LABEL	3711 8536 101	
㉘	LABEL CAUTION	3711 8563 100	
㉙	LABEL C, ROTOR	0960 3100 029	
㉚	LABEL chopper	3711 8564 100	[S仕様]
㉛	チュウイラベル	3711 8532 400	

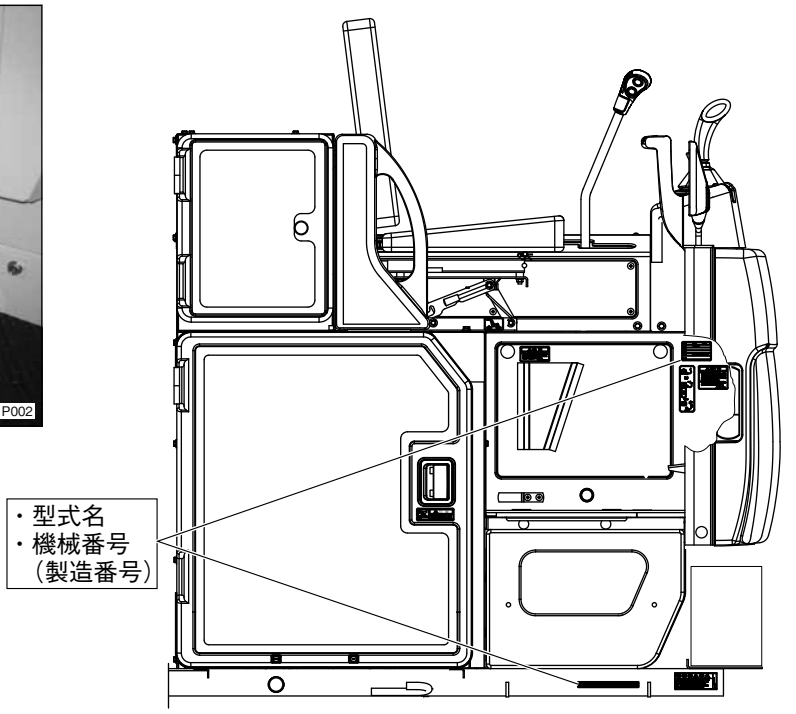
ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。







・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦・大豆など，適応作物以外の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

型式名	仕様（装備）／区分	エンジン 型式	エンジン 出力（参考）	舟形ハイラグクローラ 450mm	HST＋副変速2段	フルモードターン	可動転輪	一体スプロケット	マルチステアリング	作業速度計	負荷モニター	リール上下・前後調整	クイックアップ・セット	刈高ポジションコントロール	ロータ変速2段変速	軸流式スクリューロータ	撥水揺動	揺動スライドオープン	揚こくバケット式	グレンサイドオープン	オーガコントロール有線リモコン	オーガ電動排出クラッチ	オーガフラップ	自動機 水平自動	自動機 送じん量自動調節	化構 オーガ自動旋回＋自動収納	収こく満杯予告シグナル	グレンタンク充填モニター	オーガ長 4100mm	グレンタンク1300L	はしご	排じんケース	チョッパスプレッダ	スライドドアキャビン	バックモニタ	オーガ先端カメラ OP	オーガ無線リモコン OP
三菱VCH650	－	S4Q2－T	63.4(PS)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	S			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	XS			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

・型式記号の説明
S＝チョッパスプレッダ　　X＝キャビン，バックモニタ

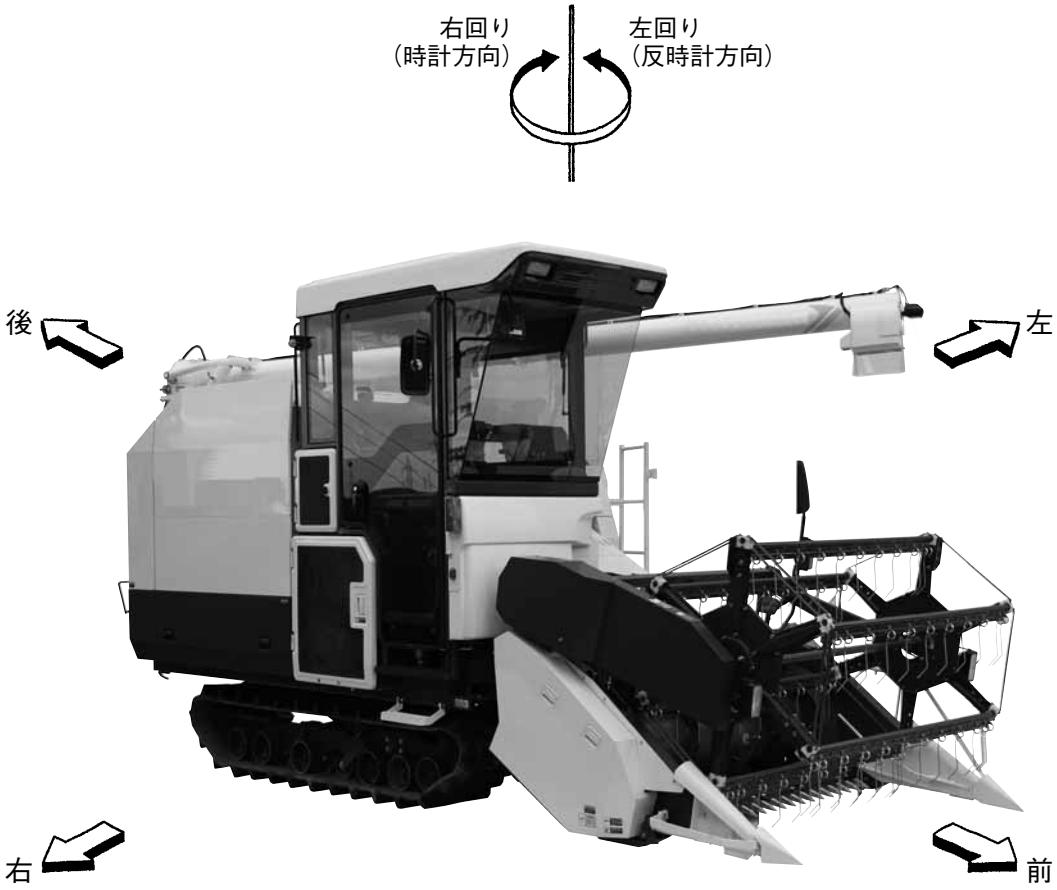
取扱いのポイント

●これらの機械は工場から出荷のときは，「稲作業セット」に調整してあります。
他の作物については，「作物別調整表」の項を参考に調整し，ご使用ください。

●大豆等を収穫する際は，専用キットに交換し，各部の調整を必ず行ってください。（詳細は専用キットの取扱説明書をご覧ください）

3．用語について

⑴　この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。



⑵　型式表示

・この取扱説明書は，VCH650XS型を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，その都度［**S仕様**］，［**XS仕様**］などで表示し，追加説明しています。

⑶　マークの説明

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，次のマークを使用して説明しています。

・**⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** ……安全上重要な事項を，３段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

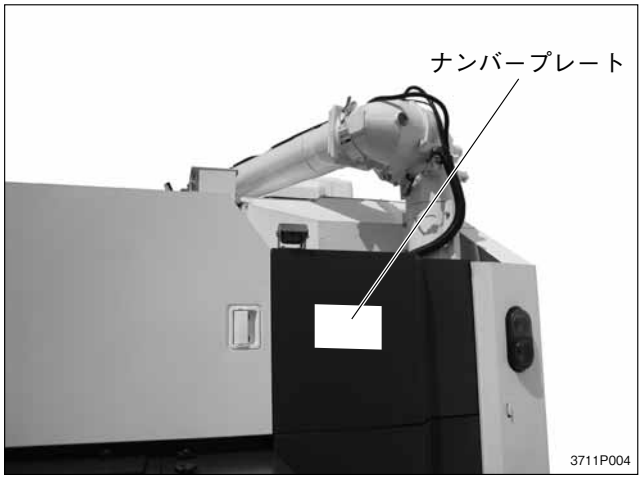
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（**「お買いあげ先」**で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

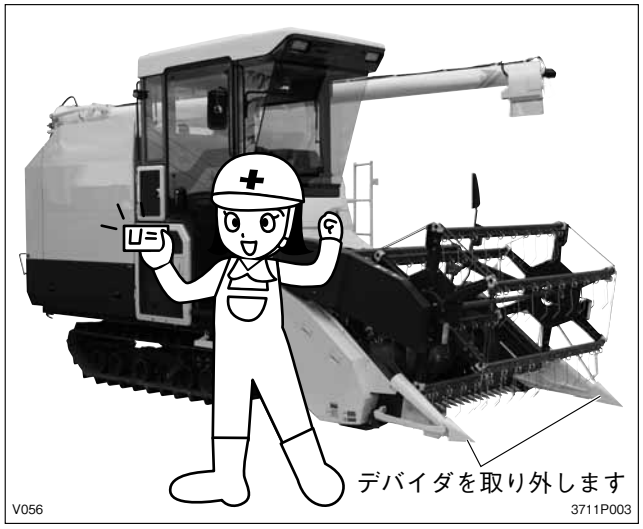
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 公道を走行するときは，**「大型特殊自動車の運転免許」**が必要です。運転免許証を所持してください。

「小型特殊自動車」の運転免許では運転できません。



❷ 指定の作業機（排じんケースまたはチョッパスプレッダ等）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

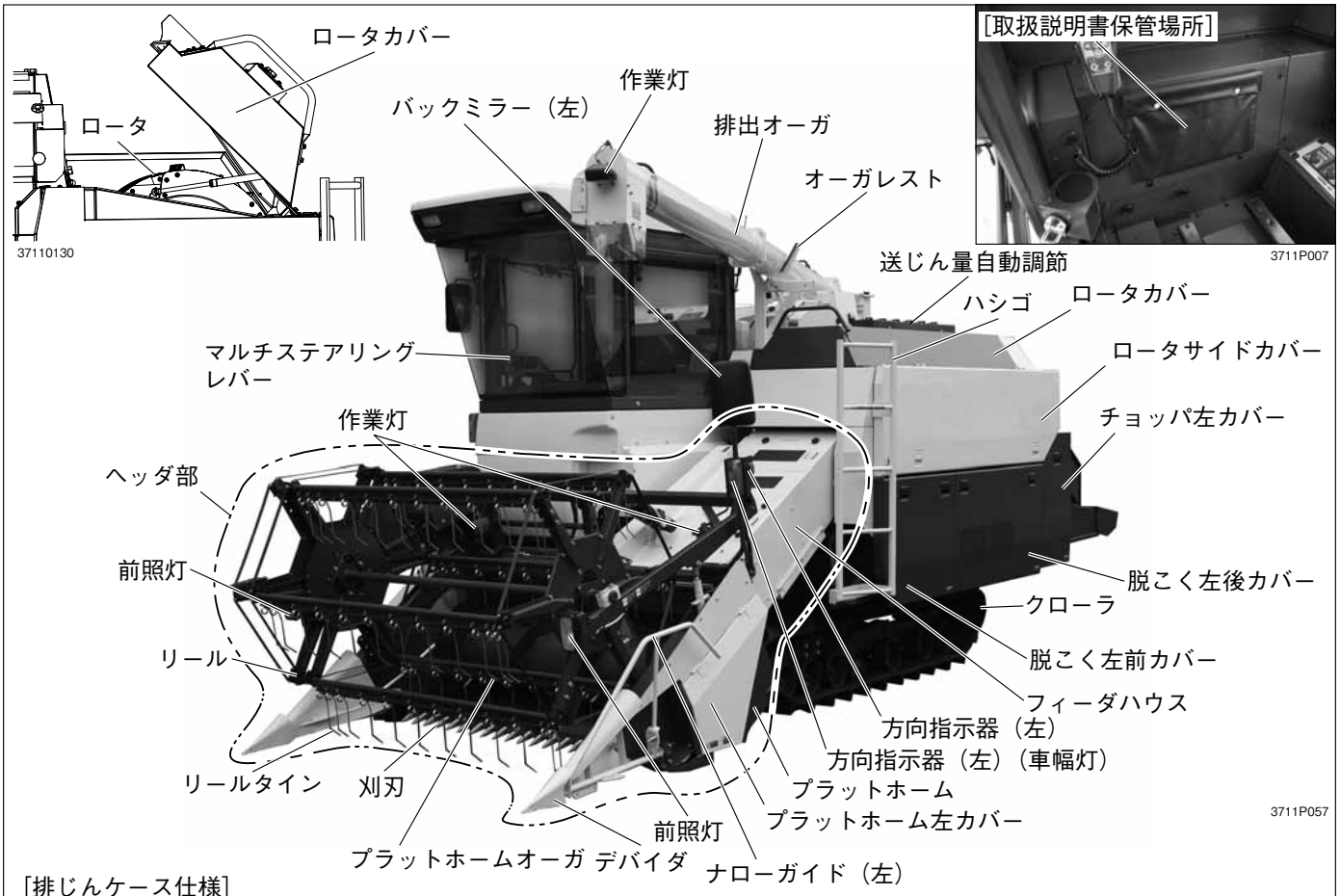
詳細については，アタッチメントの取扱説明書をご覧ください。

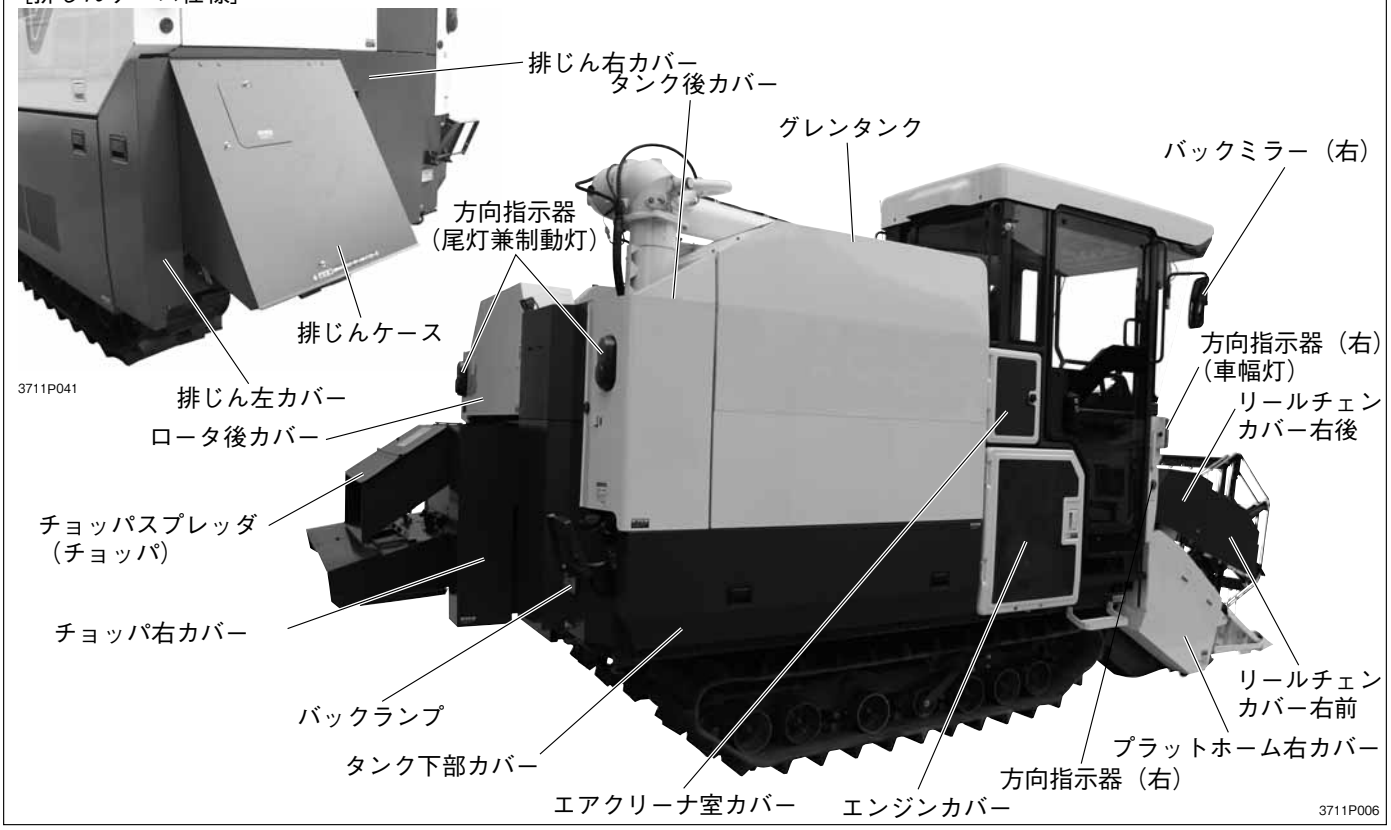
❸ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

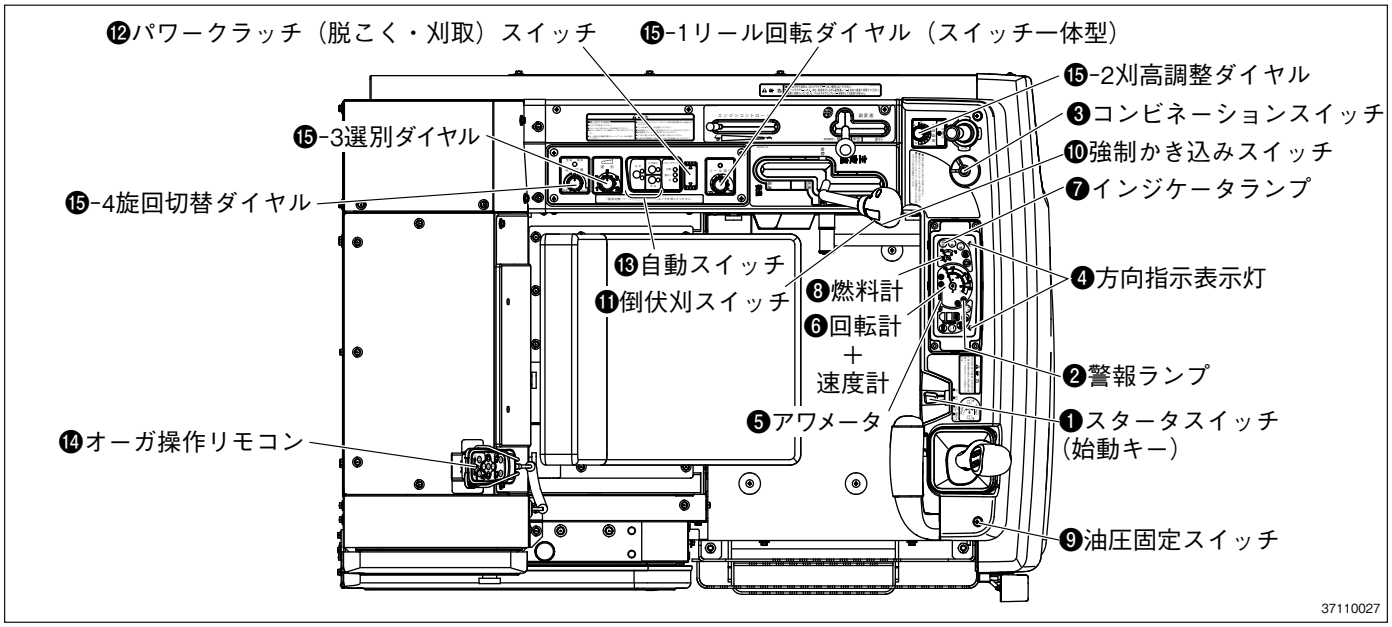
1．各部の名称





2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《ＡＣＣ》……アクセサリ

カーステレオとシガレットライタが使用できます。（キャビン仕様）

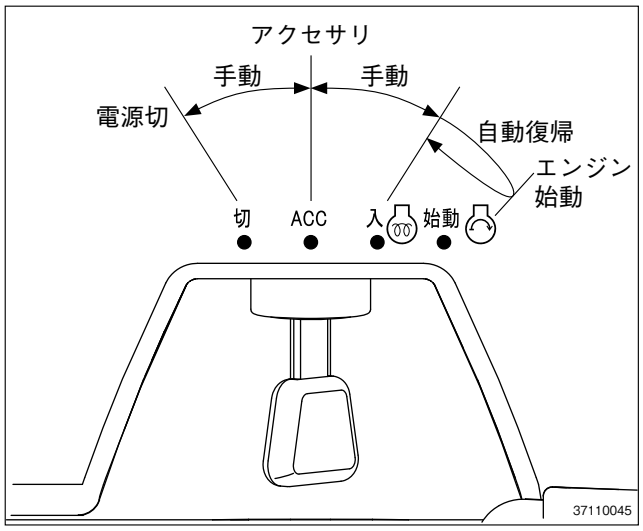
《入》……電源入（運転中）

電気（電装）装置が使用できます。

《始動》……エンジン始動

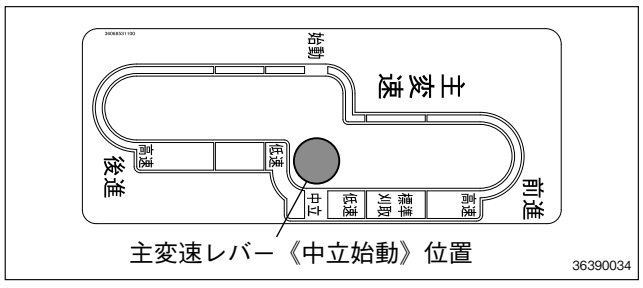
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。



取扱いのポイント

●主変速レバーを《中立始動》（前進側中立位置）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

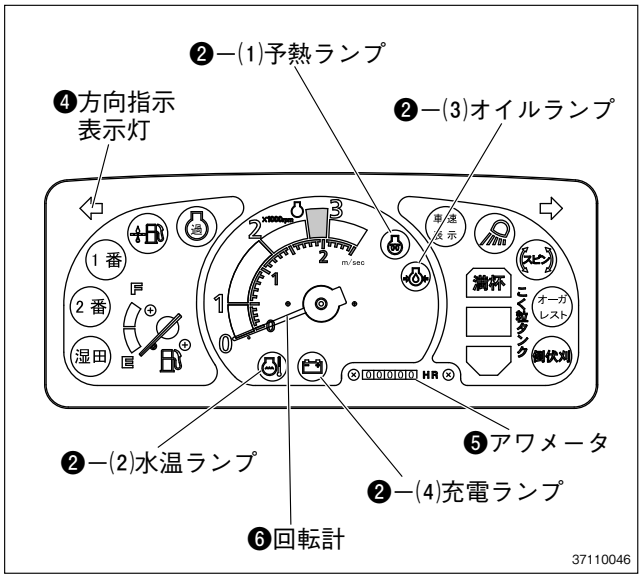


❷ 警報ランプ

(1) 予熱ランプ



スタータスイッチを《**入**》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約6秒後に消灯し予熱が完了します。



(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。(警報ブザーは連続音から断続音になります)**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部のゴミ付着（85ページ参照)・ファンベルト(オルタネータ)の張り(128ページ参照)，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

(3) オイルランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(74〜75ページ参照)**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

(4) 充電ランプ



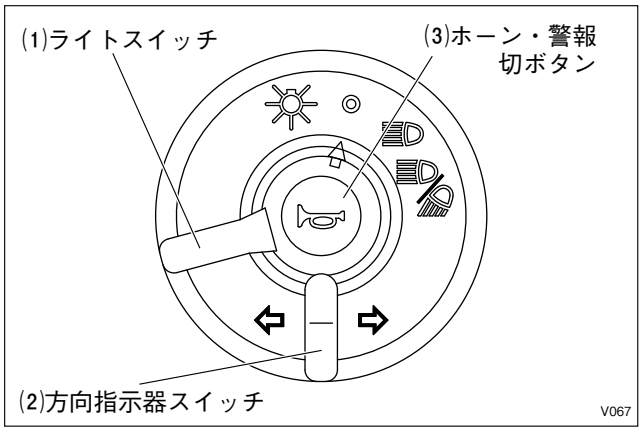
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

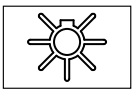
取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，ファンベルト（オルタネータ）の張りを点検し，調整してください。(128ページ参照)**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

❸ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

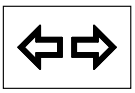


《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≣D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯およびすべての作業灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ



方向指示器（左），（右）を点滅させます。

右折，左折のときに使用します。

(3) ホーン・警報切ボタン



・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報音が止まります。

●警報時の点検と処置については，53ページをご参照ください。

警報機能	警報音停止方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチを《切》位置にする。
・１番，２番ランプ点灯（点滅）	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
・エンジン負荷ランプ点滅（９ページ参照）	走行速度を下げる。
・燃料フィルタランプ点灯	水抜きをする。（86～87ページ参照）

❹ 方向指示表示灯

000000 HR

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

❺ アワメータ

機械の運転の積算時間（(スタータスイッチ)《**入**》時間）を示します。

積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❻ 回転計・作業速度計

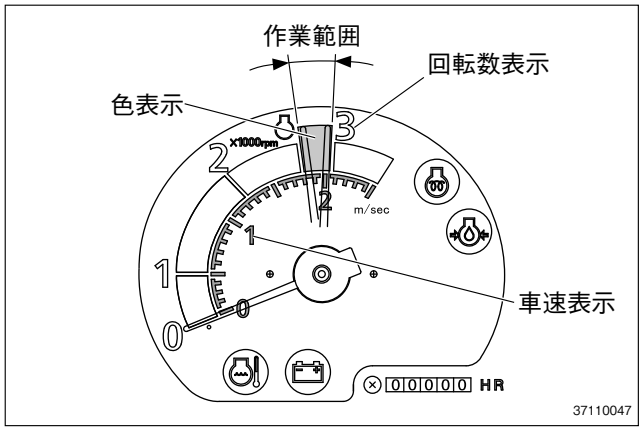
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）を刈取る作業域に色表示がしてあります。

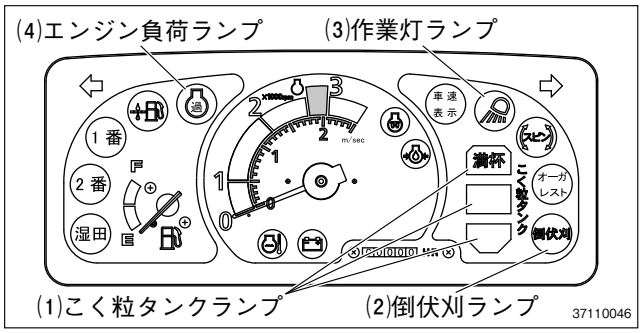
こく粒の排出も色表示の回転数で行います。

また，表示切替スイッチを押すと，車速表示に切替えることができます。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……黄色：作業範囲



❼ インジケータランプ



(1) こく粒タンクランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで，こく粒量が増していくと，ランプも□→□→満杯の順に点灯します。

□ランプが点灯した後，方向指示器全てが点滅します。

満杯時には，ランプの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，グレンタンク上側からオーバーフローし，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，警報切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

(2) 倒伏刈ランプ

主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《入》にすると，倒伏刈ランプが点灯し，リール回転の速度が通常より速くなります。

また，リール位置が下がり，前方へ出ます。

取扱いのポイント

- **リール自動が《入》になっていないと，リール回転は速くなりません。**

(3) 作業灯ランプ



スタータスイッチを《入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

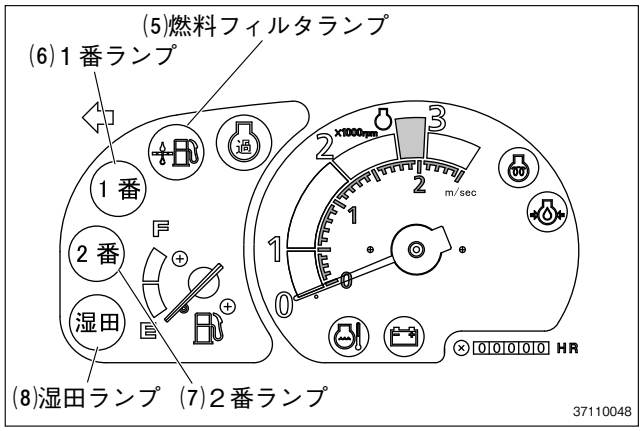
(4) エンジン負荷ランプ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**





(5) 燃料フィルタランプ

燃料フィルタに一定量の水が溜まったことを知らせるランプです。

燃料フィルタに水が溜まるとランプの点灯と警報ブザーの連続音で異常を知らせます。

警報ブザーは警報切ボタンを押しても鳴り止みません。（水抜きは86～87ページ参照）

⑹　１番ランプ

１番ラセンまたは２番ラセンが詰まり，回転が止まったとき，１番ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。（詳細は112～113ページ参照）

⑺　２番ランプ

上部スラットとロータ前方に被処理物を運ぶラセンの間に詰まり発生すると，２番ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。（詳細は112～113ページ参照）

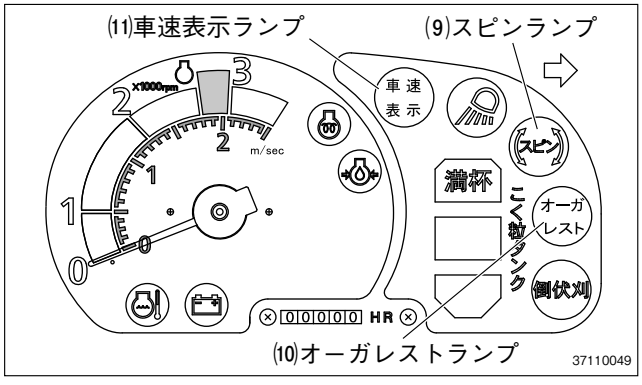
取扱いのポイント

- **エンジンが停止したら，スタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。（１番ランプ・２番ランプが消灯していることを確認）**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。（１番ランプ・２番ランプが消灯していることを確認）**

⑻　湿田ランプ

湿田スイッチを《**入**》にすると点灯します。

湿田などでの緩旋回時に旋回内側クローラが停止するようなときに使用します。



⑼　スピンランプ

副変速レバーをスピンドライブターン位置にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左，右にいっぱいに倒した状態にするとスピンドライブターンが作動します。

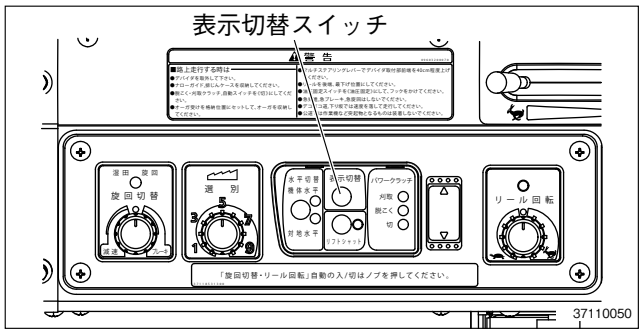
⑽　オーガレストランプ

- オーガレストが格納位置にあるとランプが点灯し，作業位置に移動するとランプが消灯します。
- オーガレストが格納位置で，ヘッダ部上げ状態のときリールを上昇させようとすると警報音が鳴り，ランプが点滅します。（オーガへの接触防止）
- オーガレストが格納位置でリールが上昇し，ヘッダ部が上がっている状態のとき，オーガを下げようとすると警報音が鳴りランプが点滅します。

⑾　車速表示ランプ（作業速度ランプ）

- 表示切替スイッチを押すと，車速表示ランプが点灯し，回転計表示が作業速度表示に切替ります。

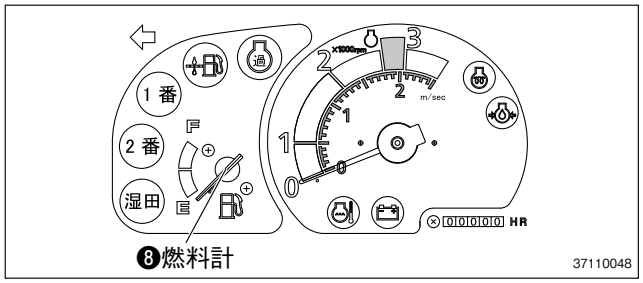
  車速表示ランプが消灯しているときは，回転計表示は，エンジン回転数表示を示します。



❽　燃料計



スタータスイッチが《**入**》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約60L），《**E**》（ラベル下限）では約10Lの油量を示します。



取扱いのポイント

- **燃料計が《E》近くになったら早目に燃料を補給してください。**

❾ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ヘッダ部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらにヘッダ部が下がらないようにヘッダ部の下に固定脚などをおいて作業してください。

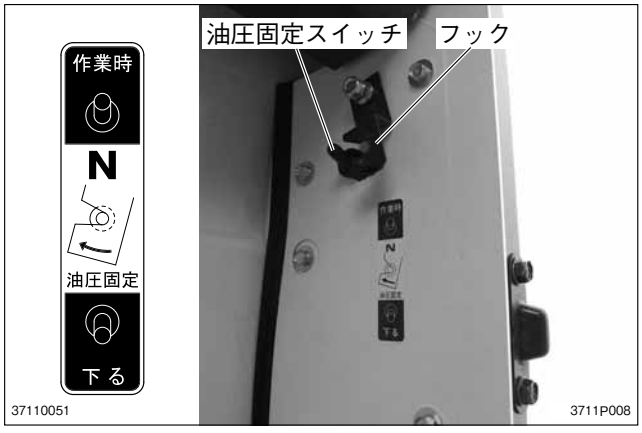
◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，ヘッダ部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。

◆油圧固定スイッチを操作するときは，ヘッダ部付近に人がいないことを確認してください。

ヘッダ部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。

・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。



・リール上下および前後も油圧固定および下げにしたときには，作動しません。

❿ 強制かき込みスイッチ

パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《**刈取**》位置のとき，走行停止状態時または後進時に刈取搬送を作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだリールが最下限位置まで下がり，リール回転速度が最高回転で固定され作動します。(詳細は44ページ参照)

スイッチを放すと，リールは元の位置（ボタンを押す前の位置）に戻り，リール回転速度の最高回転固定が解除されます。

取扱いのポイント

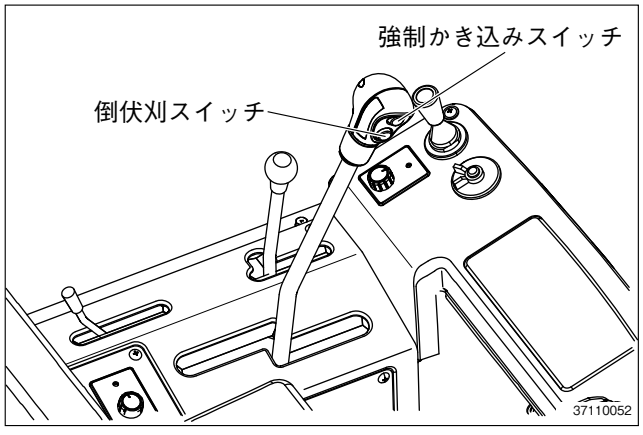
●あぜ際や，四隅刈りを除く刈取作業中はスイッチを操作しないでください。ヘッダ部，脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。

⓫ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，リール回転の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。

また，リール位置が下がり前方へ出ます。

もう一度スイッチを押すとランプが消灯し，リールはボタンを押す前の位置，速さに戻ります。



取扱いのポイント

●作物の状態に応じて，使用してください。

⑫ パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチ

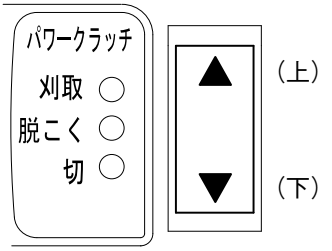
⚠警告 傷害事故防止のために

◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》,《刈取》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆スタータスイッチを《入》位置にしてパワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチを《脱こく》または《刈取》にすると，エンジンを始動していなくてもエンジンカバー部の防塵ファンが定期的に回転します。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを操作するときはエンジンカバーを開けないでください。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)を１回押すと《**脱こく**》インジケータが点灯し脱こく部が作動します。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)をさらにもう１回押すと《**脱こく**》と《**刈取**》インジケータが点灯し前進時にヘッダ部が作動します。



⑫パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ

36280019

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▼(下)を１回押すと《**刈取**》インジケータが消灯し《**脱こく**》インジケータのみ点灯し、脱こく部のみが作動します。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▼(下)をさらにもう１回押すと《**切**》インジケータが点灯し脱こく部が停止します。

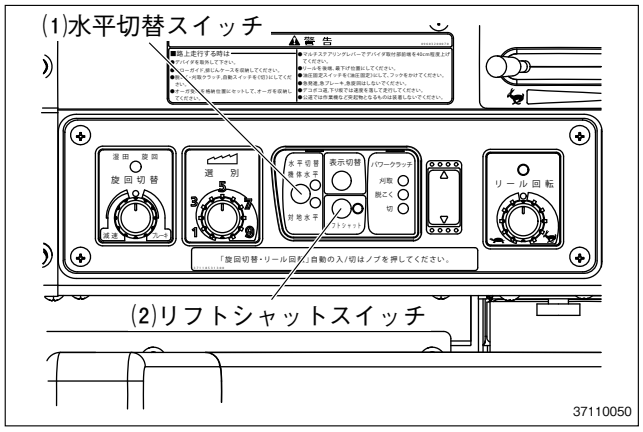
・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)▼(下)スイッチを長押しするとインジケータが連続して切り替わります。

取扱いのポイント

●刈取り作業を行うとき，回転計の「色表示」(作業範囲）以下では《刈取》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

●停止時のパワークラッチ（刈取・脱こく）の位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。

⑬ 自動スイッチ



37110050

(1) **水平切替スイッチ**

押す度に水平自動制御を「**切**」→「**機体水平**」→「**対地水平**」(ディーラーオプション）に切り替えます。各々表示ランプが点灯し，「**切**」のときはランプが消灯します。

・対地水平（ディーラーオプション）が装着されていない場合は，ランプは点灯しません。

(2) **リフトシャットスイッチ**

ヘッダ部を上げるとヘッダ部が停止する機構がリフトシャットです。スイッチを押してリフトシャットの《**入**》《**切**》の切替を行います。リフトシャット《**入**》時はランプが点灯します。

取扱いのポイント

●あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。

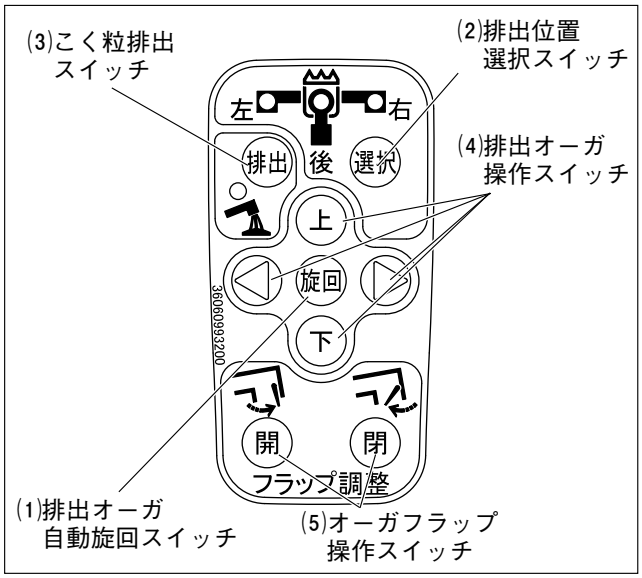
●刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。

⓮ オーガ操作リモコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。



(1) 排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが排出位置まで，自動旋回します。

・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

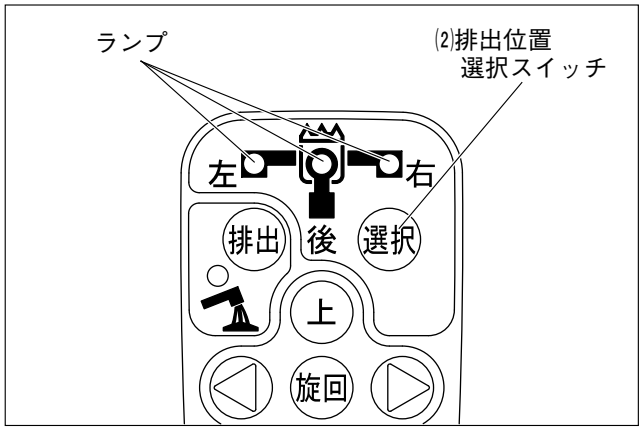
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。(詳細は，57～58ページ参照)

・オーガレスト格納状態でリールが上がっているときに，自動収納をすると，警告音が鳴り排出オーガ自動収納は動作しません。

(2) 排出位置選択スイッチ

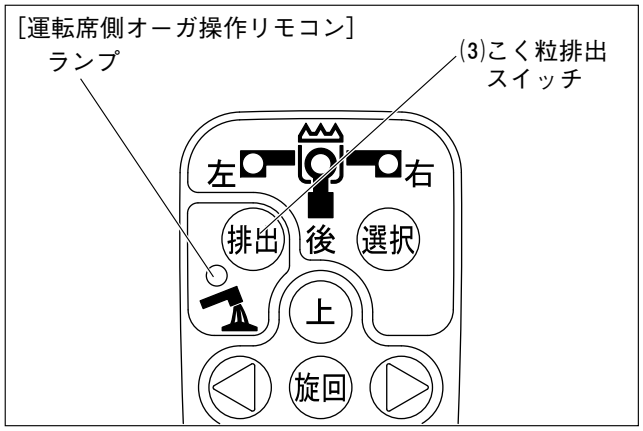
・自動スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し，停止する排出位置（「後」「右」「左」の３方向）の選択を行うスイッチです。

・排出位置選択スイッチを押すと「後」→「右」→「左」→「後」の順に切換り，ランプが点灯します。



(3) こく粒排出スイッチ

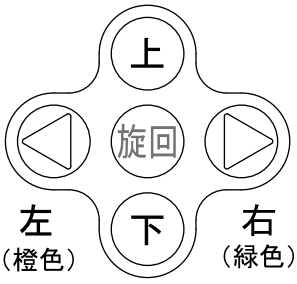
・このスイッチを押すとランプが点灯し，グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出を停止します。



(4) 排出オーガ操作スイッチ

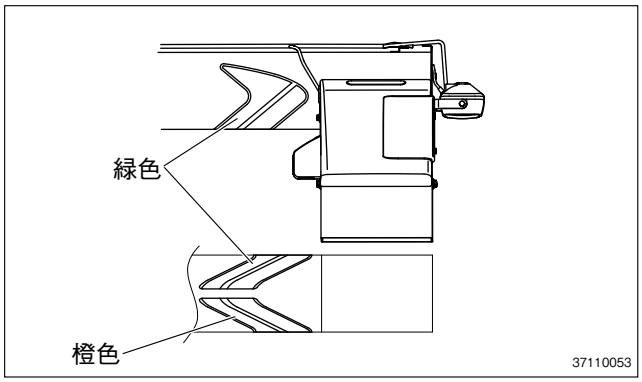
・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。

・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。



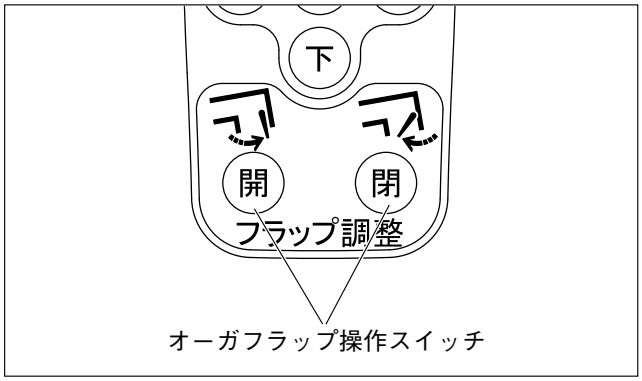
スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向)に旋回
右	右回り(時計方向)に旋回

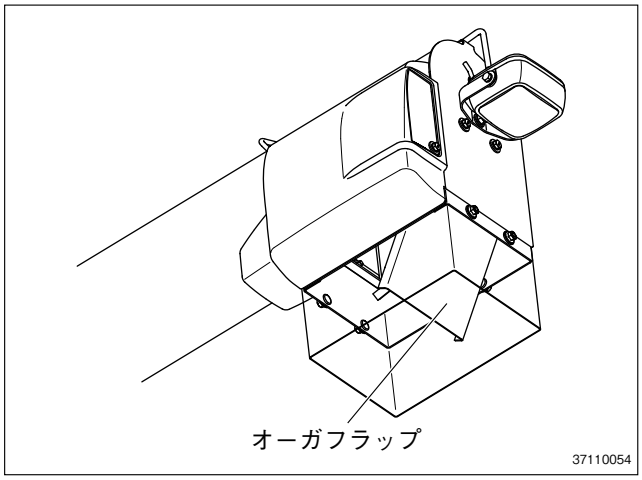
オーガ操作方向識別ラベル貼付位置



⑸　オーガフラップ操作スイッチ

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。
（こく粒排出範囲は46ページ参照）

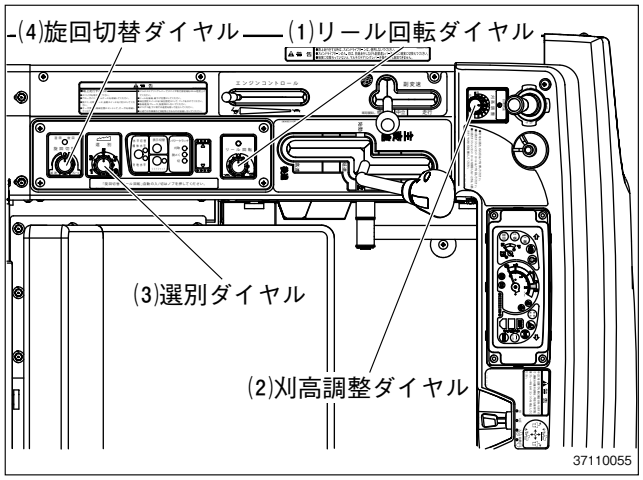




取扱いのポイント

- **排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。**
- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**
- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。**

⓯　調整ダイヤル



⑴　リール回転ダイヤル（スイッチ一体型）

リール回転をコントロールするダイヤルです。リール回転自動を使用するときは，ダイヤルを押してランプ点灯で使用します。リール回転自動《**入**》のときは，刈取速度に応じて自動的にリールの回転数を保ちます。

・ランプが点灯状態からダイヤルを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
・作物の刈取方向や倒伏状態に応じて調整を行うことができます。「🐇」側に回すとリール回転が遅くなり，「🐇」側に回すとリール回転が速くなります。

⑵　刈高調整ダイヤル

・刈高さの調節は，刈高調整ダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。
・刈高調整ダイヤルは，通常《**標準**》位置（●印位置）で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

⑶ **選別ダイヤル**

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

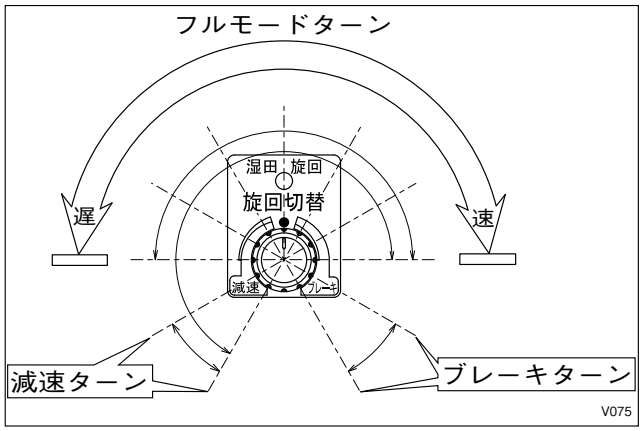
⑷ **旋回切替ダイヤル（スイッチ一体型）**

湿田スイッチを使用するときは，ダイヤルを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びダイヤルを押すと，ランプが消灯し，標準旋回となります。

・湿田スイッチは湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。スイッチを「**入**」にすると，減速ターン領域での旋回側の駆動力がアップして，確実な減速ターンができます。

ダイヤル操作によって，希望する「**旋回モード**」を設定することができます。

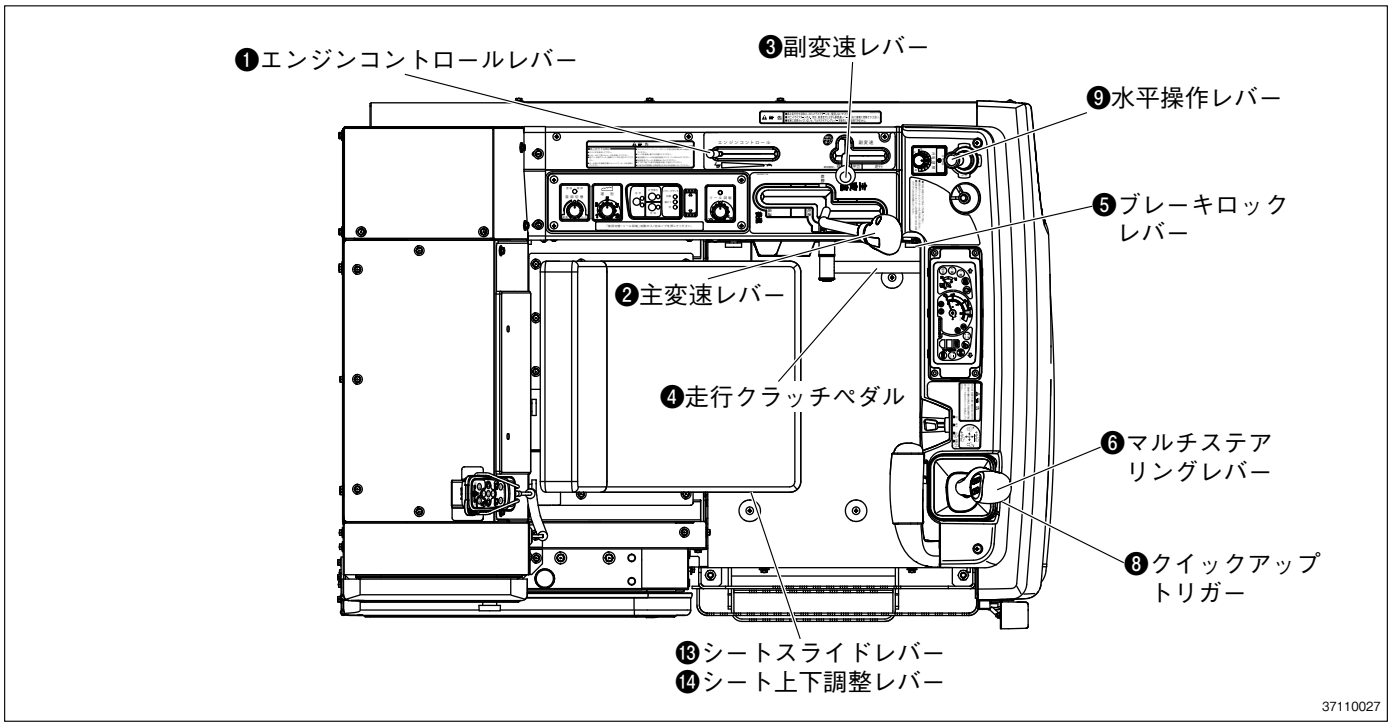
・《**標準**》位置（●印位置）及びその左右３ノッチ位置がフルモードターン（マルチステアリングレバー倒し角度により，減速ターン→ブレーキターン）となります。
・《**減速**》位置（最左及びその手前位置）が減速ターンになります。
・《**ブレーキ**》位置（最右及びその手前位置）がブレーキターンになります。



取扱いのポイント

- **フルモードターンは通常《標準》位置で使用します。ダイヤルは，マルチステアリングレバーの操作角度に対して右に回すと旋回動作が速くなり，左に回すと遅くなります。**
- **フルモードターン，あるいは減速ターンを設定していても，路上走行時には自動的にブレーキターンとなります。**

2. ペダル・レバー・ステップ関係



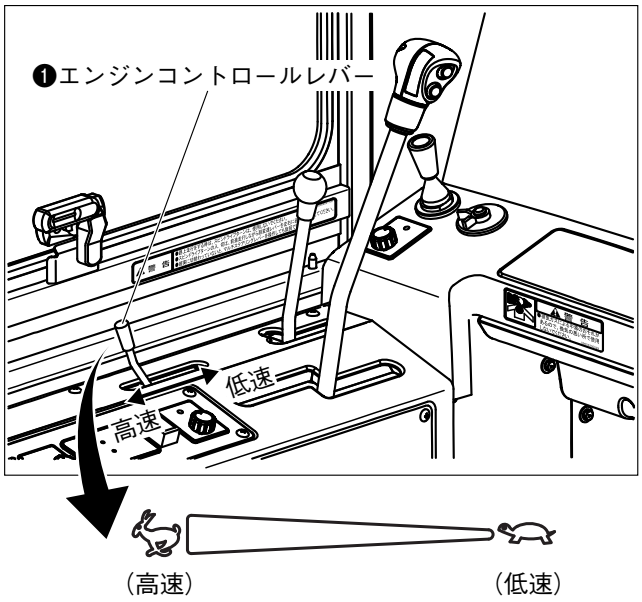
❶ エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」のときは……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



❷ 主変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。

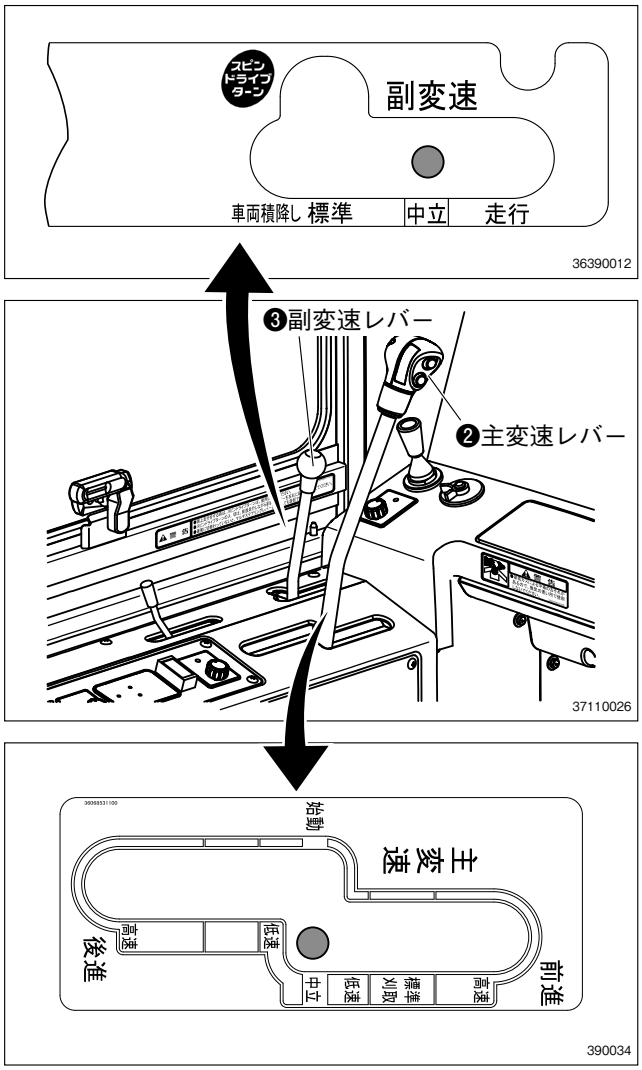
◆前後進の切替えは，機械が停止してから行なってください。

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

◆機械から離れるときは，《中立》(N)でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立位置**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	車両積降し 標準	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上，ほ場走行(前進)	標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]

取扱いのポイント

●**副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので，《走行》では急旋回しないでください。**

❸ 副変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンの「入」，「切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

◆路上走行する時はスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《**標準・車両積降し**》《**走行**》（**高速**）の２段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準・車両積降し**》位置で行います。

・刈取り作業は《**標準・車両積降し**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はしないでください。

・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準・車両積降し**》で走行します。

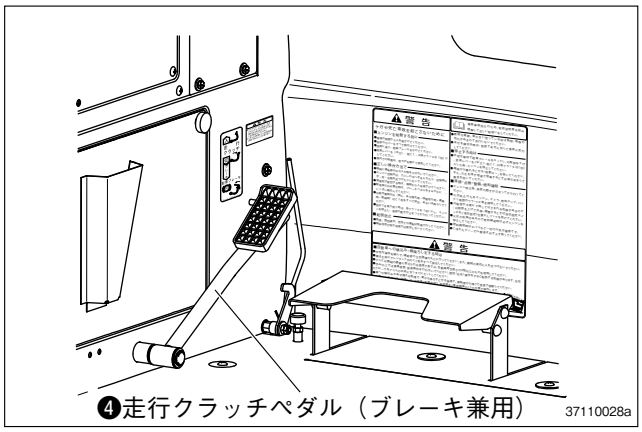
・「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。《**スピンドライブターン**》への切替えは，《**標準**》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

❹ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆通常の停止は主変速レバーの操作で停止してください。



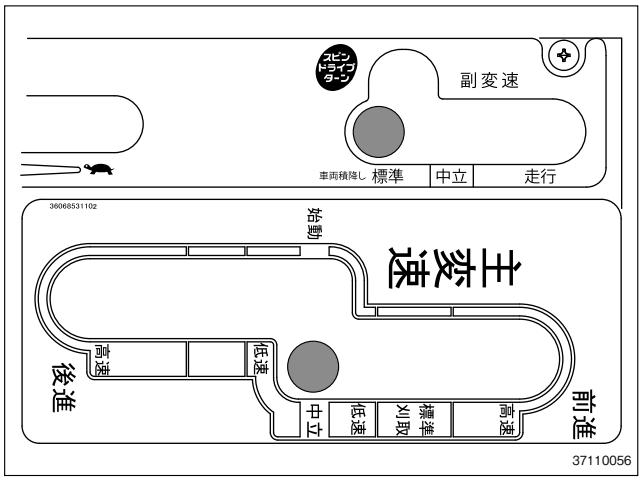
機械の始動，停止（ブレーキ），副変速レバーの操作に使用します。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

⑵ **走行の停止（ブレーキ）に使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻りブレーキがかかる構造になっています。



⑶ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルを踏んだままだと，主変速レバーは操作できません。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時にヘッダ部も停止します。**

❺ ブレーキロックレバー

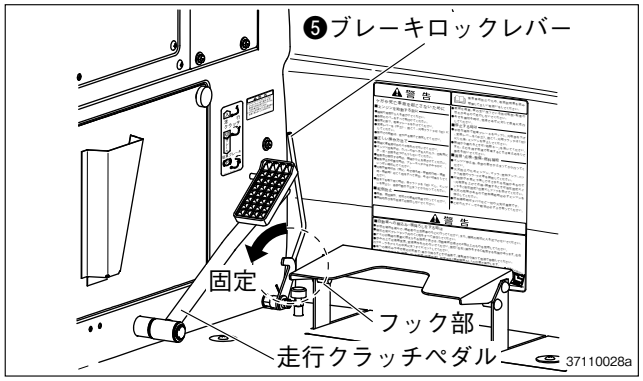
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，ブレーキロックをかけ，木片などでクローラに「車止め」をします。

◆ブレーキロックレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，ブレーキロックレバーを操作してフックをペダルにかけます。

・解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的にブレーキロックレバーのフックが外れます。



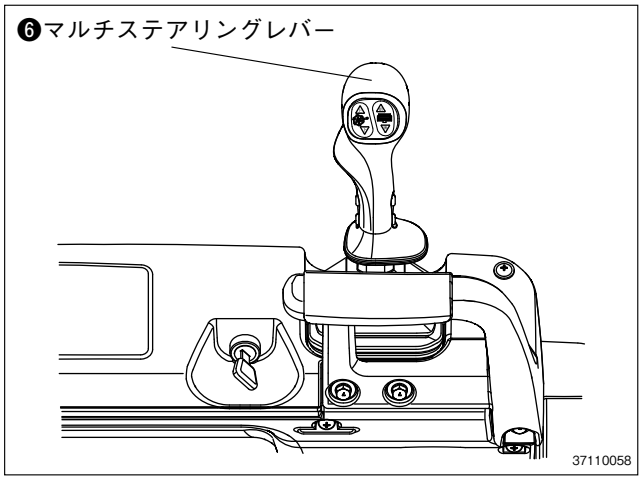
取扱いのポイント

- **機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでブレーキロックレバーのフックを「固定」方向に倒してください。**

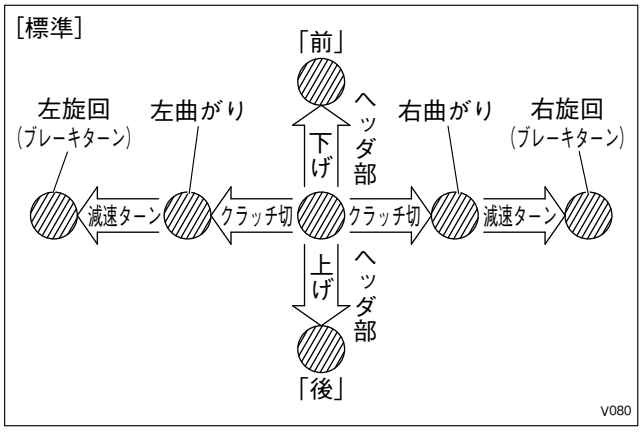
❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。
レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



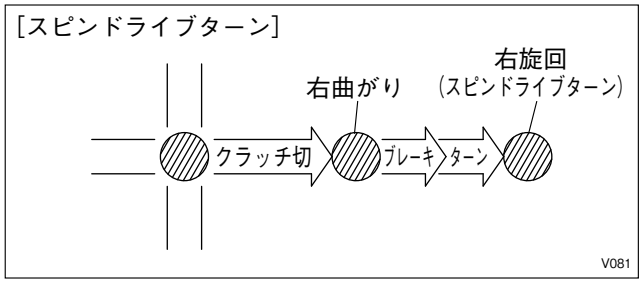
・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作でヘッダ部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。



取扱いのポイント

●前後操作のとき，操作量に応じてヘッダ部の上げ，下げ速度が変わります。

・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

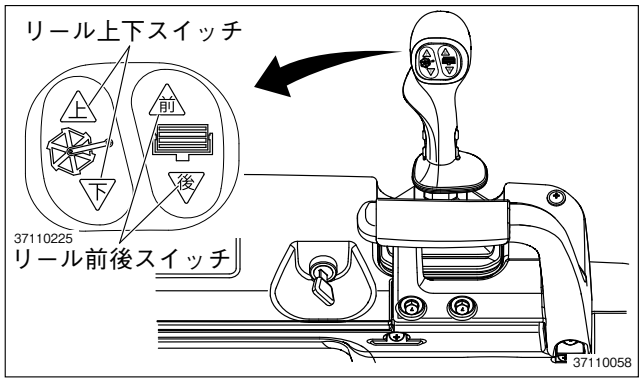
●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，ヘッダ部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ リール上下スイッチ，リール前後スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

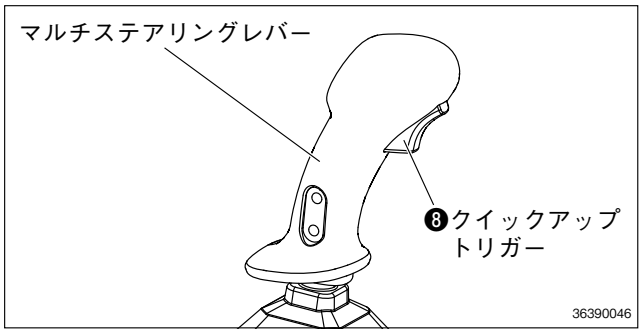
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でリール上下およびリール前後の操作をしないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

マルチステアリングレバーに内装されています。



・リール上下スイッチ……
　スイッチを押した方向にリールが上下方向に動きます。
・リール前後スイッチ……
　前 を押すとリールは前に動きます。
　後 を押すとリールは後に動きます。

❽ クイックアップトリガー



① **クイックアップ，クイックセット**

旋回時のヘッダ部の上げ・下げ操作を容易にする機能です。

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く(一瞬)上げ操作をすると，リールが下がりながらヘッダ部がリフトシャット位置(高さ)まで自動で上がります。

・下げ操作をすると，クイックアップする直前のヘッダ部高さ，リール位置に戻ります。(クイックセット)

② **刈高解除機能**

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

刈高さセット位置よりもさらにヘッダ部を下げたいときは，クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。詳しい操作については「**刈高さポジションコントロール**」を参考にしてください。

❾ 水平操作レバー

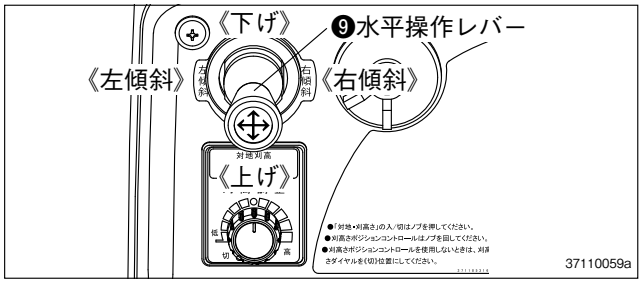
機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右傾斜**」「**左傾斜**」をします。

・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機体が上がります。

・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機体が下がります。

・レバーを《**右傾斜**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。

・レバーを《**左傾斜**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。



取扱いのポイント

●刈取り作業時以外は，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

❿ ハシゴ

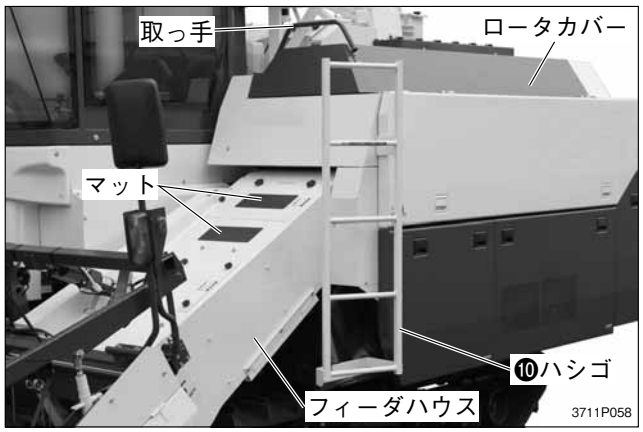
送じんガイドの調整およびロータカバーの開閉等を行うために，フィーダハウスおよび機体上面に上がるためのものです。

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。
> ◆走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。
> ◆ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。
> ◆ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので，注意して使用してください。
> ◆ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止等の処置をしてください。

(1) 機体を下げ，リールを下げた状態でヘッダ部を最上げにし，油圧固定をしてからエンジンを停止します。

(2) ハシゴに上りフィーダハウスの上に乗ってください。

(3) ロータカバーの取っ手を持ちロータカバー上部に上ります。または，フィーダハウスに乗った状態でロータカバーを開閉します。(100ページ参照)



取扱いのポイント

●フィーダハウス上では，マットの上に乗ってください。

⑷　降りるときは，逆の手順で行ないます。

⓫　タンク固定・タンク回動

①　タンク固定レバー・タンク回動レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行ないます。
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

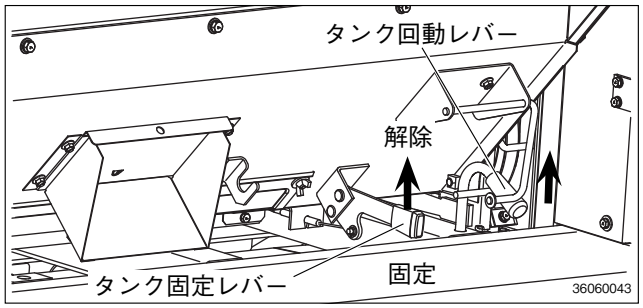
◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されていることを確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

◆グレンタンクを回動し，中で作業をする場合は，１番張り込みラセンがありますので保護具を着用し，頭上に注意して作業を行なってください。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（オープン）(108～109ページ参照）するときは，タンク回動レバーを持ち上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



タンクを収納しタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

取扱いのポイント

●タンク固定レバーを先に外すとタンク回動レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回動レバーを先に外してください。

⓬　ロータ変速切替レバー

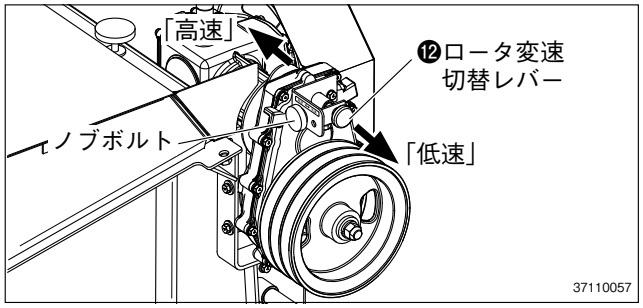
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータ変速切替レバーの近くにベルト部がありますので，ロータ変速切替は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

作物に応じた回転数に設定して作業を行ってください。(作物別調整表（Aページ）参照）誤った設定のままで使用しますと，詰まりが発生したり，作物が損傷する場合があります。

ロータ回転を「**高速**」「**低速**」に切替えるときに使用します。

工場出荷時は「**高速**」になっています。



・［**S仕様**］は，チョッパスプレッダを回動します。(102～103ページ参照）
ロータ後カバーを取外します。

ノブボルトを取り外して，レバーを切替えます。

・「**高速**」位置

……稲・麦を刈るときに使用します。

・「**低速**」位置

……大豆などの作物を刈るときに使用します。

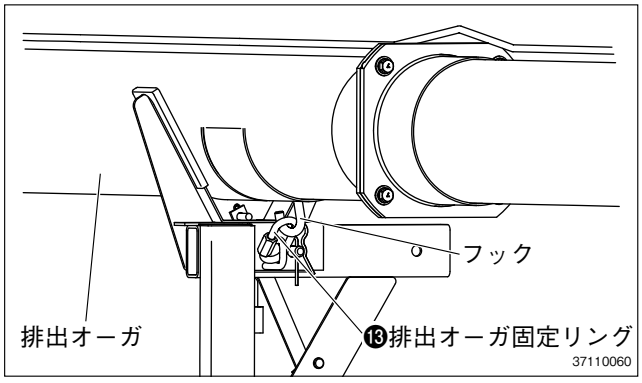
切替えを完了しましたらノブボルトで締付けて，ロータ後カバーを取付けます。

・詳細については，作物別キット取扱説明書等をご覧ください。

⓭ 排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

排出オーガを操作する前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。



⓮ シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。

(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

(3) その位置で固定されます。



⓯ シート上下調整レバー

運転者の体格に合わせ着座位置を上下させます。

(1) レバーを押しながら腰をうかせます。バネにより，シート位置が上がります。

(2) レバーを押しながら腰をおろします。運転者の体重により，シート位置が下がります。

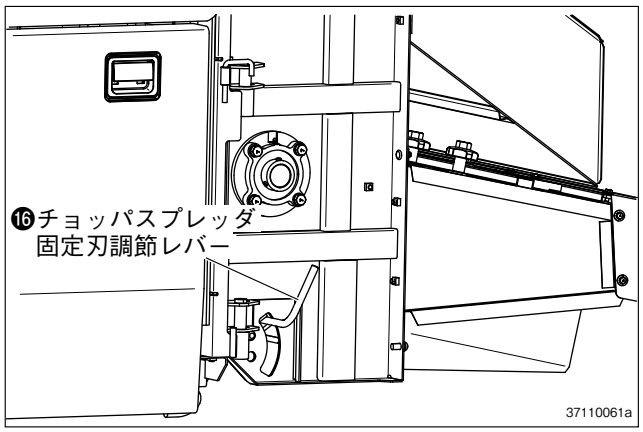


⓰ チョッパスプレッダ固定刃調節レバー[S仕様]

⚠警告 傷害事故防止のために

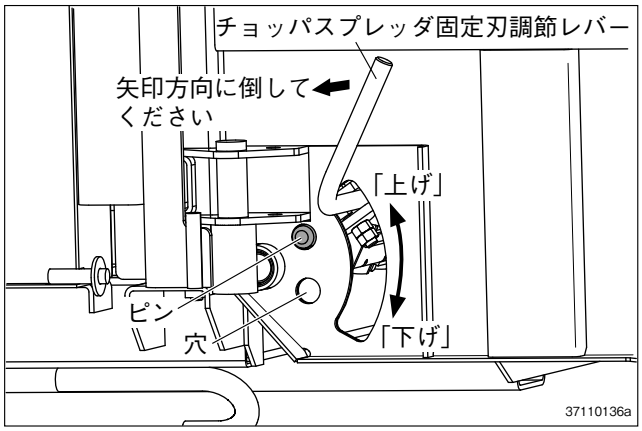
◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

固定刃を出すと排ワラをより細かく切ることができます。



(1) チョッパ左カバーを取外します。

(2) チョッパスプレッダ固定刃調節レバーを矢印方向に倒しながら「**上げ**」または，「**下げ**」位置に動かします。このとき，ピンが穴に入っていることを確認してください。



(3) 切替が終わりましたら，チョッパ左カバーを取付けます。

⑰ ケーシングプレート切替レバー［S仕様］

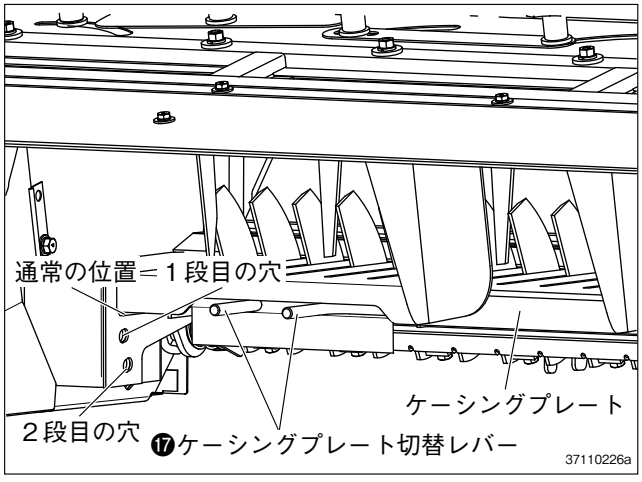
⚠警告 傷害事故防止のために

◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

麦などで稈量が多い場合は，ケーシングプレートを下げて作業を行なってください。

(1) ケーシングプレート切替レバーを握り内側に寄せて，ケーシングプレートを下げてください。

(2) 1段目の穴にレバーピンを合わせ，外側に戻してケーシングプレートを固定してください。

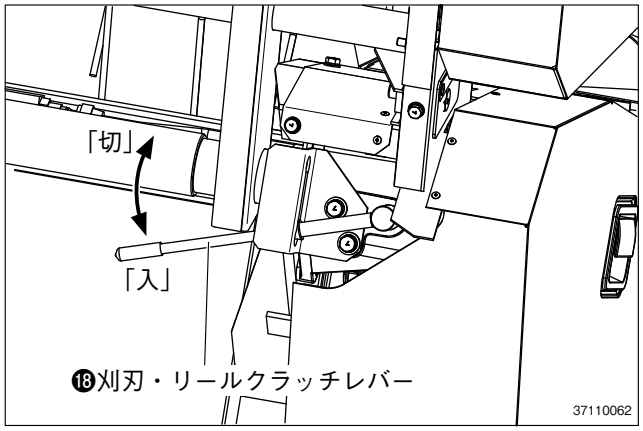


取扱いのポイント

- 2段目の穴は，詰まりが発生する場合のみ使用してください。

⑱ 刈刃・リールクラッチレバー

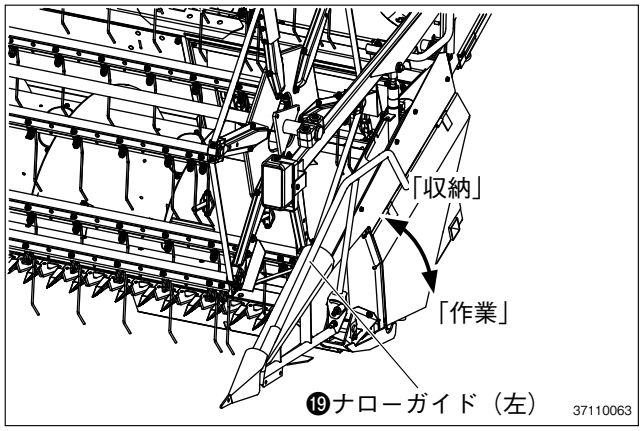
刈刃，リール，プラットホームの整備をするときに使用します。



・「入」位置……刈刃とリールが作動します。
「切」位置……刈刃とリールが停止します。

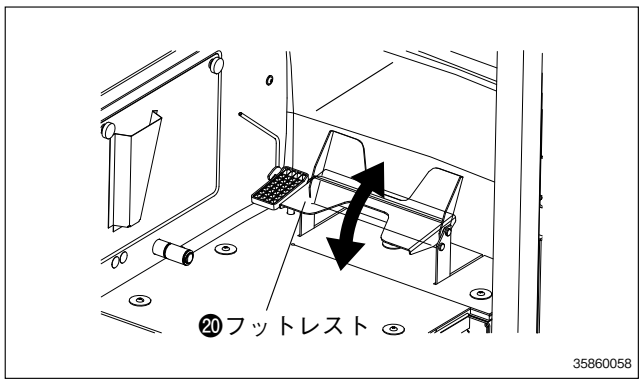
⑲ ナローガイド（左）

作業をするときに外側いっぱいまで倒します。



⑳ フットレスト

必要に応じて切換えてください。



運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 火傷や火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行ってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意

◆点検整備などで取り外したカバー類は，すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサフィン ［キャビン仕様］	・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	85
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	74～81
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	115

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	92
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	86
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	74〜75
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	76〜77
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	―
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。	74
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	88〜91
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	88〜91
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	88〜91
インジケータランプ	・オイル，充電ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。	74〜75 92〜98
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	―
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，ヘッダ部が上下しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。 ・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替えてください。	― 17，19
走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。	122
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	115〜134

2．エンジンの始動と停止

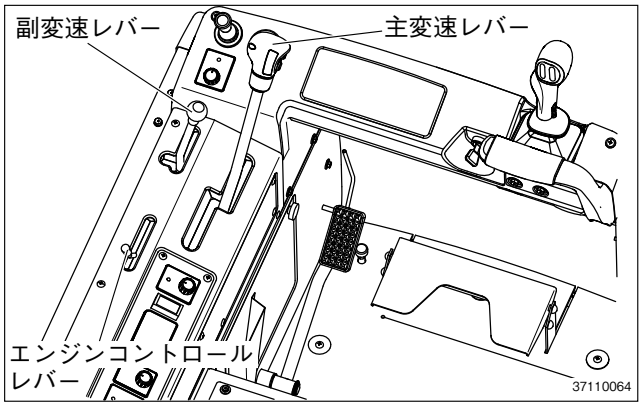
⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。
◆変速レバーが《中立》，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《中立》にして，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》で駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときは，脱こく部およびチョッパスプレッダ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

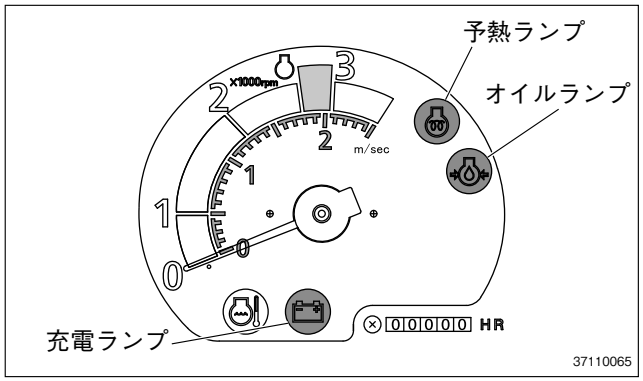
❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。

❷ 主変速レバーを**《中立始動》(前進側中立位置)**，副変速レバーを**《中立》**にします。



❸ エンジンコントロールレバーを《 》**(高速)**位置にセットします。

❹ スタータスイッチを**《入》**位置にし，**「オイル」「充電」「予熱」**のランプが点灯することを確認します。



❺ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを**《始動》**位置に回し，エンジンを始動します。

❻ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を**低回転「2000回転」**程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

●主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置)にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。
●エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。
●スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。
●セルモータは短時間に大きな電力を消費します。５秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。

2．エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《 》**(低速)**にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを**《切》**にします。

❸ スタータスイッチを**《切》**位置にすると，エンジンが停止します。

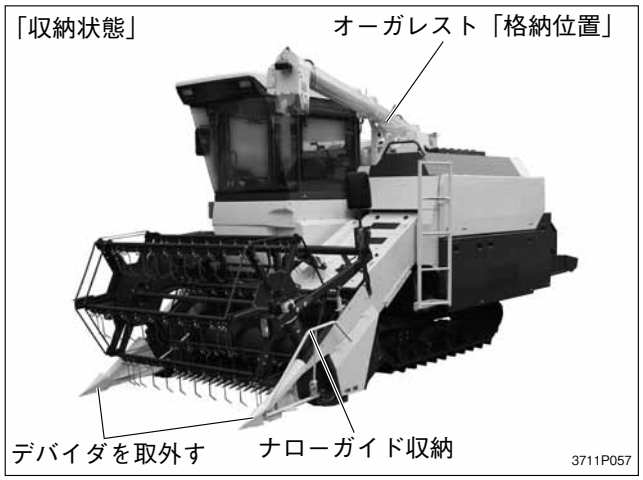
3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

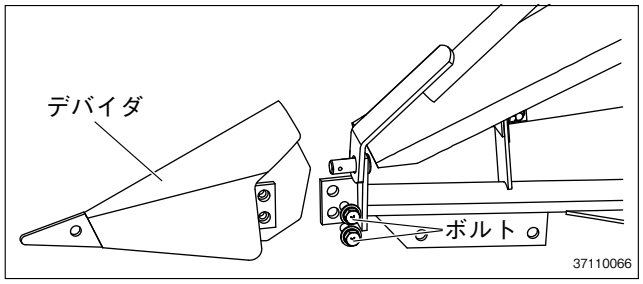
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は，交通法規を守って運転してください。
◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
●リールを最下限位置，最後方位置にしてください。
●デバイダを取外してください。
●ナローガイドを収納します。
●オーガレストを「格納」，排出オーガを「収納」位置にし，固定リングをフックに掛け固定します。
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
●アタッチメントを取外します。
◆前後・左右とも10度を越える傾斜地は走行しないでください。
◆路上走行時はヘッダ部の高さを地面より40㎝程度上げてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平切替スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は，走行しないでください。

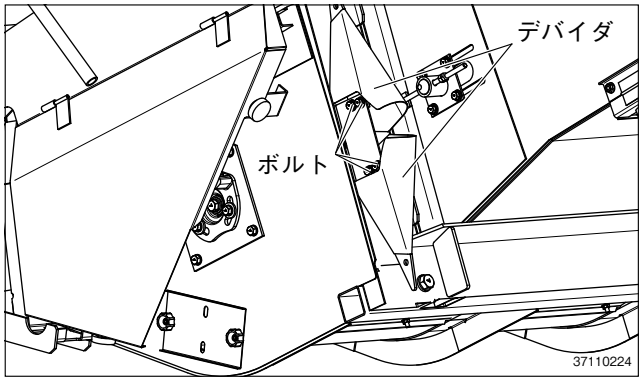
❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。



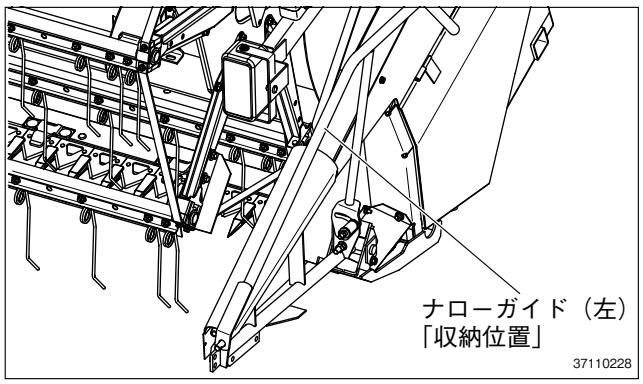
❷ デバイダを取外します。



❸ 取り外したデバイダはヘッダ部左に収納場所がありますので，取付ボルトを使用してデバイダを固定してください。



❹ 左ナローガイド切替を《**収納**》位置にします。



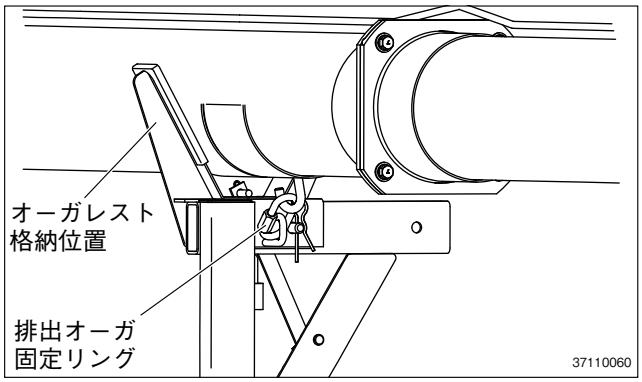
❺ バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。



❻ グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❼ オーガレストを「**格納**」位置にします。（34ページ参照）排出オーガの「**固定リング**」がかかっていることを確認します。



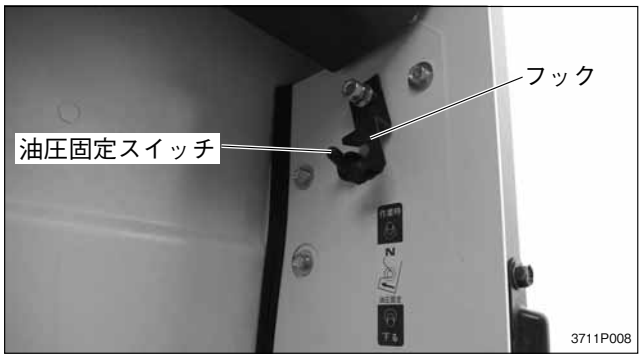
❽ エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❾ 水平切替スイッチを「**切**」にします。

❿ リール高さは最下限位置，最後方位置にします。

⓫ マルチステアリングレバーでヘッダ部先端を「40㎝」程度上げます。

⓬ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけヘッダ部を固定します。



⓭ 水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

⓮ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓯ ブレーキロックレバー（駐車ブレーキ）を解除します。

⓰ 主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓱ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

取扱いのポイント

- **副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んで行なってください。**
- **リール高さを最下限位置にしていないとヘッダ部は上がりません。**

⓲ 発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンを押して，ホーンで行います。

⓳ 路上走行時，作業灯は消灯します。

2. 停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，ヘッダ部を下げ，各操作レバーを《中立》に入れてください。エンジン停止後，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

◆機械を燃えやすいものの近くには，止めないでください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❹ 副変速レバーを《**標準**》に入れて，ブレーキロックレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

●**ブレーキロックを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み･積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

●アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆機械は積込む前に，「収納状態」を確認してください。

●グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。

●デバイダを取外し，デバイダを固定します。

●ナローガイドを収納します。

●オーガレストを「格納」，排出オーガを「収納」位置にし，排出オーガ固定リングをフックに掛け固定します。

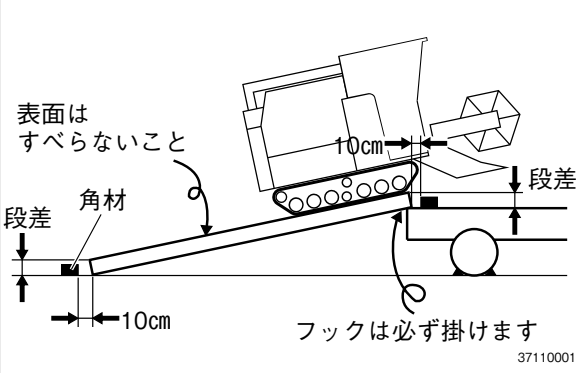
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。

●水平切替スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が6㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

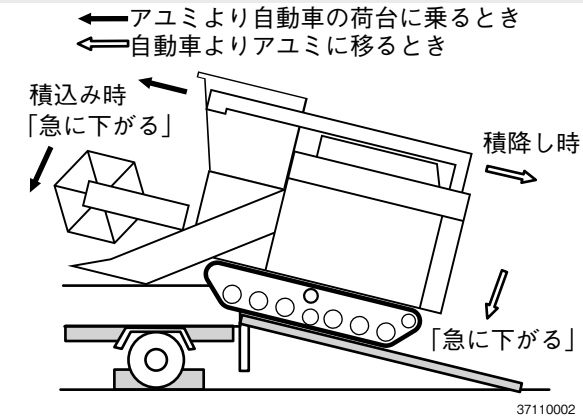
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー

は，アユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行ってください。

◆［X仕様］以外は機械に乗ったまま，積込み・積降ろしをしないでください。

◆運転者は機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。（［X仕様］以外）



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

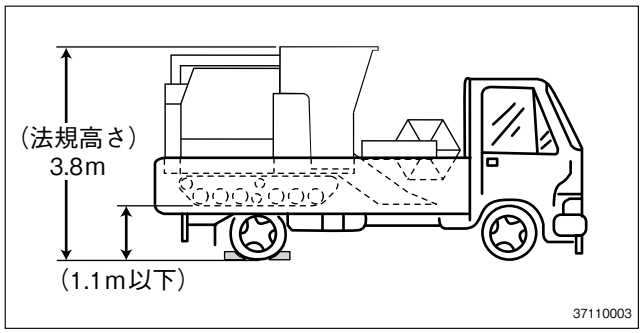
◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて

❶ 積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

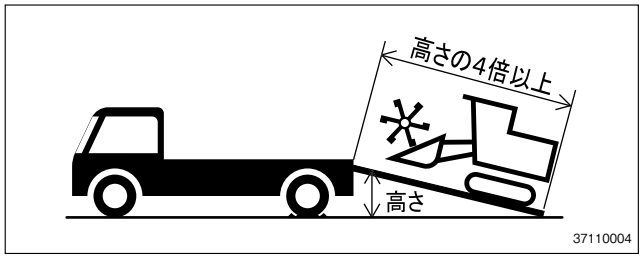
・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

・低床車で荷台高さが1.1m以下の自動車を使用します。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「車止め」**をします。

❸ アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



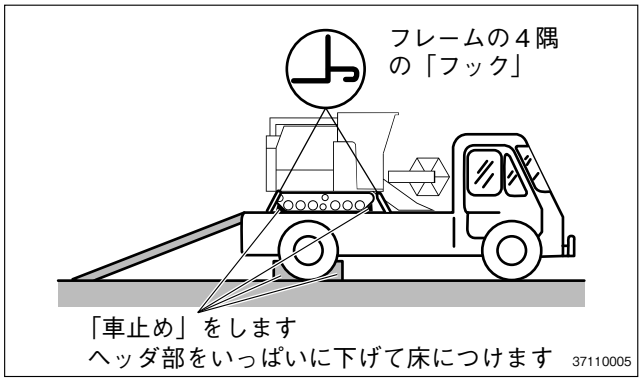
アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	60cm以上
数量	２枚
強度	１枚が3,500kg以上の重量に耐えるもの

❹　アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。
❺　機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。

2．機械の積込み要領

❶　ナローガイド(左)を収納します。(23ページ参照)グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。
❷　エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。
❸　ヘッダ部をいっぱい上げます。
❹　積込みは，主変速レバー《**前進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❺　積降ろすときは，主変速レバー《**後進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❻　［**X仕様**］以外の積込み・積降ろしは，機械から降りて行います。
❼　積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。
❽　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。
❾　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**車止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。
❿　ヘッダ部は完全に下げて床につけます。そのとき，リールは最下限位置，最後方位置にしてください。



⓫　ドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

［**X仕様**］

3．４ｔトラックへの積込み

⚠注意

◆重量，長さ，幅が制限内であっても余裕を持った自動車を選定してください。

・自動車の荷台から機械が自動車の長さの10分の１の長さを超えてはみ出さない車を使用します。10分の１を超える場合は許可が必要となりますので，所轄の警察署で制限外積載許可申請を受けてください。
・自動車の幅から機械がはみ出さない車を使用します。

5．ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。
●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

1．ほ場への出入りのしかた

❶　ヘッダ部を上げ，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**標準・車両積降ろし**》，主変速を《**低速**》または《**後進・低速**》にしてあぜに直角に走行します。
❷　アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

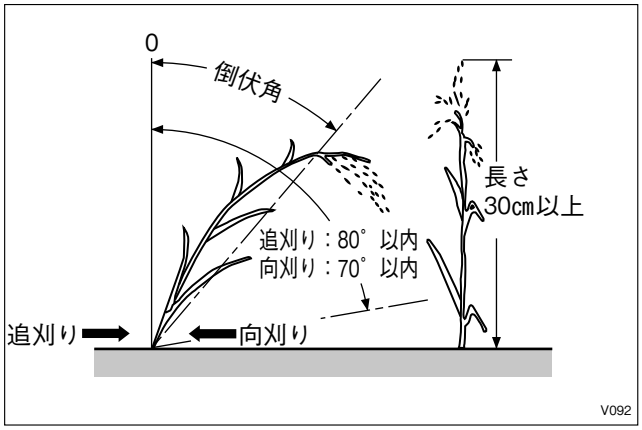
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…30㎝以上から刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：80°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・ヘッダ部・脱こく部詰まり

・乾燥処理時間の増加

・スレッシングロスの増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。

・こく稈の折れ

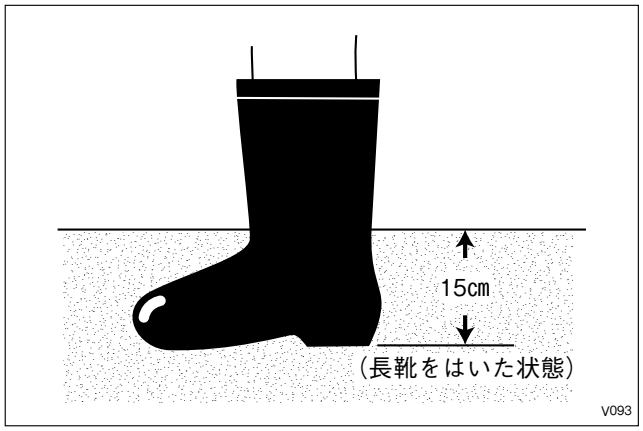
・ヘッダ部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「15㎝」**までは作業ができます。



取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡は，なるべく通らないようにしてください。

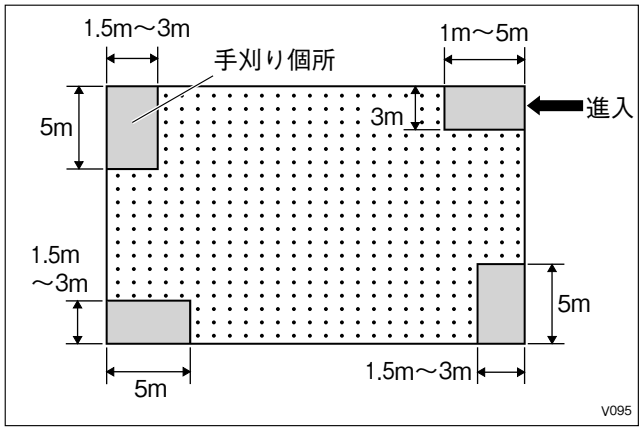
3．ほ場の準備

❶ 手刈り

⚠警告

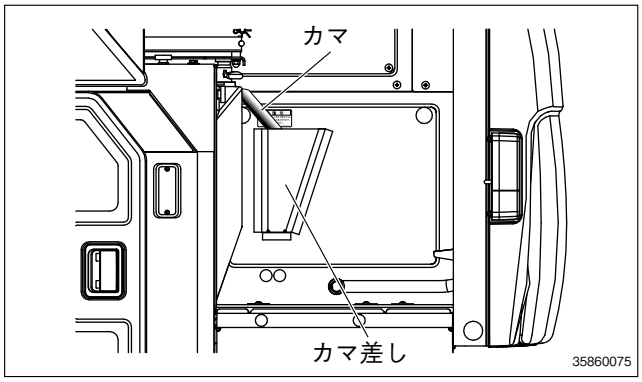
◆手刈した作物を，プラットホームに投げ込んで処理をしないでください。
回転部に巻き込まれたり，思わぬ事故の原因になります。

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。



取扱いのポイント

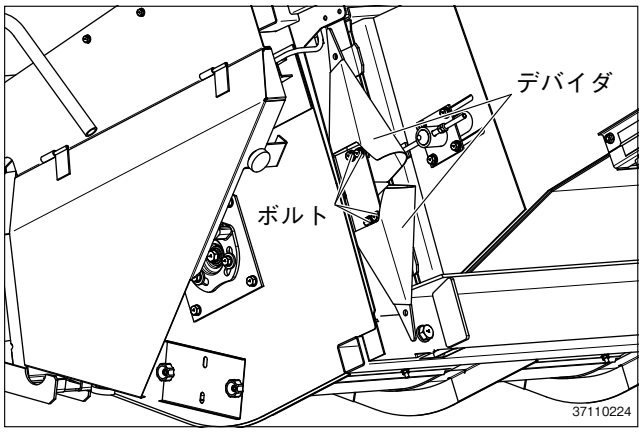
- 手刈した作物は未刈稈の上に均等にバラまき，刈取ってください。
- 強制かき込みスイッチを使用することにより，四隅の手刈り面積を少なくできます。
- ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。
- カマ差しは，運転席左側下部にあります。

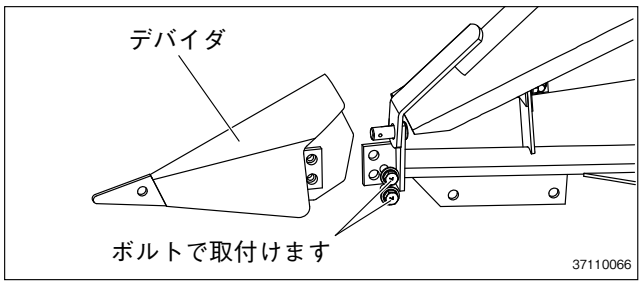


4. 機械の準備

❶ デバイダの取付け

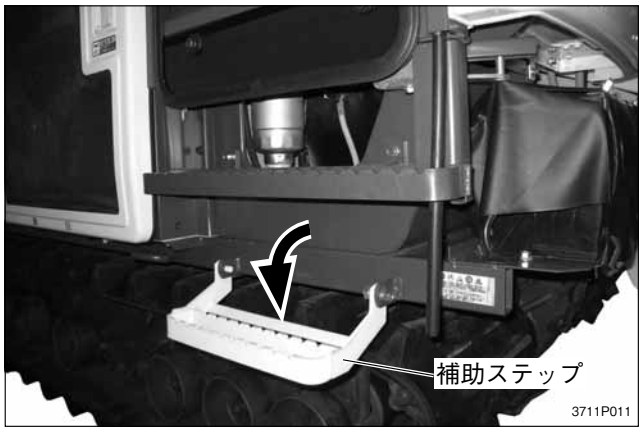
デバイダ収納場所よりデバイダを取外して，デバイダを取付けます。





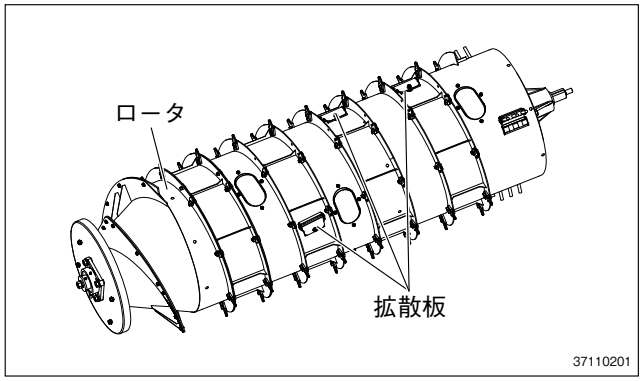
❷ 補助ステップ（下）のセット

補助ステップ（下）を下側へ倒します。

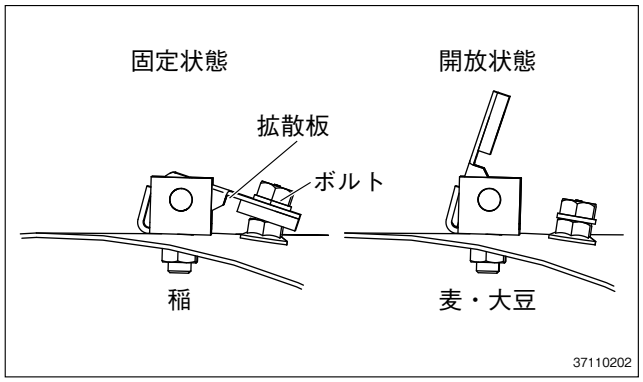


❸ 拡散板の調節

拡散板は，ロータに３枚あります。

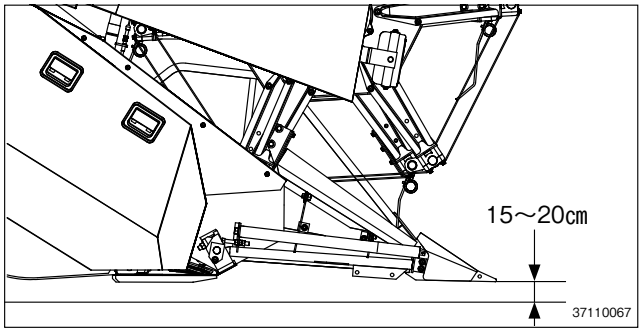


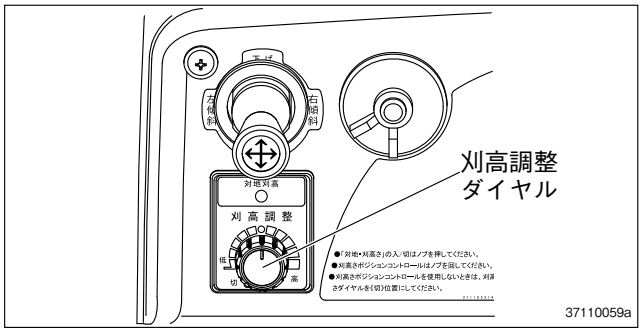
・稲を刈取る場合は３枚の拡散板を固定してください。
・麦・大豆を刈取る場合は３枚の拡散板を開放して，ボルトは元の位置に取付けてください。



❹ 刈取り高さの調整

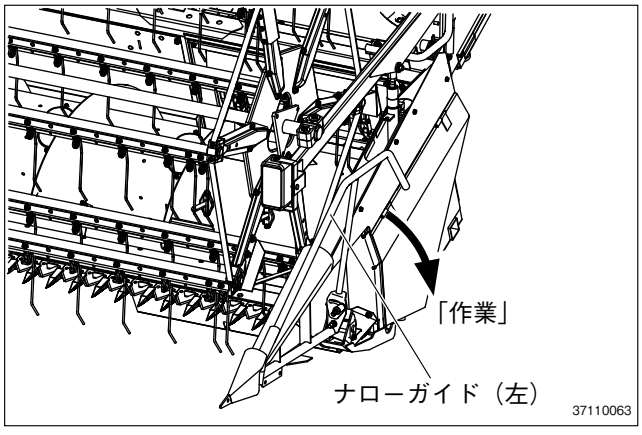
ヘッダ部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「15～20㎝」になるように刈高調整ダイヤルで調整します。





❺ ナローガイド（左）の準備

・ナローガイド（左）をいっぱいまで倒すと，作業状態になります。
・右まわり，あぜぎわ刈取など，障害物があるときは，収納してください。



❻ オーガレストのセット

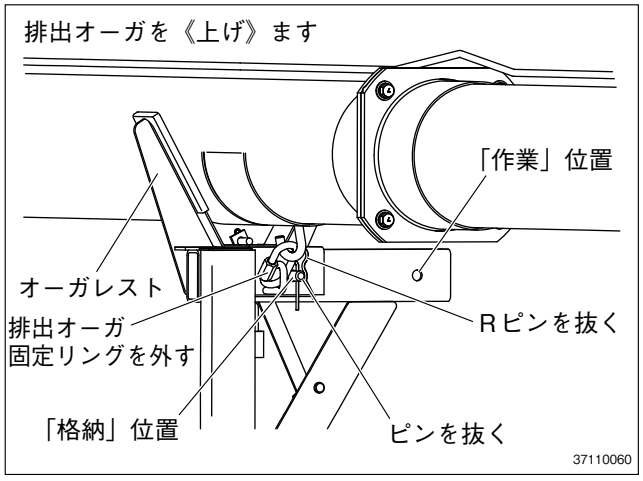
⚠注意

◆刈取作業時には，排出オーガを固定リングで，固定してください。
◆路上走行時は,「格納」位置にしてください。

工場出荷時にオーガレストは,「**格納**」位置で出荷されています。

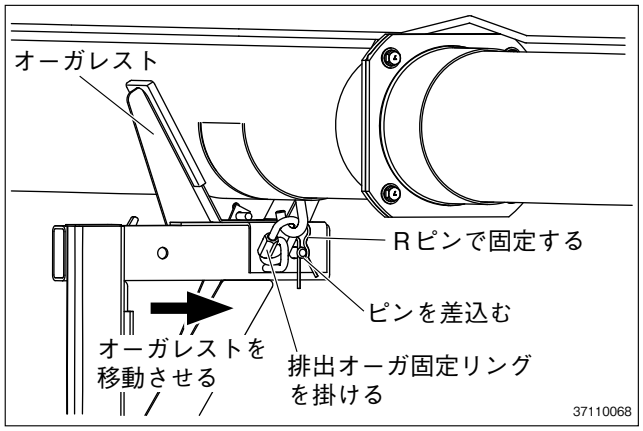
⑴ 排出オーガ固定リングを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。
⑵ オーガレストを止めているピンのRピンを抜き，ピンをオーガレストから抜きます。

「**出荷状態（格納）**」



⑶ オーガレストを「**作業**」位置のセット穴に合わせます。
⑷ ピンを差込んで，Rピンで止めます。
⑸ 排出オーガをオーガレスト「**作業**」位置まで旋回させ,《**下げ**》て，フックに排出オーガ固定リングを掛けます。

「**作業位置セット**」

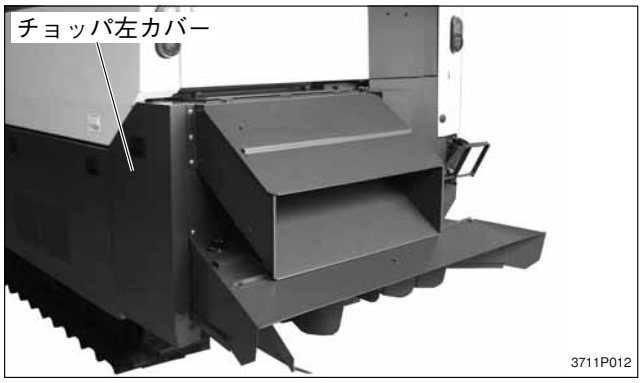


❼ チョッパスプレッダのセット［S仕様］

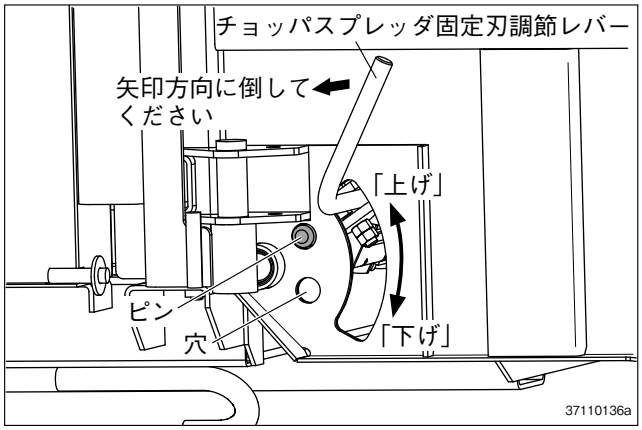
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

チョッパスプレッダによる排ワラ作業の切替えを行なってください。

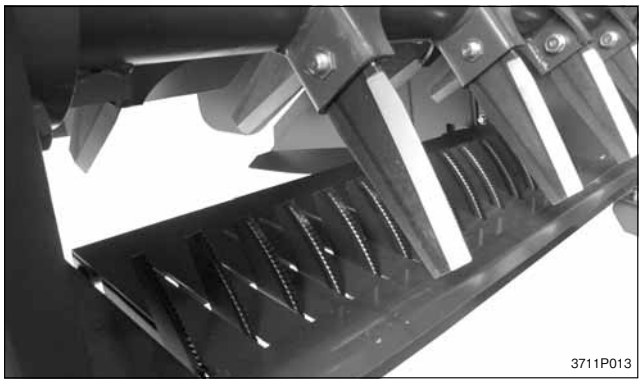
(1) チョッパ左カバーを取外します。



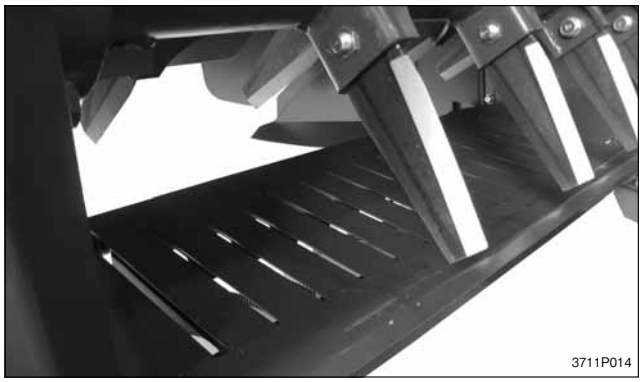
(2) チョッパスプレッダ固定刃調節レバーを矢印の方向に倒しながら「上げ」または，「下げ」位置に動かします。このとき，ピンが穴に入っていることを確認してください。



［上げ状態］



［下げ状態］



(3) 切替え後，チョッパ左カバーを取付けます。

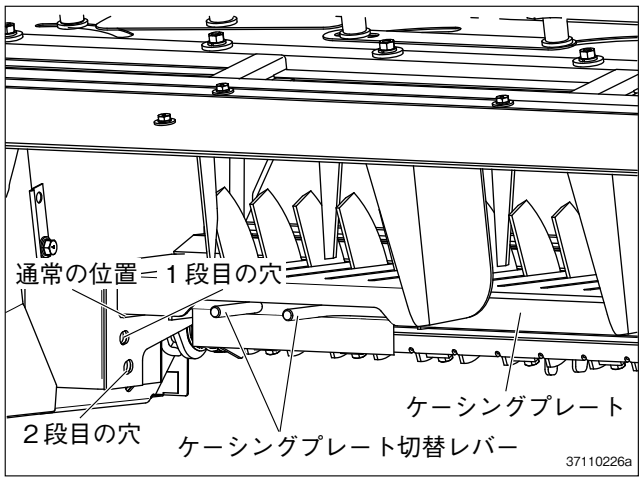
❽ ケーシングプレートのセット［S仕様］

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

麦などで稈量が多い場合は，ケーシングプレートを下げて作業を行なってください。

(1) ケーシングプレート切替レバーを握り内側に寄せて，ケーシングプレートを下げてください。

(2) １段目の穴にレバーピンを合わせ，外側に戻してケーシングプレートを固定してください。



取扱いのポイント

- ２段目の穴は，詰まりが発生する場合のみ使用してください。

❾ 拡散作業をするとき［S仕様］

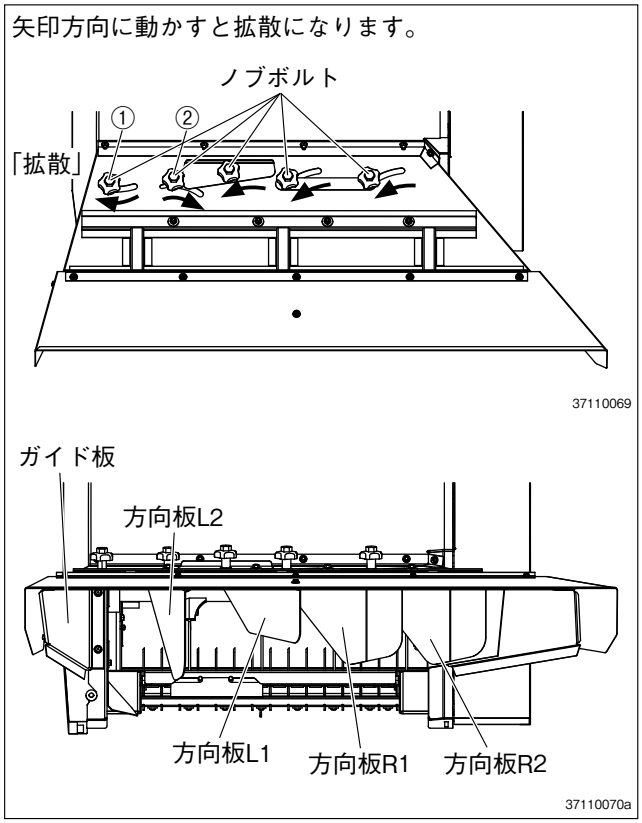
⚠警告

◆拡散板内に手を入れないでください。
◆作業を行なうときは，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行なってください。

⚠注意

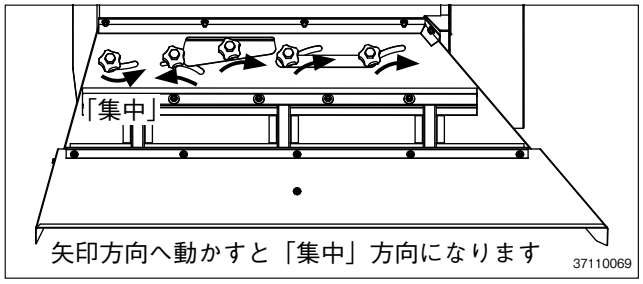
◆チョッパスプレッダの上面および拡散板の上に乗らないでください。破損して転倒するおそれがあります。

⑴ ノブボルト５本をゆるめます。
⑵ ノブボルトを「**拡散**」方向に動かし，ノブボルトを締め付けて固定します。



❿ 集中作業するとき［S仕様］

⑴ ノブボルト５本をゆるめます。
⑵ ノブボルトを「集中」方向に動かし，ノブボルトを締付けて固定します。



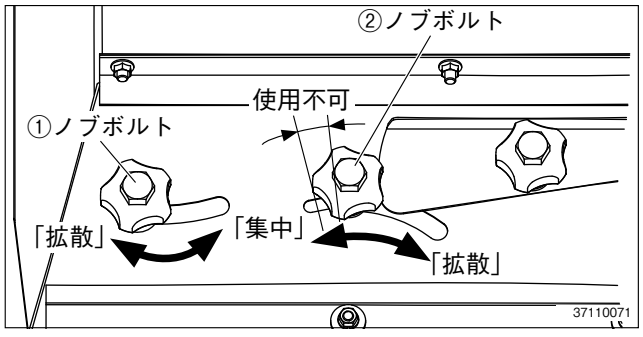
取扱いのポイント

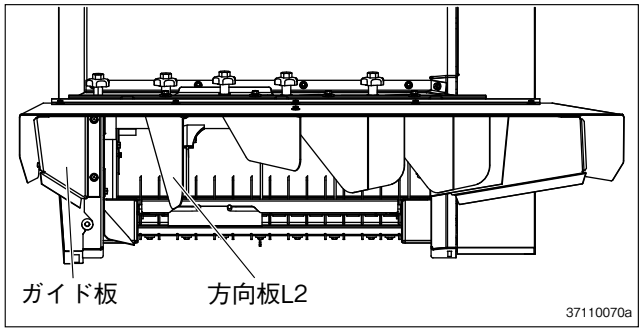
●拡散板内部で排ワラの詰まりが発生する場合，方向板L2が排ワラの流れを妨げていることがあります。このようなときは，エンジンを停止させ，②のノブボルトをゆるめ，次の要領で方向板L2の位置を調節してください。

1） ②ノブボルトが「使用不可」の範囲になっていないか確認します。

2） 「集中」作業時はガイド板に方向板L2を沿わせてガイド板との間にすき間のないようにします。

3） 「拡散」作業時は，ガイド板と方向板L2のすき間を十分にとるようにします。(状況に応じて，①のノブボルトもゆるめガイド板の位置調整も行うようにします)

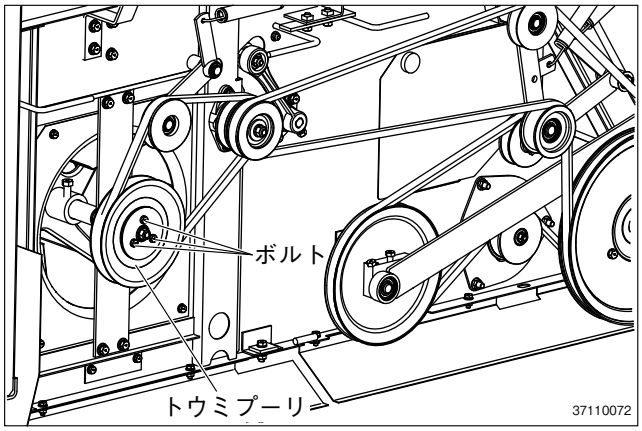




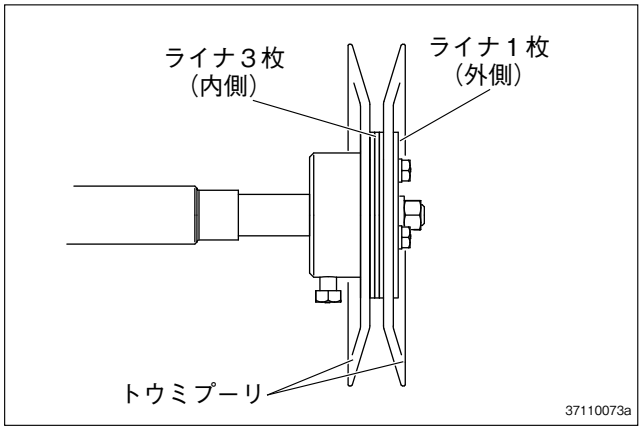
⓫ トウミ回転数の調節のしかた

・ロスや脱ぷが多い場合はトウミ回転数を下げてください。

・小屑が多く，選別が悪い場合はトウミ回転数を上げてください。

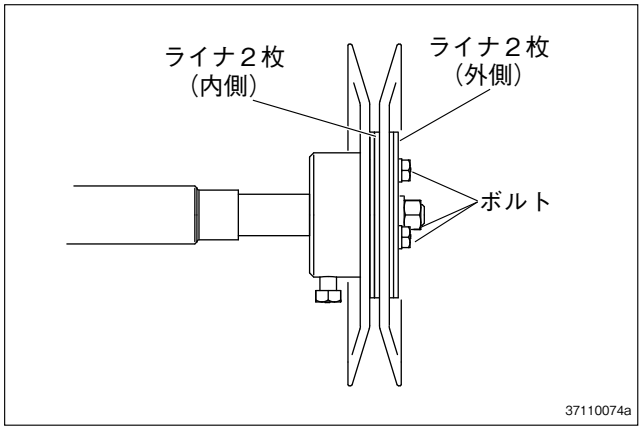


・出荷時は，約950rpmにセットされています。



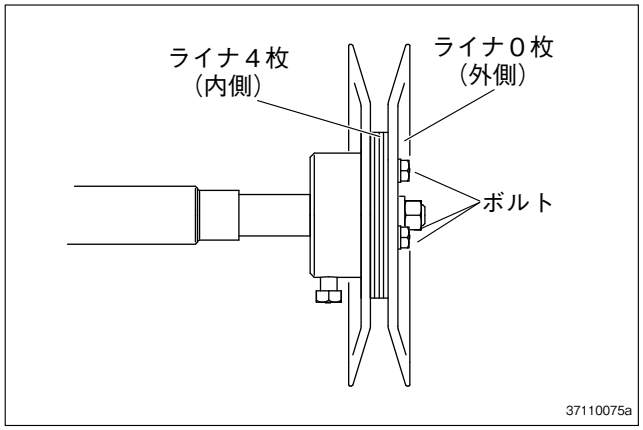
・トウミ回転を下げる場合

ボルトを外し内側のライナ１枚を外側へ移動させボルトで締付けます。



・トウミ回転を上げる場合

ボルトを外し外側のライナ１枚を内側へ移動させボルトで締付けます。



取扱いのポイント

- **ライナ１枚を移動する毎に約50rpm変化します。**
- **作物毎のトウミ回転の目安は「作物別調整表」（Aページ）を参照してください。**

⓬ 旋回方式の選択

⚠警告 傷害事故防止のために

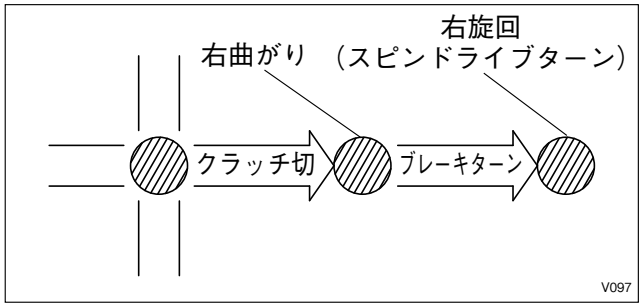
◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行する時は使用しないでください。

通常ブレーキターンの他に，作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。

《スピンドライブターン方式》

……副変速レバーがスピンドライブターン位置のとき，マルチステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。

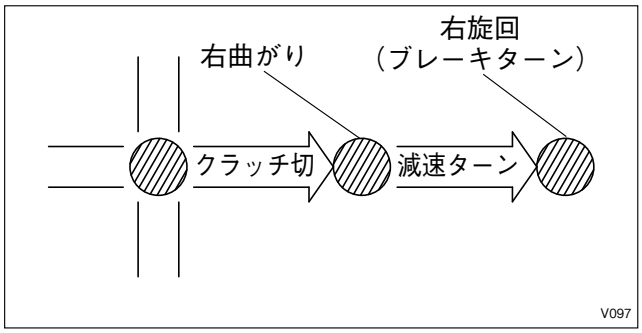
小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。



《減速ターン・ブレーキターン》

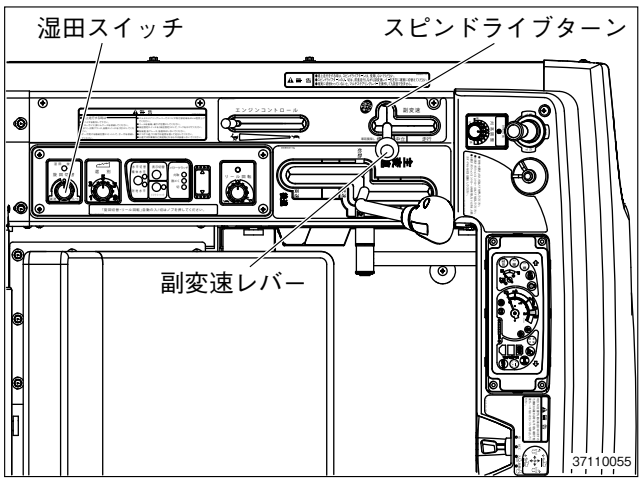
……ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。(ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。)

さらに倒すと旋回側のクローラをブレーキで停止させて旋回します。(ブレーキターン)



《湿田モード》

……湿田スイッチを入れると減速ターン領域での旋回側クローラの駆動力がアップします。湿田などのぬかるんだほ場での旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。通常は，湿田スイッチを《**切**》とし，標準旋回で使用します。



2. 刈取り作業のしかた

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1. 刈取り操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

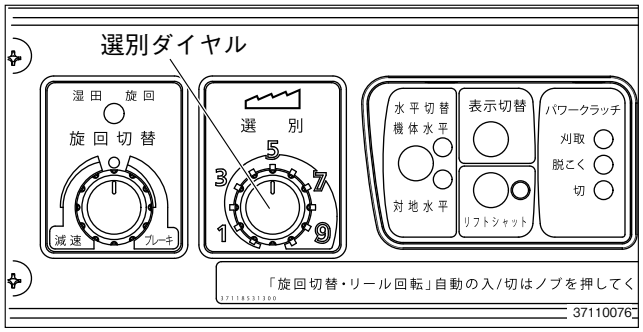
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーが《中立》に戻っているか確認してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

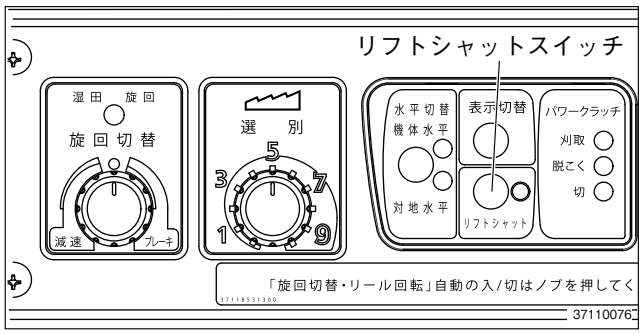
❶ ロータ変速，送じんガイドを作業をする前に**「作物別調整表」(Aページ)** に基づいてセットしてください。

❷ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

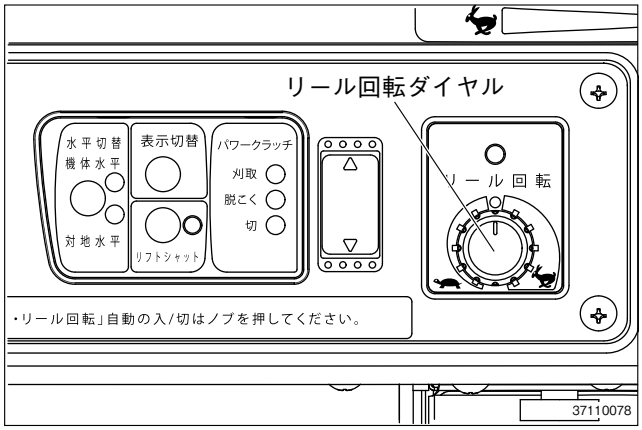
❸ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。(**「作物別調整表」(Aページ) 参照**)



❹ リフトシャットスイッチは作業に応じて《**入**》，または《**切**》にします。(取扱い方法は45ページ参照)



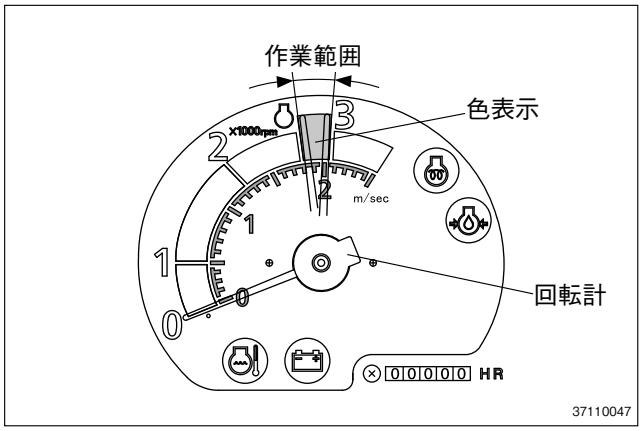
❺ リール回転ダイヤルを作物および作物の状態に応じてセットします。(取扱い方法は14ページ参照)



❻ 副変速レバーを標準位置にします。

❼ エンジン回転を調整します。

パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**刈取**》にし，回転計の指針が「**色表示の上限**」になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



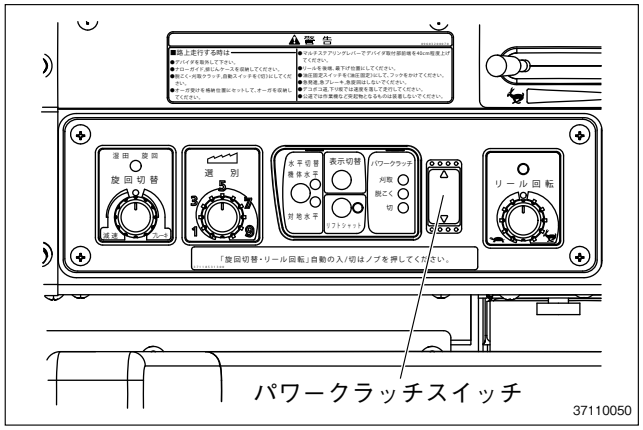
取扱いのポイント

- **刈取り作業中は,「色表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，選別不良が発生したり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

❽ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを選択します。

・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《**脱こく**》ランプ点灯時，脱こく部が作動します。

・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《**刈取**》ランプ点灯時，主変速レバーが前進領域になるとヘッダ部が作動します。



❾ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。

❿ 方向修正は，マルチステアリングレバーを操作して行います。

⓫ 作業中は,回転計の指針が,「**色表示の範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。(16～17ページ参照)

取扱いのポイント

- **エンジン負荷ランプの警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。**
  作業速度を落としてエンジンの負荷を減らすと，ブザーは鳴り止みます。

2. 刈取り手順

本項では稲・麦の作業について説明します。

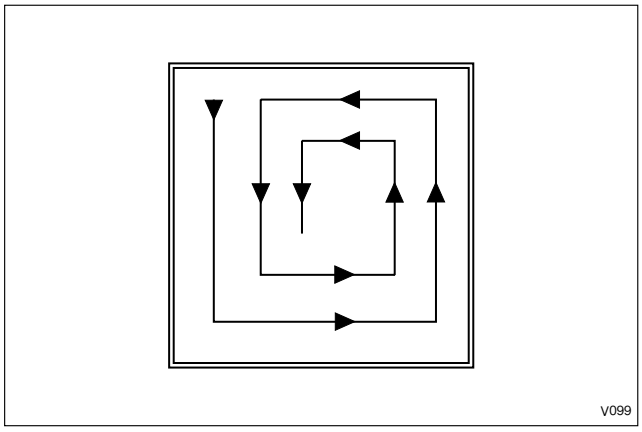
他の作物については，アタッチメントの取扱説明書をご覧ください。

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，**「左回り刈り」**が基本です。

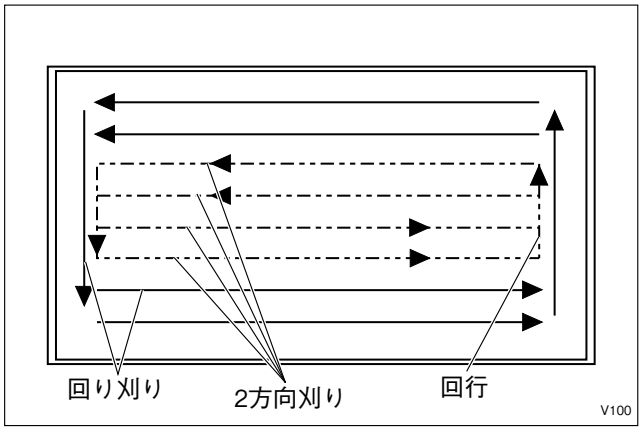
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

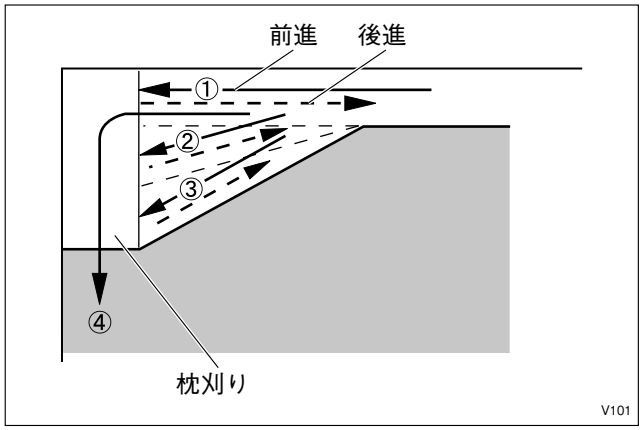


⑶ あぜ際刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。



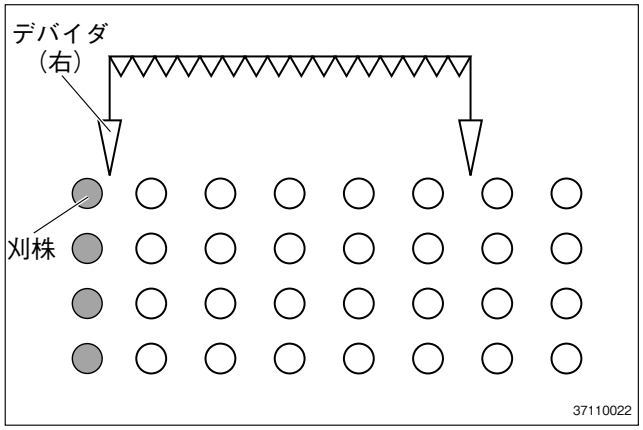
取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に急激な方向修正はしないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ次工程での刈残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，ヘッダ部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

⑸ 条合わせ刈り（稲の場合）

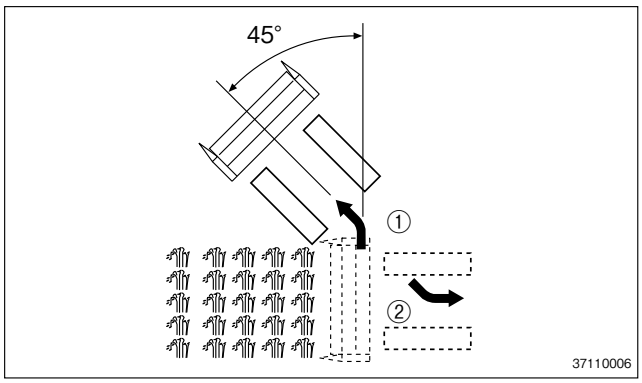
・通常は５条刈りで刈取ってください。

・デバイダ（右）を基準に**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。



⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら，ヘッダ部を上げます。
　エンジン回転はそのままで，連続作業の状態で旋回します。（湿田では，大きく旋回します。）
・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

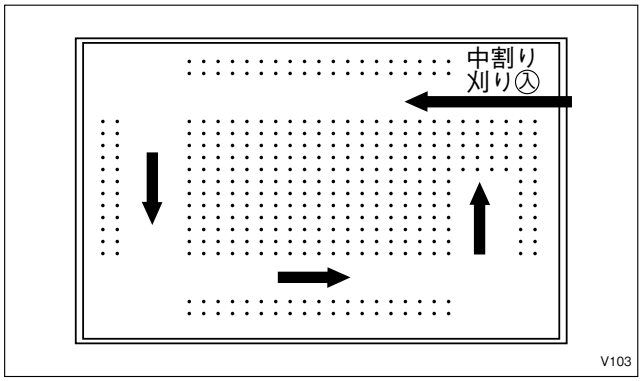


取扱いのポイント

●**旋回のときには，エンジン回転を下げたり，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
刈り終わり時は，ヘッダ部を上げるのと同時にリールを下げる，またはクイックアップを使うと稈こぼれを減らすことができます。

❷ **中割り刈り**

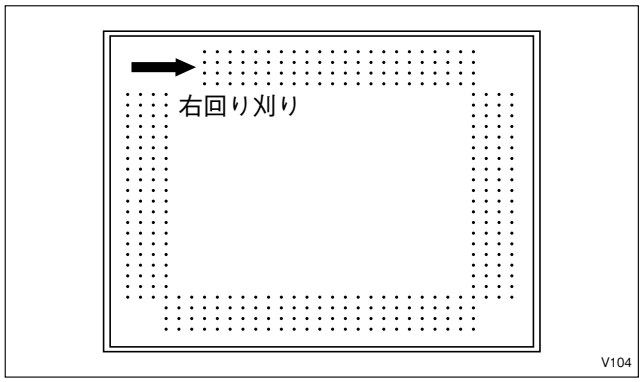
・あぜ際刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



　デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ **右回り刈り**

⑴ 回りのあぜが高く，あぜ際まで植付けされているときは，あぜ際を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。
⑵ 残した条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

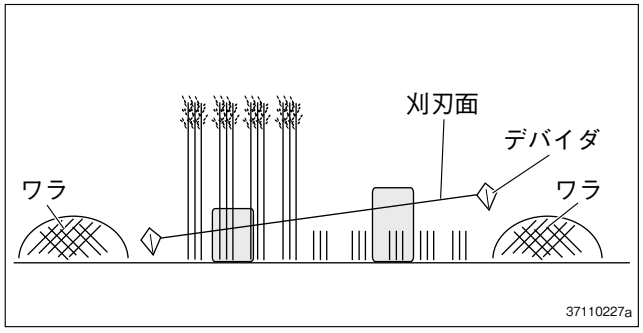


取扱いのポイント

●**あぜ際刈りのときは，オーガをぶつけたり，突込んだりしないよう周囲を注意しながら作業してください。**
●**あぜ際刈りのときは，デバイダを突込んだり，ぶつけないように注意してください。**
●**ほ場の状態によっては，最初にあぜ際を「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ **刈取作業の最終工程**

　刈取作業の最終工程などで，刈幅に満たない条数を刈取るようなときは，機体水平スイッチを「切」にして，手動操作で刈取りを行っていない側を上方に傾けて作業を行ってください。



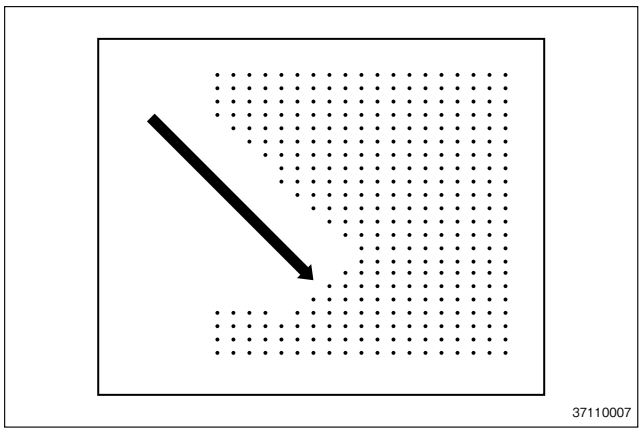
❺ 横刈り

横刈り時は，高速で作業すると刈刃に高負担がかかるので，下記要領で作業してください。

⑴ 横刈り時は速度を落とします。

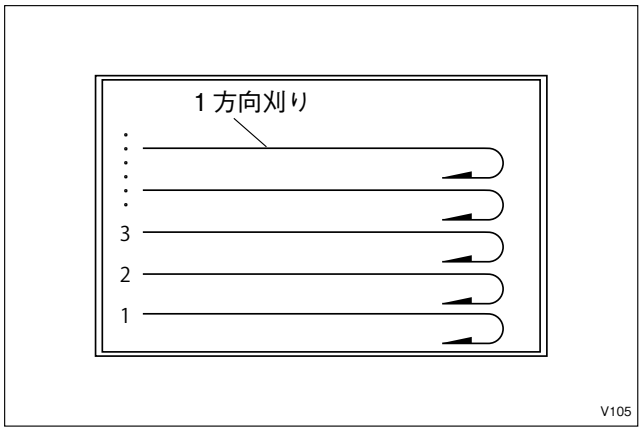
⑵ 高速作業をする場合は，横刈りではなく，斜め刈りをしてください。

⑶ 高刈りをしてください。



❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**1方向刈り**」を行います。



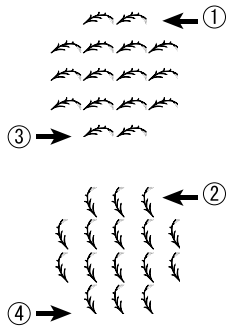
⑴ **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは，下の図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は《**標準**》で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏共，主変速レバーは，立毛材刈取時より低い位置で使用してください。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り又は・③追刈り**」となるように「**1方向刈り**」をします。

刈取り方向 ＼ 倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

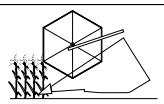
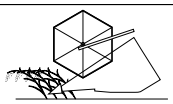
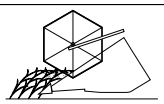
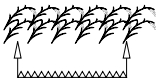
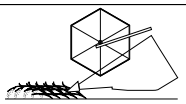
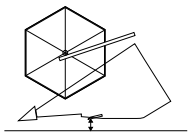
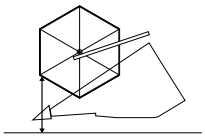
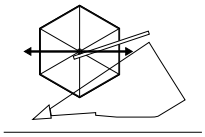
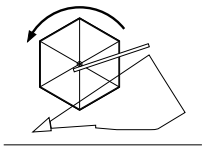
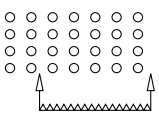
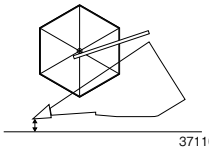
○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

取扱いのポイント

- **刈刃が土に突込まないようにしてください。土に突っ込むとヘッダ部，脱こく部が詰まる原因となります。**
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。**

❼ リールヘッダの調整方法

・リール高さ調整は，リールの高さを作物の状態に応じて，調整してください。
・リール前後調整は，リールの前後位置を作物の状態に応じて調整してください。
・リール回転速度調整は，リールの回転速度を作業速度と作物の状態に応じて調整してください。

<table>
<tr><th>作物の状態
ヘッダ部</th><th>立毛時

37110013</th><th>追刈時

37110014</th><th>向刈時

37110015</th><th>横刈時

37110016</th><th>完全倒伏

37110017</th></tr>
<tr><td>刈高さ

37110018</td><td>希望する高さに合わせて作業を始めてください。（ほ場面から15～20cmが適当です。）</td><td>土に突っ込まない高さに，作業しながら調整してください。</td><td colspan="3">穂を切り落とさない範囲で，できるだけ高く調整してください。</td></tr>
<tr><td>リール高さ

37110019</td><td>タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。</td><td>いっぱいまで下げてください。</td><td>タインが作物の穂先を櫛ですくうように調整してください。</td><td colspan="2">いっぱいまで下げてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール前後位置

37110020</td><td>リールの中心が刈刃の真上か，やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールの中心が刈刃の真上か，やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールが作物を拾い残さず，土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※リールを前方に出しすぎると，稈こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール速度

37110021</td><td>タインバーが作物に分け入れるとき，作物が揺れ動かないように調整してください。（リール速度は作業速度の２～５割増にしてください。）</td><td>走行速度より，かなり速くしてください。（作業速度を遅くしてください。）</td><td colspan="3">作業速度同じか，やや速めにしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは，タイン１本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか，リールを速く回転させてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ位置

37110079</td><td>既刈側の作物を刈り残さないように，右デバイダを合わせてください。</td><td>未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。</td><td colspan="3">既刈側の作物を刈り残さないように，右デバイダを合わせてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ高さ

37110023</td><td>雑草が引っかからない程度（刈株よりやや高め）に調整してください。</td><td colspan="4">先端が土に軽く触れる程度に調整してください。
低すぎると株抜けします。</td></tr>
</table>

3．強制かき込みスイッチの取扱い

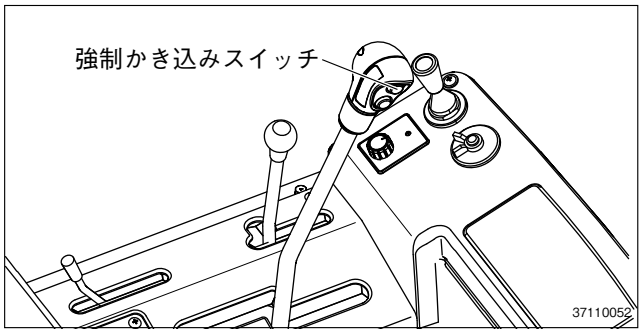
⚠警告 傷害事故防止のために

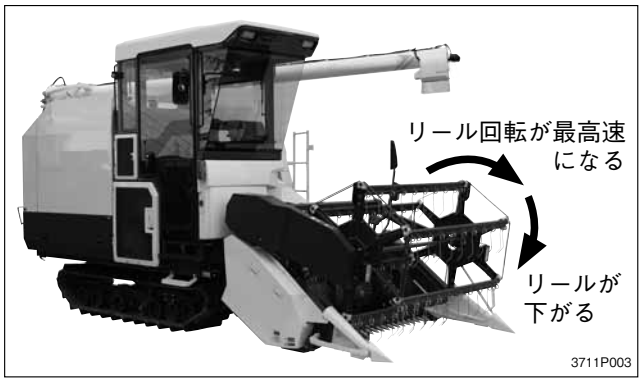
◆強制かき込みスイッチ操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・ほ場端部での刈り上げの際，ヘッダ部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用すると，稈こぼれを防ぐことができます。
・ほ場侵入（機体前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取をすると，搬送がスムーズに行えます。

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《**刈取**》位置のとき，強制かき込みスイッチを押している間リールが最下限位置まで下がり，リール回転速度が最高回転で固定され作動します。

スイッチを放しますと，リールは元の位置（ボタンを押す前の位置）に戻ります。





取扱いのポイント

●あぜ際や，四隅刈りを除く刈取作業中はスイッチを操作しないでください。ヘッダ部，脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。

4．倒伏刈スイッチの取扱い

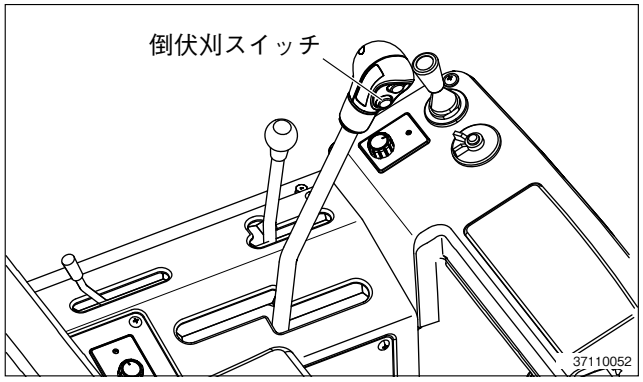
⚠警告 傷害事故防止のために

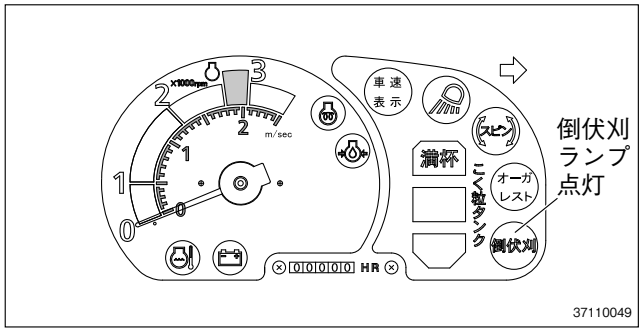
◆倒伏刈スイッチ操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

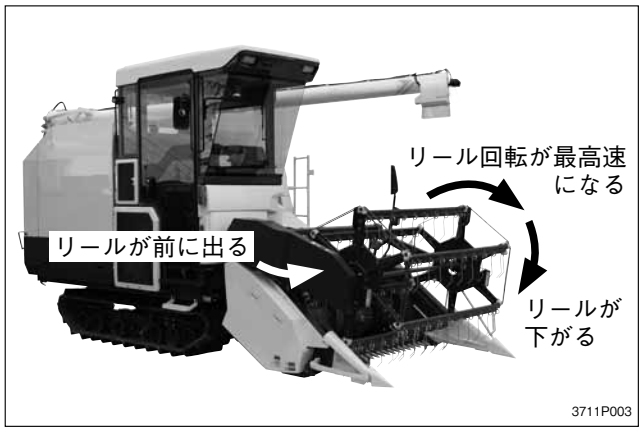
作物，ほ場の条件に応じて使用してください。

・部分倒伏や完全倒伏のとき，倒伏刈スイッチを押すとスムーズな刈取ができます。

倒伏刈スイッチを押すとランプが点灯し，リールが下がり前に出て，リール回転が最高速になり，刈取搬送が作動します。







・倒伏刈スイッチを再度押すと，スイッチを押す前の状態に戻ります。

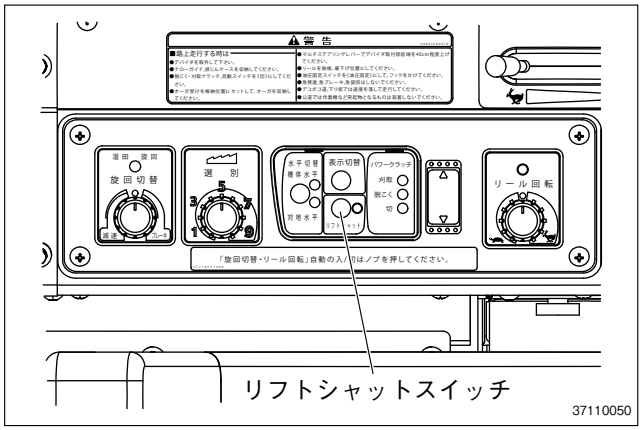
5．リフトシャットの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にしてパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入っていると，ヘッダ部を下げたときは，ヘッダ部が作動します。
◆ヘッダ部に近づかないでください。
◆リフトシャットが作動し，ヘッダ部が停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，ヘッダ部が作動します。強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にしてヘッダ部を上げると，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入った状態で自動的にヘッダ部が停止する機構です。前進し，ヘッダ部を下げると自動的に回り始めます。

リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，ヘッダ部を上下してもヘッダ部は停止しません。



ヘッダ部を通常より上げて刈取する場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

取扱いのポイント

●**後進時，停止時はヘッダ下げ操作をしてもヘッダ部は作動しません。**

6．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

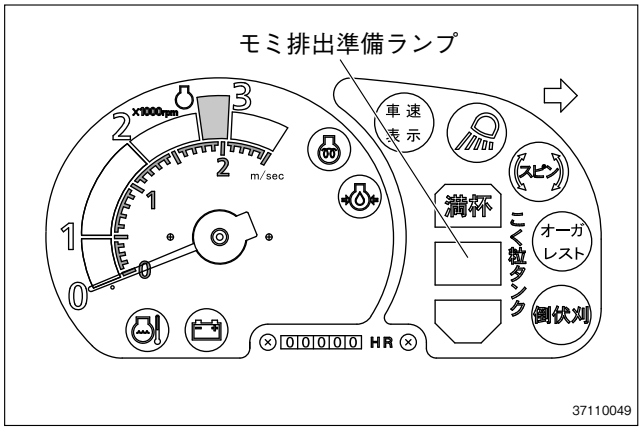
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，排出範囲でこく粒排出スイッチを「切」にしエンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，手動操作で排出オーガを操作してください。
◆水平切替スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ モミ排出準備ランプ

・モミ排出準備ランプが点灯すると，方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備を知らせます。



❷ グレンタンクのモミ警報

・グレンタンクにこく粒が充満すると，こく粒タンクランプ《**満杯**》の「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。

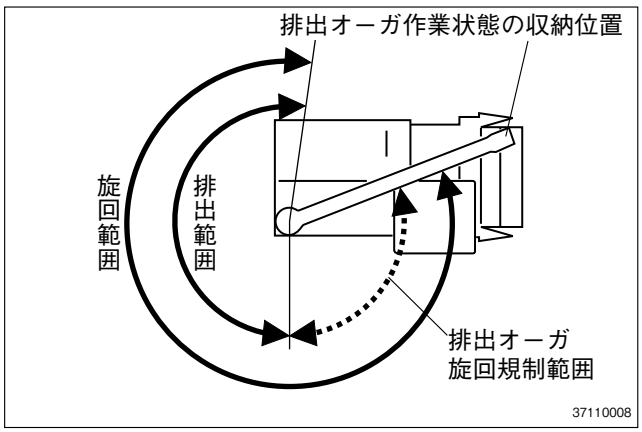
・警報ブザーは，警報切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

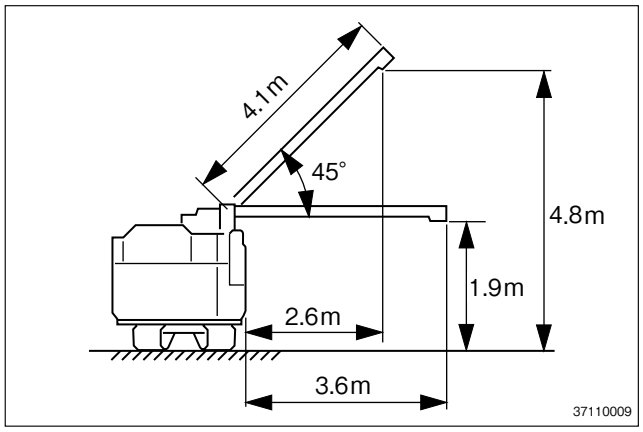
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。

❸ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

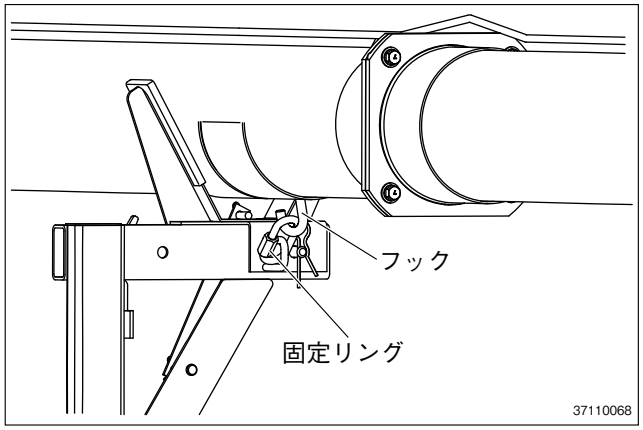


「排出オーガ高さと距離」



❹ こく粒排出操作手順

⑴ 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。

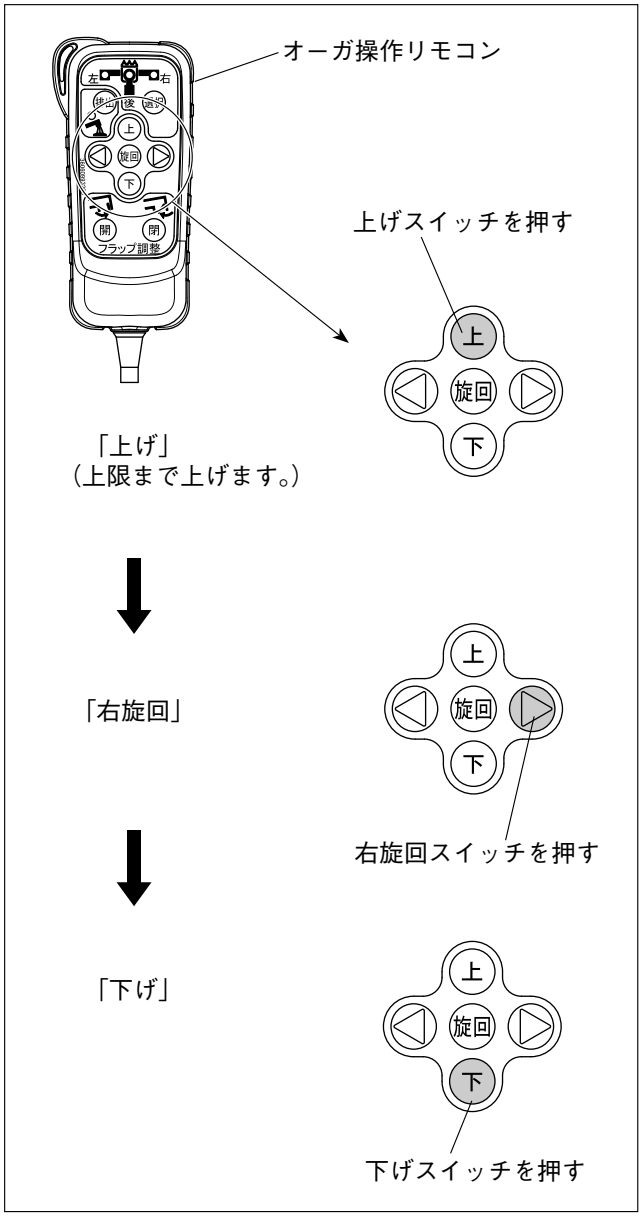


⑵ こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「**手動**」と「**自動**」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき





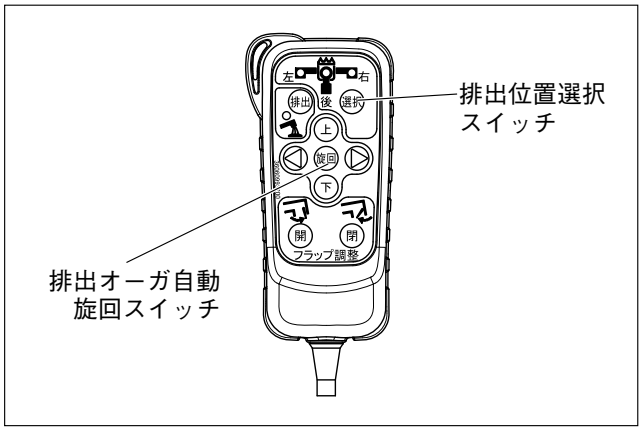
自動操作のとき　［排出時］

・排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。

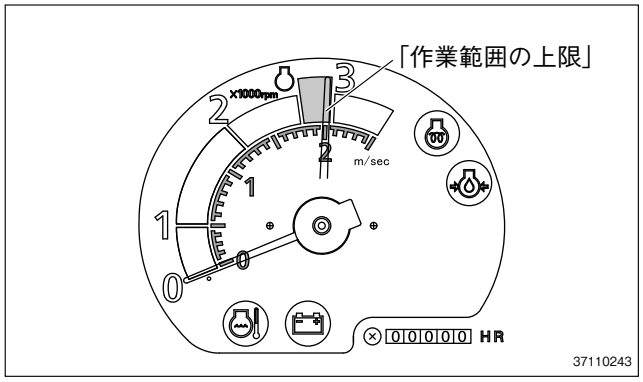
・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

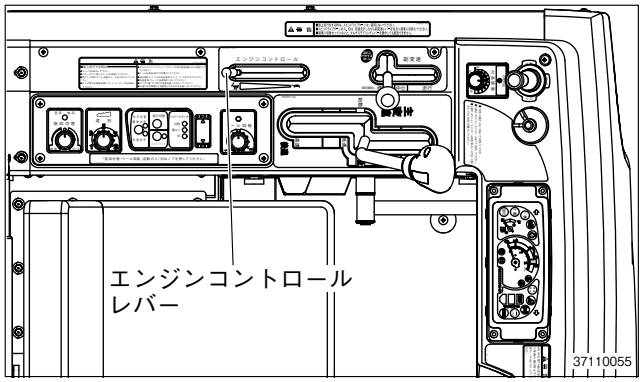
……自動旋回開始

→ 設定した位置で停止→手動で高さを合わせる



⑶　こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業範囲の上限」に合わせて行なってください。（詳細は８ページ参照）



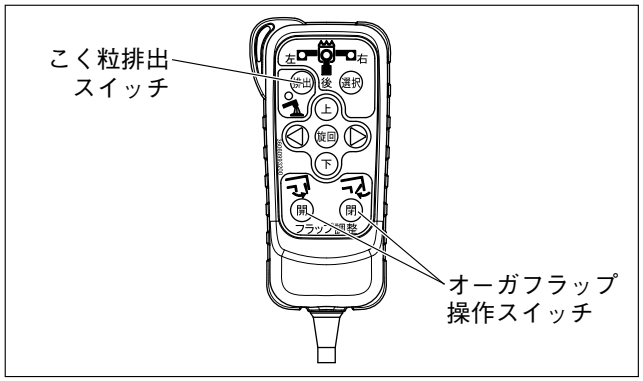


⑷－１　こく粒排出スイッチを「入」にする。

……こく粒排出開始

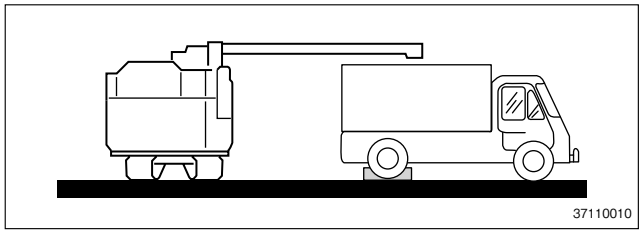
⑷－２　オーガフラップ操作スイッチ

フラップを「開」「閉」操作し，こく粒排出位置を微調整・均一排出できます。



⑸　こく粒排出スイッチを「切」にする。

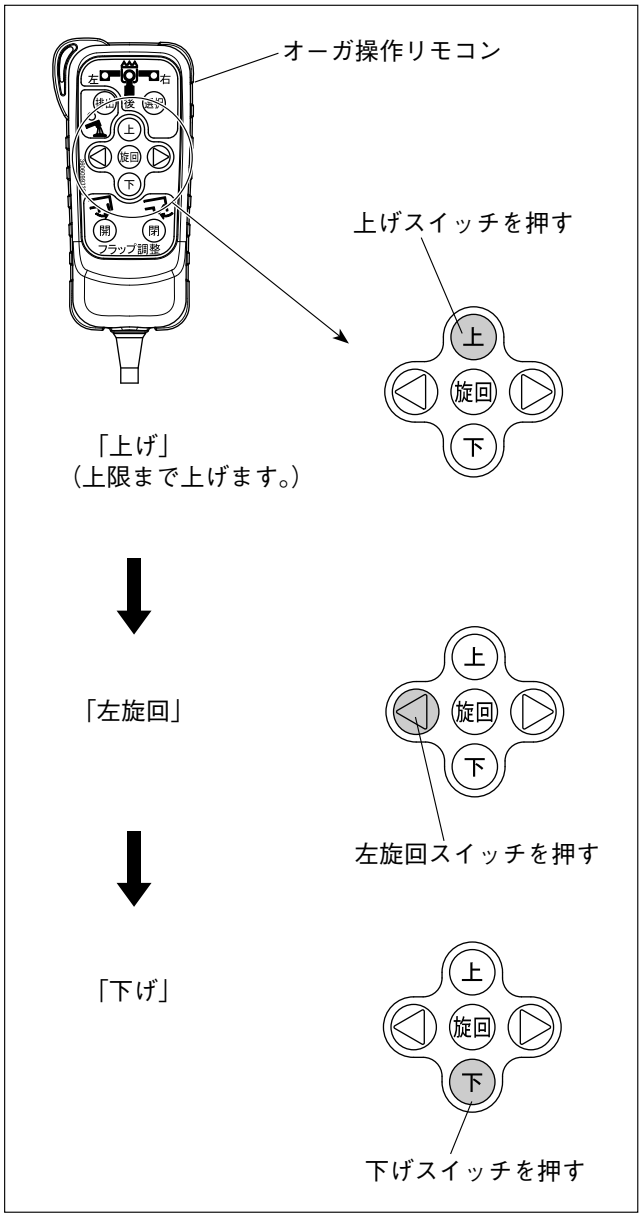
……こく粒排出終了



⑹ **こく粒排出オーガを収納する。**

収納する場合，「**手動**」「**自動**」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



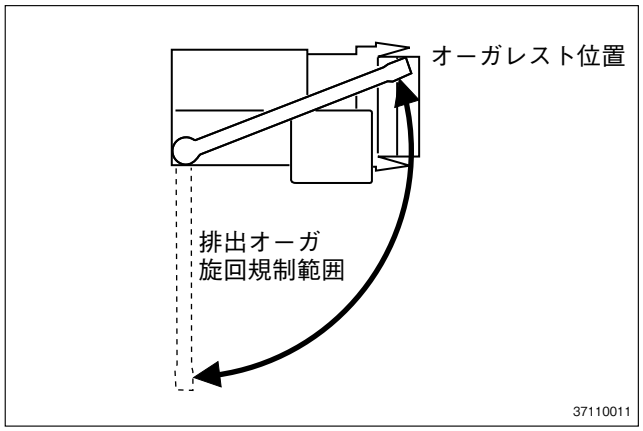
自動操作のとき　［収納時］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」すとオーガレストのある位置に収納されます。

⑺ **排出オーガ固定用リングをフック部にかける。**

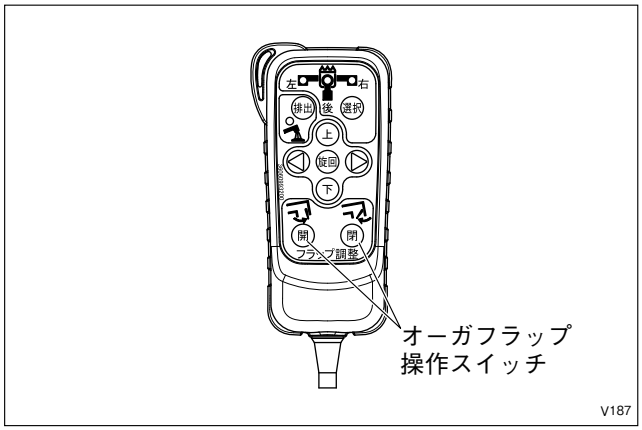
取扱いのポイント

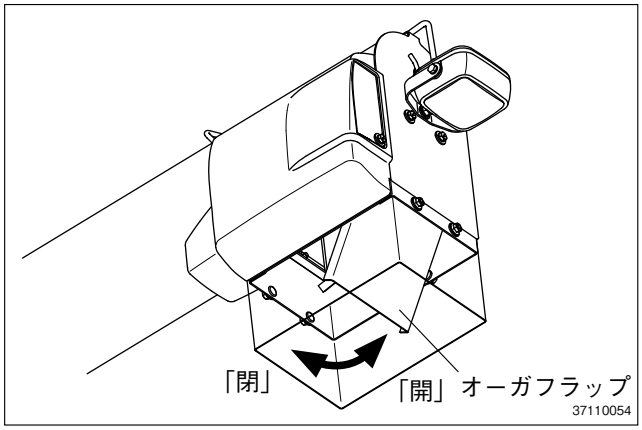
- **こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないように，排出位置を変えながら行なってください。**
- **排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。**
- **機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，オーガレストに納まらない場合がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。**
- **排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。**
- **排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行なってください。**
- **排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。**



⑻ オーガフラップ操作スイッチ

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。





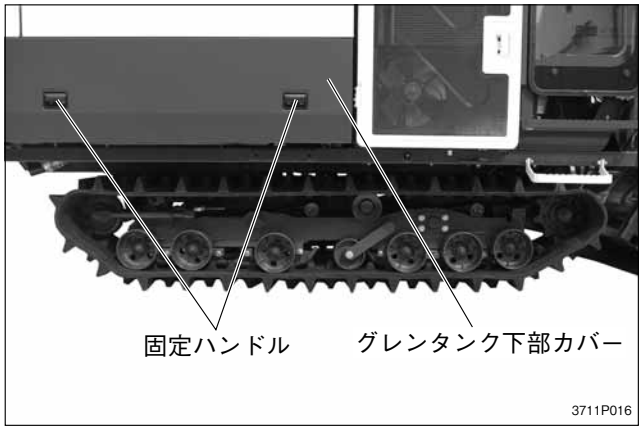
7．グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

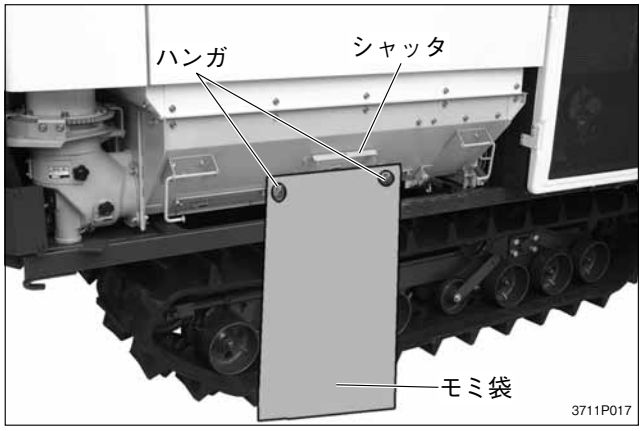
◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。
◆作業が終わったら，取外したカバー類を全て取付けてください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

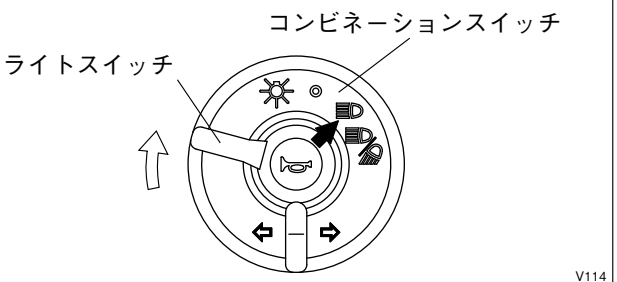
8. 夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。

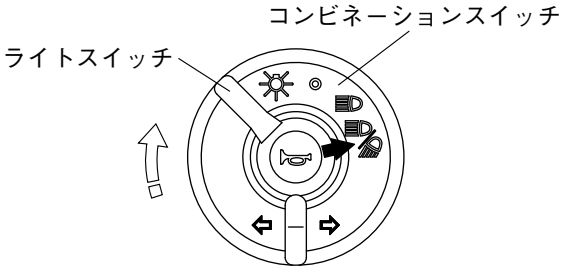


V114



3711P057

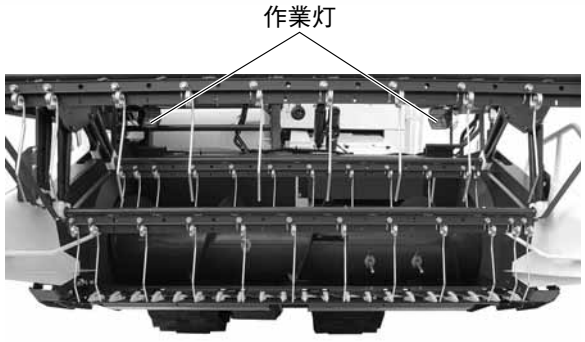
❷ 各作業灯スイッチを《**入**》にして，ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。



V115



3711P057



3711P018

9．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

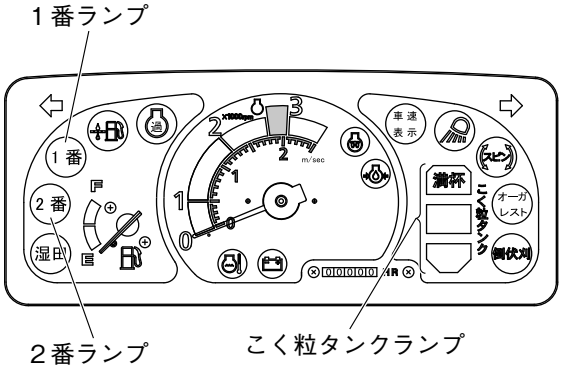
◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は,スタータスイッチを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

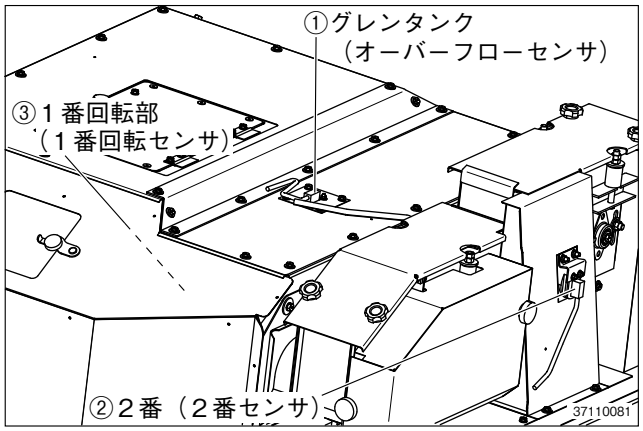
◆脱こく部の詰まりの掃除・点検作業は，ロータカバー，ロータサイドカバーをオープンさせて行ってください。

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，ロータ部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，１番ランプ，２番ランプ，またはこく粒タンクランプが点滅または，点灯してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	２番	詰まり	２番センサ
③	１番回転部	詰まり ベルトスリップによる回転停止	１番回転センサ





❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まり等を取除き，副変速レバーを《**中立**》にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**）にし，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

●停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。

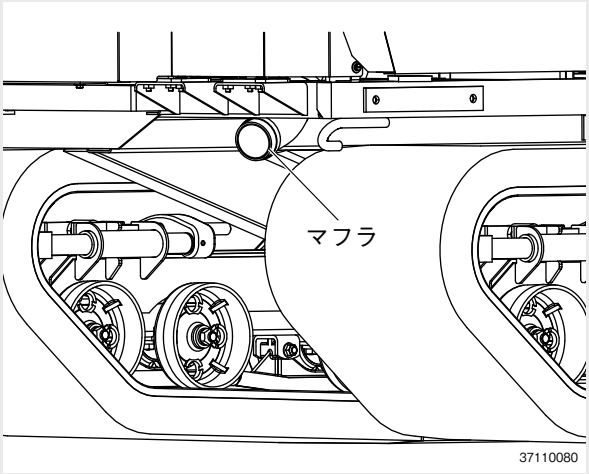
10. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーで《🐢》(**低速**)の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

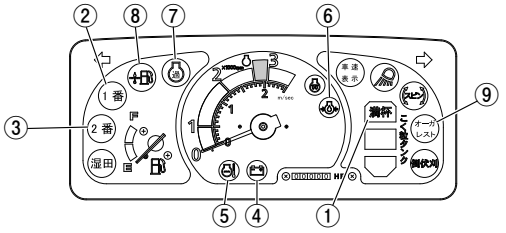
●パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，《脱こく》にし，空運転してから《切》位置にします。

●水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

11．警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



	名　称	現　　象	警報の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満　杯	点灯	断続音の断続	－	警報切ボタン「**押す**」またはパワークラッチ(脱こく･刈取）スイッチ《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	45～49
		モミオーバーフロー	点滅	断続音の連続	停止	パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチ《**切**》		
②	1　　番	詰まり	点滅（1番，2番）	断続	停止	パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチ《**切**》	1番または，2番が詰まっていますので取除きます。	112～113
							ベルトが焼き付いているか，切れていますので点検します。	131～132
							バケットチェンが切れていますので点検します。	126
③	2　　番						ラセン部がロックしているか詰まっていますので点検します。	113
		2番上部シュータ部の詰まり	点灯	連続	停止		2番上方横ラセンまたは，2番上部シュータ部が詰まっていますので取除きます。	112
④	充　　電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	92～98
⑤	水　　温	オーバーヒート	点灯	連続「**低速運転**」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	7 76～77 85 128
⑥	オ イ ル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	7 74～75
⑦	エンジン回転負荷	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジン過負荷をなくします。 ・送じんガイドの調整がよいか確認します。	16, 38～39 59
⑧	燃　　料フィルタ	燃料フィルタ内に水が溜まる	点灯	連続	－	スタータスイッチ《**切**》	ドレンコックを開き，中に溜まった水を抜きます。	86～87
⑨	オーガレスト	オーガレスト格納状態	点滅	連続	－	－	・オーガレストが格納位置のとき，オーガとリールが接触する可能性のある操作をすると(リール・リフト上昇またはオーガ下降)，ランプが点滅し，ブザー音が鳴ります。	34

自動装置について

1．刈高さポジションコントロール

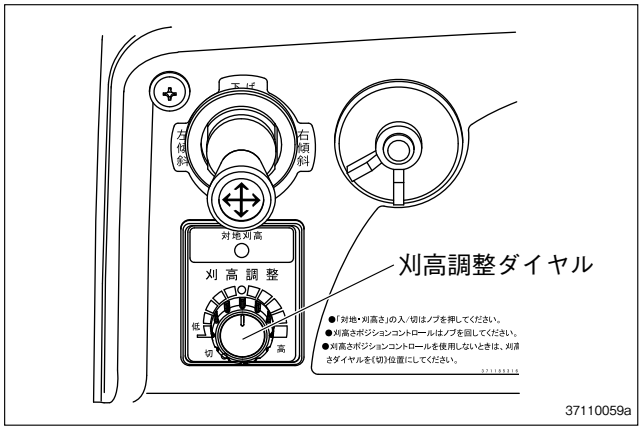
刈高調整ダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，ヘッダ部の下限高さを設定することができます。

1．運転装置

❶ 刈高調整ダイヤル

刈高調整ダイヤルを《**切**》位置以外にすると刈高さポジションの設定ができます。

・刈高さの調節は，刈高調整ダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



❷ ヒューズ

取扱いは，88～91ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高調整ポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2．自動での作業のしかた

刈高調整ダイヤル《**切**》位置とパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》位置状態ではこの機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

⑴ 刈高調整ダイヤルを標準《●》位置にセットします。

⑵ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作してヘッダ部を下げます。ヘッダ部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

⑴ 刈高調整ダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

⑵ ヘッダ部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

⑴ 刈高調整ダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

⑵ ヘッダ部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

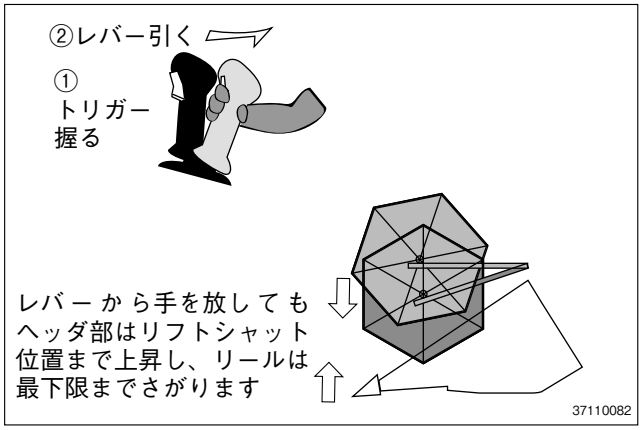
取扱いのポイント

- **刈高調整ポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。**
- **再度ポジションコントロール状態にするときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。**

❹　クイックアップトリガーの使用

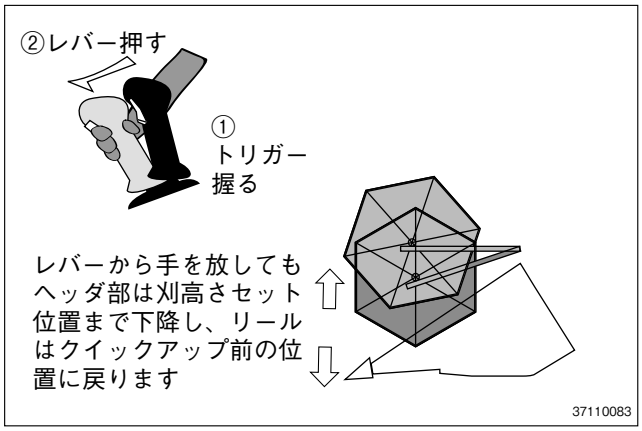
①　クイックアップ機能

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く（一瞬）上げ操作をすると自動的にヘッダ部がリフトシャット位置まで上がり，リールが最下限まで下がります。



②　クイックセット機能

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く（一瞬）下げ操作をすると自動的にヘッダ部が刈高さポジションコントロールで設定された位置まで下がり，リールはクイックアップ前の位置まで戻ります。



③　刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらにヘッダ部を下げたいときはクイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

ただし、ヘッダ部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

クイックアップトリガーの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションに戻ります。

取扱いのポイント

- **クイックアップトリガー操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

3．手動での作業のしかた

刈高調整ダイヤル《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，ヘッダ部の高さを任意の位置に合わせることができます。

※対地刈高［ディーラーオプション］は対地平行，刈高さ自動キットの取扱説明書を参照してください。

2. 水平自動制御（ジャストマチック）

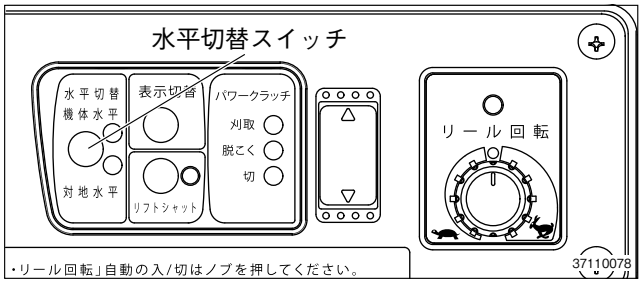
機体水平

・機体水平は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持上げることもできます。
・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ水平操作レバーで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行ってください。

1. 運転装置



❶ 水平切替スイッチ

水平切替スイッチを押すと「**機体水平**」→「**切**」→「**機体水平**」の順に切替わり，ランプが点灯します。

・「**入**」……押すとランプが点灯し，機体水平が「**入**」の状態であることを表示します。

ランプ点灯



入▼

・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。

ランプ消灯



切▼

取扱いのポイント

●対地水平ランプは点灯しません。ディーラーオプション装着時のみ点灯します。

●機体水平ランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

❷ ヒューズ

取扱い方は，88～91ページを参照します。

❸ 水平操作レバー

取扱い方は，20ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

❶ 刈取り作業

⑴ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**脱こく**》位置で，水平自動制御が作動します。
⑵ 傾斜角を変えるときは，水平操作レバー「**右傾斜**」「**左傾斜**」を操作し，設定します。傾斜角を保持するように自動制御（傾斜角制御）します。水平操作レバーで機体傾斜角を変えたときは，水平自動ランプは点滅します。
⑶ 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平切替スイッチを入れ直す（入→切→入）か水平手動操作（上下操作）を行うと戻ります。（傾斜角制御のときは「ピッ」，水平制御のときには「ピッ，ピッ」とブザー音がし，切替ったことがわかります）
⑷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》位置にしたとき機体が左右どちらか低いほうに合わせて，地面に平行になります。

取扱いのポイント

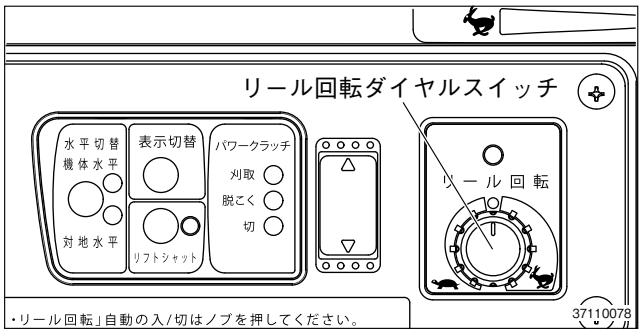
●水平切替スイッチで機体水平を「入」にしていても水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。
●自動制御中，機体の高さを変えたいときは，水平操作レバーを操作してください。
●機体急旋回中は水平自動制御は作動しません。

対地水平［ディーラーオプション］

対地水平の取扱いは，対地平行，刈高さ自動キットの取扱説明書を参照してください。

3. リール回転自動制御

リール回転自動は刈取作業速に連動して，リールの回転速度が自動的に変速される制御です。



1. 運転装置

❶ リール回転ダイヤルスイッチ

・リール回転ランプが点灯時にリール回転ダイヤルスイッチを押すと，ランプが消灯し，リール回転自動は作動しません。（手動回転固定リール速度になります）

・再度リール回転ダイヤルスイッチを押すと，ランプが点灯し，リール回転自動が作動状態になります。

❷ ダイヤル

・自動のときは，リール回転速度の連動割合をダイヤルによって調整します。

・手動のときは，リール回転速度を任意の回転に調整します。

❸ ヒューズ

取扱いかたは，88～91ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

❶ 刈取作業

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》位置でリールが回転している状態のときに，作業速度に連動するようにリール回転速度が変速されます。

リール回転速度を変更したいときはダイヤル位置を変更してください。

《🐢》……**遅く**

《🐇》……**速く**

4. 排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。

◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを「切」にして，エンジンを停止してください。

◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。

◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，リモコン内の何れかのスイッチを押して止めてください。

◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。

◆走行中に排出オーガを操作しないでください。

◆水平切替スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意

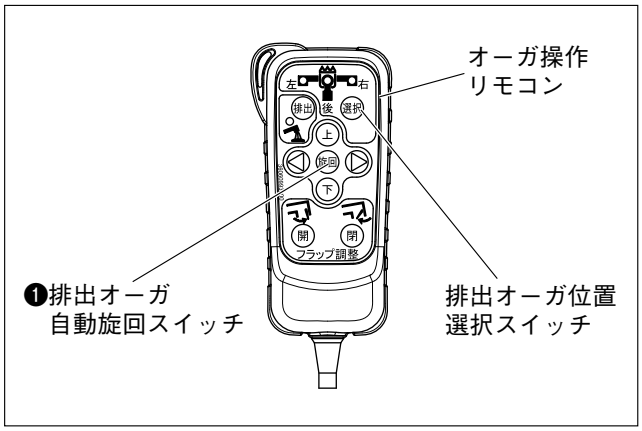
◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。

◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。

◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，排出オーガ固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。

1．運転装置



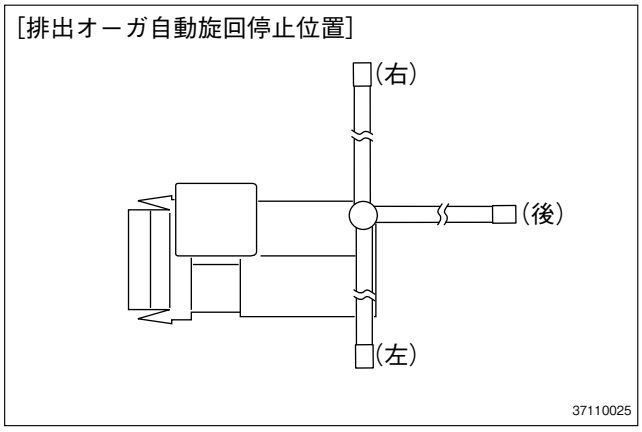


❶　排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで，自動旋回します。

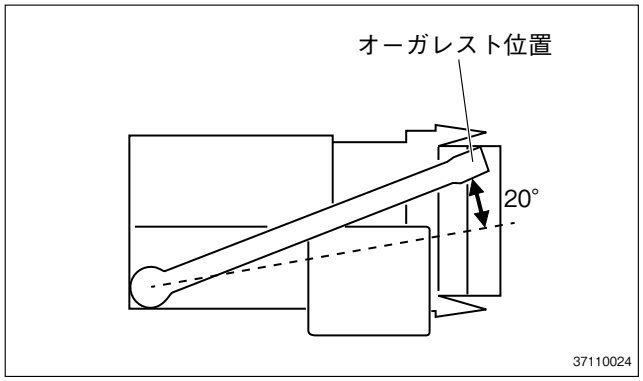
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。



取扱いのポイント

●自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあると作動できません。



●自動旋回は，排出オーガがオーガレスト位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを外してから行なってください。

●スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

●オーガレスト位置が格納のときは，リールが所定高さより上がっていて，しかもヘッダ部も所定高さより上がっていると自動収納できません。リールおよび，ヘッダ部高さのどちらか一方が下がっていることを確認してから再度，自動収納操作を行なってください。

❷　ヒューズ

取扱い方は，88～91ページを参照します。

5. 送じん量自動調節

・送じん量は《**4**》位置で出荷しています。送じん量調節は，ロータカバー内のワラの量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，ロータカバー内の負荷を軽減する機構です。

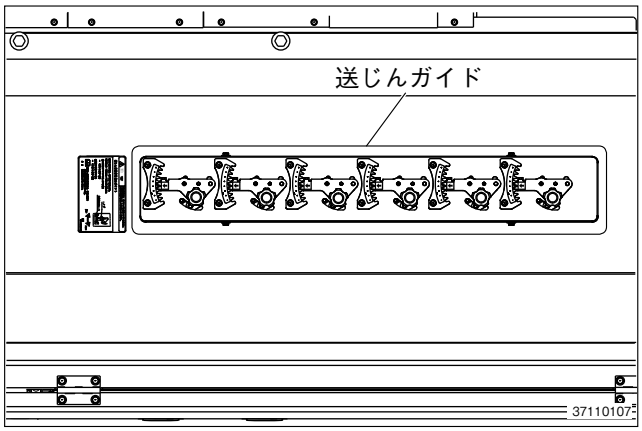
調節のしかた

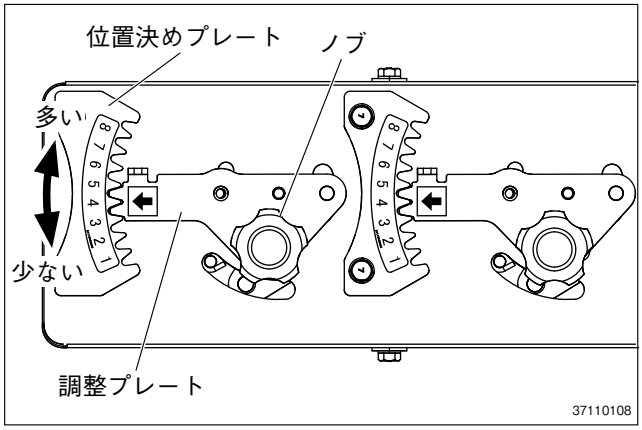
作業状態により，下記の場合は，調整プレート位置を調整します。

・ロータ負荷が高く，能率が悪いとき→《**多い**》方向へ調節します。

・スレッシングロスが多いとき→《**少ない**》方向へ調節します。

・作物の条件，種類に応じたガイド初期位置の設定範囲については，「**作物別調整表**」（**Aページ**）に基づいてセットしてください。

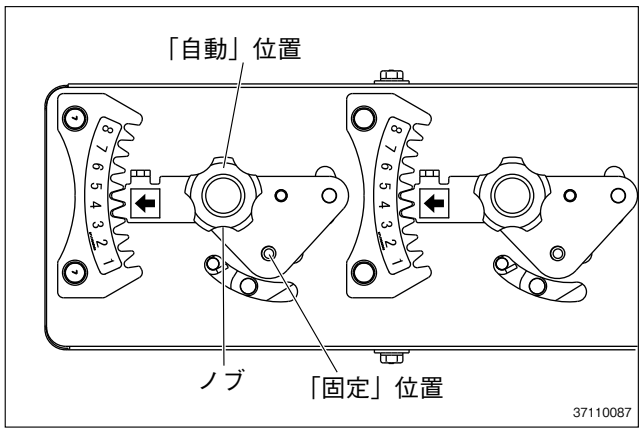




「自動」「固定」の切替のしかた

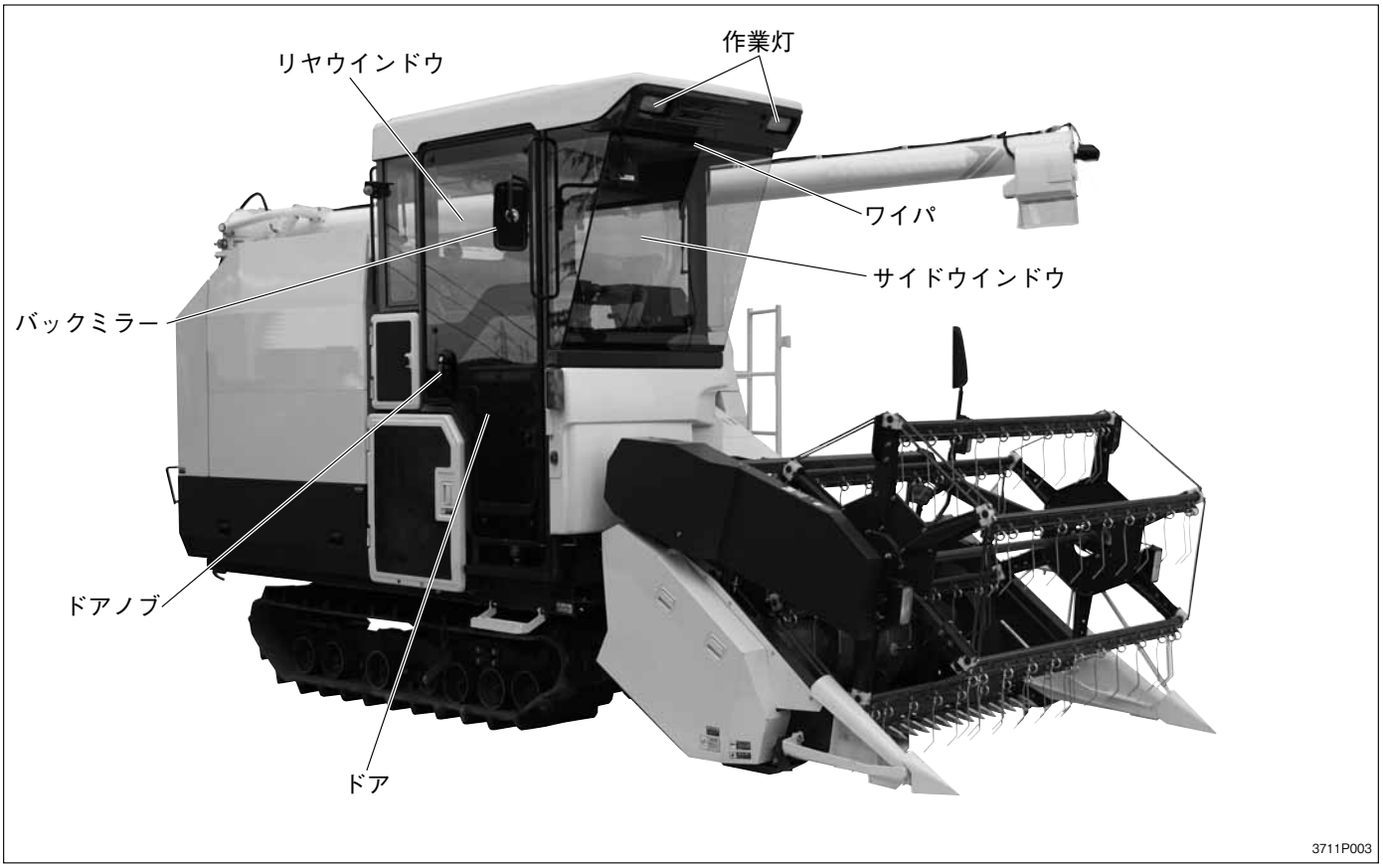
・ノブボルトの締付け位置を変えることにより，送じんガイドを「**固定**」あるいは「**自動**」に切替えることができます。作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。

固定ノブボルトを「**自動**」から「**固定**」位置に取付けてください。

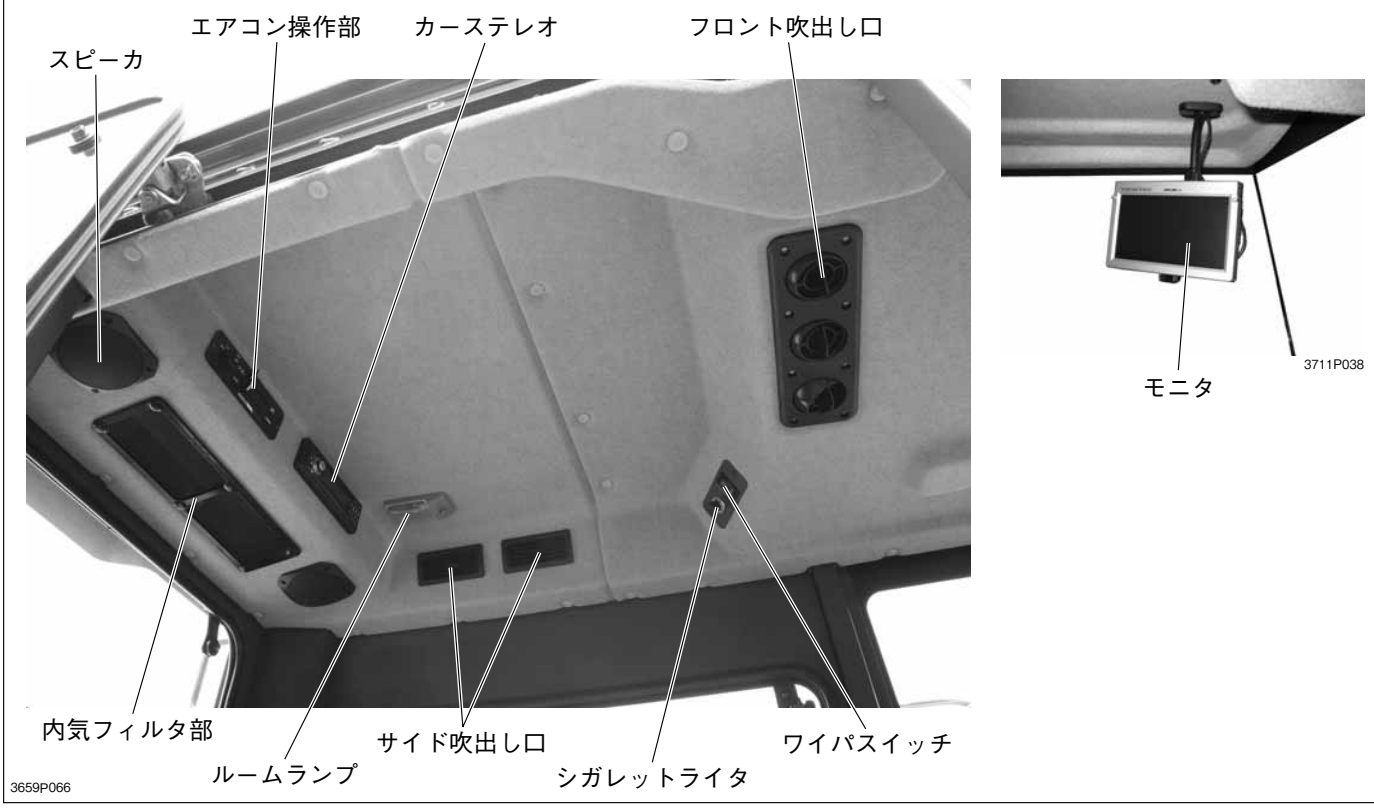


キャビンについて［キャビン仕様］

1．各部の名称

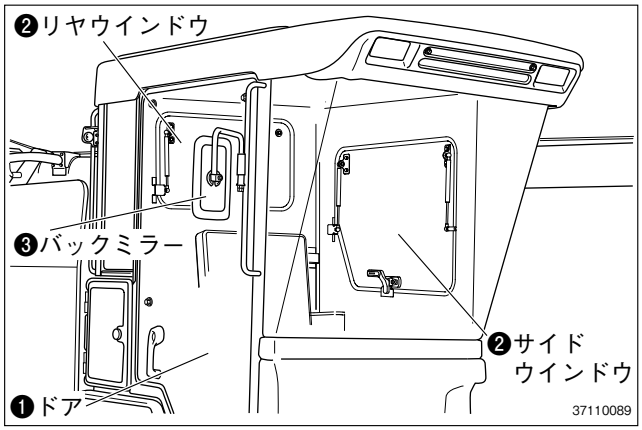


［キャビン内部］



2. 各部の取扱い

1. ドア・ウインドウの開閉のしかた



❶ ドア

ドアはスライドドアになっております。オープン時の不意のスライドを防止するために，オープン側にもロック機構が設けてあります。以下の取扱いをお読みになってご使用ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
◆走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

⚠注意

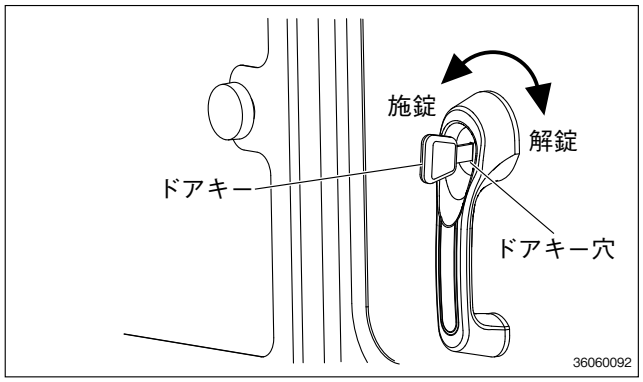
◆ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

●ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠ると，ドアの破損などを引き起こすおそれがあります。

⑴ ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠になります。



⑵ 車外から開閉のしかた

ドアハンドルのボタンを押すと，ロックが外れます。

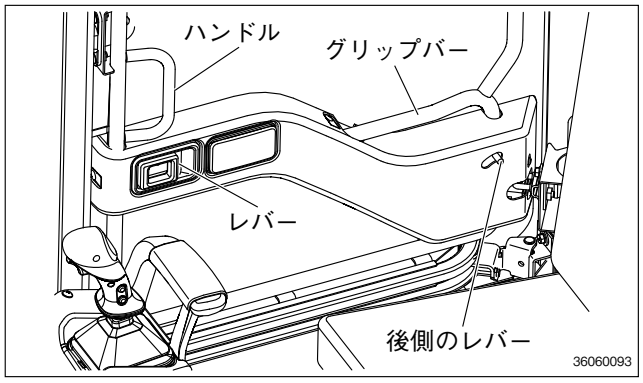
ハンドルを握ったままドアが開く又は閉まる方向へスライドさせてください。

・開けるときはドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときは機体前側へスライドさせ，ハンドルを握ったまま押し込んでください。

⑶ 車内から開閉のしかた

内側のドアレバーを引くとロックが外れます。ハンドルを握ってドアが開く又は閉まる方向へスライドさせてください。ドア後側のレバーでもロックを外すことができます。

・開けるときはハンドルを握ってドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときはハンドルを握って機体前側にスライドさせてください。閉まりが悪いときは，グリップバーを握って機体内側へしっかり引いてください。



取扱いのポイント

- **スライド途中のドアはローラがレールに乗っているだけの不安定な状態にあります。スライドドアはいっぱいに開けるかいっぱいに閉めるかの状態で使用してください。**
- **グレンタンクの開閉はスライドドアを閉めた状態で行ってください。ガラスが破損するおそれがあります。**
- **スライドドアの開閉は，グレンタンクが閉まった状態か，又は，いっぱいに開いた状態で行ってください。**

❷ サイドウインドウ，リヤウインドウ

ウインドウは跳ね上げ式です。

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆サイドウインドウを開閉するときは，必ずロータカバーを閉じた状態で行ってください。また，ロータカバーの開閉をするときは，必ずサイドウインドウが閉じた状態で行ってください。怠るとウインドウの破損，傷害事故を引き起こすおそれがあります。
>
> ◆ウインドウを閉めるときは，手などをはさまないよう注意してください。怠ると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

・開けかた

⑴ レバーを右に回します。

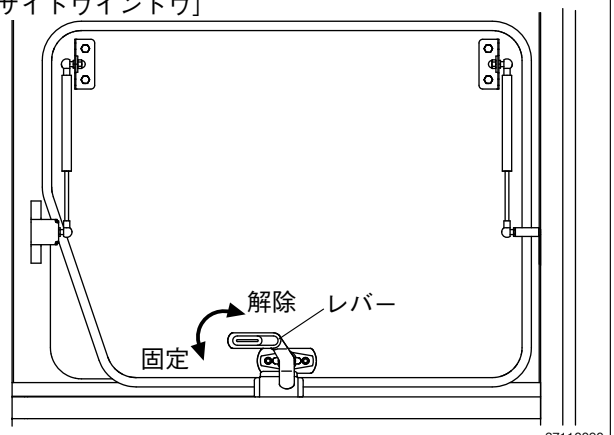
⑵ レバーを握ったまま押し出して，サイドウインドウ，リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

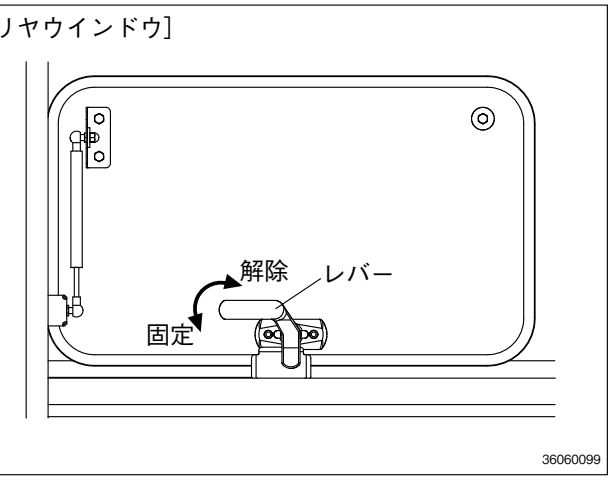
⑴ レバーを手前に引きサイドウインドウ，リヤウインドウを閉じます。

⑵ レバー手前に引きながら左に回し，確実に固定します。

［サイドウインドウ］



［リヤウインドウ］



取扱いのポイント

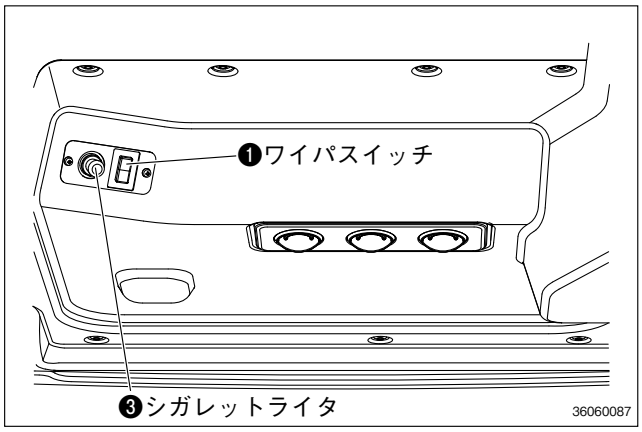
- **レバーをロック位置のままウインドウを閉めると，レバー等の破損のおそれがあります。**
- **サイドウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとサイドウインドウの破損などを引き起こすおそれがあります。**

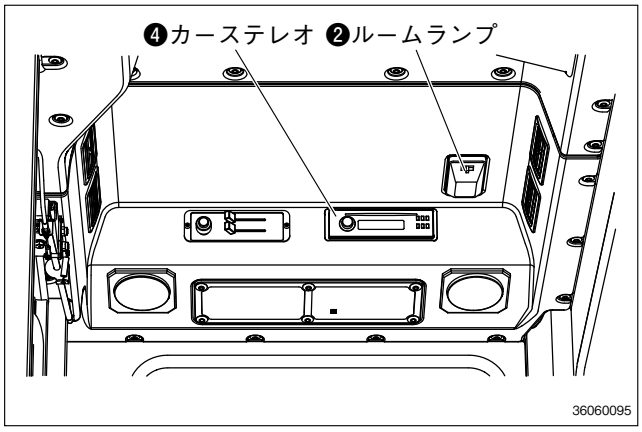
❸ バックミラー

バックミラーは上下，左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

狭い所へコンバインを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

2．スイッチ類の取扱い

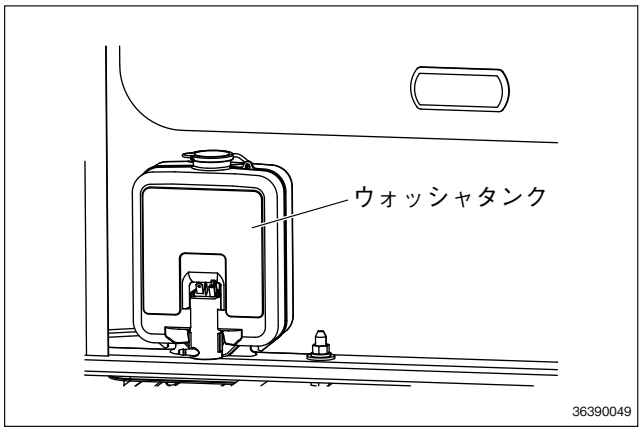




❶ ワイパスイッチ

スタータスイッチを《**入**》にして，ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「**入**」にするとワイパが作動し，さらに押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャタンクはキャビンの後側にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。

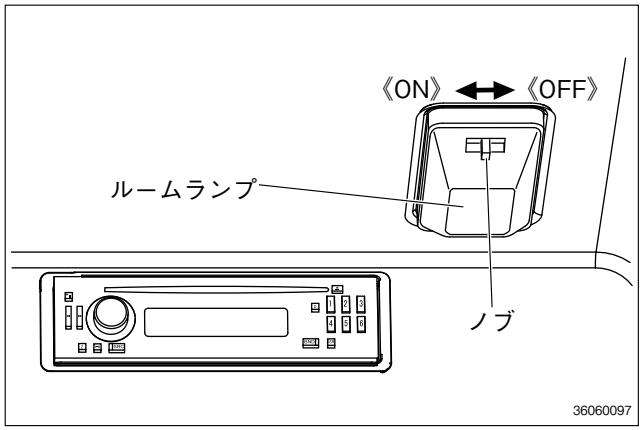


❷ ルームランプ

ノブを《**ON**》か《**OFF**》側に合わせてください。

《**ON**》……ランプが点灯します。

《**OFF**》……ランプが消灯します。

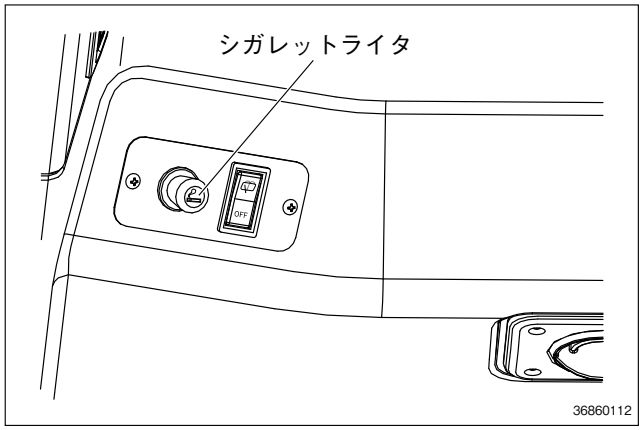


取扱いのポイント

●エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がる恐れがあります。

❸ シガレットライタ

スタータスイッチ《**ACC**》又は《**入**》状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり，ノブが元の位置に戻ります。その後，引抜いて使用します。



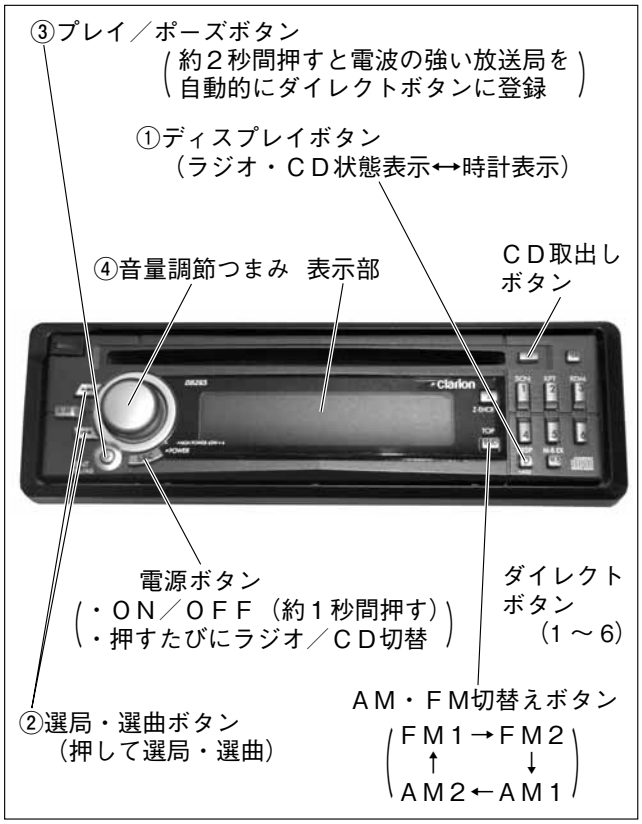
❹ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

時刻合わせ

1．スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。
2．①ボタンを約１秒間押す（「SCRN SVR」の表示になる）
3．②ボタンを押して表示部が「CLOCK〈E〉」になるようにする。
4．③ボタンを押すと設定モードになる。（設定直前の時刻を表示）
5．②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。（点滅部が調整できるところ）
6．④つまみで時刻（数字）を合わせる。
7．③ボタンを押して設定完了。
8．①ボタンを押して（設定）時刻表示。

※バッテリを外すと時刻もリセットされます。



3．モニタの取扱い

⚠警告

◆後進するときは，モニタ（液晶パネル画像）確認以外にも，必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行ってください。CCDカメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。

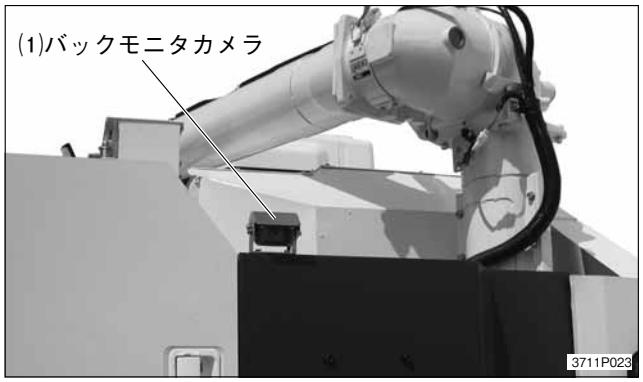
◆CCDカメラからモニタに写し出される広角の画像に慣れるまでは，ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり，人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。

◆機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

⚠注意

◆他の目的で使用したり，他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。

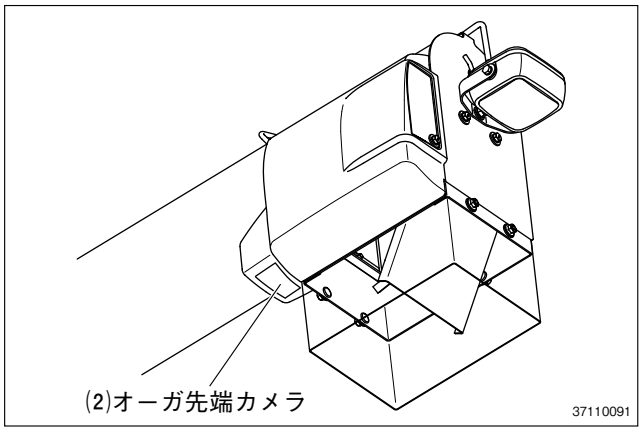
❶ カメラの取付位置



(1) バックモニタカメラ

機体後方に装着したＣＣＤカメラで，作業中でも運転席から機体後方を確認できます。座ったままで確認ができ，旋回時や格納時に便利です。

暗い納屋でもカラーで明るく映ります。



(2) **オーガ先端カメラ［ディーラーオプション］**

オーガ先端に装着したＣＣＤカメラで刈取り作業中は左前方が確認できます。

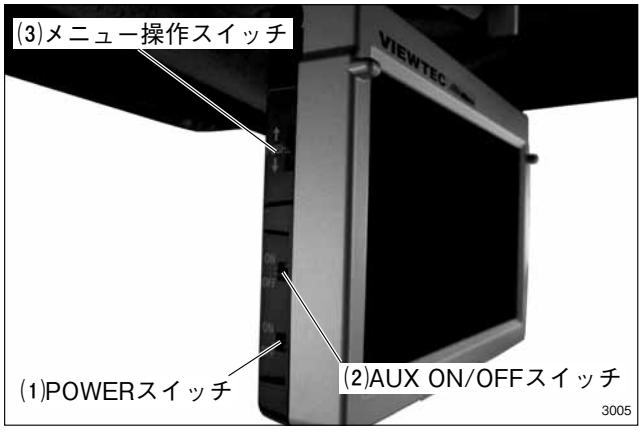
排出時は，コンテナの位置や排出状況を確認しながら作業ができ，一人作業のときも大切なこく物を確実にコンテナに収納できます。

❷ モニタの使用方法

モニタは機体後進時，機体後方周辺の安全確認を行うための補助装置です。

下記作業などを行う場合の確認作業に活用してください。

・移動走行時，収穫作業時，納屋格納時などの後方確認作業。
・ほ場の出入り，枕地での切返し，あぜ際などでの機体位置の確認作業。
・排ワラ処理の切替え確認や排ワラ処理状態の確認作業。



(1) **POWERスイッチ**

「ON」にすると電源が入り画面が映ります。

(2) **AUX　ON/OFFスイッチ**

このスイッチは「OFF」でご使用ください。

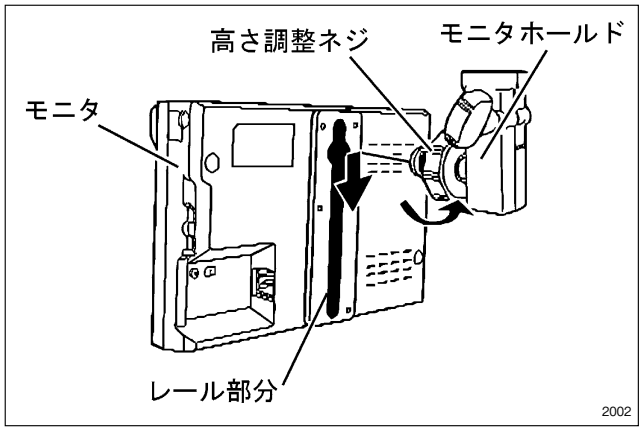
(3) **メニュー操作スイッチ**

電源が入っている状態で押すと，メニュー操作画面に変わります。

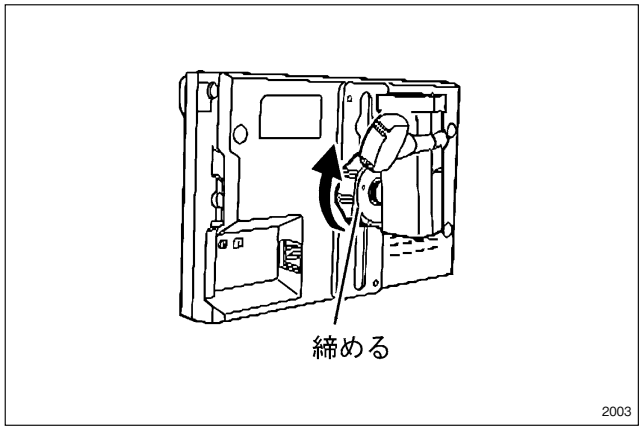
❸ モニタの取付方法

(1) **モニタホールドをモニタに取付ける。**

1) モニタホールドの高さ調整ネジをゆるめ，モニタ背面のレール部分に，モニタホールドをスライドさせて取付けます。

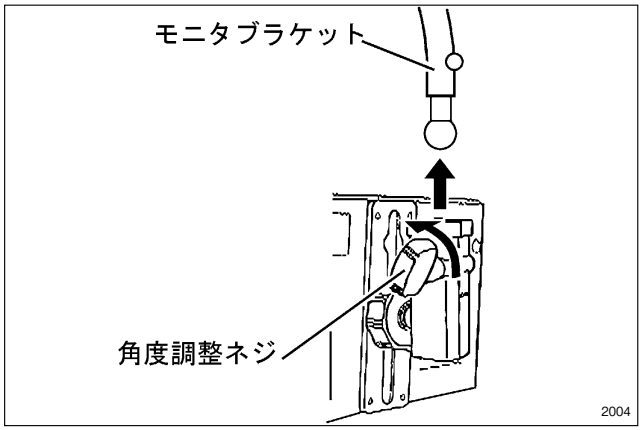


2) 高さ調整ネジを締めて固定します。



⑵ モニタホールドをモニタブラケットに取付ける。

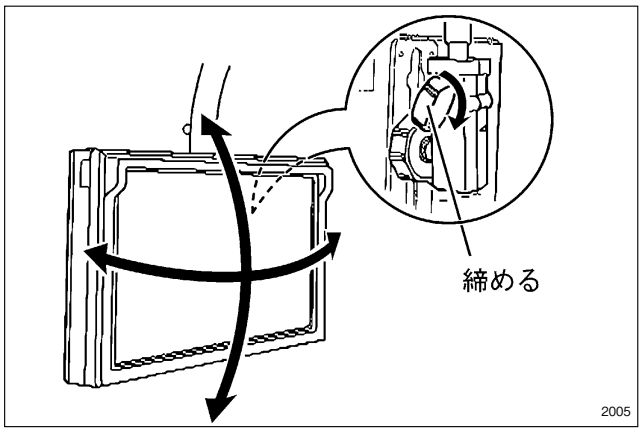
1) モニタホールドの角度調整ネジをゆるめて，モニタブラケットをはめ込みます。



2) モニタの角度を調整します。

・必要であれば，高さ調整ネジで，モニタの高さも調整してください。

3) 角度調整ネジを締めて固定します。



4. 室内装備の取扱い

❶ 灰皿

⚠警告 傷害事故防止のために

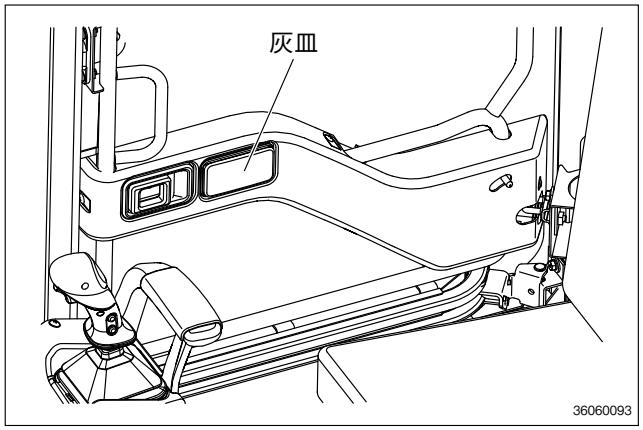
◆タバコ，マッチの火は，完全に消してから灰皿に入れてください。

◆使用後，開けたままにしておくと他の吸いがらに火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。

◆灰皿には，吸いがらをためすぎたり，紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

ドア内側に取付けてあります。

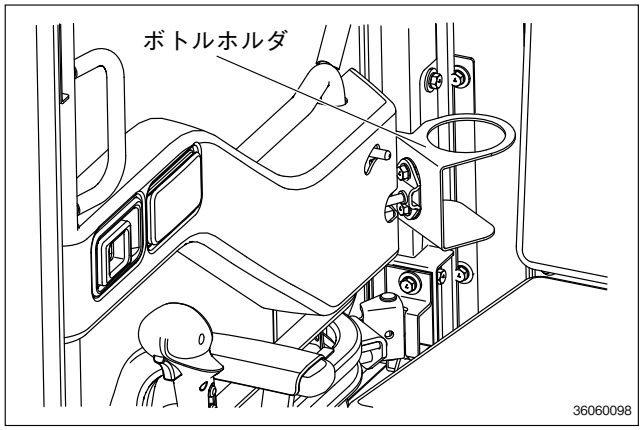
使用する時は蓋を開けて使用します。



❷ ボトルホルダ

右側のドアフレーム後側にあります。

穴部にキャップのあるボトル等を入れて使用します。



5. エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆万一，エアコンが故障した場合はスイッチをOFFにして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので，配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると，ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充，その他の作業には特殊な工具と計器類が必要ですので，必ず整備の整った指定サービス工場で行ってください。

◆ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆次のような異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

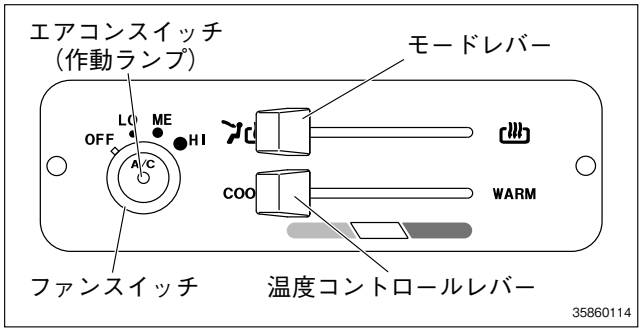
※ウォータホースの傷つき，ひびわれ，ふくらみ。

※ウォータホースジョイント部の水漏れ。

※ウォータホース保護チューブ及び縁ゴムの外れ，破損。

※本体取付ボルトの緩み，ブラケットの破損。

❶ 操作部



(1) **エアコンスイッチ**



このスイッチを押してエアコンを「**入**」・「**切**」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2) **モードレバー**



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



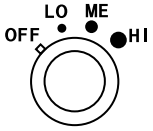
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) **温度コントロールレバー**

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

(4) **ファンスイッチ**

風量を調節します。



《OFF》：ファンが作動しません
《LO》　：微風
《ME》　：中間風
《HI》　：強風

❷ 冷房・除湿暖房

(1) モードレバーをにします。

(2) エアコンスイッチを押し「**入**」にします。

(3) ファンスイッチ（**LO・ME・HI**）を作動させます。

(4) 温度コントロールレバーを**COOL**又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

❸ 暖房

(1) モードレバーを又はにします。

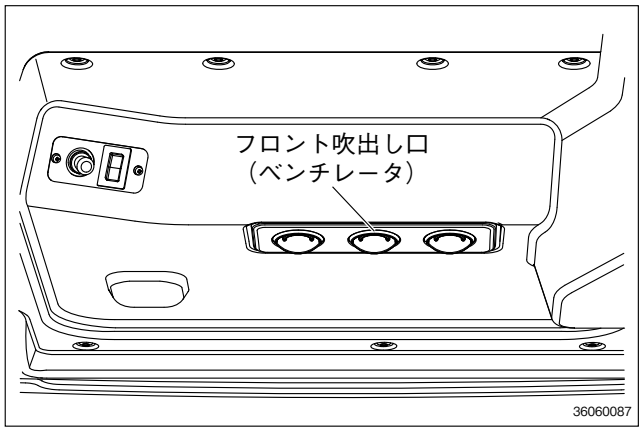
(2) ファンスイッチ（**LO・ME・HI**）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

取扱いのポイント

- **ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。**
- **湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，温度コントロールレバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して「入」位置にして，除湿を行ってください。**

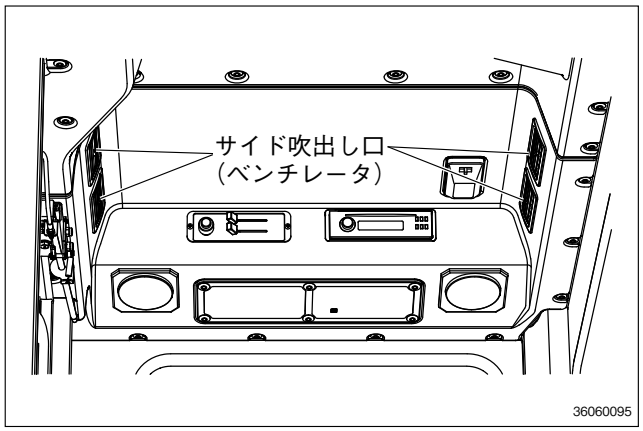
●エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。冷風は身体の１箇所に集中して当てるのはさけてください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
●長時間作業される時，またはタバコを吸われている時は，時々，室内の換気をしてください。
●冷房し始めた時，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
●連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。
●エンジン冷却水の水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
●外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
●また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
●エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
●エアコンは，シーズンオフでも１ケ月に１回，10～15分間運転してください。
●エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

❹ フロント吹出し口（ベンチレータ）



⑴ 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
⑵ サイド吹出し口（ベンチレータ）からの風量を増したいときは，［閉］にしてください。

❺ サイドベンチレータ

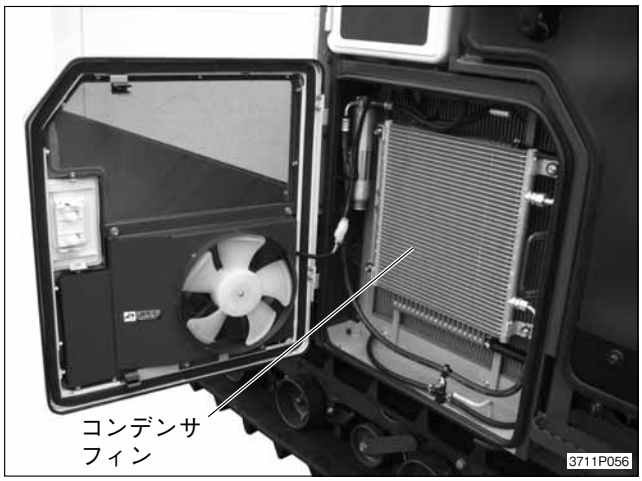


⑴ 調整つまみで任意の方向に向けてください。

❻ コンデンサフィンの掃除

⑴ エンジンカバーを開きます。

⑵ コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。（掃除については85ページを参照します。）



6．格納のしかた

❶ クーラ・ワイパ・ルームランプ・作業灯などの電装品のスイッチは，「OFF」または「切」位置にしてから格納します。

❷ コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル，ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

手入れのしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品等を破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処分について
　廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買い上げ先」，または産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理
　下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。
　●エンジン本体　●トランスミッション　●ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
　●油圧系統（HST含む）　●電気部品と電気系統　●燃料系統

取扱いのポイント

●分解・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350 (300)	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)				
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)	●(650)	●(750)		●(950)	●(1050)				74～75
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●(550)		●(750)		●(950)					☆75
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○														●			☆76～77
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●		●(750)		●(950)					86
	燃料フィルタ	点検・掃除（水抜き）	○										●		●		●				☆86～87
	燃料フィルタポット部	点検・交換	○	○																	87
	ファンベルト（オルタネータ）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)				☆128
	ファンベルト（ラジエータ）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)				☆128
	ファンベルトクラッチ部ワイヤ	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)				☆128
	コンプレッサベルト（キャビン仕様）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)				☆127
	燃料ホース	点検・交換	○	●（2年ごと）																燃料漏れ点検	☆115
	クーラコンデンサ（キャビン仕様）	点検・掃除	○	○														○			85
	ウインドウォッシャ液（キャビン仕様）	点検・調整・抜取り	○	○																	82

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）															格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150 (200)	250 (300)	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
電装関係	バッテリ液	点検	○																インジケータの色確認	92～94
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○															損傷の場合交換	☆92
	計器，スイッチ類	点検・修理	○	○																☆6～15
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○								●					●				☆78～80
	油圧ホース	点検・交換	○				●									●			油もれ点検	☆115
	油圧オイルフィルタ	交換									●					●				☆78～80
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●				●					●				☆78～80
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除					●	○		○		○ (550)		○ (750)						☆88
	ブレーキシュー	点検・交換	●（400時間または２年ごとで早い方）																	☆－
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																	☆122
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○							●				●			●			☆77～78
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆127
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○ (550)	○ (650)	○ (750)	○ (850)	○ (950)	○ (1050)			☆122
	クローラ	点検・調整	○	○																☆134
	水平リンク軸受部	グリスアップ	○																	82
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○																☆－
	エアコンガス	点検	○																	☆－
	走行ＨＳＴトラニオン軸部	グリスアップ	○														●			82
ヘッダ部	ヘッダ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●		○		●			●		1000は1050時間	☆123
	フィーダチェン	点検・調整・交換	○	○	○		○	○ (200)	○ (300)	●	○ (400)	○	○	●	○	○	●		100時間毎点検	☆84，118
	リール変速入力チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆124
	リール駆動カウンタチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆83
	リール駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆125
	リール変速ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆129
	刈刃の調節	点検・調整・交換	○	○	○				●			●		● (750)			●			☆116
	刈刃駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)		1000は1050時間	☆130
	刈刃駆動ケースオイル	点検・交換	○							●				●			● (1050)			☆81
	プラットホームオーガ駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆124
	ヘッダ駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆125
	フィーダハウス回動支点軸受	グリスアップ	○	○			○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			82
	フィーダハウススラット	点検・交換										○					○		変形したら	☆－
脱こく部	ツース	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		先端5㎜摩耗で交換※	☆－
	受網	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		受網線径1/2摩耗で交換※	☆－
	排じん羽根	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		先端5㎜摩耗で交換※	☆－
	ロータギヤケースオイル	点検・交換	○			●			●			●		● (750)			●			☆80
	作業機カウンタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●		○		●			●			☆123
	脱こく駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆130
	脱こくカウンタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆130
	ロータ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆131
	トウミ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆131
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆132
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆132
	１番上方横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆131
	１番バケットコンベアチェン	点検・交換	○	○		○	○	○ (200)	○ (300)	●	○	○	○	●	○	○	● (1050)			☆126
	１番バケット	点検・交換	○	○					●			●		● (750)			●			☆112
	２番スラットコンベアチェン	点検・交換	○	○		○	○	○ (200)	○ (300)	●	○	○	○	●	○	○	● (1050)			☆126
	２番スラット	点検・交換	○	○					●			●		● (750)			●			☆112
	ロータ軸受	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			83
グレン部	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																	81
	グレンタンク横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆133
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆132
	オーガ旋回部	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			83
ワラ処理部	スプレッダ駆動ベルト［S仕様］	点検・調整・交換	○	○						●				●			● (1050)			☆133
	回転刃，固定刃［S仕様］	点検・交換	○					● (200)			● (400)		●		●		●			☆121
	スプレッダ回転軸受［S仕様］	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			83

参照ページに☆印のある整備項目の交換・修理については**「お買いあげ先」**で行なってください。

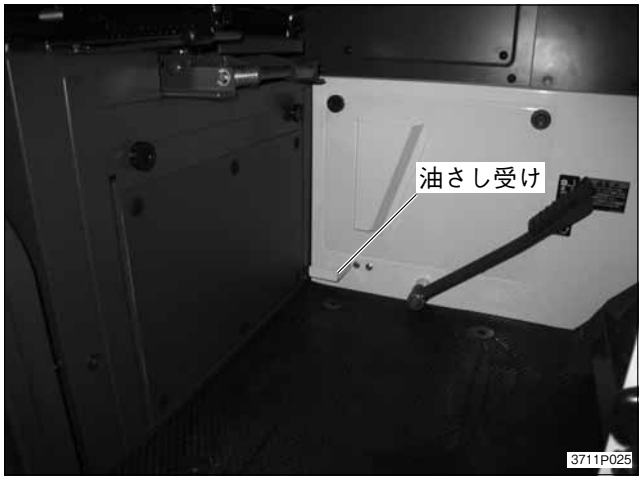
※摩耗進行の度合いは収穫作物により異なります。

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は,「**運転まえの点検表**」(24～25ページ) および「**定期点検整備表**」(70～71ページ) に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを使用すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **次表の容量は工場出荷時の数値です。**
  交換時は残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
  但し検油栓のない箇所は全量交換してください。
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。**
- **交換したオイルを廃却するときは,「お買いあげ先」又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。**



危険 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料もれがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じてください。

注意

◆使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
◆刈刃，チェン等に注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。

「給油・注油・給水表」

No.	箇所	種類	種類 API サービス分類	種類 API 粘度番号	容量 (L)	備考
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	60	JIS２号（－7.5℃まで） JIS３号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CF級（又はCF-4,CH-4級）	10W－30	8.5	
③	ラジエータ（補助タンク1.0Ｌ含む）	冷却水(不凍液40～45%含む)	－	－	キャビン無 11.4 キャビン有 12.9	北海道は，不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	18.5	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL－4以上	10W－30	19	
⑥	刈刃駆動ケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.7	
⑦	ロータギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	2.2	
⑧	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.53	
⑨	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	－	－	1.0	ウォッシャ液0.35Ｌ，水0.65Ｌ［キャビン仕様］
⑩	エアコンガス	R－134a	－	－	900g	［キャビン仕様］
⑪	刈刃	食品機械用潤滑油	－	－	－	NX127
⑫	フィーダチェン					
⑬	１番バケットコンベアチェン ２番スラットコンベアチェン					
⑭	水平リンク	グリース	－	－	－	
⑮	チョッパ軸					
⑯	ローター軸					
⑰	ヘッダ回転支点					
⑱	走行HSTトラニオン軸					

指定オイル

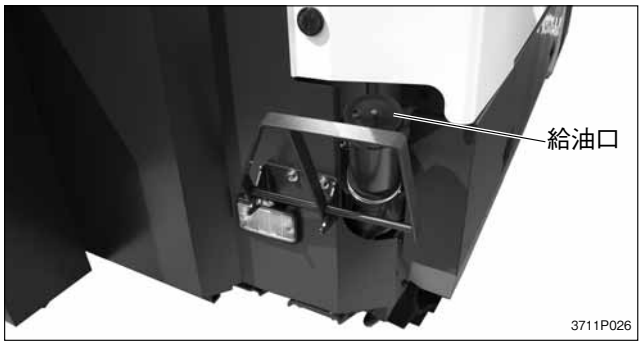
- ディーゼルエンジンオイル…… (純正油) ディーゼルエンジン用オイルAPI・CF級または，CI－4 SAE・10W－30
- 油圧作動油…… (純正油) または，使用オイル表（156ページ）の指定オイル
- ギヤオイル…… (純正油) または，使用オイル表（156ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

●燃料タンク以外は，工場出荷時の容量です。
交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
但し，レベルゲージまたは検油栓のない箇所は，全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。

●使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（156ページ）を参照してください。

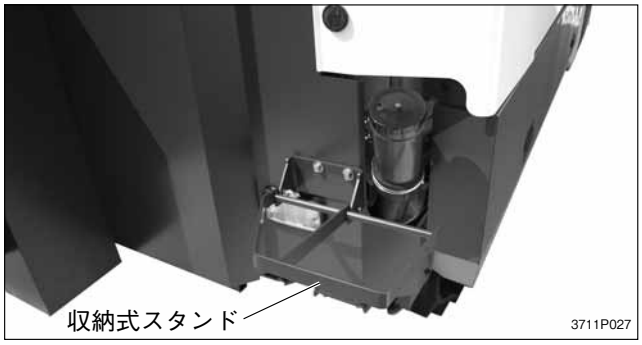
1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。
　・燃料……ディーゼル軽油
　　JIS２号（－7.5℃まで）
　　JIS３号（－20℃まで）
　・タンク容量……60Ｌ

取扱いのポイント

●給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。給油後，スタンドを収納してください。



●燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。
燃料タンク給油口のフィルタを通して，給油してください。

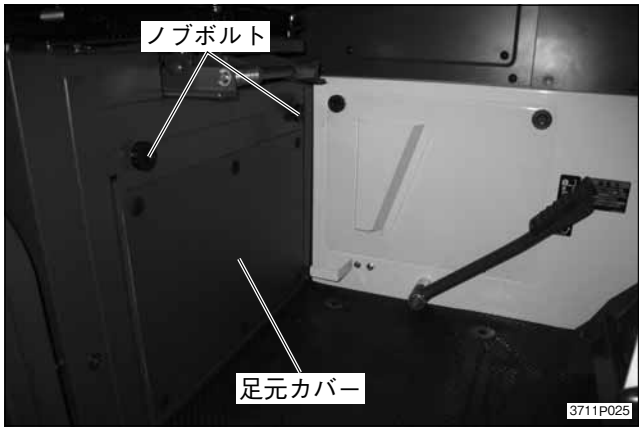
●運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行なってください。
（87～88ページ参照）

●燃料は，雨水などがかからない場所に保管してください。

2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

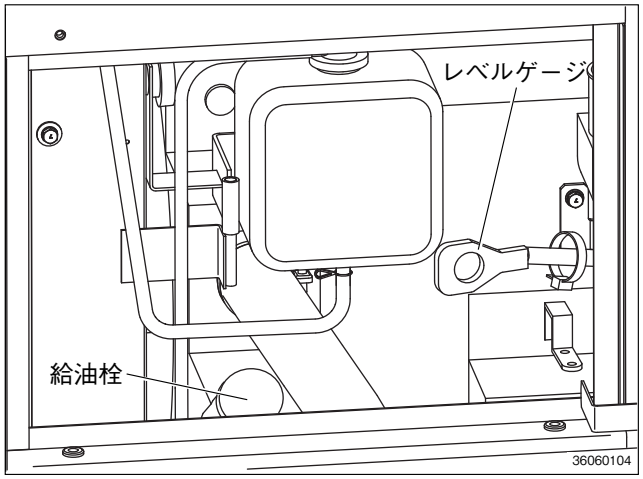
❶　エンジンオイルの点検

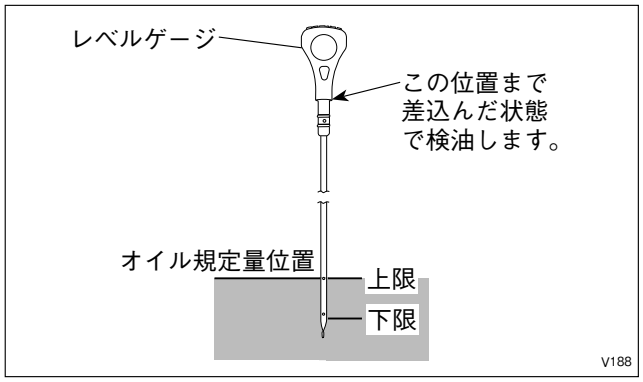
⑴　足元カバーのノブボルト（２個）を外して，足元カバーを外します。



⑵　レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。

⑶　作業後に足元カバーを閉じてください。





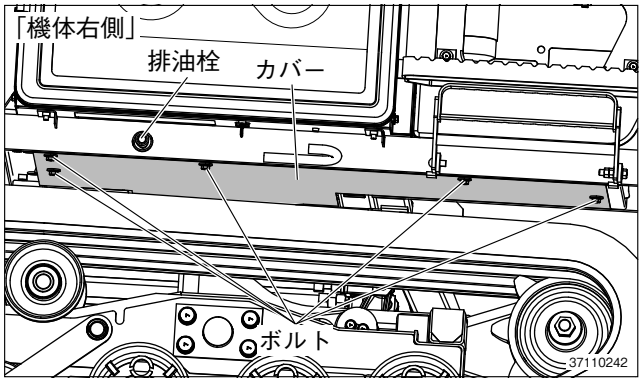
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

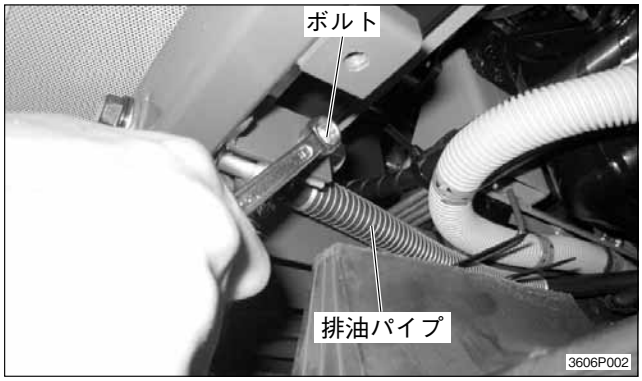
❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの排油栓をゆるめます。

(2) カバー取付ボルトを外しカバーを取外します。



(3) 排油栓取付ボルトを外し，排油パイプを取外します。



(4) 排油栓を取外し，オイルを抜きます。



取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

(5) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，取外しと逆の手順で組付けます。新しい「**純正エンジンオイル**」をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

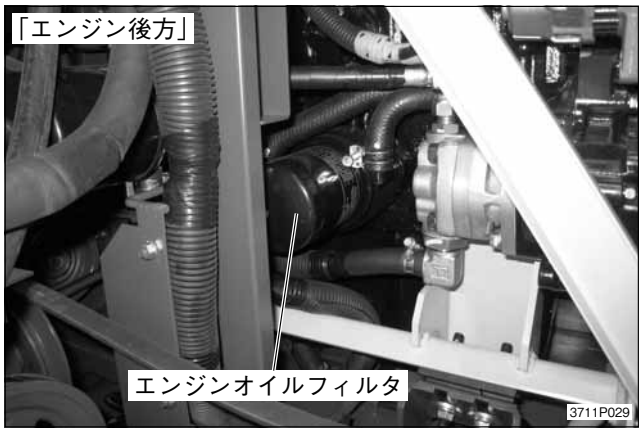
- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CF級または
  CF−4, CH−4級 SAE・10W−30
- **オイル量……8.5 L**

(6) 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。(7ページ参照)

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

グレンタンクを回動し，エンジンカバー(後)を外した位置にあります。



(1) オイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用しています。

(2) オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

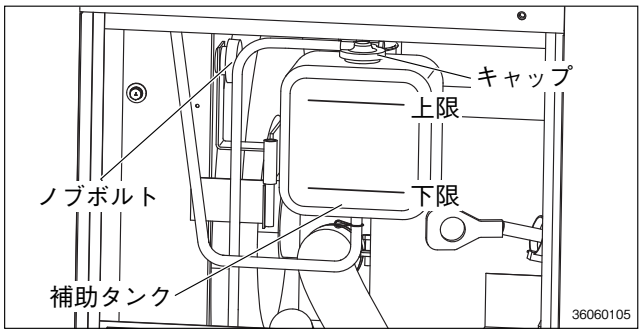
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，足元カバーを外して，補助タンク内の冷却水が「給水レベルの上限と下限の間」にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

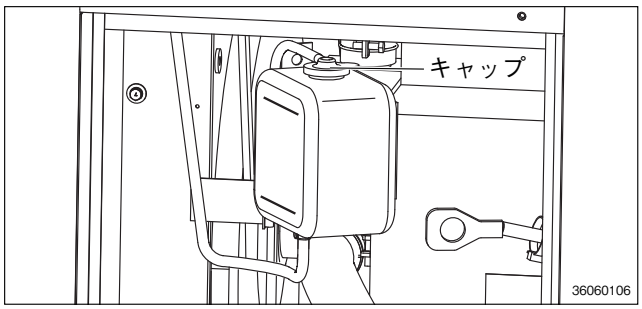
⑴ ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

⑵ ノブボルトをゆるめて補助タンクを手前に回動させます。

・補助タンクの「**上限**」位置まで給水します。

・**冷却水……清水（水道水）**

・給水後補助タンクを元の位置に戻しノブボルトを締付けて，足元カバーを取付けます。



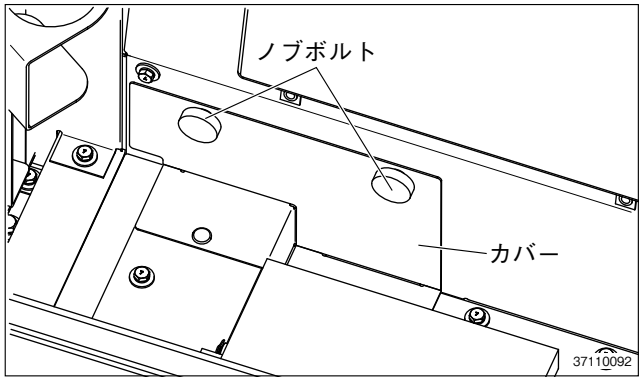
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

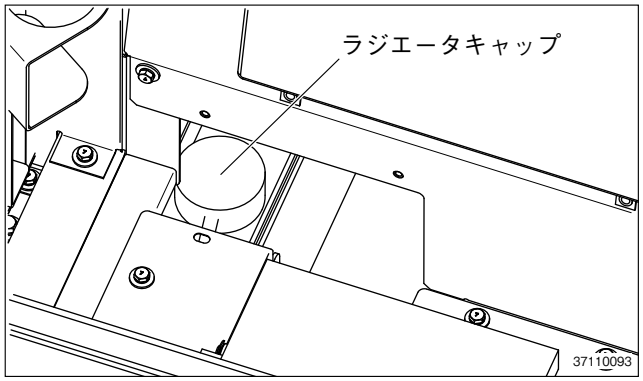
❸ ラジエータ冷却水の交換

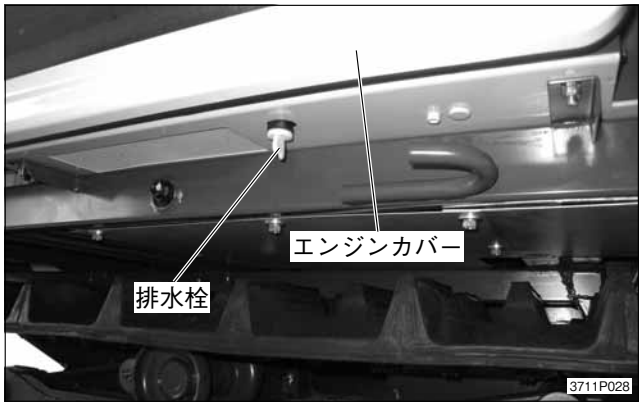
⑴ 座席右側後部のノブボルトを外してカバーを取り外します。

カバーの下にラジエータキャップがあります。



⑵ ラジエータキャップを外し，次にラジエータ下部の排水栓から排水します。





⑶ ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。
・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。
⑷ 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めカバーを取付けます。
⑸ **不凍液の注入**
工場出荷のときは，不凍液「**ロングライフクーラント**」(PT) が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「**不凍液濃度基準**」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

不凍液は「**ロングライフクーラント**」(PT) を使用しますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。
・冷却水量（補助タンク1.0Ｌ含む）
キャビン無…11.4Ｌ
キャビン有…12.9Ｌ

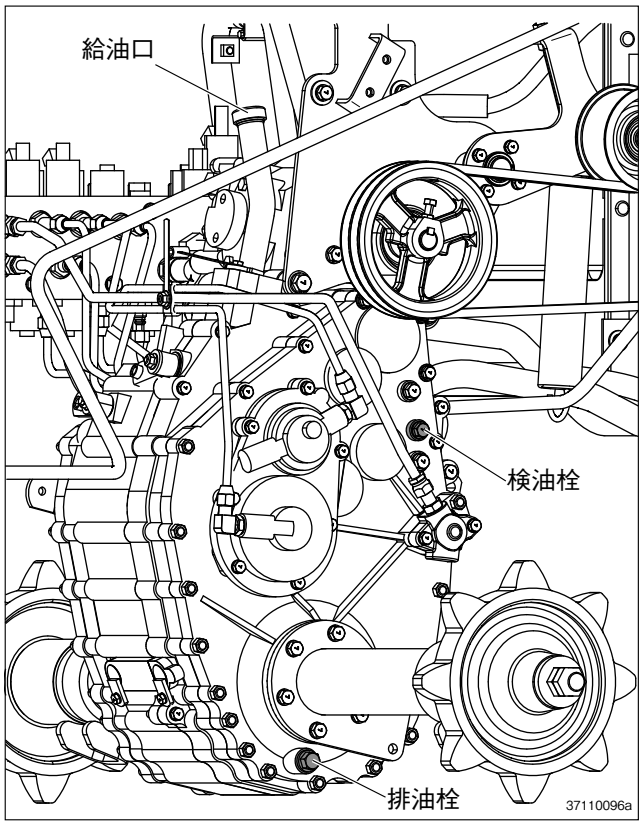
取扱いのポイント

- **冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。**

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換

⚠警告 傷害事故防止のために

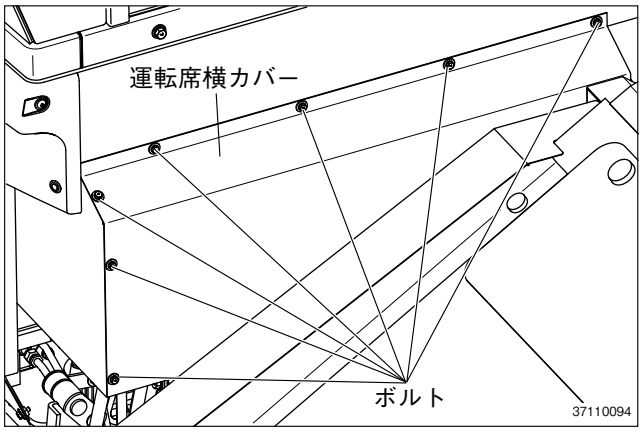
◆点検・交換をするときは，ヘッダ部を最上げにして，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックをかけてください。さらにヘッダ部の下に固定脚などを入れ下降防止をしてください。



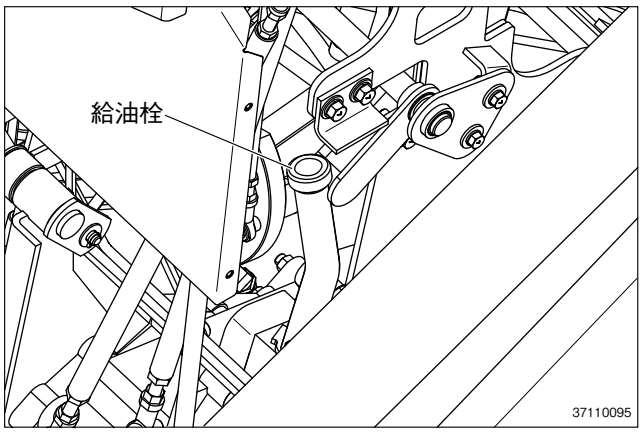
❶ **点検**
・ヘッダ部を最上昇させ固定脚で固定します。
・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。
・固定脚を外してヘッダ部を下げます。

❷ **交換**
オイル交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。
⑴ ヘッダ部を最上昇させ固定脚で固定し，ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。
⑵ 給油するときは，排油栓を締付けます。
⑶ 固定脚を外し，ヘッダ部を最下げ位置にします。

⑷ 運転席横カバーボルト７本を外し，カバーを取外します。



⑸ 検油栓まで給油をし，給油栓を取付けます。
・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90
・オイル量……18.5Ｌ



⑹ 給油後，運転席横カバーを取付けます。

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行)オイルフィルタの交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，ヘッダ部・機体を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，ヘッダ部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

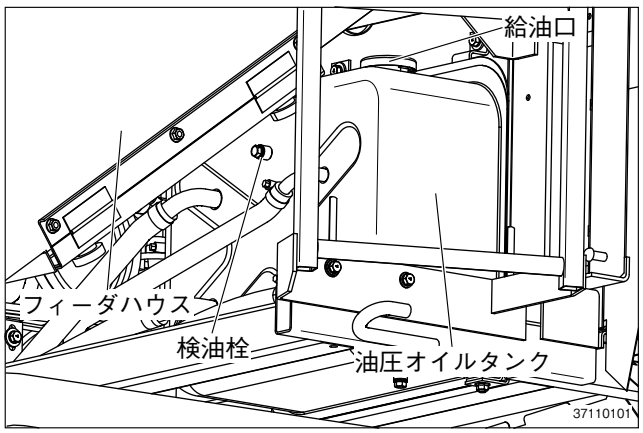
・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。

❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 油圧作動油・油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

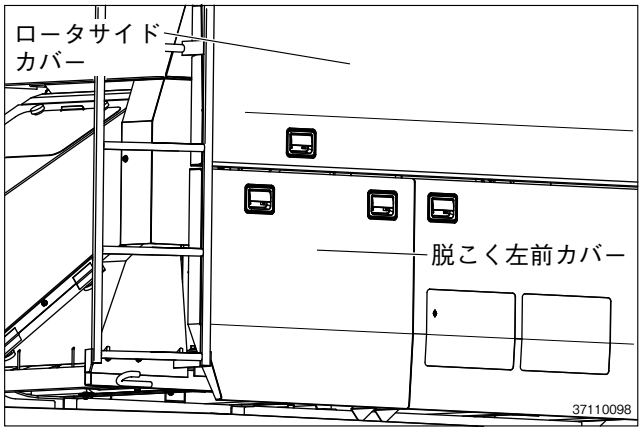
・油圧作動油，フィルタの交換は，「お買いあげ先」に依頼してください。
・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。
・油圧作動油… 純正油 または，使用オイル表（156ページ）の指定オイル
・オイル量……19Ｌ
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



❸ 油圧作動油の抜き取り要領

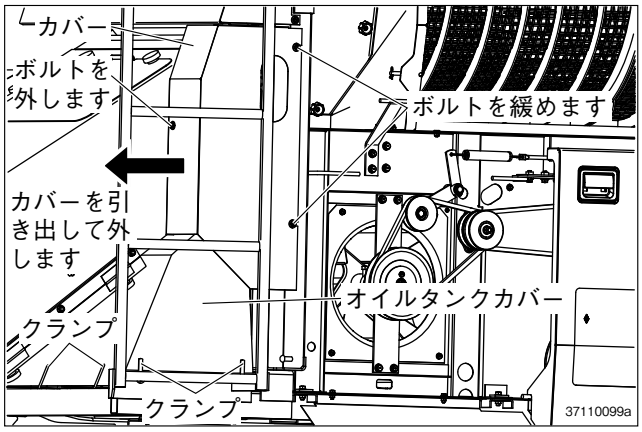
(1) エンジンを始動し，ヘッダ部・機体を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) ロータサイドカバーを開き，脱こく左前カバーを取外します。



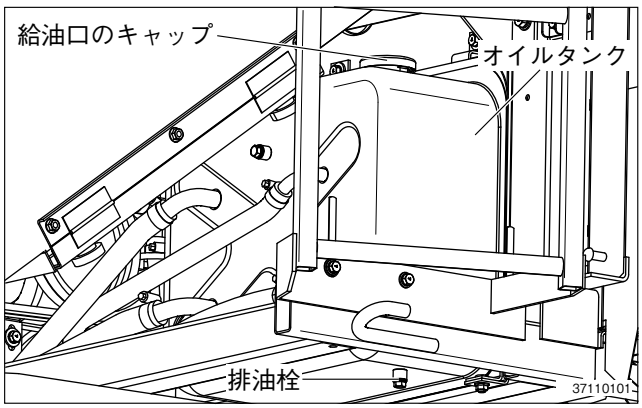
(3) フィーダ横カバーのボルト１本を外し，２本は緩めてカバーを外します。

(4) オイルタンクカバーのクランプ４箇所を外し，給油口が出るようにまくり上げます。



(5) 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

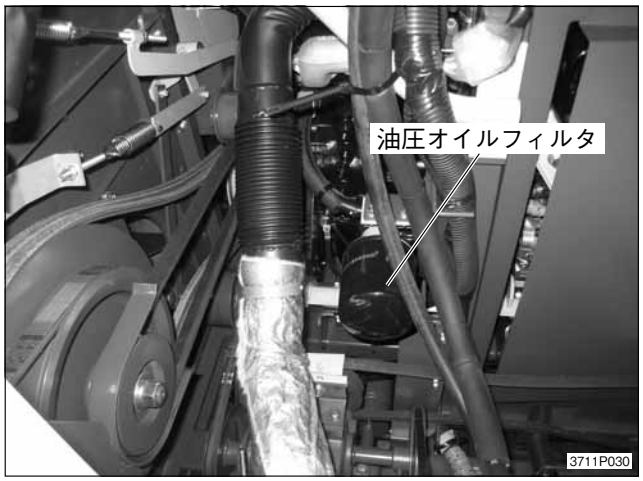
(6) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

(2) グレンタンクを回動します。(108～109ページ参照)



(3) グレンタンクを閉じます。(108～109ページ参照)

❺ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

(1) HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

(2) HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装備してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

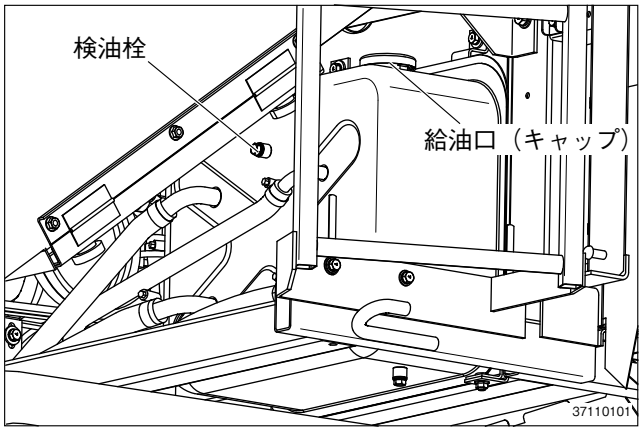
⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ 油圧オイルタンクの給油口より，検油栓からオイルが出るまで給油します。



⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。さらに，油漏れのないことも調べます。

⑶ オイルタンクカバーを元通りに固定し，フィーダ横カバーを取付け，ロータサイドカバーを閉じ，脱こく左前カバーを取付けます。

6．ロータギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

⑴ グレンタンクを回動します。（108～109ページ参照）

⑵ ロータギヤケースカバーを取外します。

⑶ ロータギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

⑷ 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

❷ 交換

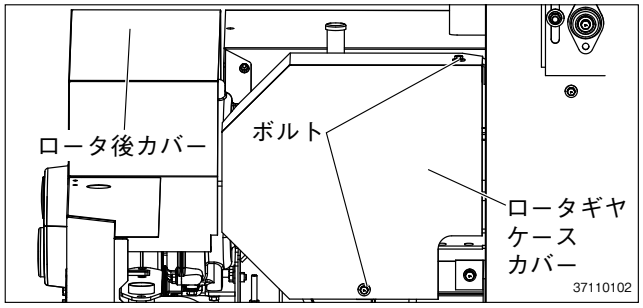
オイルの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

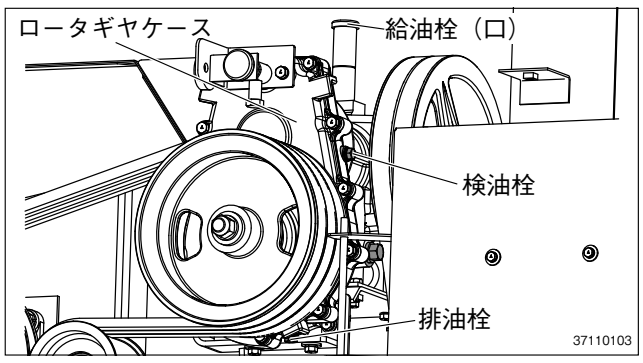
［S仕様］はチョッパスプレッダを回動します。（102～103ページ参照）

⑴ ロータ後カバーを取外します。

⑵ 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。

⑶ 給油栓と検油栓を外し，給油口より給油します。検油栓からオイルが出てきたら，検油栓を締め，給油栓を取付けます。





- **ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90**
- **オイル量……2.2 L**

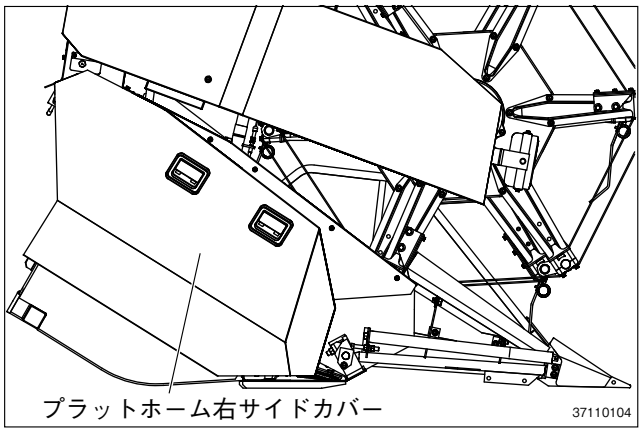
⑷ 作業後，取外したロータ後カバー，ロータギヤケースカバーを取付け，グレンタンクを閉じます。（108～109ページ参照）

7．刈刃駆動ケースのオイル交換

オイルの交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

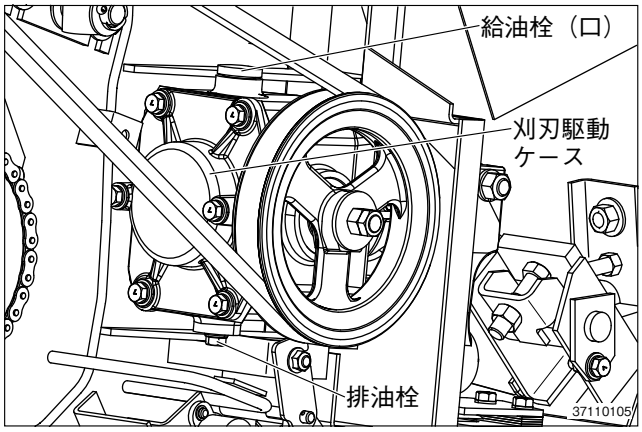
❶ 交換

⑴ プラットホーム右サイドカバーを取外します。



⑵ 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。

⑶ 給油栓を外し，規定量のオイルを入れて，給油栓を取付けます。



・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……0.7 L

⑷ プラットホーム右サイドカバーを取付けます。

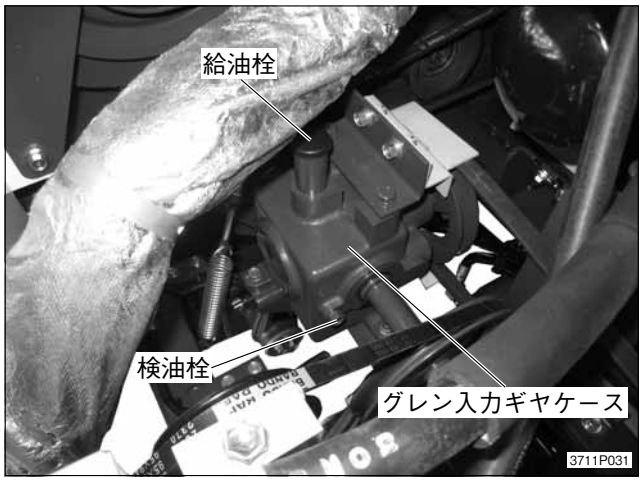
8．グレン入力ギヤケースのオイル点検

❶ 点検・補給

⑴ グレンタンクを回動します。(108～109ページ参照)

⑵ グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

⑶ 不足しているときは給油栓を外して給油口より検油栓から出るまで補給します。



・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……0.53 L

⑷ 作業後グレンタンクを閉じます。(108～109ページ参照)

9. ウォッシャタンク［キャビン仕様］



❶ 点検

キャビン後側にあるウォッシャタンクのウォッシャ液量を点検します。

❷ 給水

⑴ 給水口よりウォッシャ液を給水します。

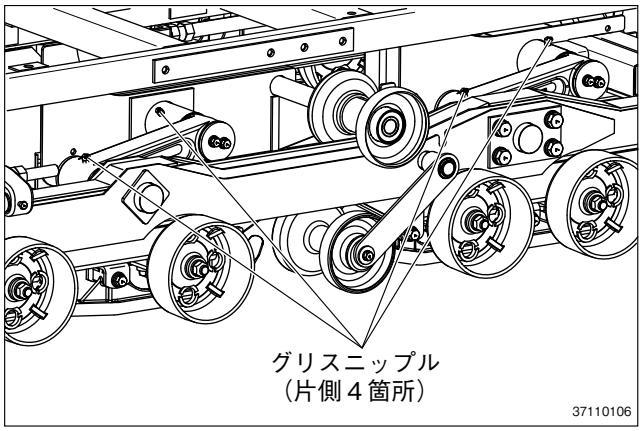
⑵ 給水口よりあふれないようにします。

取扱いのポイント

- **タンクの満量は1.0Lです。**
- **ウォッシャ液の濃度は水0.65Lに対してウォッシャ液0.35Lです。**

10. 給脂箇所

❶ 水平リンク

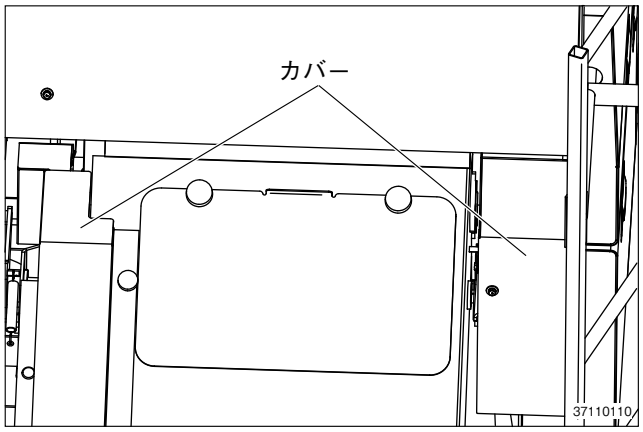


左右８箇所グリスガンで給脂します。

- **リチウムグリス**
- **左右……８箇所**

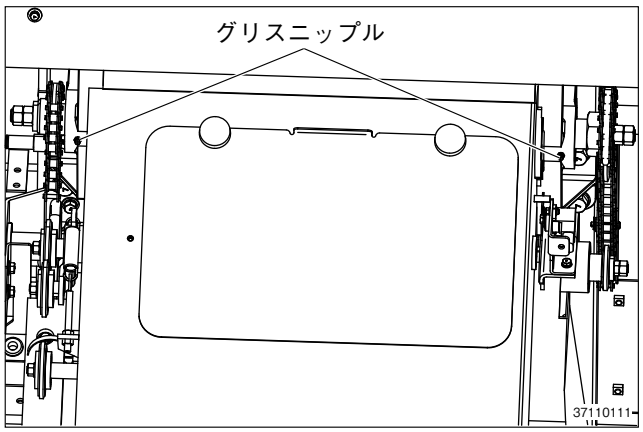
❷ ヘッダ部、フィーダハウス回動支点軸受

⑴ カバーを取外します。



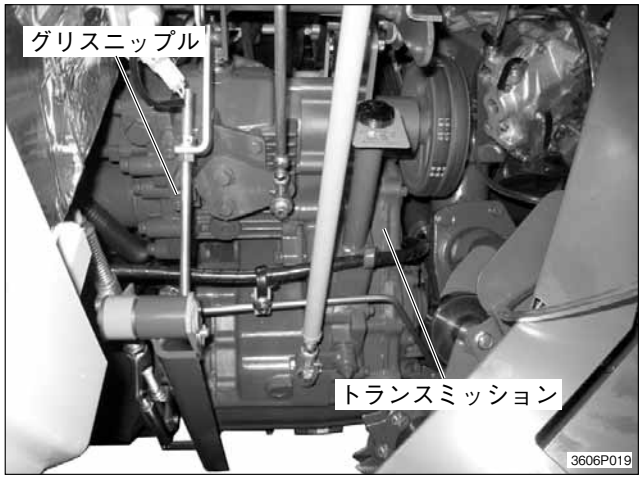
⑵ 両側にグリスニップルがついています。グリスガンで給脂してください。

⑶ 給脂後カバー類を取付けます。



❸ 走行ＨＳＴトラニオン軸部への給脂

⑴ ヘッダ部と運転席部の間から走行ＨＳＴトラニオン軸部についているグリスニップルにグリスガンで給脂してください。

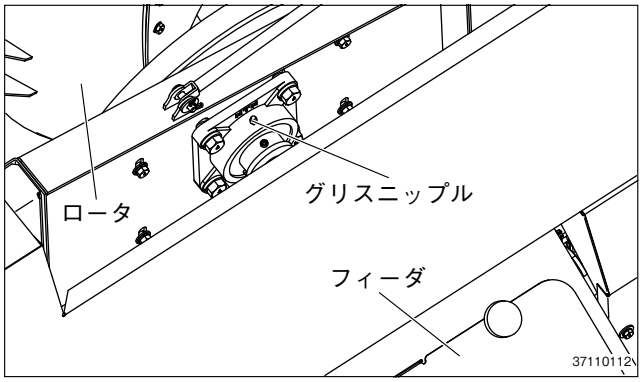


❹ ロータ軸受

(1) ロータカバーを開きます。

(2) グリスニップルがついています。グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後カバーを閉じます。

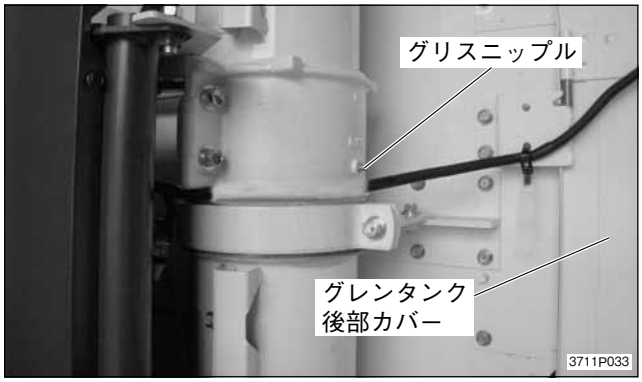


❺ オーガ旋回部への給脂

(1) グレンタンク後部カバーをオープンします。

(2) 鉄パイプにグリスニップルがついています。(表裏２箇所)グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後グレンタンク後部カバーを閉じます。

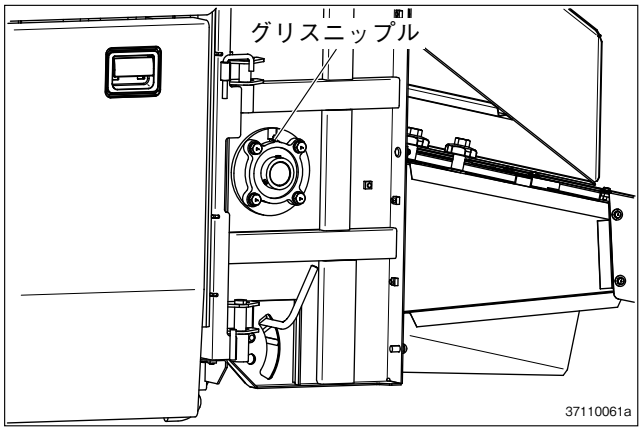


❻ スプレッダ回転軸受［S仕様］

(1) チョッパカバー（左)(右）を取外します。

(2) グリスニップルがついています。左右２箇所グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後チョッパカバー(左)(右)を取付けます。



11．各部の注油

各部の注油は，始業前および機体各部の掃除が終わったあと，刈取面積に応じ適宜行います。注油は「**油差し**」で注油します。

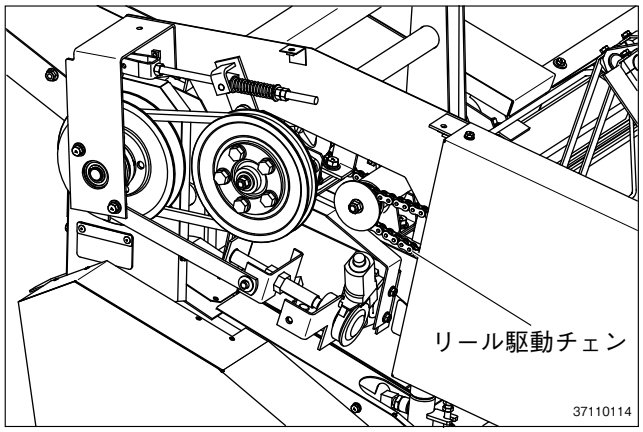
⚠警告

◆平坦な場所に機械を置いてください。
傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。クローラに車止めをかけてください

・リール駆動チェン

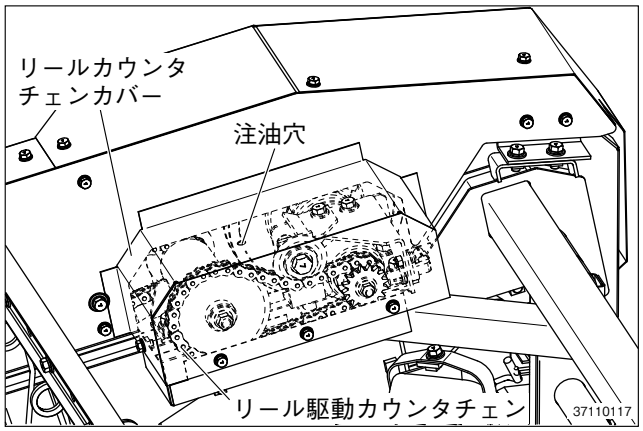
リールチェンカバー右後を取外して注油をしてください。

注油後はカバーを取付けてください。



・リール駆動カウンタチェン

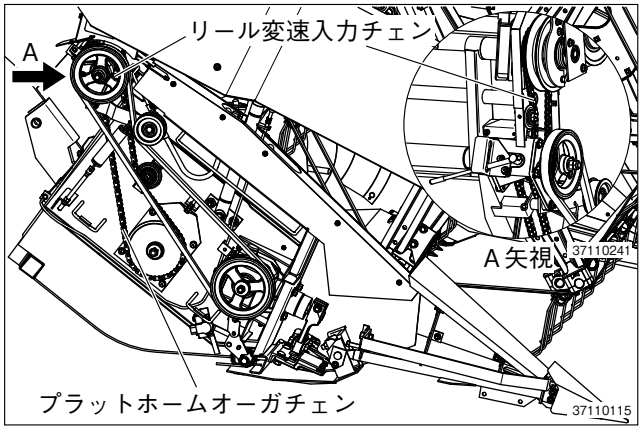
リールカウンタチェンカバー上部に注油穴がありますのでその穴から注油してください。



・リール変速入力チェン・プラットホームオーガチェン

プラットホーム右カバーを取外して，リール入力チェン・プラットホームオーガチェンに注油をしてください。

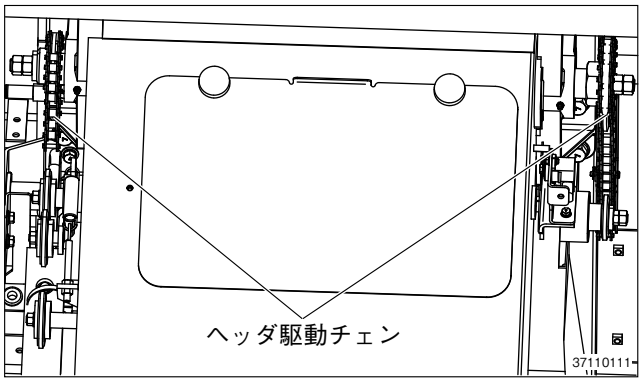
注油後は，カバーを取付けてください。



・ヘッダ駆動チェン

ヘッダ部のカバー両側共取外して注油してください。

注油後は，カバーを取付けてください。

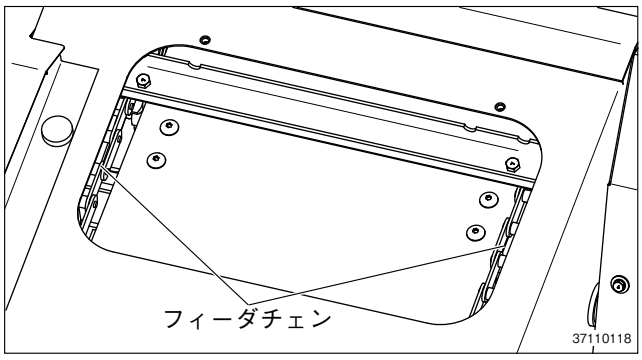


・フィーダチェン

食品機械用潤滑油を使用します。

フィーダハウス掃除口カバーを取外して，注油をしてください。

注油後は，カバーを取付けてください。

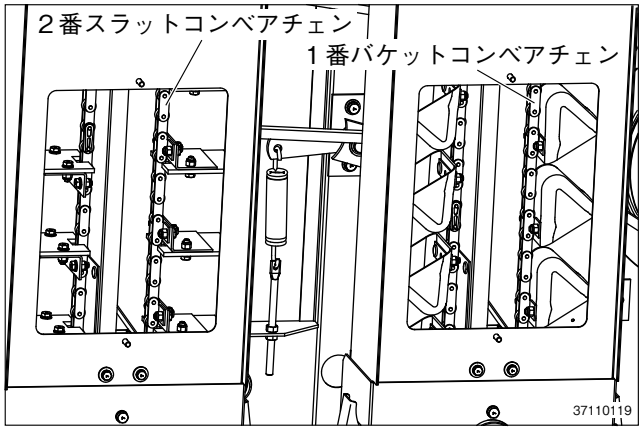


・１番バケットコンベアチェン，２番スラットコンベアチェン

食品機械用潤滑油を使用します。

グレンタンクを回動させて，カバーを取外し注油をしてください。

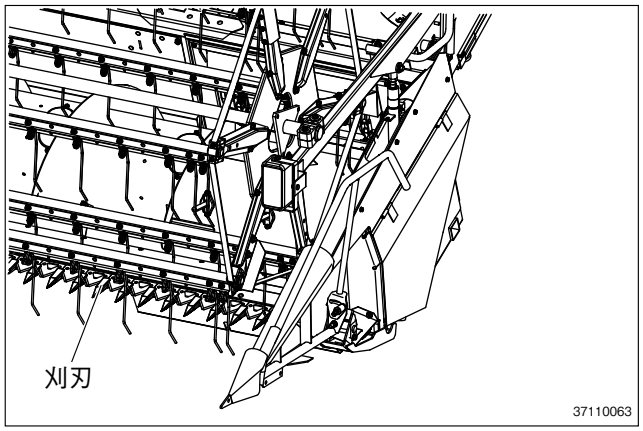
注油後はカバーを取付け，グレンタンクを閉じます。



・刈刃部

食品機械用潤滑油を使用します。

刈刃に注油をします。



3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

◆スチーム洗浄はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがあります。

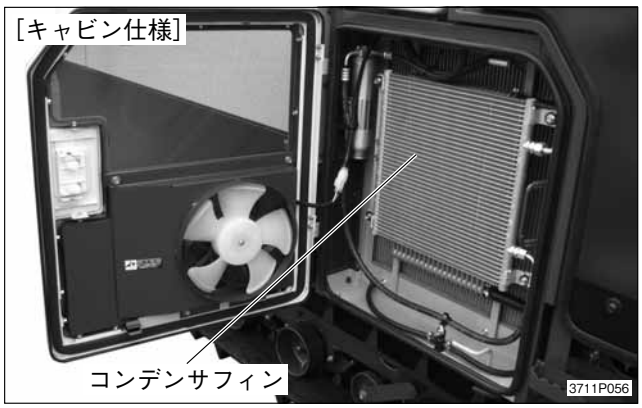
エンジンカバーおよび金網，エアクリーナ室カバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。

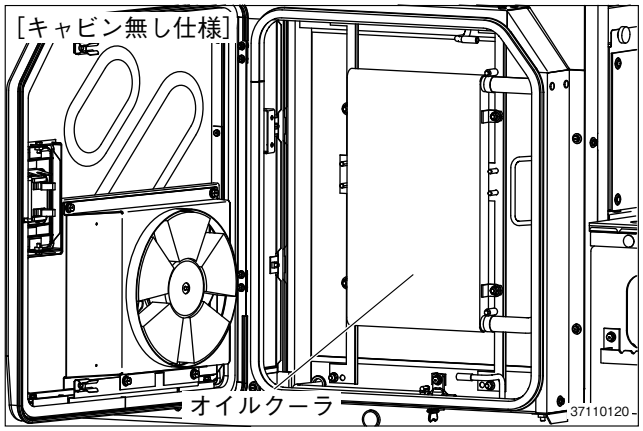


❶ エンジンカバーおよびエアクリーナ室カバー（右）の表面のゴミを取除きます。

❷ グレンタンクを回動し，エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。

❸ エンジンカバーを開き，ゴミを取除きます。

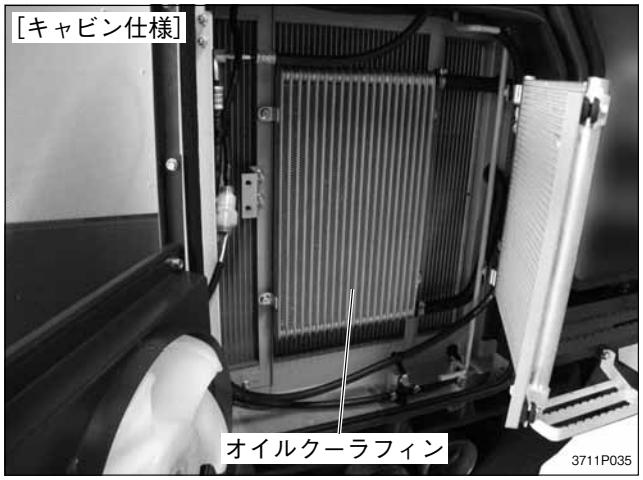




❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部，コンデンサフィン部［キャビン仕様］に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，次の方法で取除きます。

各々の取付ボルト（２ヶ）を外してオープンします。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形するおそれがあります。



❺ ボルトを取付けエンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

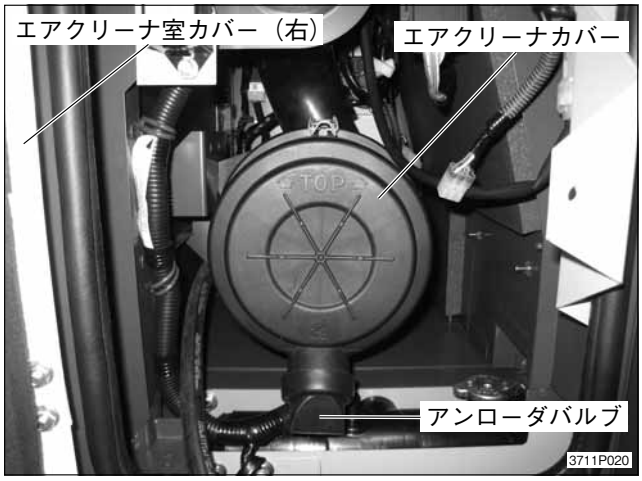
●**エンジンカバーを開けたときは，ラジエータの冷却水を確認してください。****(76～77ページ参照)**

2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エアクリーナ室カバー（右）を開き，エアクリーナカバーのフック（3箇所）を外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付け，エアクリーナ室カバーを閉じます。

取扱いのポイント

●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「588kPa（6kgf/㎠）以下」で行ってください。

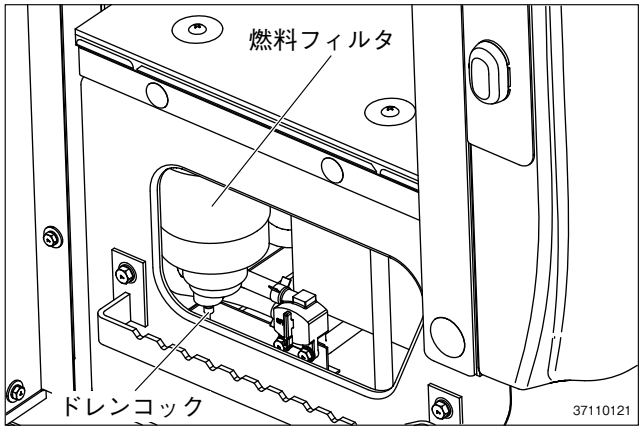
3．燃料フィルタの掃除・交換

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

❶ 燃料フィルタモニタが点灯したときは，フートプレートをめくり燃料フィルタのドレンコックをゆるめて，手動ポンプを**「5回～10回」**上下操作し，中にたまった水を抜きます。

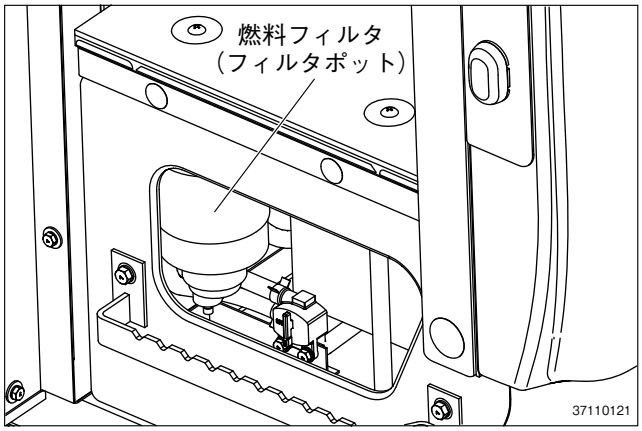




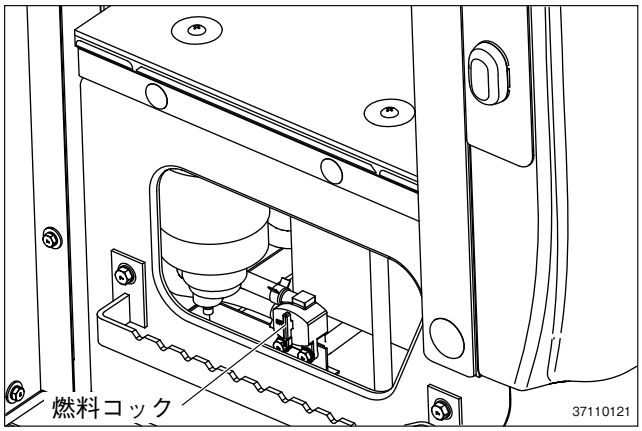
・ドレンコックをしめた後，フートプレートを元にもどし燃料回路のエア抜きをします。(87～88ページ参照)

❷ 燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**定期点検整備表**」(70～71ページ参照）に従って，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

「燃料フィルタの交換手順」



(1) 燃料コックを《**閉**》位置にします。
(2) 燃料フィルタのフィルタポットをゆるめ，フィルタポット，フィルタを外して交換します。
(3) 組付けは取外しと逆の手順で行います。
(4) 燃料コックを《**開**》位置にします。
(5) 燃料回路のエア抜きを行います。



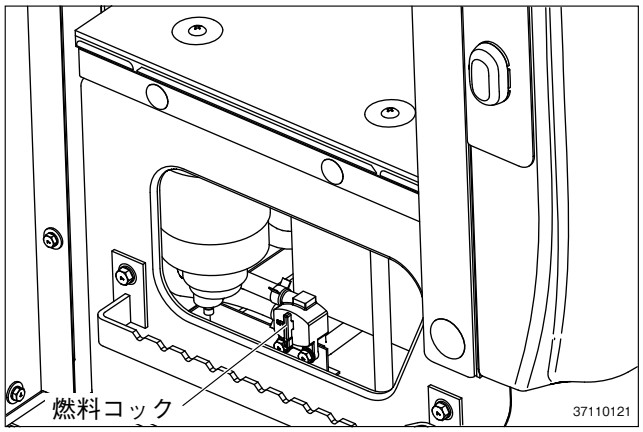
4. 燃料回路のエア抜きのしかた

運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時は，次の手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタをとおして，燃料（ディーゼル軽油）を給油します。

・**燃料は……JIS２号（−7.5℃まで）**
　　JIS３号（−20℃まで）

❷ 燃料コックが《**開**》位置であることを確認します。



❸ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**約２分**」程度待ちます。

❹ スタータスイッチを《**入**》位置のまま，燃料フィルタの手動ポンプを，「**40回程度**」上下操作を行います。



❺ スタータスイッチを《**始動**》に回し，エンジンを始動します。

・**10秒程度**セルモータを回してもエンジンが**始動**しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

●燃料の中に，ゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。

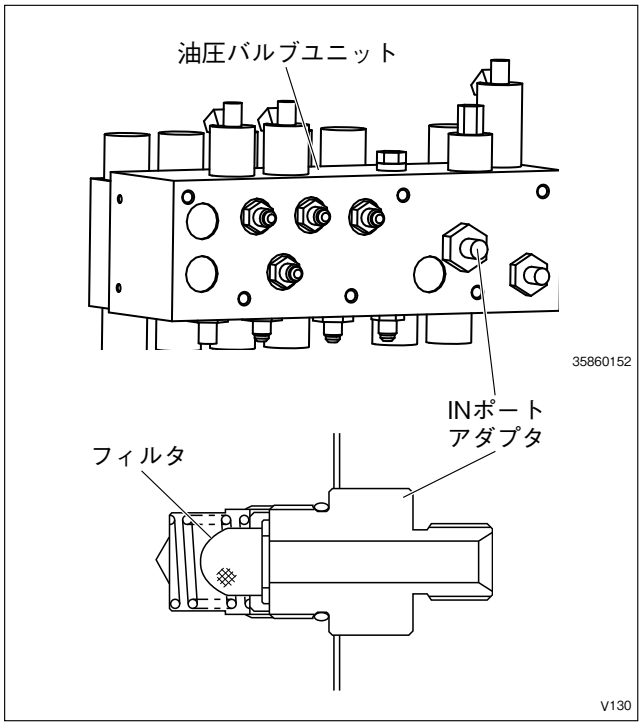
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

・掃除は，**「定期点検整備表」**（70～71ページ参照）に従って，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

❶ フィルタの清掃

⑴ デリベリホースを外してからＩＮポートアダプタ（六角対辺30）を外し，フィルタを取外します。



⑵ フィルタの内側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

⑶ 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

⑷ ＩＮポートアダプタを取り付けます。

❷ 組付け後の操作確認

⑴ エンジンを始動し，マルチステアリングレバーにてヘッダ部を３～４回上下させて，ホース，アダプタの取付部およびホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

⑵ エンジンを停止して，油圧オイルタンクのオイル量を点検し，不足していれば検油栓まで補給します。

6．ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

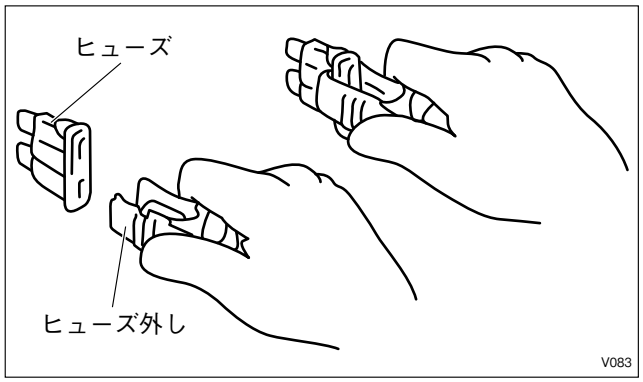
配線の回路に異常が生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします

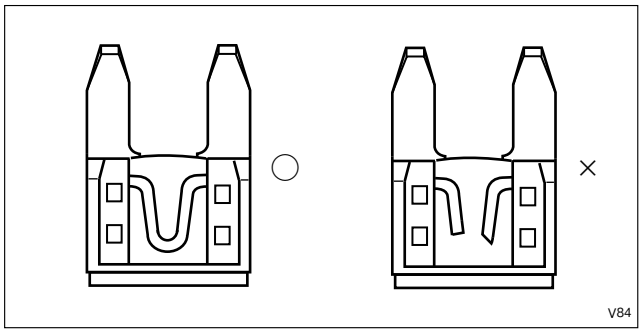
❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

⑴ スタータスイッチを《**切**》位置にします。

⑵ ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しまたは，ラジオペンチ等を使って，ヒューズを引抜きます。（ヒューズ外しは，運転席後カバー内のヒューズボックスの中に入ってます）



⑶ ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

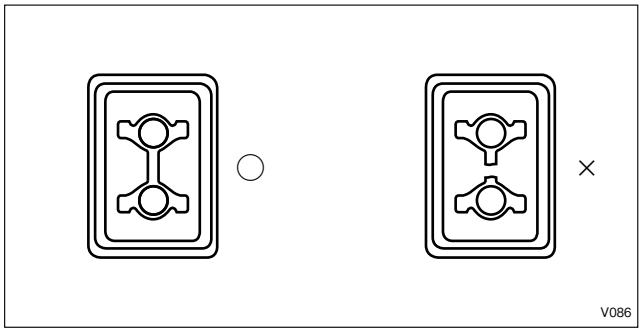
❷ 大電流用ヒューズ交換

⚠警告 火傷防止のために

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

(1) バッテリー（−）端子を外します。

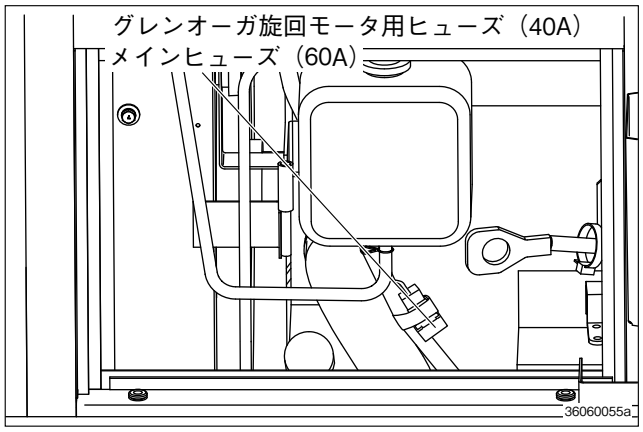
(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば，ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。

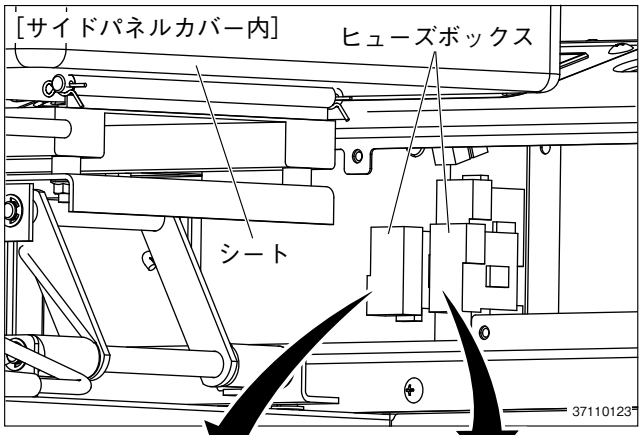


取扱いのポイント

●大電流用ヒューズが切れた時は,「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❸ ヒューズボックス位置





スペア20A	エアコン（キャブ）	20A
	ワイパ（キャブ）	15A
スペア10A	マイコン	10A
	バルブ	20A
37110856500	アクセサリー（キャブ）	20A
	スタータ	10A

	作業灯	30A
37110856600	前照灯	15A
スペア15A	室内灯・カーステ（キャブ）	10A
	キー切り	10A
スペア30A	ランプ 計器	15A
	IGリレー	10A

3711085650001　37110856600



37110856700		
スペア10A		
	非常時電源	10A
スペア15A	オーガ排出 水平	10A
	操向・リフトリール	15A

37110856700



37110856800
ヒューズ抜き

排出クラッチフラップ 20A		防塵ファン 30A	
防塵クラッチ 15A		刈取ファン 30A	
リール前後 30A		選別 15A	
リール変速 15A		ホーン 15A	
クラッチ駆動 20A		フラッシャ 15A	
	予備30A	予備20A	予備15A

37110856800



❹ ヒューズの機能

●ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　×：作動不能

ヒューズマーク名称	電流容量	エンジン始動	エンジン停止	燃料の供給	予熱	計器類のモニタランプ	前照灯	後退灯	作業灯	制動灯	尾灯	車幅灯	方向指示器	電子ブザー	ホーン	バック警告	マルチステアリングレバー	リール上下	リール前後	リール変速	選別制御	水平制御	刈高さ制御	刈取・脱こく駆動	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	こく粒排出	警報装置	フラップ開閉	ファンベルト（ラジエータ）	防じん電動ファン（エンジン）	防じんファン（ヘッダ）	エアコン	カーステレオ	ルームランプ	ワイパ・ウォッシャ	シガライタ
ランプ・計器	15			×	×	×				×				×																						
キー切り	10	×																																		
イグニッションリレー	10							×					×		×	×			×	×	×			×			×		×	×	×					
マイコン電源	10													×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
エアコン	20																																×			
ワイパ	15																																		×	
バルブ電源	20																×	×				×	×		×											
スタータ	10	×																																		
アクセサリー（キャブ）	20																																×			×
操向・リフト	15																×	×				×														
水平・オーガバルブ	10																				×				×										
非常時電源	10																																			
室内灯・時計	10																																	×		
前照灯	15						×				×	×																								
作業灯	30								×																											
リール前後	30																		×																	
リール変速	15																			×																
クラッチ駆動	20																							×												
排出クラッチ・フラップ	20																									×		×								
防じんクラッチ	15																													×	×					
選別制御	15																				×															
ホーン・バックホーン	15							×							×	×																				
フラッシュ	15												×																							
防じんファンモータ	30																														×					
刈取電動ファン	30																															×				
グレンオーガ旋回モータ	40																								×											
メイン	60	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

7．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ㊀コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

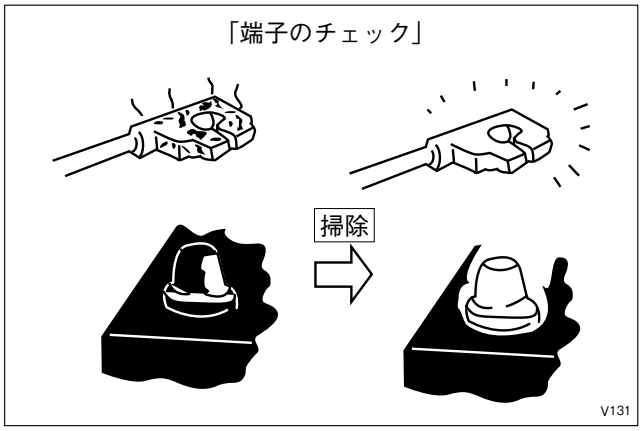
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



8．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は94ページの❸を参照してください。

指定バッテリ…80D26R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆㊉端子が機械に接触しないようにしてください。
◆㊀端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

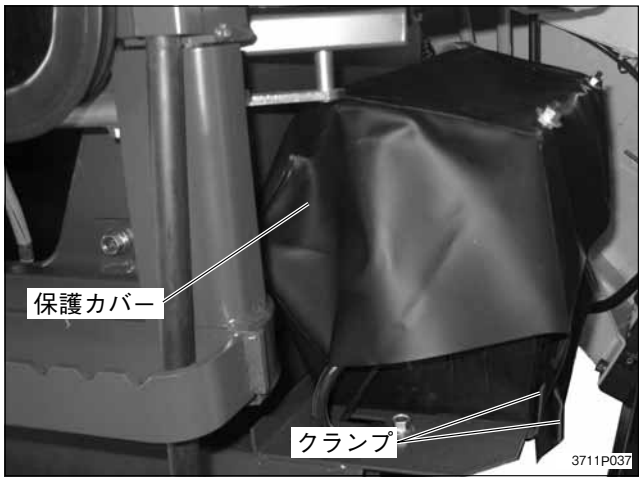
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具等が腐蝕していれば，修理または取替えます。

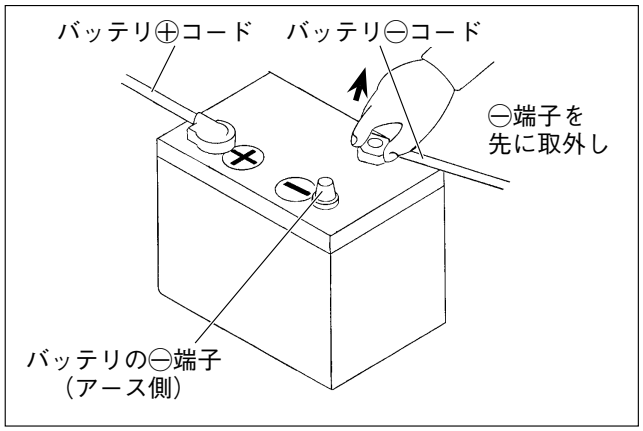
バッテリは車体右側，運転席前方下部に保護カバーで覆われていますのでクランプを外しカバーを取外します。



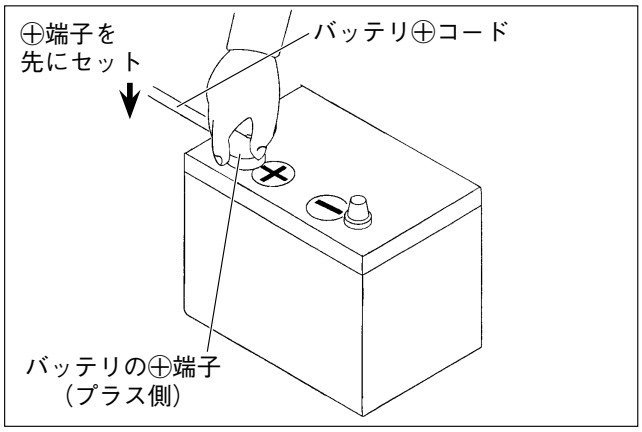
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」する時は，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「⊕**端子（プラス側）**」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

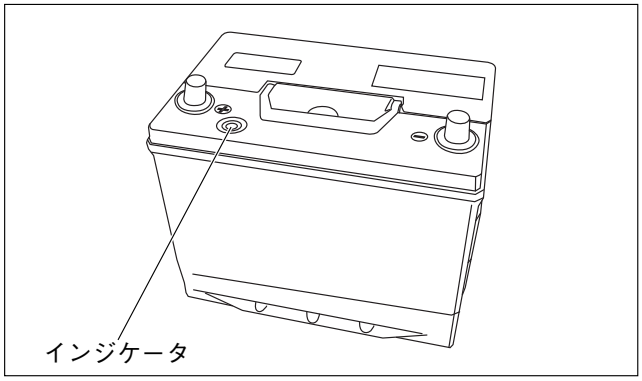
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

❹ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−）端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋）端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

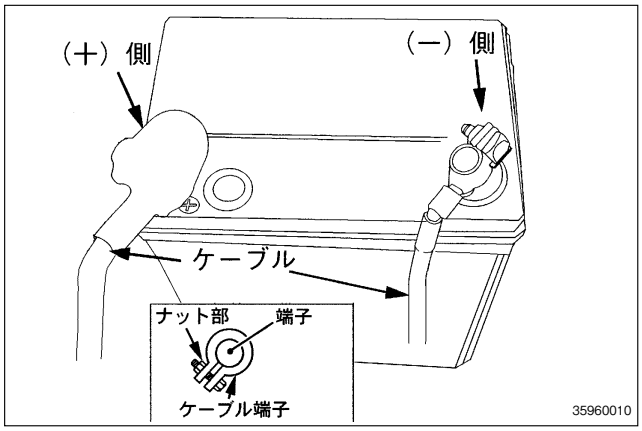
●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。

⑴ ナットをゆるめてフックを外します。

⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：80D26R

●バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。

●バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

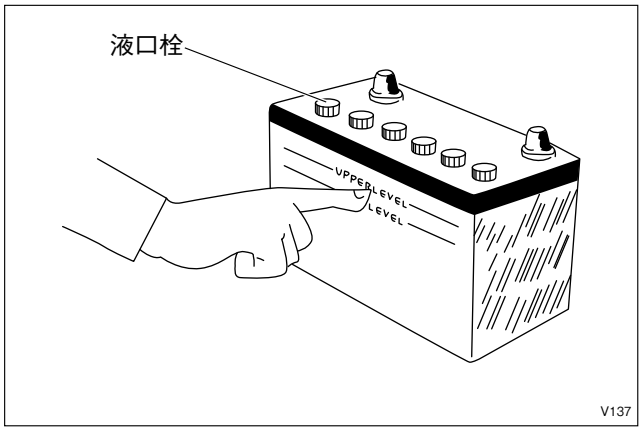
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

❻ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

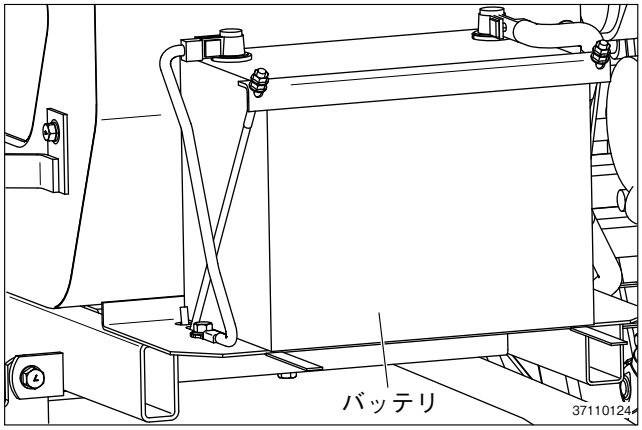
- **急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。**

2．補充電が終ったら液口栓を全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

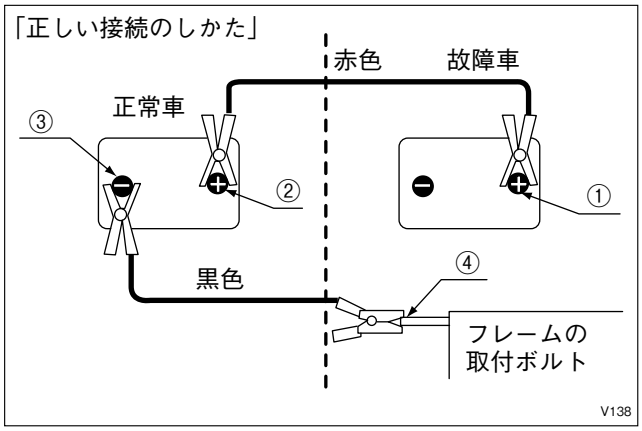
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12Ｖ仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

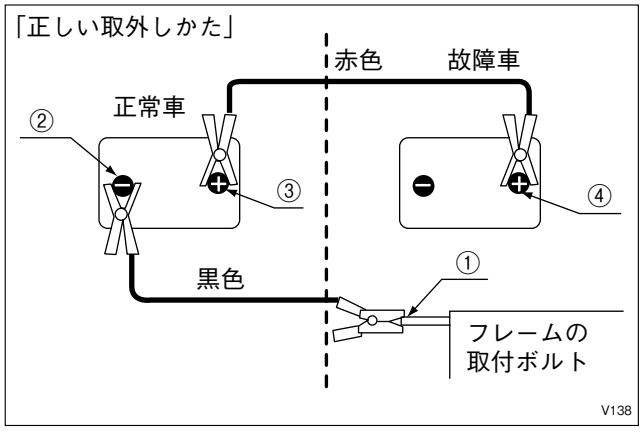


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ,補水が必要なバッテリ)

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機体からバッテリを取外します。

⑶ **「水素ガス」**が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ **「火気」**を近づけたり**「スパーク（短絡)」**による電気火花が発生しないようにします。

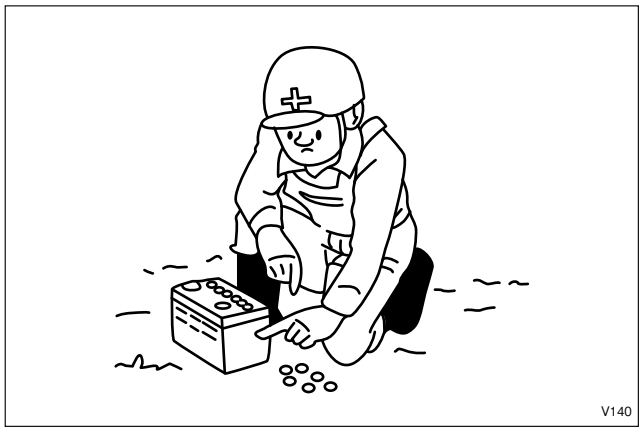
⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色)・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

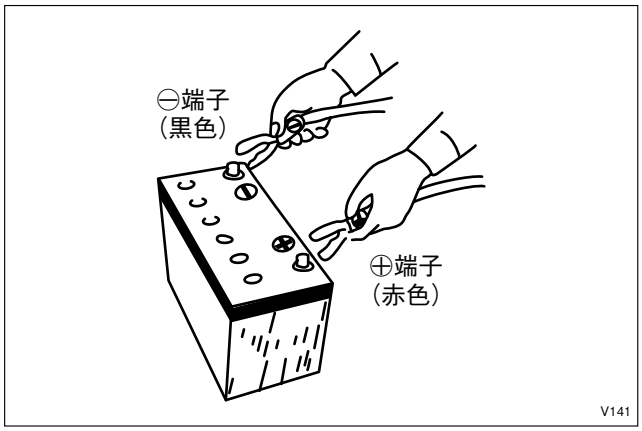
⑴ 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に**「液口栓」**をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ㊉端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**

9．各部の開閉と脱着のしかた

⚠警告

◆平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。

◆傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。

⚠注意

◆取外したカバー類は，取付けてください。

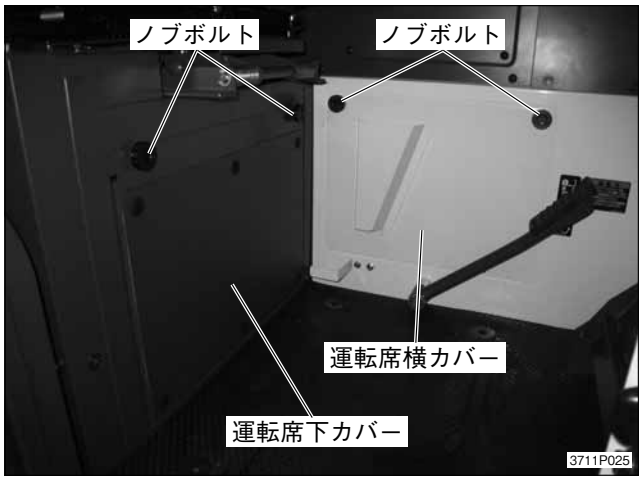
❶ 運転席下カバー，運転席横カバーの脱着

1．運転席下カバー

ノブボルトを取外して運転席下カバーを外します。

2．運転席横カバー

ノブボルトを取外して運転席横カバーを外します。



3．取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

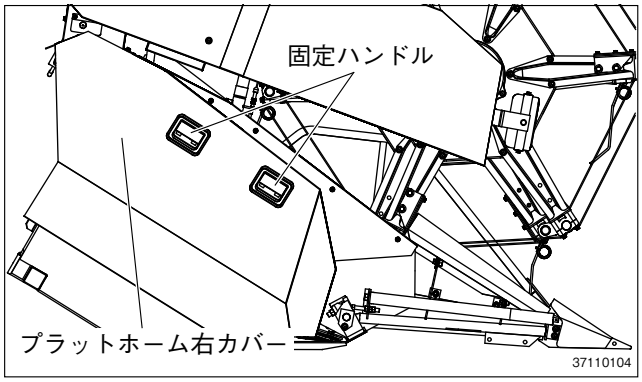
❷ プラットホーム右，左カバーの脱着

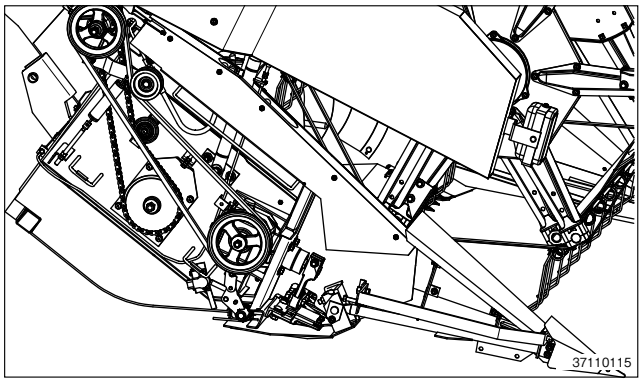
刈取部を地面に接地させて行なってください。

1．プラットホーム右カバー

⑴ 刈取部を地面に接地させ，エンジンを停止させます。

⑵ 固定ハンドルを引き，プラットホーム右カバーを取外します。

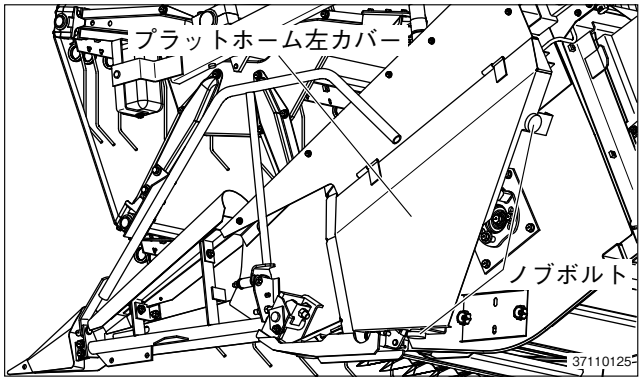


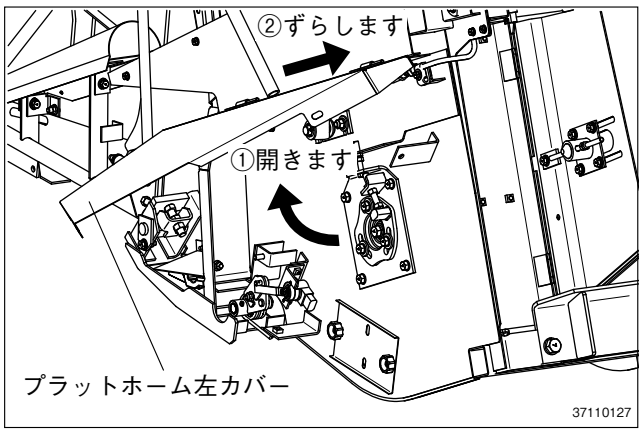


(3) 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

2．プラットホーム左カバー

(1) ノブボルトを取外して，プラットホーム左カバーを開き後方へずらします。



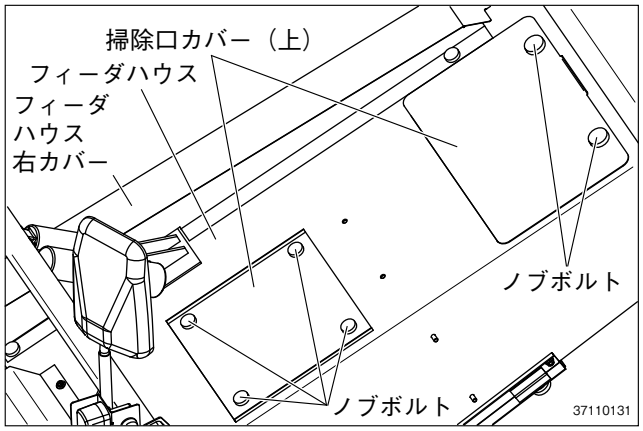


(2) 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

❸ フィーダハウス掃除口カバー（上），（下），フィーダハウス右カバーの脱着

1．フィーダハウス掃除口カバー（上）

(1) ノブボルトを取外して，フィーダハウス掃除口カバー（上）を外します。

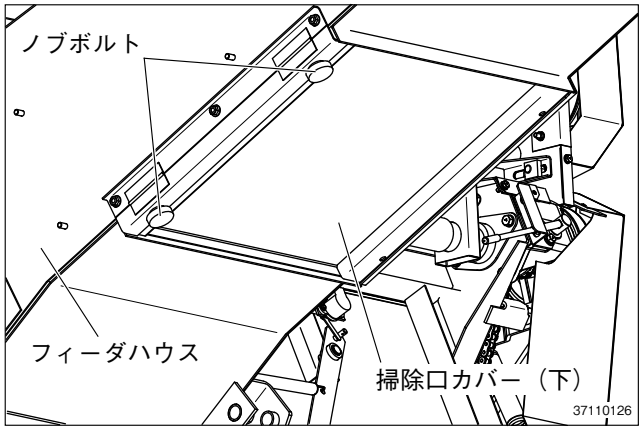


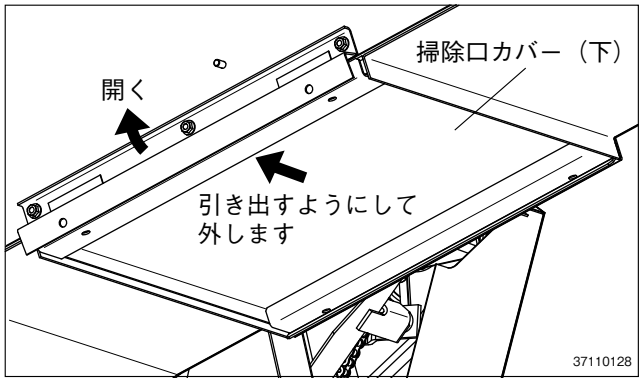
(2) 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

2．フィーダハウス掃除口カバー（下）

(1) ノブボルトを取外してフィーダハウス掃除口カバー（下）を外します。

・ノブボルトを取外すときは，掃除口カバーを支えてください。



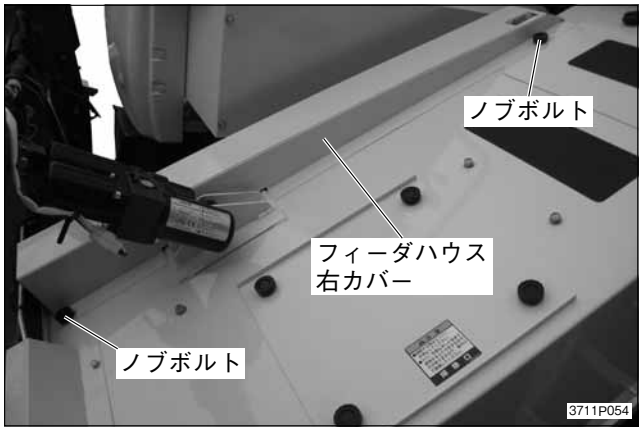


(2) 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

3．フィーダハウス右カバー

⑴ エンジンを始動してリールを前側に動かします。

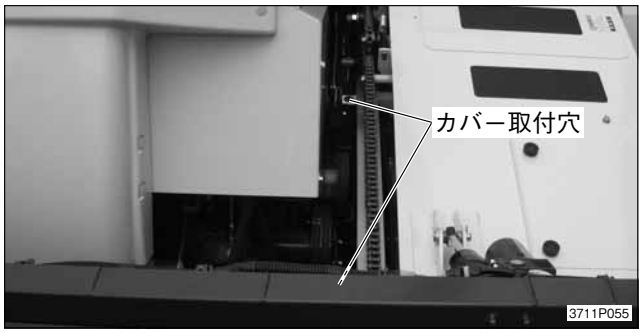
⑵ ノブボルトを取外して，フィーダハウス右カバーを取外します。



⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●取付けるときに穴がありますのでカバーのピンを差込んでください。



❹ ロータカバーの開閉のしかた

危険 火災や傷害事故防止のために

◆ロータカバーを開閉する前に排出オーガを上昇させ，キャビンのサイドウインドウを閉じてください。ロータカバーが接触し重大な災害が発生するおそれがあります。

◆ロータカバーを開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

◆手や指をはさまれてケガをするおそれがあります。ロータカバーはゆっくりと開閉してください。

◆ロータカバーにのぼるときに転倒，転落のおそれがありますので，足元に気をつけて，安定した姿勢で行なってください。

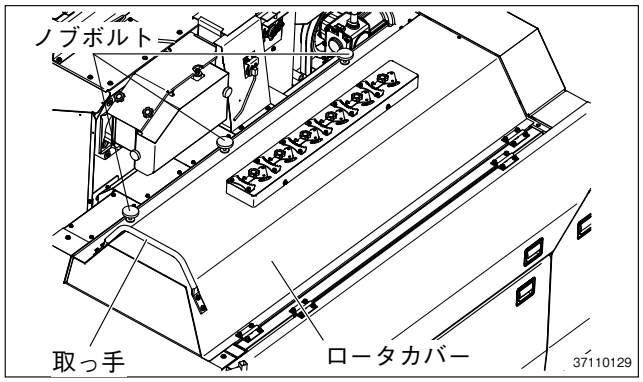
1．ロータカバーを開くときは

⑴ 排出オーガを上昇させ，キャビンのサイドウインドウを閉じます。

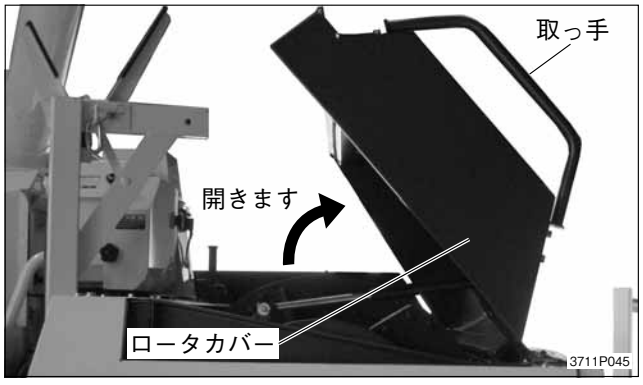
⑵ 機体を下げ，リールを下げた状態でヘッダ部を最上げにし，油圧固定をしてからエンジンを停止します。

⑶ ロータ部上面に上がります。(20～21ページ参照)

⑷ ロータカバーを固定しているノブボルト3本を取外します。



⑸ フィーダハウスの上に乗り，ロータカバーの取っ手を持上げて開きます。



⑹ ロータカバーを閉じるときは，開くときと逆の手順で行います。

❺ ロータサイドカバーの開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

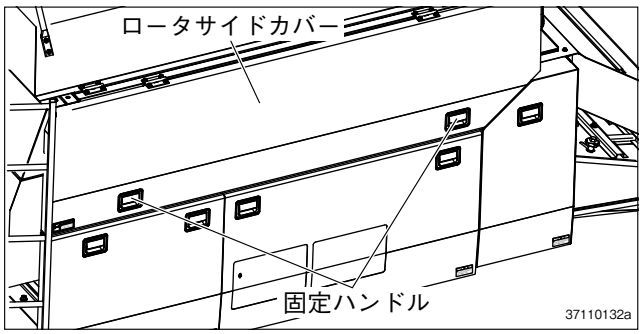
◆ロータサイドカバーを開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

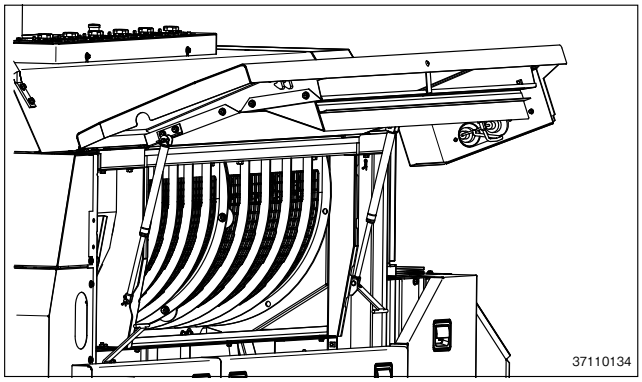
◆ハシゴを持ってロータサイドカバーは開閉しないでください。
また,ロータサイドカバーの開閉作業をしているときは,ハシゴを使用しないでください。

◆ロータサイドカバーを開いて周辺で点検作業など行なうときは，保護具を着用して行なってください。
頭上からワラ屑の落下およびカバーの突起部にぶつかるおそれがあります。

1．ロータサイドカバーを開くときは

⑴ ロータサイドカバーの固定ハンドルを引き上側に開き手で完全に押し上げてください。





⑵ ロータサイドカバーを閉じるときは逆の手順で行います。

❻ 脱こく左前カバー，左後カバーの取外しかた

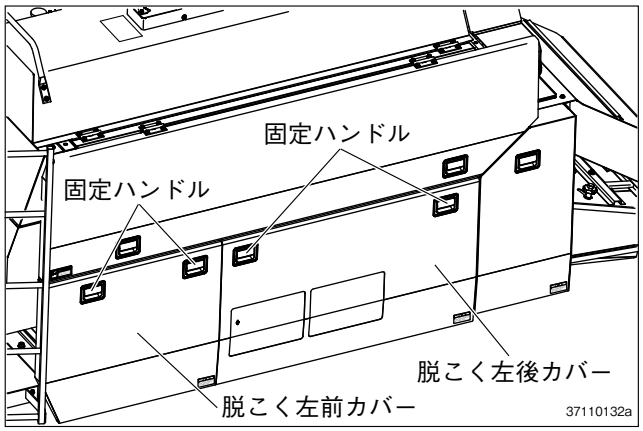
⚠警告 傷害事故防止のために

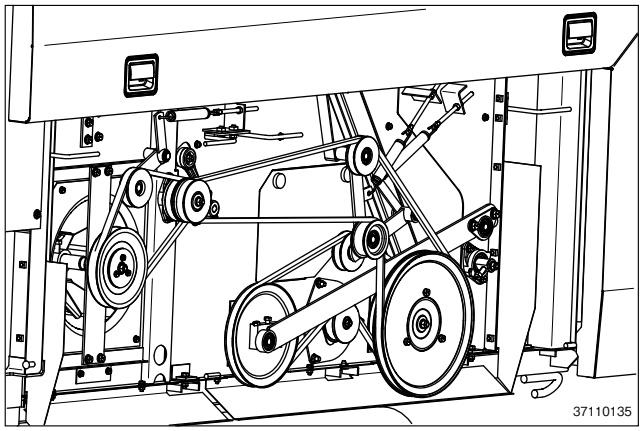
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性で脱こく部が回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

1．脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取外すときは

⑴ 脱こく左前カバーの固定ハンドルを引き，取外します。

⑵ 脱こく左後カバーの固定ハンドルを引き，取外します。





⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

❼ ロータ後カバーの取外しかた

⚠警告 傷害事故防止のために

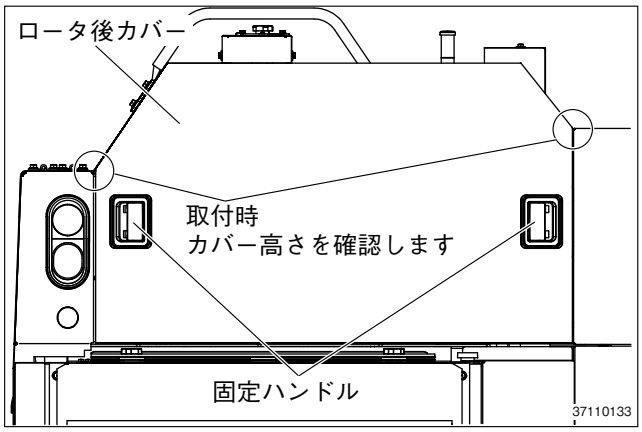
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

1．ロータ後カバーを取外すときは

⑴ チョッパスプレッダを回動します。（次項目❽を参照）

⑵ ロータ後カバーの固定ハンドルを引き，取外します。

⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で行います。



❽ チョッパスプレッダの回動のしかた

⚠警告

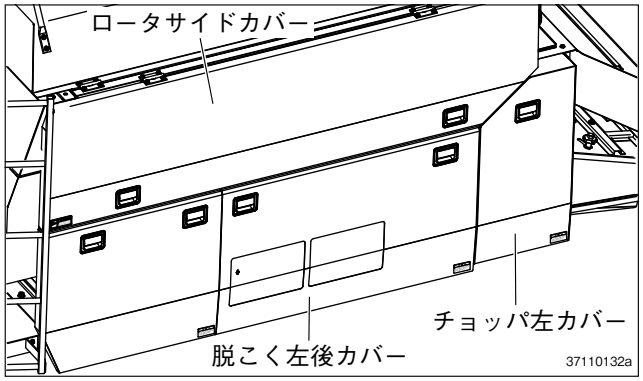
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆傾斜地では，チョッパスプレッダを回動しないでください。
◆チョッパスプレッダを開いているときは，チョッパスプレッダの刃先に注意してください。
◆チョッパスプレッダを開いて掃除をするときは，ストッパで固定をし，安全カバーをしてから作業を行ってください。

取扱いのポイント

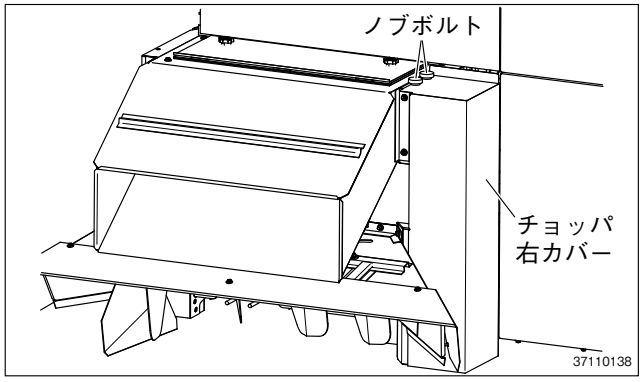
●ロータサイドカバーを開けてからチョッパスプレッダを回動してください。
順番を間違えますと，ロータサイドカバーが破損します。

1．チョッパスプレッダを開くときは

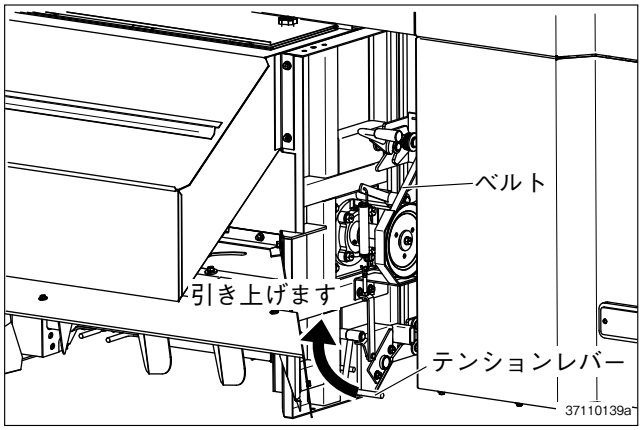
⑴ ロータサイドカバーを開き，脱こく左後カバーとチョッパ左カバーを取外します。



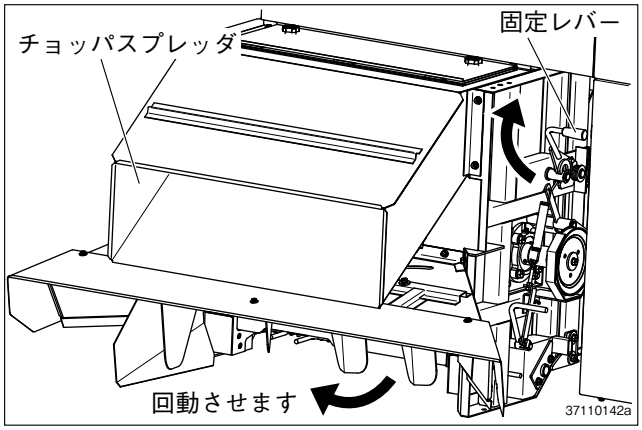
⑵ ノブボルト２本を外し，チョッパ右カバーを取外します。



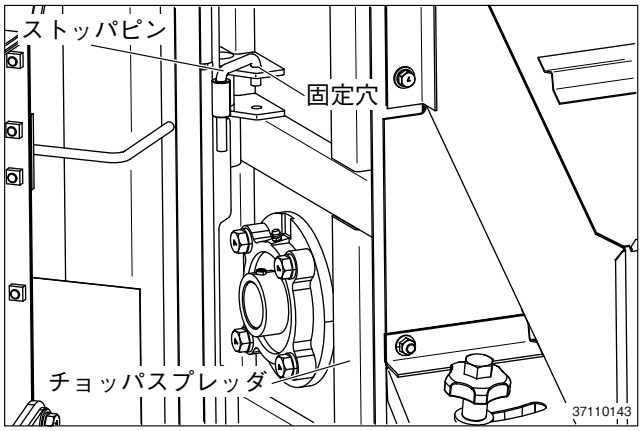
(3) チョッパスプレッダ右側のベルトテンションレバーを引き上げベルトをゆるめて奥側のプーリからベルトを外します。



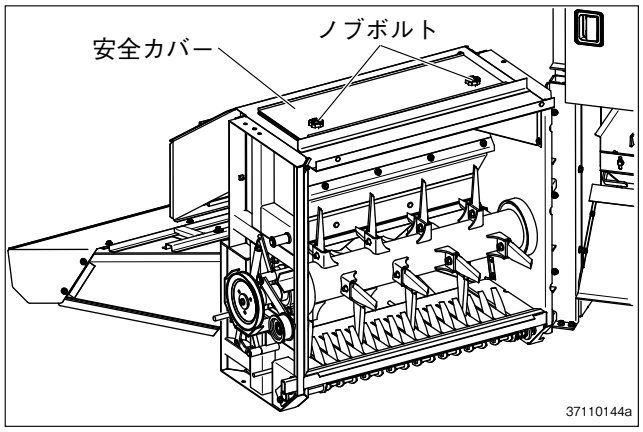
(4) 固定レバーを引き上げてチョッパスプレッダを回動させます。



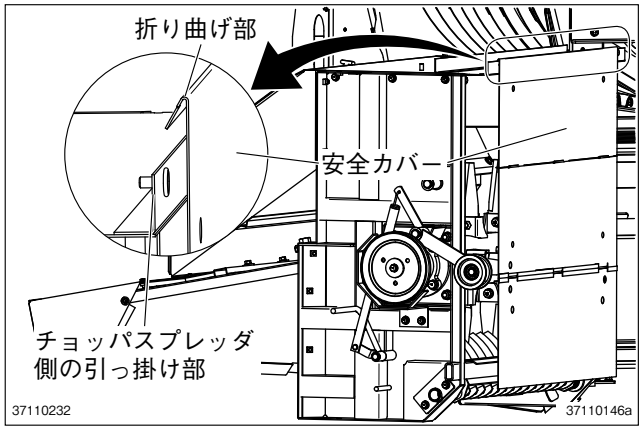
(5) 回動後，チョッパスプレッダをストッパピンで必ず固定してください。

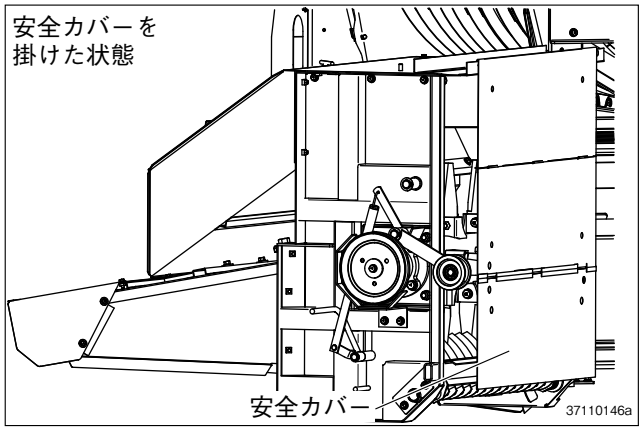


(6) チョッパスプレッダ上のノブボルト２本を外して，安全カバーを取外します。



(7) 安全カバーには折り曲げ部がありますので，その部分をチョッパスプレッダ側に引っ掛けてください。





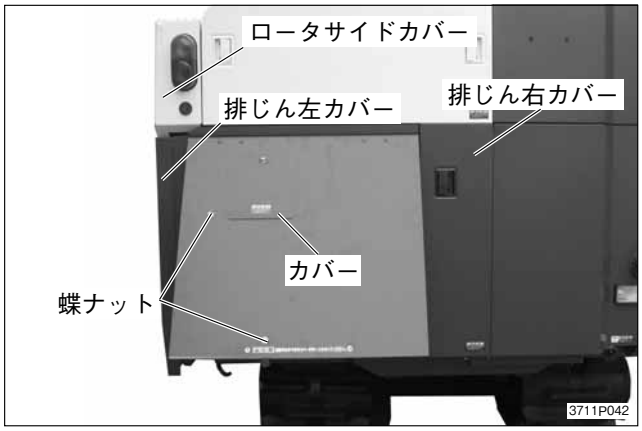
２．チョッパスプレッダを閉じるときは

チョッパスプレッダを開くときと逆の手順で行います。

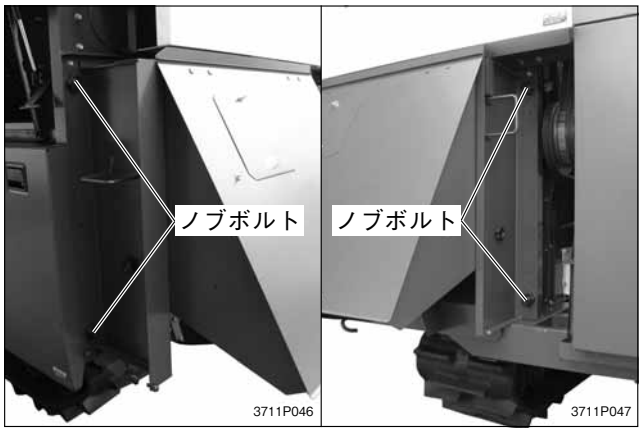
❾ 排じんケースの取外しかた

1．排じんケースの取外しかた

(1) ロータサイドカバーを開き，排じん右カバー，左カバーを取外します。蝶ナットを外します。



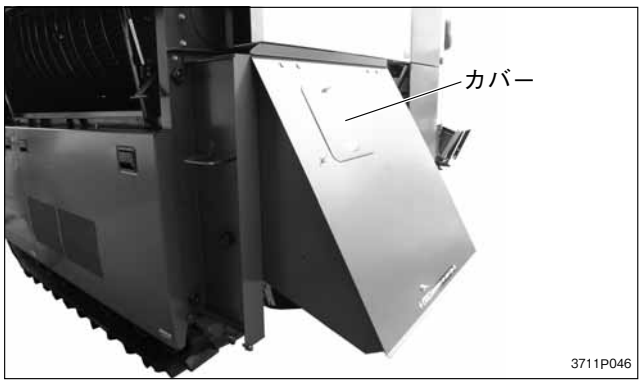
(2) 左右のノブボルトを取外し，排じんケースを取外します。

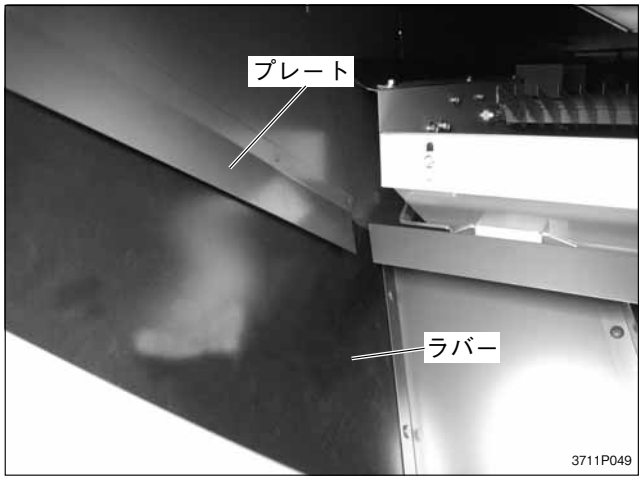


(3) 排じんケースを取付けるときは，取外したときと逆の手順で行います。

取扱いのポイント

●取付けるときは，カバーを取外し，ラバーがプレートの内側に入っていることを確認してください。





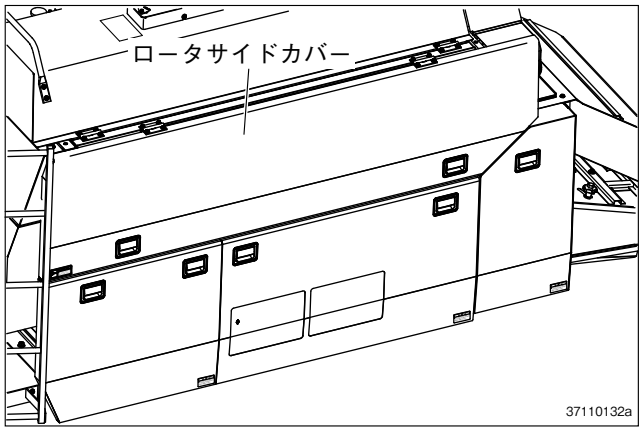
❿ 揺動流板の脱着のしかた

⚠注意 傷害事故防止のために

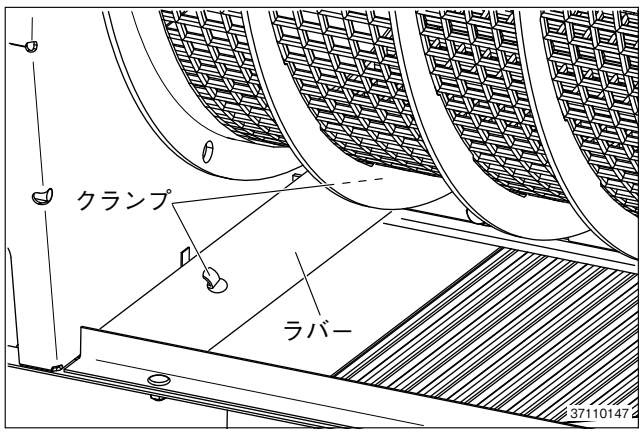
◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

1．揺動流板の取外しかた

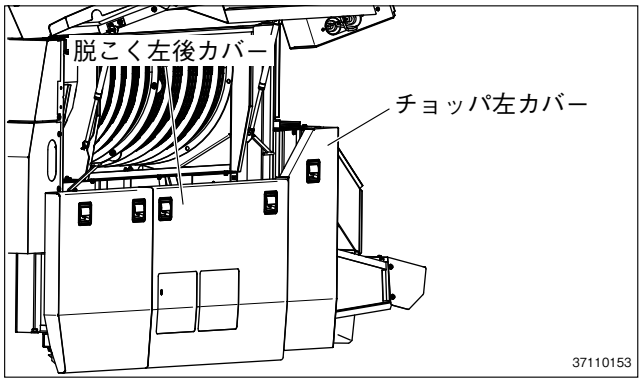
(1) ロータサイドカバーを開いてください。



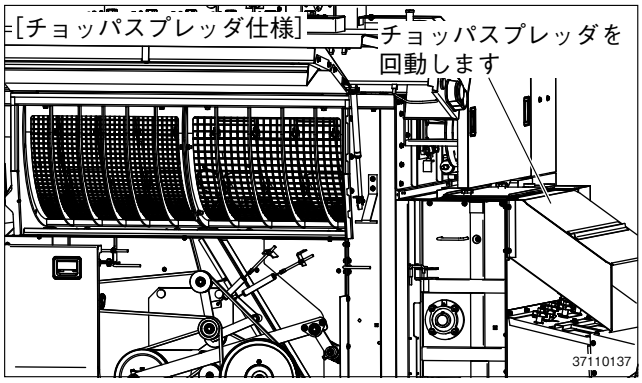
(2) 揺動流板先端のゴム板を持ち上げて，ラバーの穴にクランプを通して固定してください。（揺動流板の噛込みを防ぐため）



(3) 脱こく左後カバーとチョッパ左カバーを取外してください。

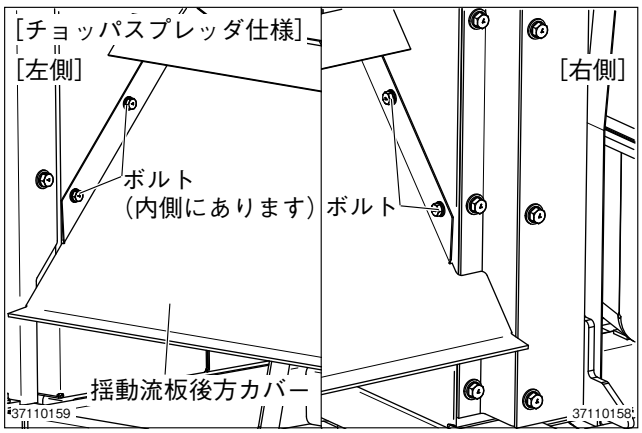


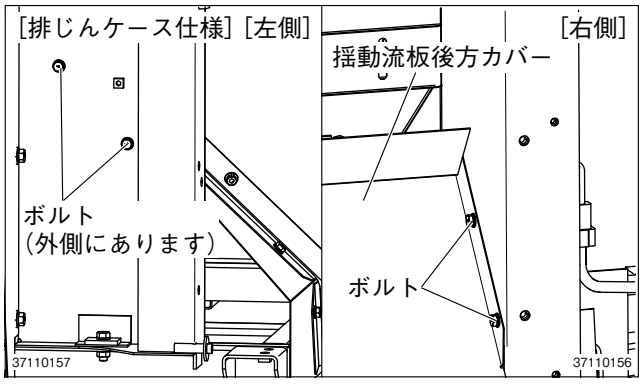
(4) チョッパスプレッダを回動，または，排じんケースを取外してください。



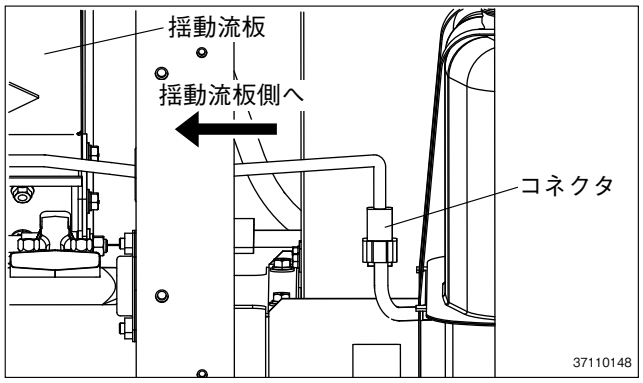


(5) 揺動流板後方カバーを取外してください。

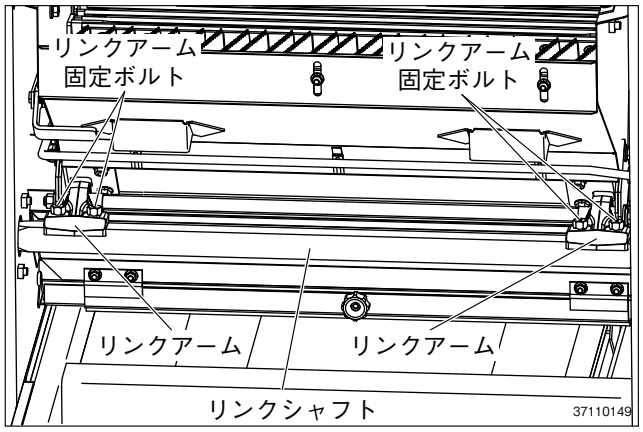




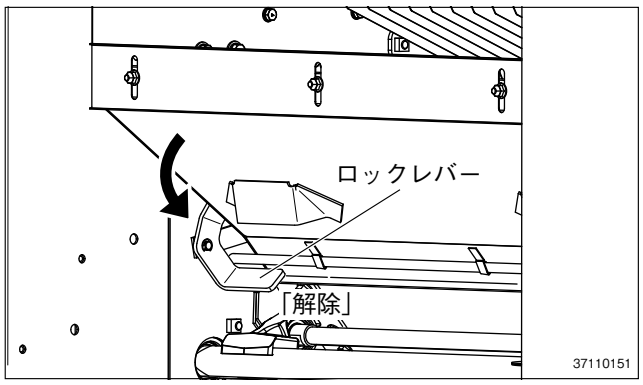
(6) コネクタを外し，配線を揺動流板側に引き出してください。



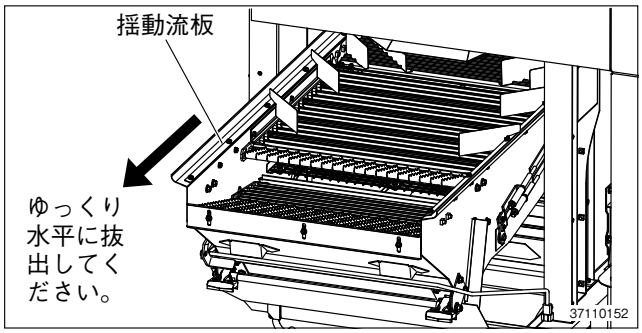
(7) 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外してください。



(8) ロックレバーを**「解除」**位置に回動してください。



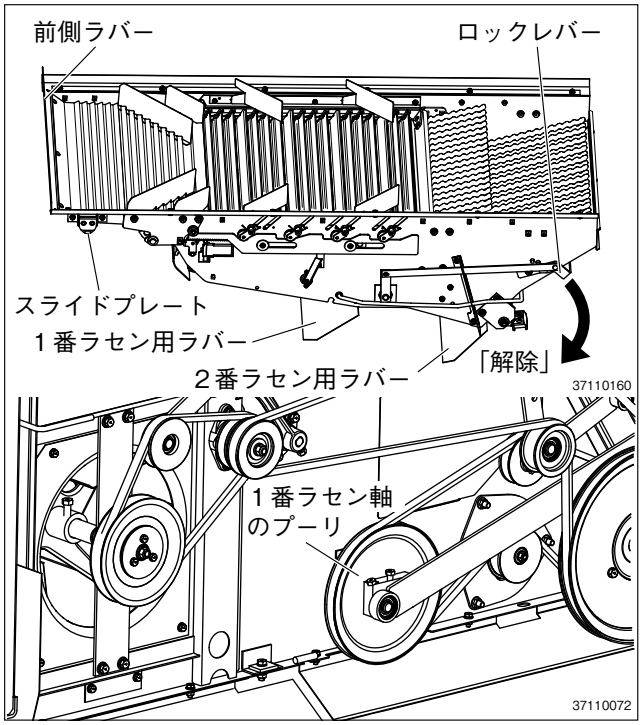
⑼ 揺動流板を２人で保持した状態で後方へゆっくり水平に抜出してください。



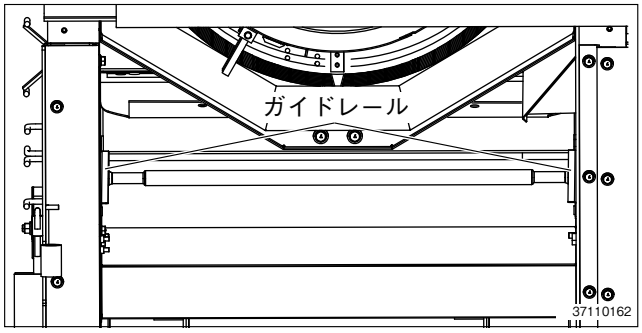
２．揺動流板の取付けかた

⑴ リンクシャフトのネジ穴が真上に向くように１番ラセン軸のプーリを手で回してください。

⑵ 揺動流板後方左側のロックレバーを**「解除」**方向に押に操作してください。

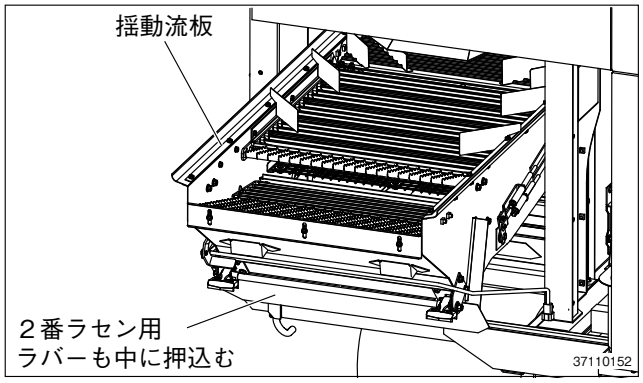


⑶ 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のスライドプレートをのせ，少しずつ水平に押込んでください。（２人作業）

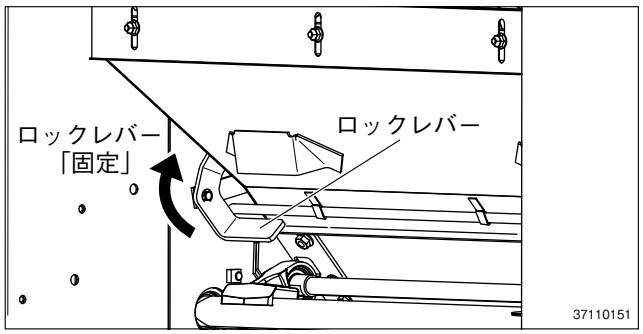


・揺動流板を押込む時に２番ラセン用ラバーも確実に押込まれているかを確認してください。

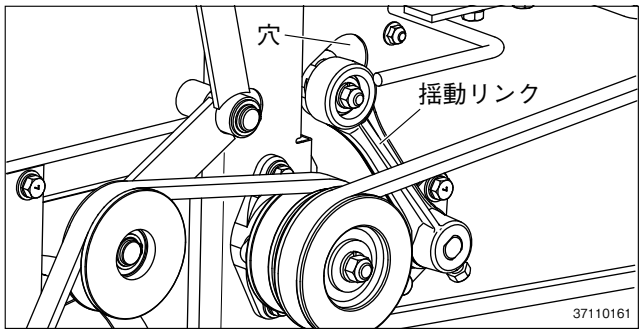
・揺動流板を押込んだ時に揺動前側ラバーが確実に上側を向いているのを確認してください。

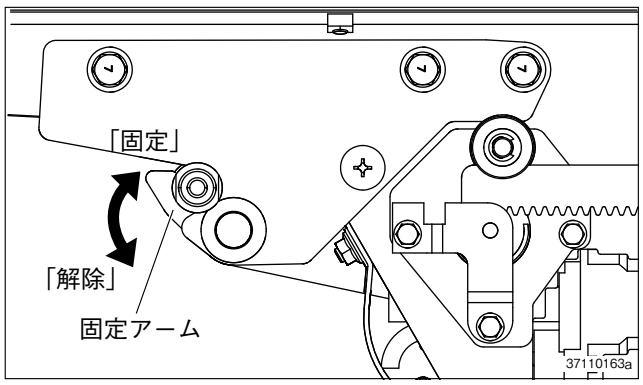


⑷ 揺動流板を最後まで押込んで，ロックレバーを**「固定」**位置に回動してください。



⑸ 左揺動リンクの穴から固定アームがシャフトにかかっていることを確認してください。（揺動流板のロック部が見えます。）

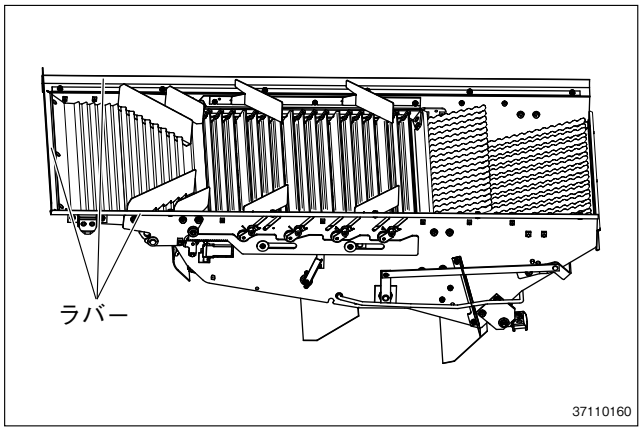




取扱いのポイント

- **固定アームがシャフトから外れている場合又は確実に固定されていない場合は再度リセットし直してください。(⑵から)**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

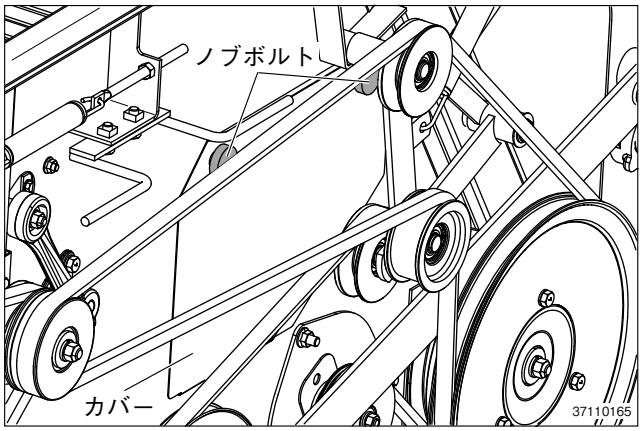
⑹ 揺動流板側面と前側ラバーがかみこんで折曲がっていないことを確認してください。

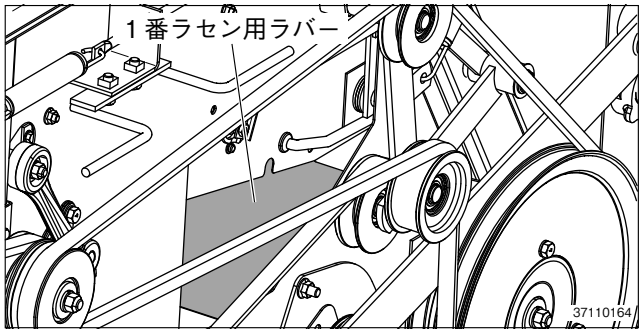


⑺ 揺動流板下部の１番ラセン用ラバーが折曲がっていないことを確認してください。

[確認の手順]

１．ノブボルトを２本外し，カバーを外してください。



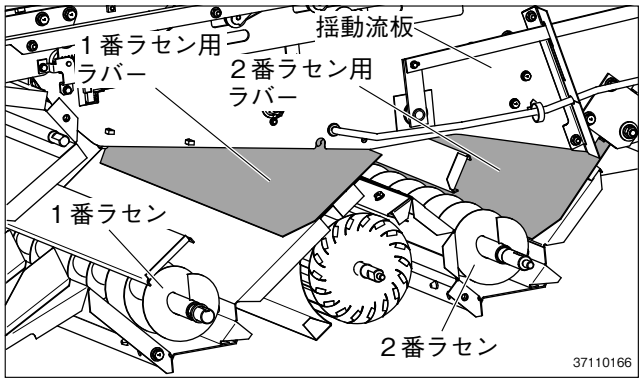


２．１番ラセン用ラバーが１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

正しくセットされていない場合はセットし直してください。

３．揺動流板後部から見て，２番ラセン用ラバーが，２番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

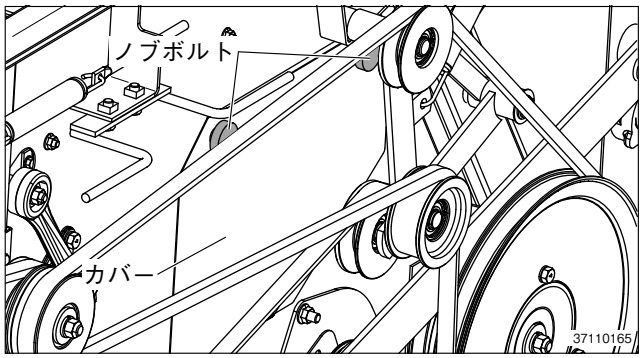
正しくセットされていない場合はセットし直してください。



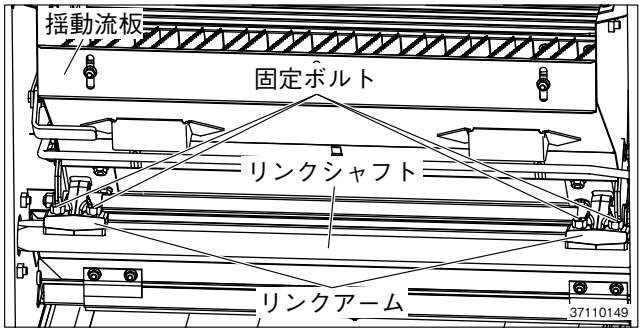
取扱いのポイント

- **ラバーは正常にセットされていないとこく粒もれの原因となります。**

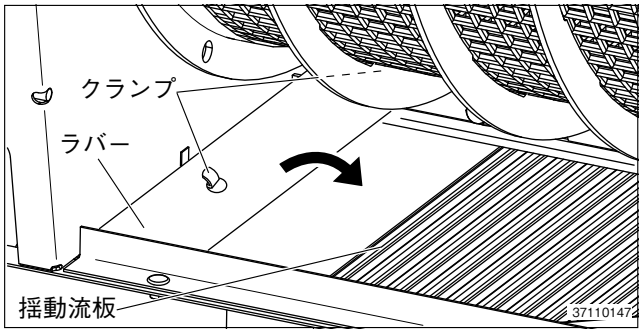
４．ラバーが正常にセットされていることが確認できたらカバーをノブボルト２本で取付けてください。



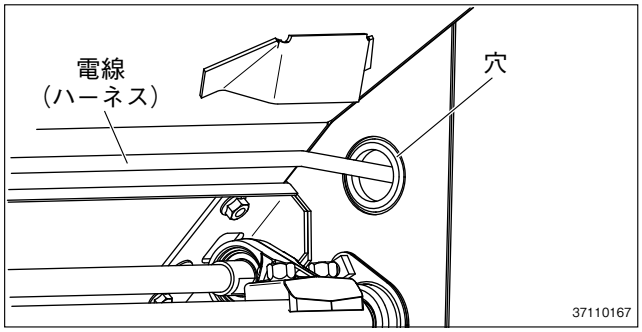
⑻ 揺動流板を手前に引きながらリンクアームとリンクシャフトの取付け穴を合わせて，固定ボルトで確実に締め付けてください。



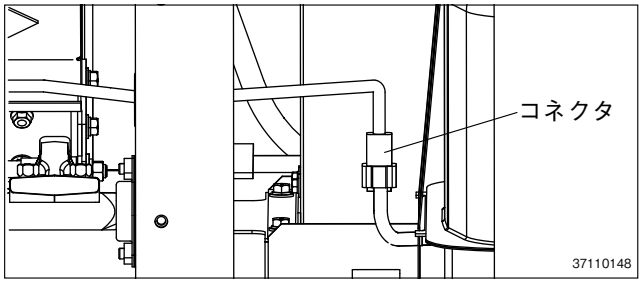
⑼ 固定したラバーをクランプから外し，揺動流板の上にたらしてください。



⑽ 電線（ハーネス）をゴムの付いた穴に通してグレンタンク側に出してください。



⑾ コネクタを接続してください。



⑿ 揺動流板後方カバーを取付けてください。

⒀ チョッパスプレッダまたは，排じんケースを取付けてください。

⒁ ロータサイドカバーを閉じてください。

⒂ 脱こく左後カバー，チョッパ左右カバーまたは排じんケース左右カバーを取付けてください。

⓫ グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆［キャビン仕様］はスライドドアを閉じてからグレンタンクを回動してください。
◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。
◆グレンタンクを回動し，中で作業をする場合は，１番張り込みラセンがありますので保護具を着用し，頭上に注意して作業を行なってください。

⚠注意

◆作業後カバーを取付けてください。

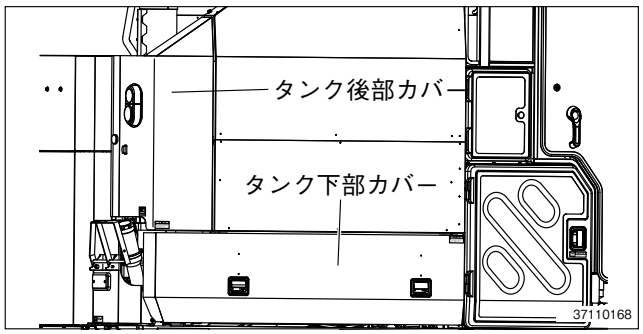
取扱いのポイント

●グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

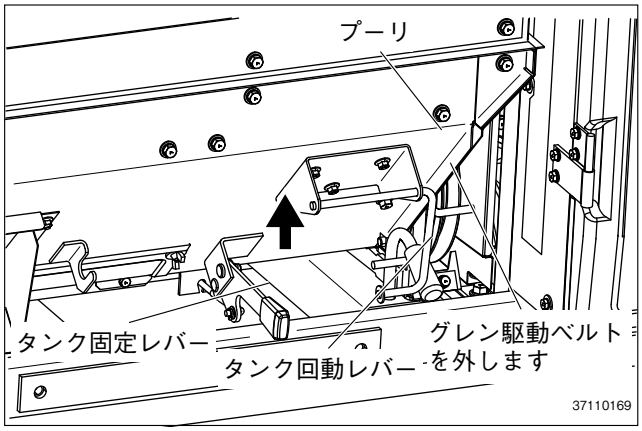
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

⑴ タンク下部カバーを取外します。

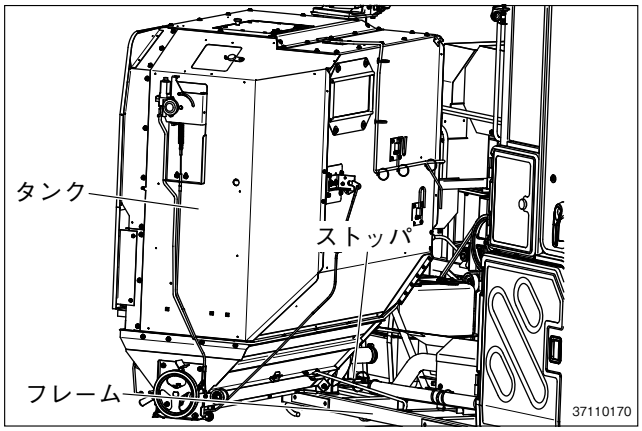
⑵ タンク後部のカバーを開きます。



(3) グレン駆動ベルトを，プーリより外します。
(4) タンク回動レバーとタンク固定レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。



(5) タンクのストッパをフレームにかけます。



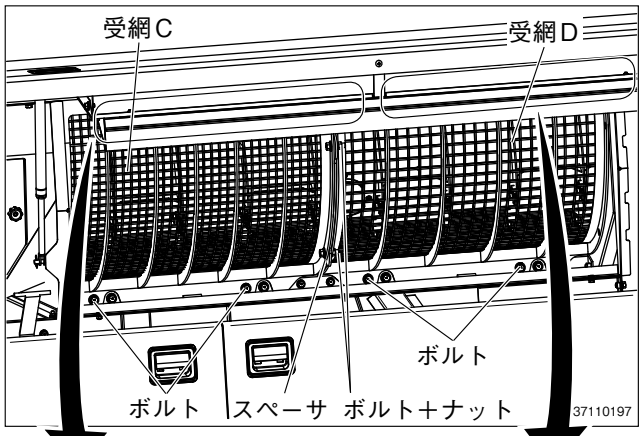
(6) 収納は逆の手順で行います。
(7) タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持ち上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押込みます。

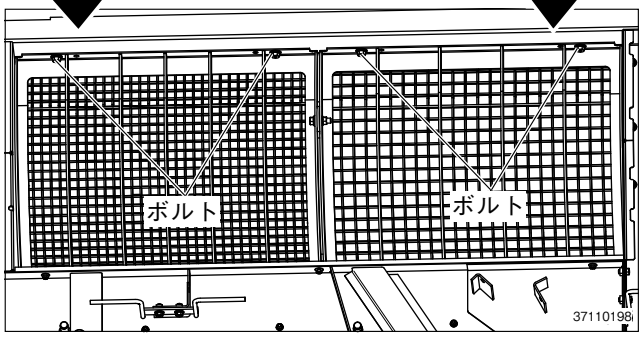
取扱いのポイント

- **収納後は，ベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。**
- **タンク回動は，タンク回動レバー，タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。**
- **タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行なってください。**

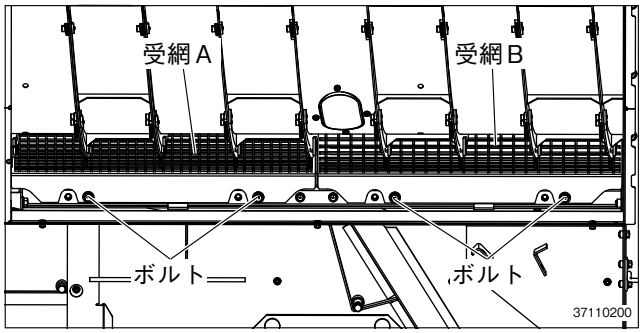
⑫ 脱こく受網の脱着のしかた

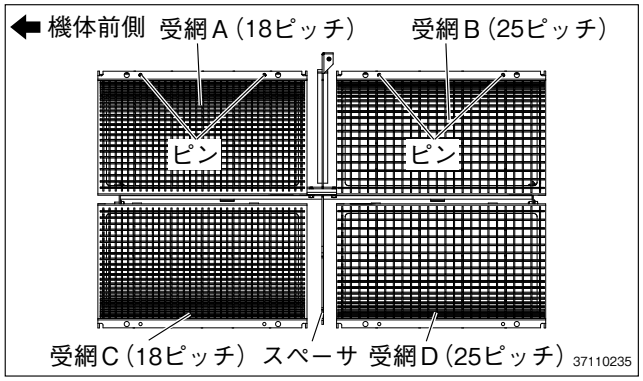
(1) ボルト＋ナット２組を外し，スペーサを取外します。
(2) ボルト４本を外し，受網Ｃを取外します。
(3) ボルト４本を外し，受網Ｄを取外します。





(4) ボルト２本を外し，受網Ａを取外します。
(5) ボルト２本を外し，受網Ｂを取外します。





(6) 取付け方法は，取外しの逆の手順で行ないます。

取扱いのポイント

- **ボルト，ナットを脱こく内部に落とさないように注意してください。**

10．各部の掃除のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れを行なってください。

⚠危険

◆フィーダやロータカバー上部に上がって作業を行なうときは，転倒・転落のおそれがありますので，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行なってください。

⚠警告

◆エンジンを止めてください。
◆取外したり，オープンした回転部のカバー類はそのままでは衣服などを巻込み危険ですので取付けてください。
◆各搬送チェーンや刃部には注意してください。ケガをするおそれがあります。
◆グレンタンクを回動し，機体内に入るとき，１番張り込みラセンが突き出していますので頭上に気をつけてください。
◆マフラカバー等，冷めてから作業を行なってください。
◆ヘッダ部やリールを上げた状態で作業するときは,刈取部を上げて,《油圧固定》位置にしてヘッダ部の下降防止を行なってください。
◆バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
◆刈刃の掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

⚠注意

◆空運転するときには各カバーを閉じてください。
◆オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します）
◆作業後はカバー類を確実に取付けてください。

取扱いのポイント

●水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
●掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確かめてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
●機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着してこく粒が残ることがあります。または，他作物の混入の原因になります。
●湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
●取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

各部の掃除

品種の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いてください。

掃除のしかた

刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にしてエンジンを止めます。

掃除をするときには，各部をオープン（開閉）または，掃除口を開いてください。

脱こく部を掃除するときは，ワラクズや残粒を落とすために上から下へと作業を行なうことをお奨めします。

１．グレンタンク部の掃除
２．脱こくロータ部の掃除
３．脱こく受網の掃除
４．揺動流板の掃除
５．１番ラセン部の掃除
６．２番ラセン部の掃除
７．１番ラセン底板・２番ラセン底板の掃除

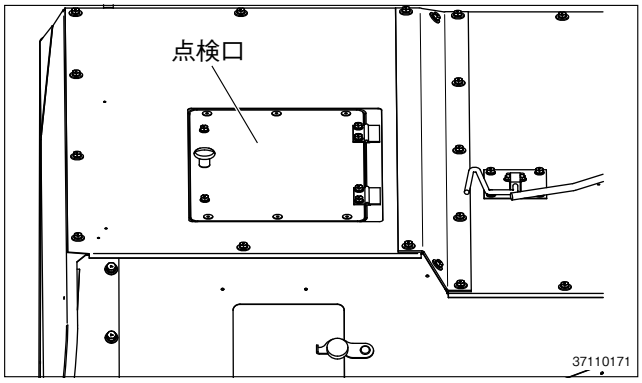
❶ グレンタンク部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をするときは，平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，各部の動きが止まってから行ってください。

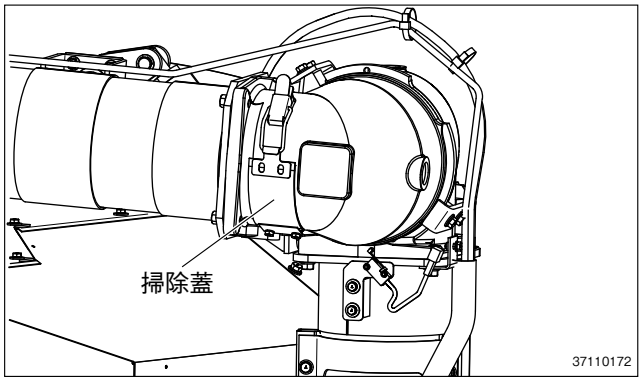
1．グレンタンク内の掃除

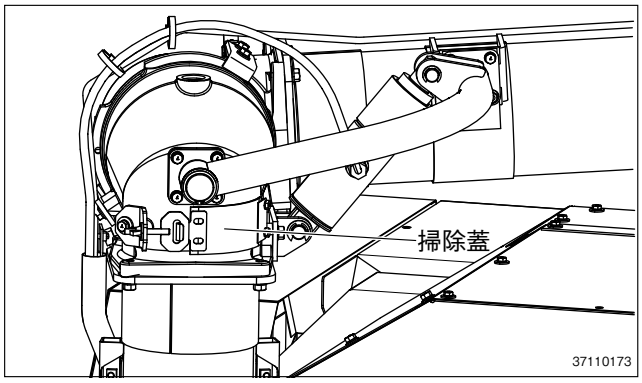
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要に応じてホウキなどでホコリを払い，ゴミは，ラセンカバーを開いて外に出します。



2．縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ，上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。





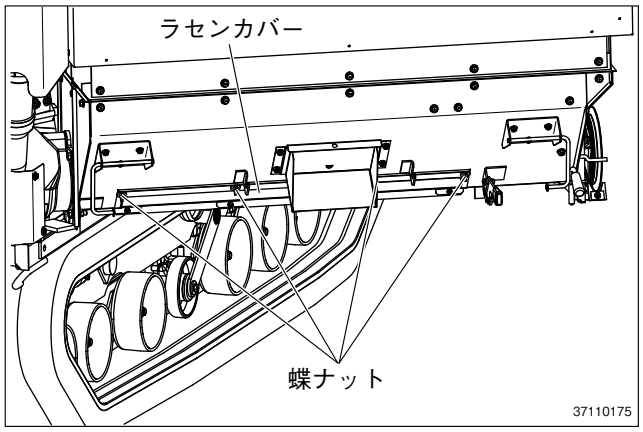
3．横ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ タンクを一杯に回動し，ストッパをフレームにかけます。(108～109ページ参照)

⑶ 蝶ナットをゆるめて外し，ラセンカバーを開いて，掃除します。

⑷ ラセンカバーを蝶ナットで固定し，タンクを閉じてグレンタンク下部カバーを取付けます。

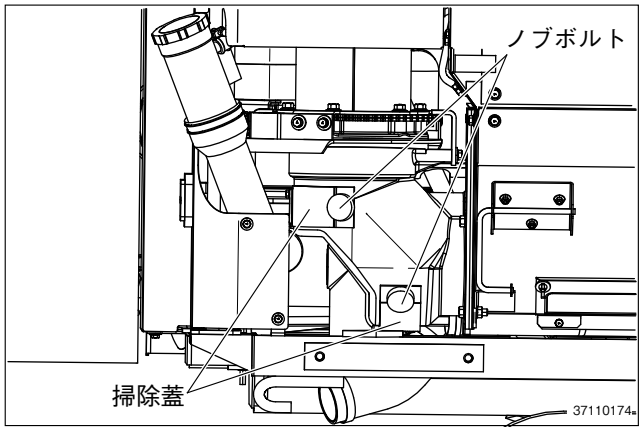


4．縦ラセン筒下部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ 縦ラセン下部の掃除蓋を開いて，掃除します。

⑶ グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

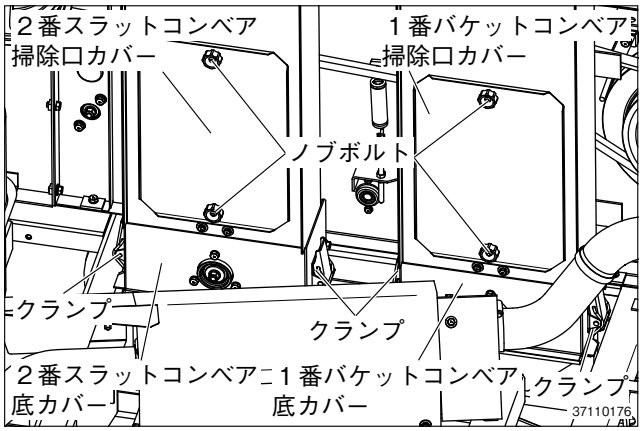
●各掃除蓋（カバー）は，モミ噛などによるすき間がないことを確認して，確実に締めてください。

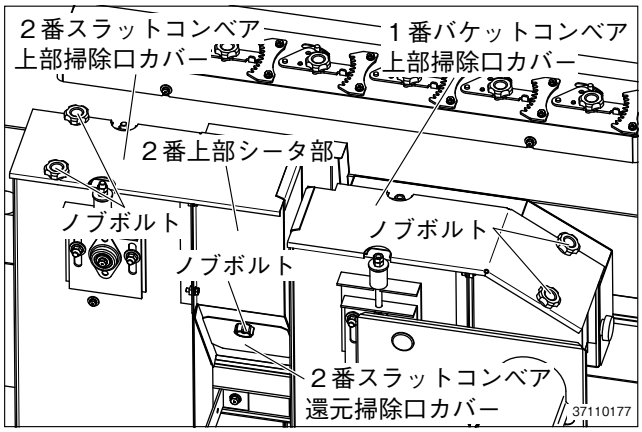
❷　１番バケットコンベア・２番スラットコンベア掃除口内および底カバー

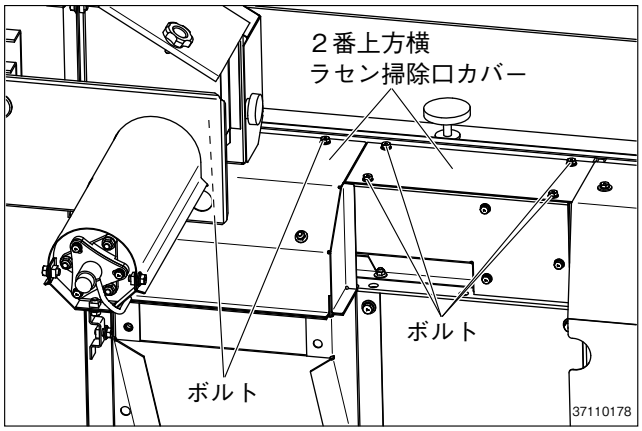
グレンタンクを回動してください。(108～109ページ参照)

掃除後は元通りにしてください。

ノブボルトまたは，ボルトを外し，１番・２番コンベアの掃除口カバー，クランプおよび各底カバーを取外して掃除してください。

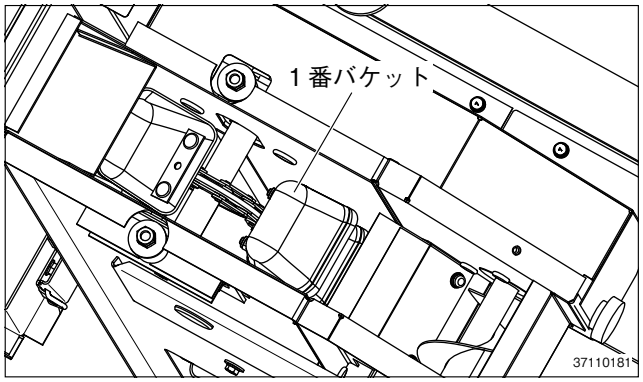


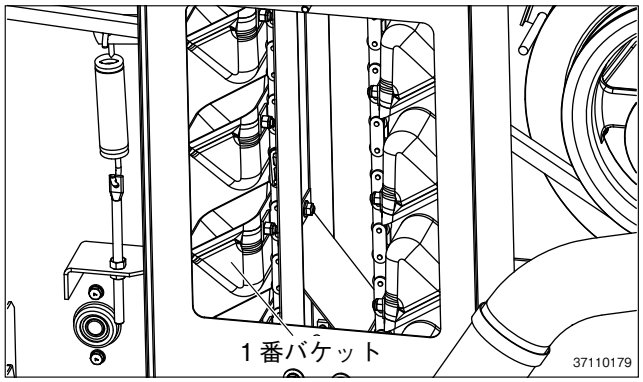


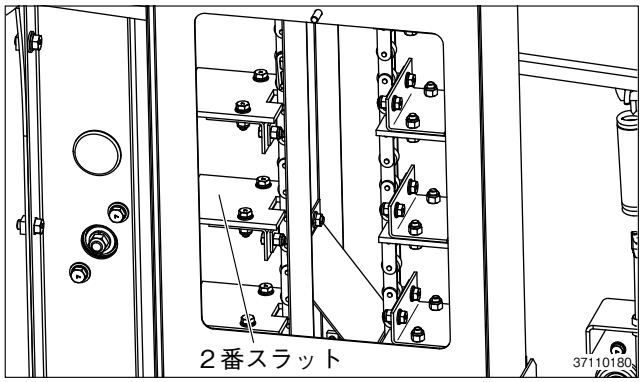


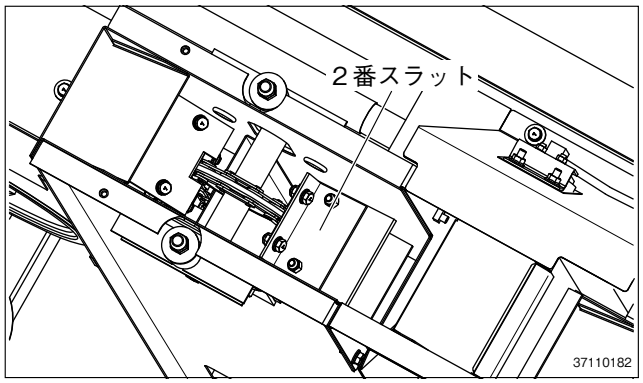
取扱いのポイント

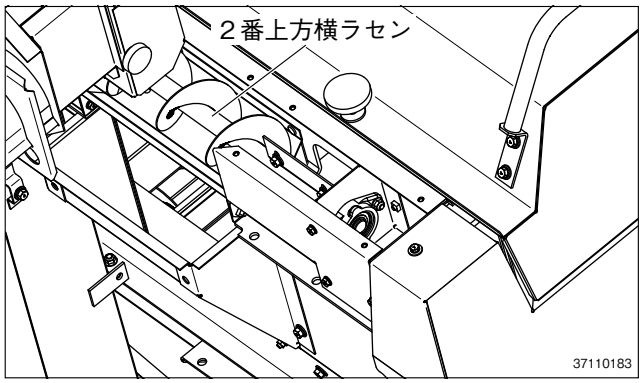
●バケットやスラットの汚れを布などで拭取ってください。







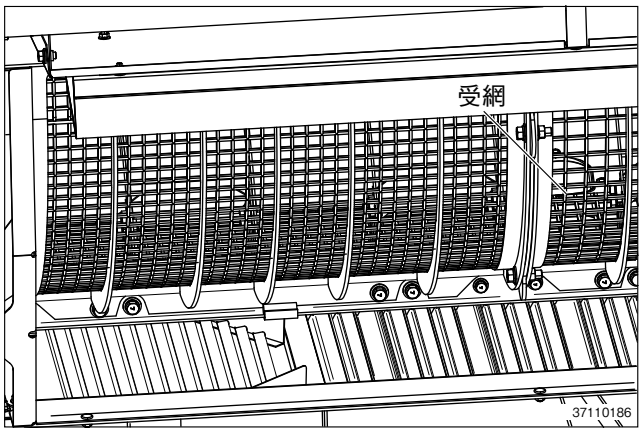




❸ 脱こく内部の掃除

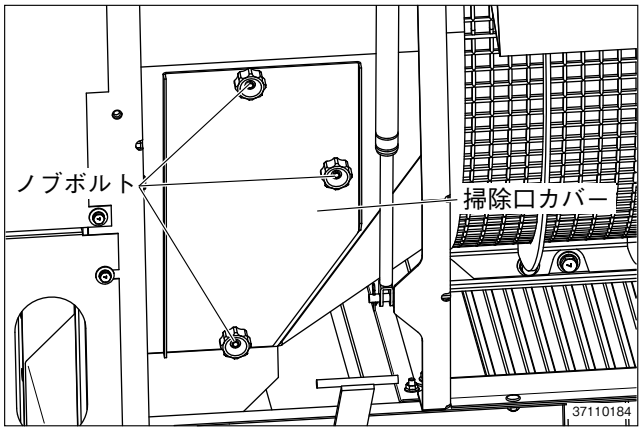
ロータサイドカバーを開き，脱こく左前，左後カバー，チョッパ左右カバーを取外し，チョッパスプレッダを開いてください。(100～103ページ参照)

(1) 受網を取外して掃除してください。

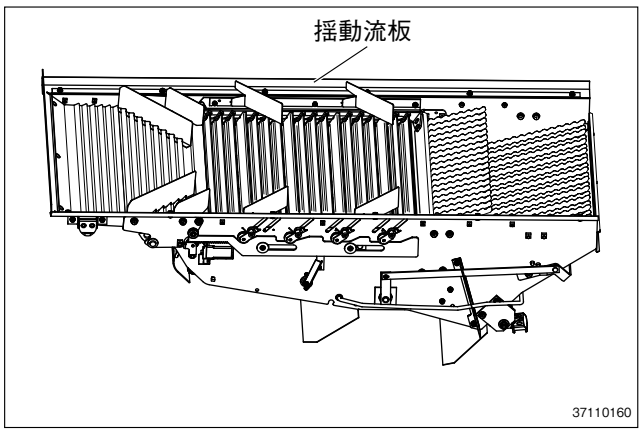


(2) ロータ入口板前側に掃除口があります。

掃除口カバーを取外して，掃除をしてください。掃除後，掃除口カバーを取付けてください。

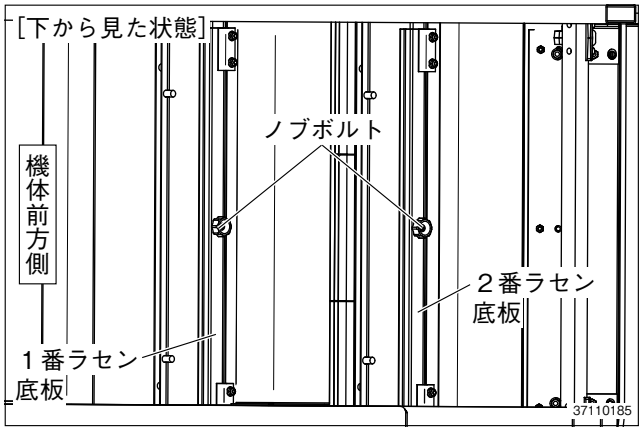


(3) 揺動流板を取出して掃除をしてください。(104～108ページ参照)



(4) 1番ラセン底板，2番ラセン底板を開き，1番ラセン，2番ラセンを掃除してください。

掃除後は，1番ラセン，2番ラセン底板を閉じてください。

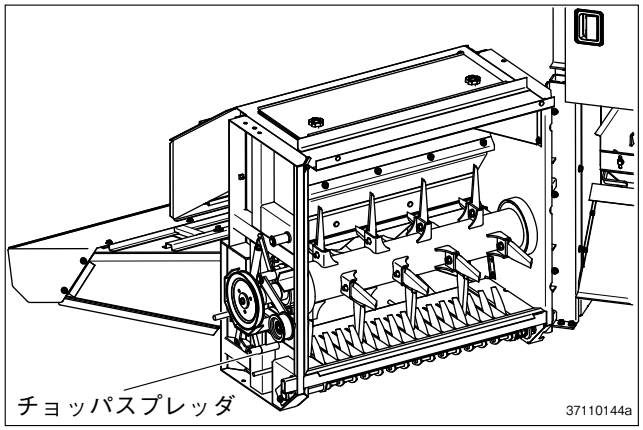


取扱いのポイント

●掃除後は底板の合わせ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。

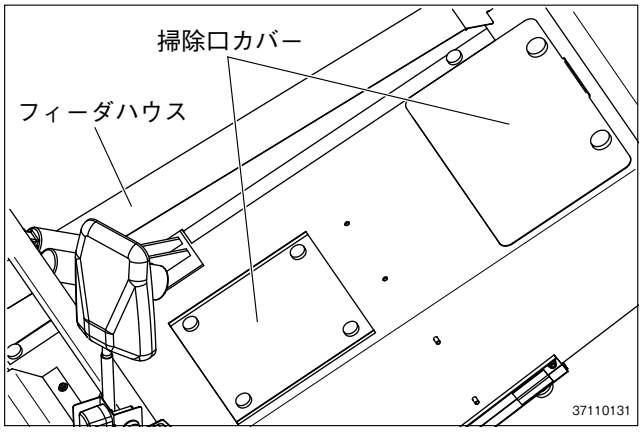
❹ チョッパスプレッダ内部の掃除

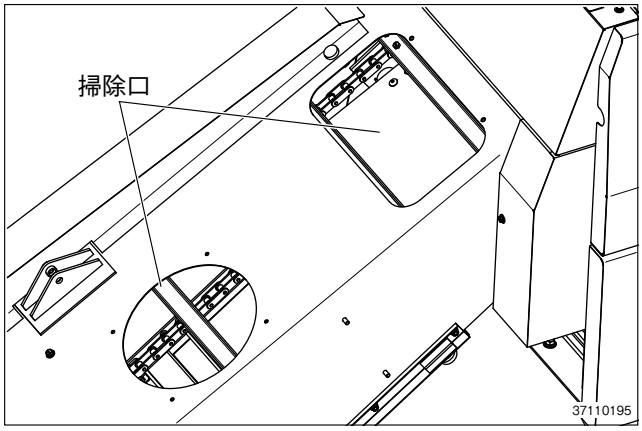
チョッパスプレッダを回動して掃除をしてください。掃除後はチョッパスプレッダを閉じてください。(102～103ページ参照)

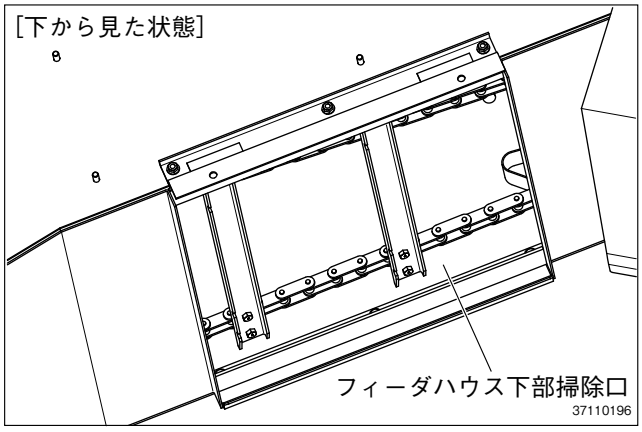


❺ フィーダハウス部の掃除

フィーダハウス上部，下部の掃除口カバーを取外して掃除をしてください。掃除後は掃除口カバーを取付けてください。(99ページ参照)





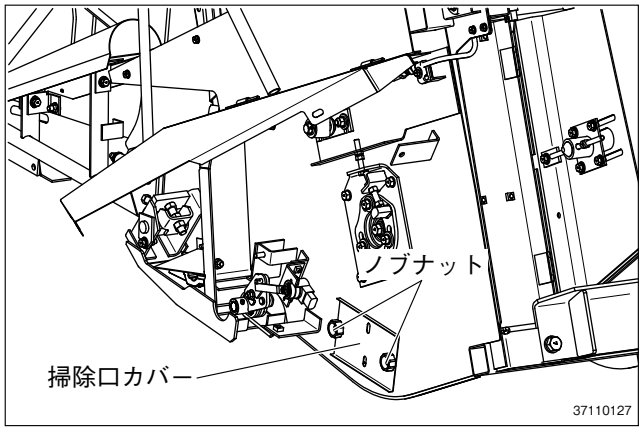


取扱いのポイント

●水分の高い作物などの刈取りを行なうと，フィーダハウス内部に作物のくずが溜まりやすいので，刈取作業が終わった後は，必ずフィーダハウス内部の掃除を行なってください。

❻ ヘッダ部プラットホームの掃除

ヘッダ部左側カバーを開き掃除口カバーを取外し掃除をしてください。掃除後は掃除口カバーを取付けて，カバーを閉じます。(99ページ参照)

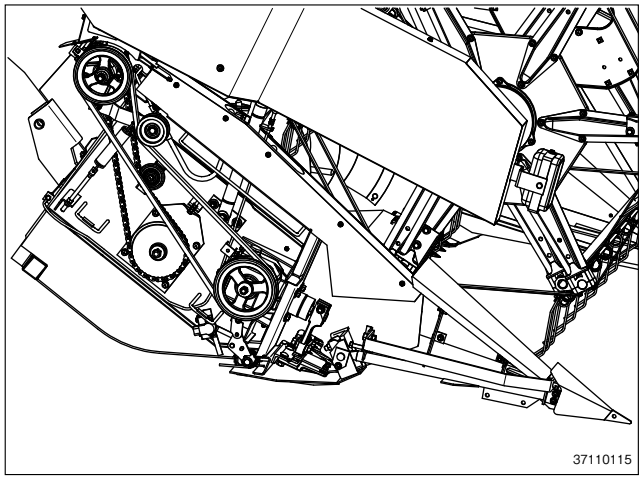


取扱いのポイント

●機体の左を下げるように機体を傾けると，掃除が容易にできます。

❼ ヘッダ部右側の掃除

ヘッダ部，プラットホーム右カバーを取外して掃除をしてください。掃除後は，プラットホーム右カバーを取付けてください。(99ページ参照)



11．各部の点検と整備のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

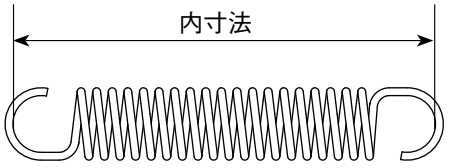
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

●スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。



V149

❶ ホース類の点検と交換

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホースなどの燃料漏れ，水漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

●燃料ホースは，定期交換部品ですので，２年ごとに「お買いあげ先」にて交換してください。

●燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（87～88ページ参照）

❷ 電気配線の点検のしかた

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは作業前，作業後にきれいに取除いてください。ワラクズやゴミが付着していますと，火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して，被覆のはがれや傷，接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は，「お買いあげ先」にて交換してください。

❸ 刈刃の調節のしかた

⚠警告

◆ヘッダ部を上げて作業するときは，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にし，ヘッダ部を固定脚に載せて固定してください。固定しないと，ヘッダ部が急に下がり，ケガをするおそれがあります。

◆刈刃の手入れや交換をするときは，厚手の手袋を着用し，刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

刈跡が揃わなくなったときは，刈刃のすき間を調節してください。

調節は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

調節のしかた

⑴ リールを最上げにしてください。

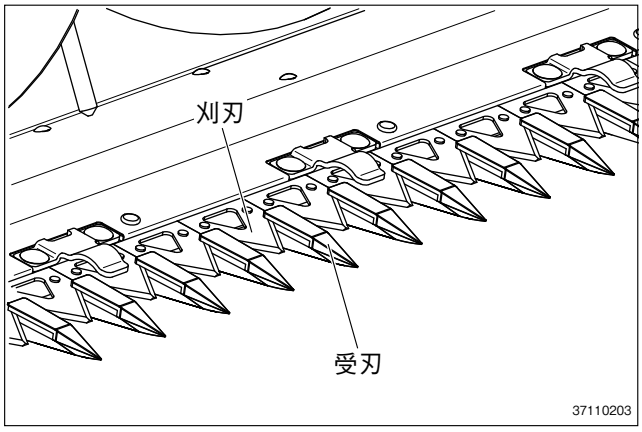
⑵ 受刃と刈刃上下面のすき間は，受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか，締付ナット（M10）をゆるめて，調整ライナで調節してください。

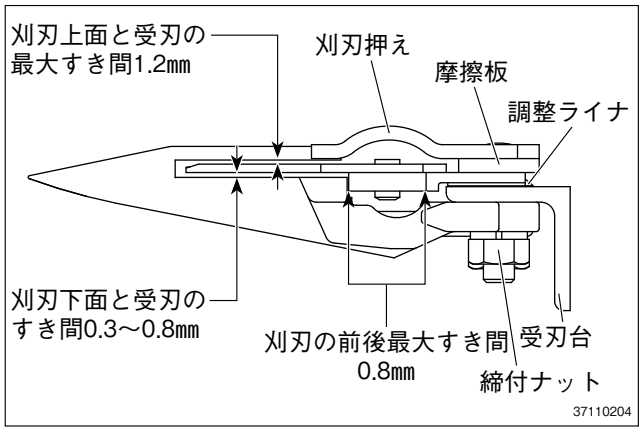
●受刃と刈刃上面……最大すき間1.2㎜

●受刃と刈刃下面……すき間0.3～0.8㎜

⑶ 刈刃の前後すき間は，締付ナット（M10）をゆるめて，摩擦板を前後に動かして，最大0.8㎜に調節してください。

⑷ 締付ナット（M10）を締め付けて固定してください。





［重要］

●**締付ナットは，締め付けすぎないように注意してください。**

●**刈刃には食品衛生上，食品機械用潤滑油を使用して，たっぷり注油してください。**

●**シーズン終了後には，刈刃に付着した泥やワラクズを取り除き，注油してください。**

❹ プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠警告

◆プラットホームオーガを手で回転させるときは，刈刃やリールが動くので，十分注意してください。

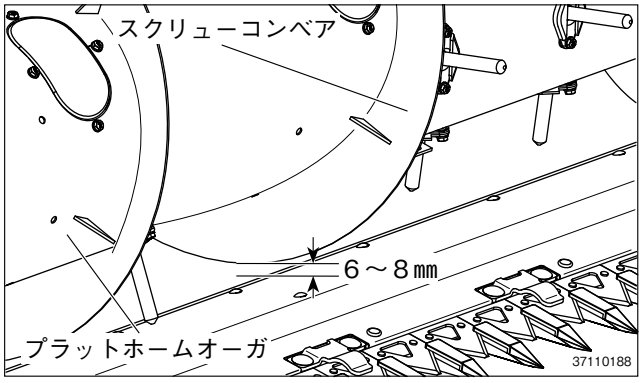
調節のしかた

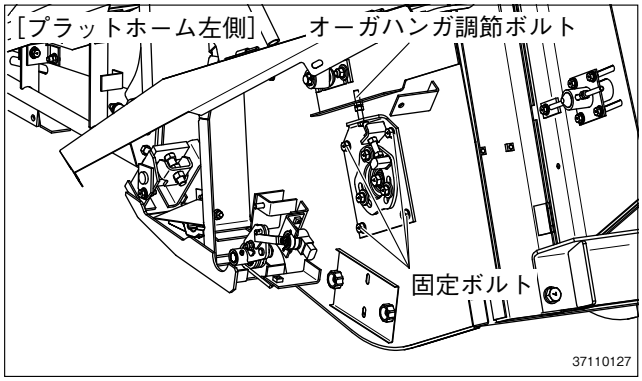
⑴ リールを最上げにしてください。

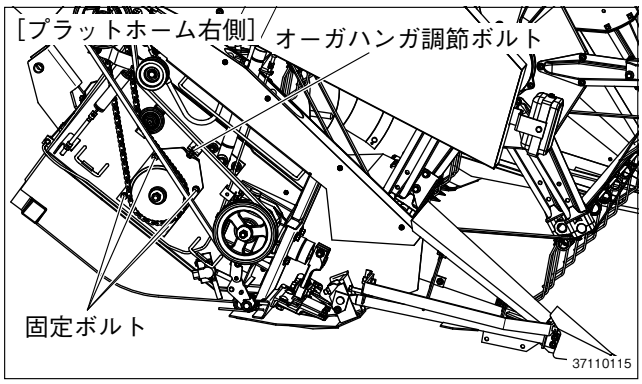
⑵ 固定ボルトをゆるめます。

⑶ プラットホーム底板とスクリューコンベアとのすき間が，稲・麦の場合は６～８㎜になるように，オーガハンガ調節ボルトで調節してください。

⑷ 固定ボルトを締付けます。







❺ プラットホーム底板とフィンガのすき間調節のしかた

⚠警告

◆プラットホームオーガを手で回転させるときは，刈刃やリールが動くので，十分注意してください。

点検のしかた

⑴ リールを最上げにしてください。

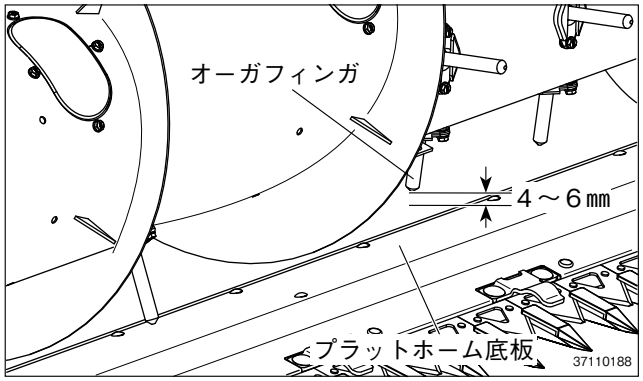
⑵ プラットホームオーガを手で回転させ，中央部のオーガフィンガが，プラットホーム底板に最も近い位置で，底板からフィンガ先端までの寸法を測定し，４～６㎜になっていることを確認してください。

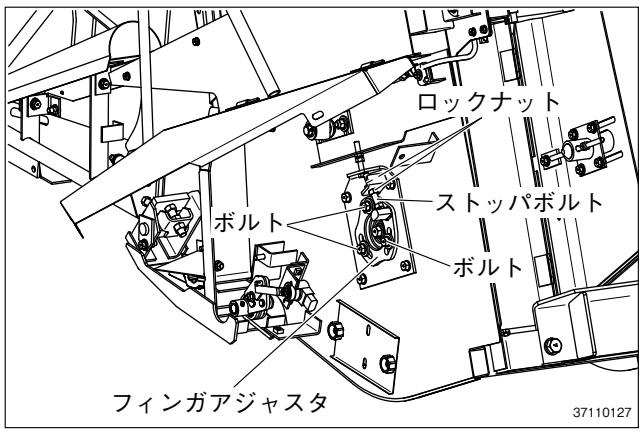
調節のしかた

⑴ 基準範囲内（４～６㎜）にないときは，ボルト（３本）とフィンガアジャスタのロックナットをゆるめてください。

⑵ フィンガアジャスタを回転させて調節してください。

⑶ ストッパボルトで固定してください。

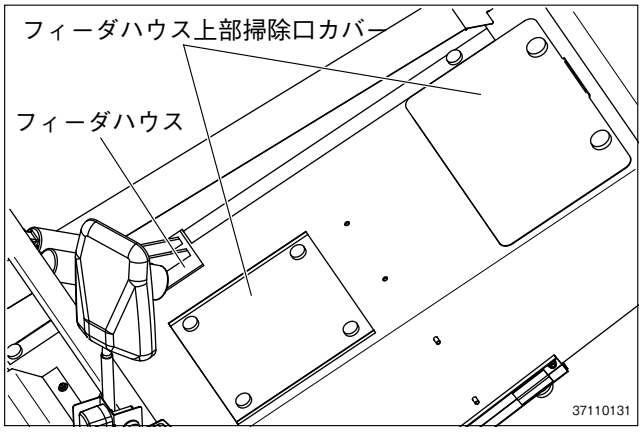




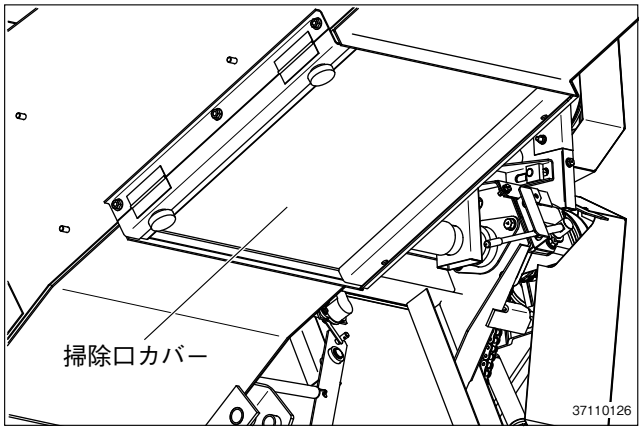
❻ フィーダチェンの張り調節のしかた

点検のしかた

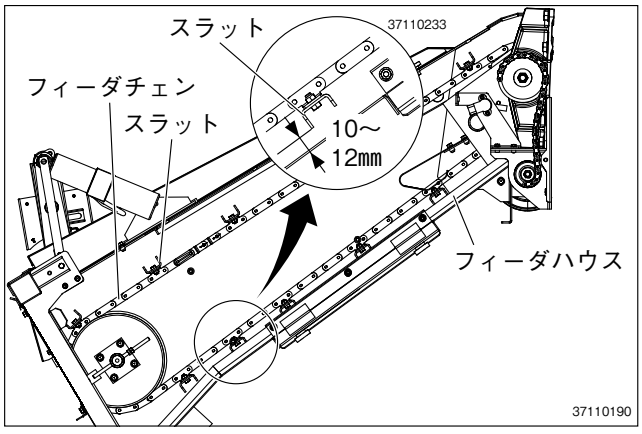
(1) フィーダハウス上の掃除口カバーを外してください。(99ページ参照)



(2) フィーダハウス下の掃除口カバーを外してください。(99ページ参照)



(3) スラットとフィーダハウス底板のすき間が10～12㎜になっていることを確認します。



調節のしかた

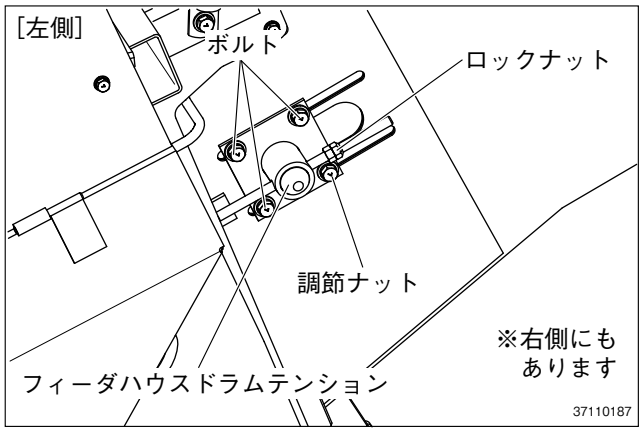
調節は，左右同時に行ってください。

(1) フィーダハウスドラムテンションの固定ボルト（４本）をゆるめてください。

(2) ロックナットをゆるめてください。

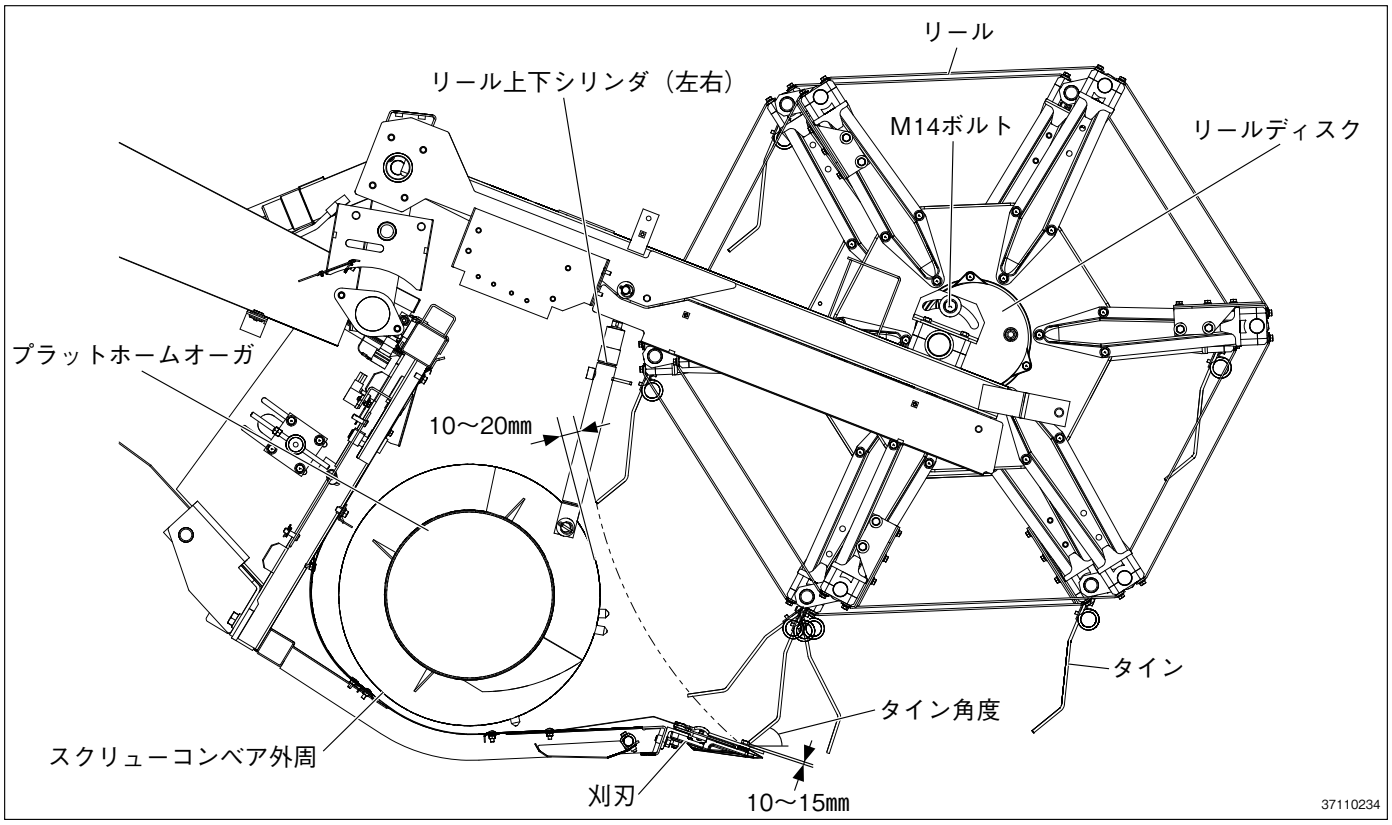
(3) 調節ナットを回して，すき間を調節してください。

(4) ロックナットとボルト（４本）を締め付けて固定してください。



(5) 各カバーを元通りに取り付けてください。

❼ リールの調節のしかた（リールの調節は，「お買いあげ先」に依頼してください。）

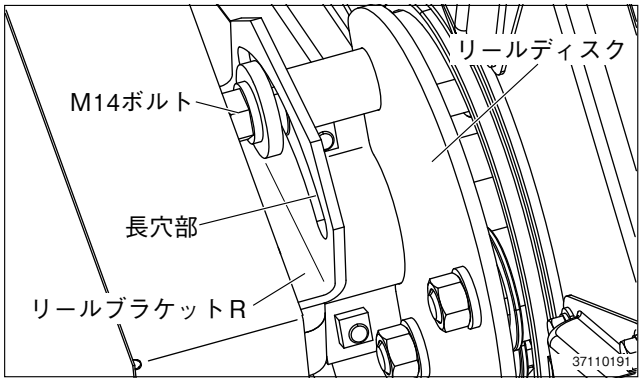


[刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節のしかた]

(1) M14ボルトをゆるめてください。

(2) M14ボルトの中心とリールブラケットRの長穴部の中心が合うように，リールディスクを動かしてください。

(3) M14ボルトを締め付けてください。

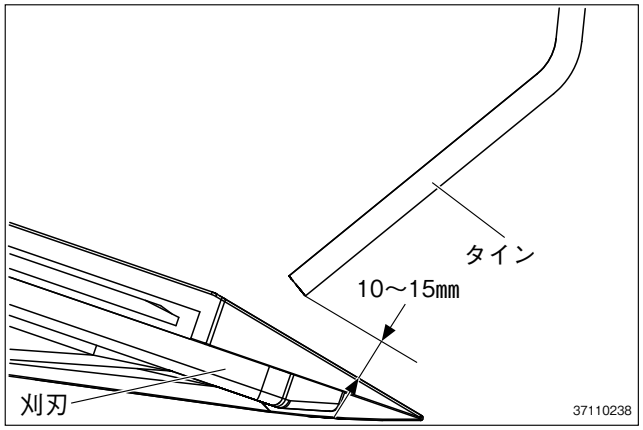


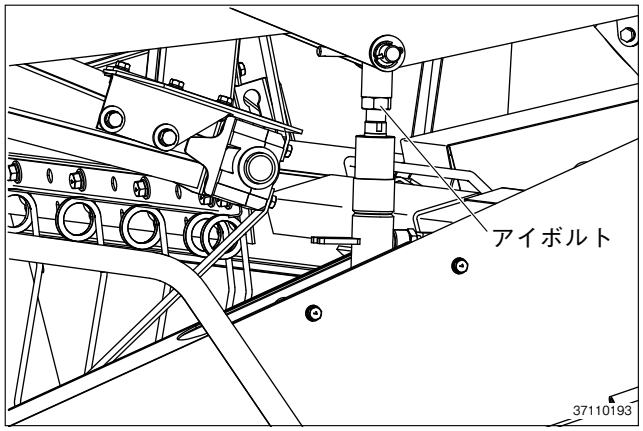
(4) エンジンを始動してください。

(5) リール前後スイッチを「**後**」側に押して，リールを後方へ移動し，リール上下スイッチを「**下降**」側に押して，リールをいっぱいまで下げてください。

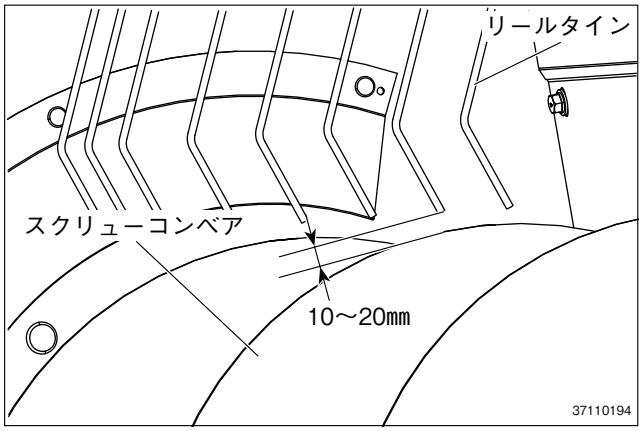
(6) エンジンを停止してください。

(7) 刈刃上面とリールタイン先端のすき間が，刈刃先端で10～15㎜になるように，リール上下シリンダのアイボルトで調節してください。





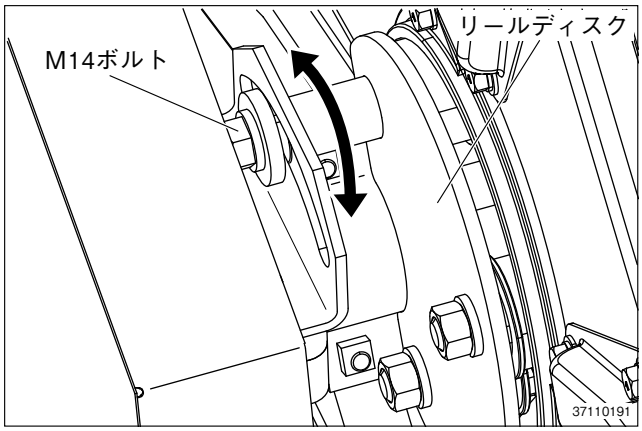
⑻ リールを回転させて，プラットホームオーガのスクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が，10～20㎜でスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認してください。

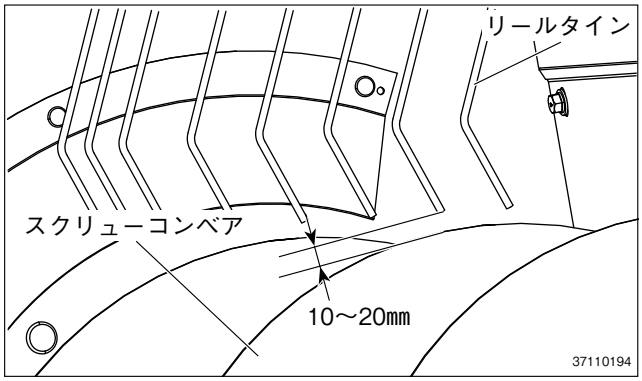


［スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が，適正でない場合の調節のしかた］

⑴ M14ボルトをゆるめ，リールディスクを前または後に動かしてすき間が10～20㎜で，スクリューコンベアの外周と接触しないように調節してください。

⑵ M14ボルトを締め付けてください。





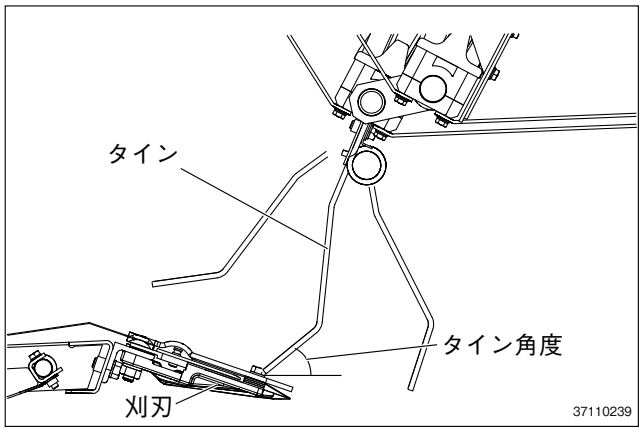
⑶ 再度，刈刃上面とリールタイン先端のすき間を確認してください。

取扱いのポイント

●リールタインとオーガフィンガが接触し，音が出る場合は，リールタインが当たらないように，リールタインを左右方向に動かしてください。

［倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合］

⑴ リールディスクの位置を前に動かし，タイン角度を小さくしてください。



⑵ 小さくしすぎると，プラットホームオーガと当たる場合がありますが，このときはリールを少し前へ出してください。

［立毛した作物で，リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合］

リールディスクを後に動かし，タイン角度を大きくしてください。

12. チョッパスプレッダの点検・整備のしかた

⚠警告

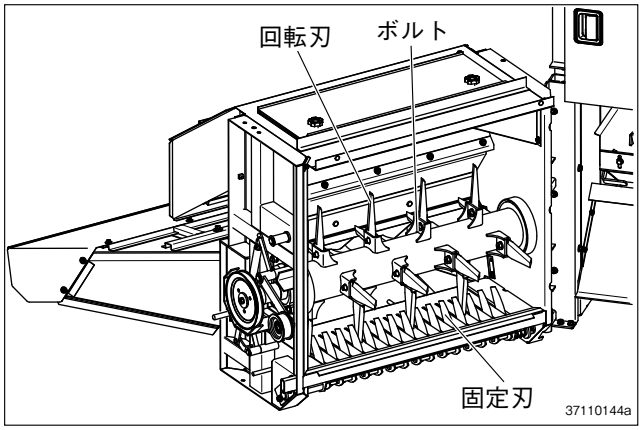
◆チョッパスプレッダの調節・点検・掃除を行うときは，必ずエンジンを停止させ，駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，エンジンを停止させ，回転部が完全に止まってから行ってください。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，回転部が動かないように注意してください。刃先が当たり，ケガをするおそれがあります。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，厚手の手袋を着用し，刃先に絶対にさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

・回転のバランスを保つために，回転刃が摩耗した場合は，交換してください。
・交換する固定刃および回転刃取付ボルト等は，純正部品を使用してください。
・固定刃および回転刃取付ボルトは，定期的に規定トルクで締め付けてください。（締付トルク110～115N・m｛11.2～11.7kgf･m｝）



「レバー・ペダルの点検・調整」

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

⑴ 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 36～38㎜ ですか。

⑵ 走行クラッチペダルをブレーキフックに掛けた状態でスプリングのⒻ寸法が 31～33㎜ ですか。

⑶ 坂道（17°）で駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

・運転席左下カバーを外します。

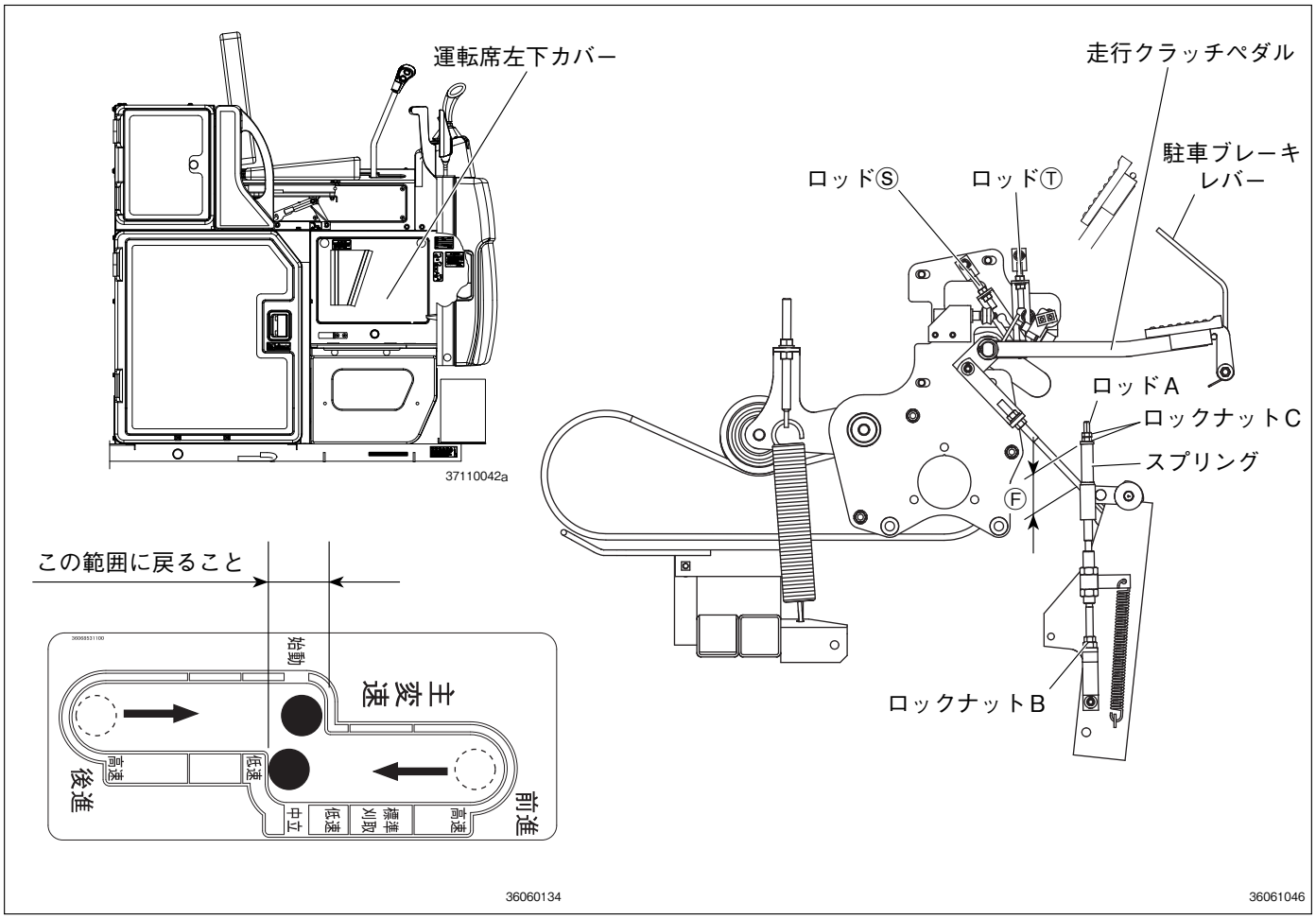
⑴ 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングのⒻ寸法を 36～38㎜ になるようにロックナットCで調整します。

⑵ 次に駐車ブレーキをかけた状態でスプリングのⒻ寸法を 31～33㎜ になるようにロッドAを調整します。

⑶ 調整後，ロックナットB，Cを締付けます。

⑷ 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようロッドⓈ（前進から戻す）とロッドⓉ（後進から戻す）を調整してナットを締付けます。

⑸ 運転席左下カバーを取付けます。



2. 脱こく・刈取クラッチ

❶ 点検

[脱こくクラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**脱こく**》にし,エンジンを停止させます。スプリング寸法が 140～141㎜ になっていますか。

[刈取クラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取) スイッチを《**刈取**》にし，強制かき込みスイッチを押した状態または，副変速レバーを《**中立**》にし，主変速レバーを前進位置にしてエンジンを停止させます。このときスプリング寸法が 102～104㎜ になっていますか。

❷ 調整

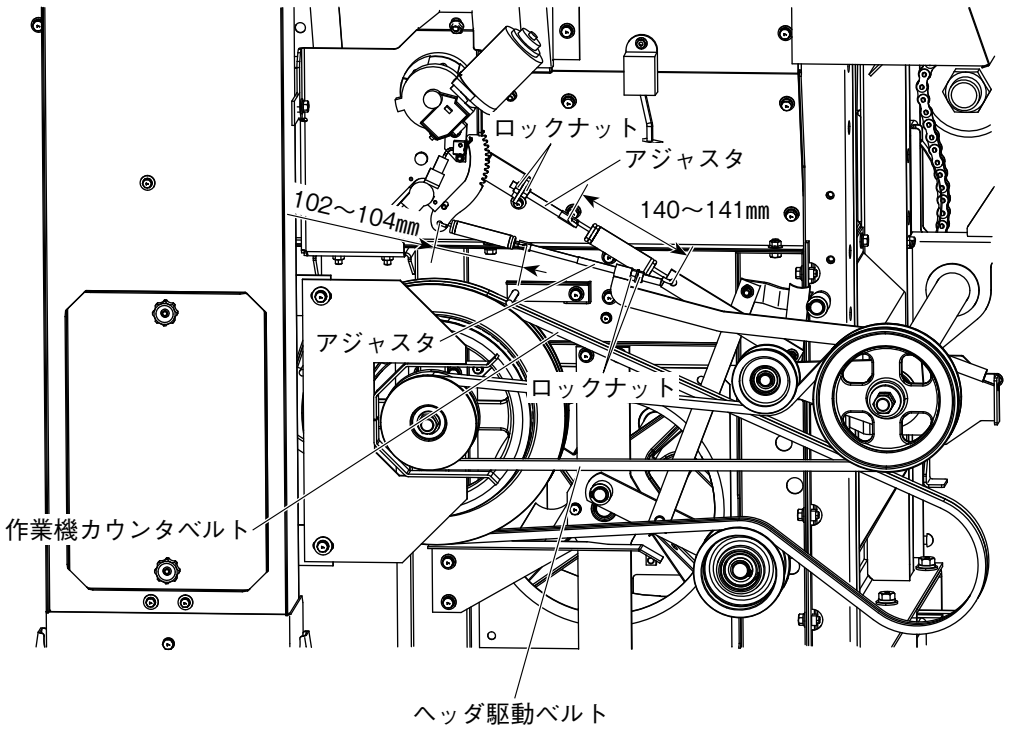
・グレンタンクを回動してください。(108～109ページ参照) 点検・調整後は元通りにしてください。

[脱こくクラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

[刈取クラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。



「各部チェンの点検・調整」

3．リール変速入力チェン

リールチェンカバー右後とプラットホーム右カバーを取り外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

❶ 点検

⑴ リール変速入力チェンカバーを取り外してください。

⑵ チェンの中央を，軽く指で押したときのたわみ量が，10〜15㎜ であるか確認してください。

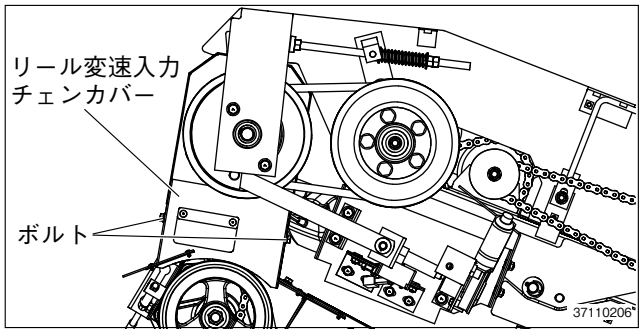
❷ 調整

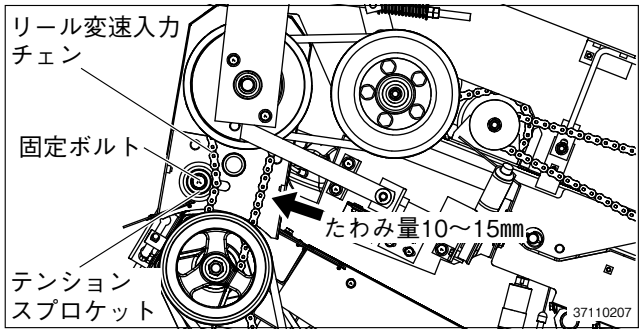
⑴ 固定ボルト（M12）をゆるめてください。

⑵ テンションスプロケットを移動させて，チェンを張ってください。

⑶ 固定ボルトを締め付けて固定してください。







4．プラットホームオーガ駆動チェン

プラットホーム右カバーを取り外してください。（99ページ参照）

点検・調整後は元通りに取り付けてください。

❶ 点検

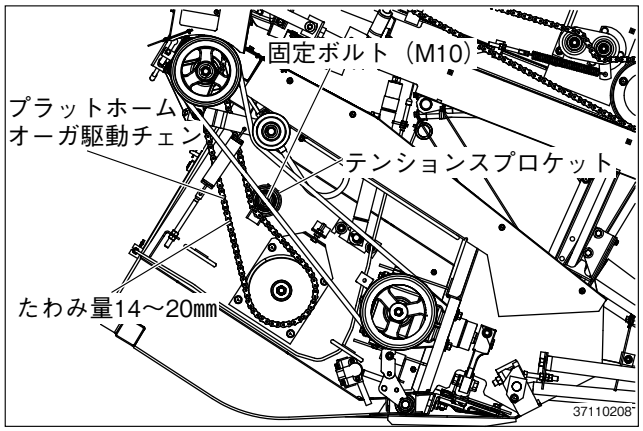
ＰＦオーガ駆動チェンの中央を指で押したとき，たわみ量が 14〜20㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ 固定ボルト（M10）をゆるめてください。

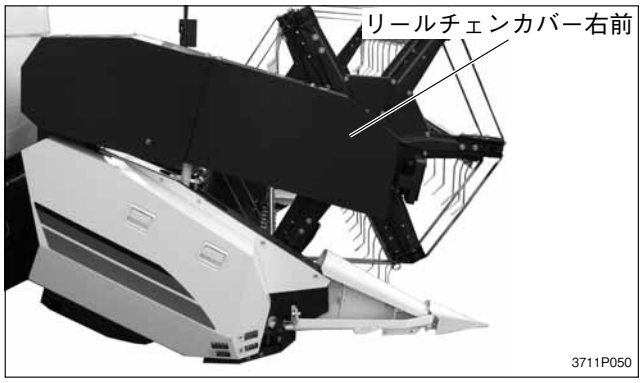
⑵ テンションスプロケットを移動させて，チェンを張ってください。

⑶ 固定ボルトを締め付けて固定してください。



5．リール駆動チェン

リールチェンカバー右前を取り外してください。
点検・調整後は元通りに取付けてください。

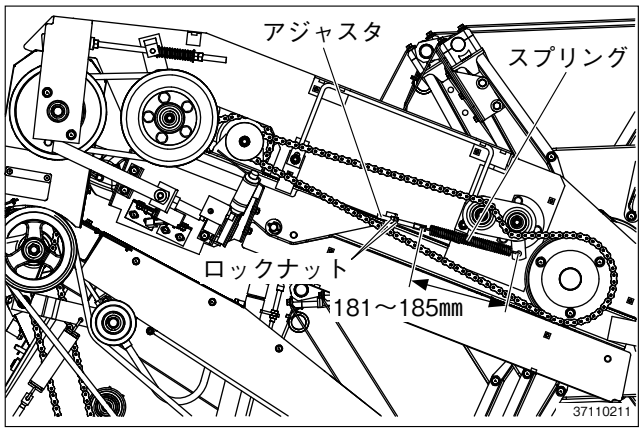


❶ 点検

テンション部のスプリング長さが 181～185㎜ であるか確認してください。

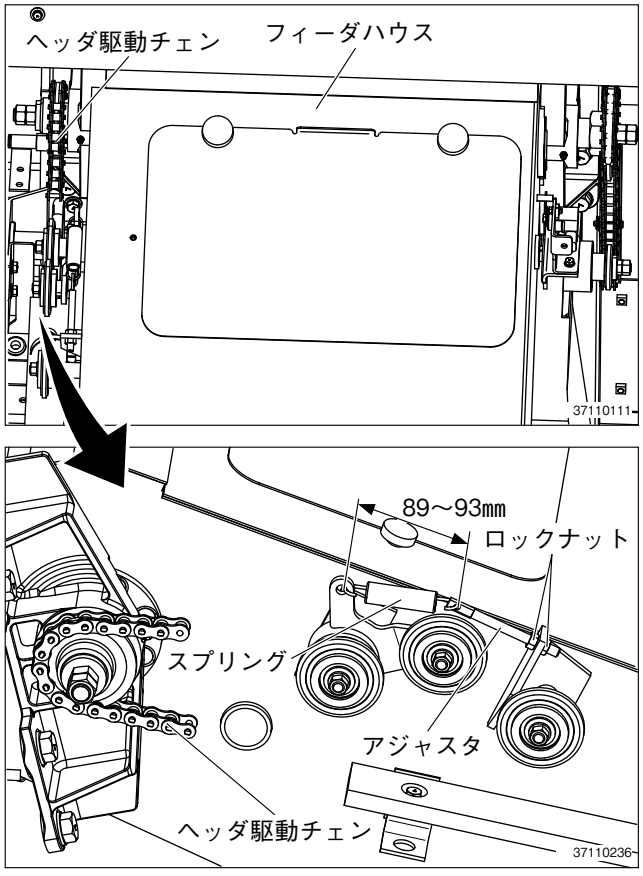
❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。



6．ヘッダ駆動チェン

フィーダハウス右カバーを取り外してください。
（100ページ参照）
点検・調整後は元通りに取付けてください。



❶ 点検

テンション部のスプリング長さが 89～93㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。

7．1番バケットコンベアチェン・2番スラットコンベアチェン

チェンがゆるむと，バケットおよびスラットが壁に当たり，騒音や破損の原因になります。

グレンタンクを回動してください。(108〜109ページ参照)

点検・調整後は，元通りにしてください。

❶ 点検

ワッシャとカラーのすき間が 0〜0.5㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ ロックナットをゆるめてください。

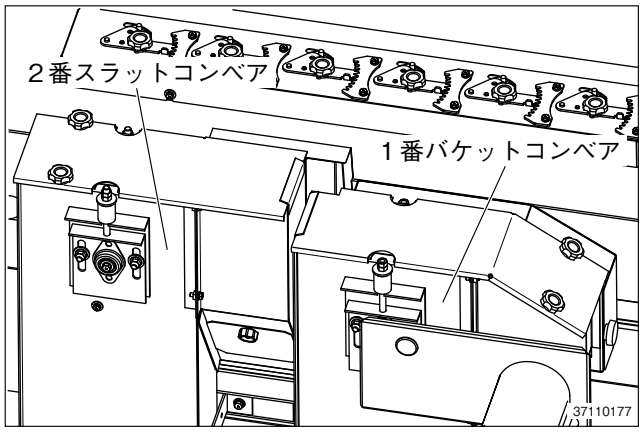
⑵ 調節ナットを左右交互に回して，チェンを引っ張ってください。

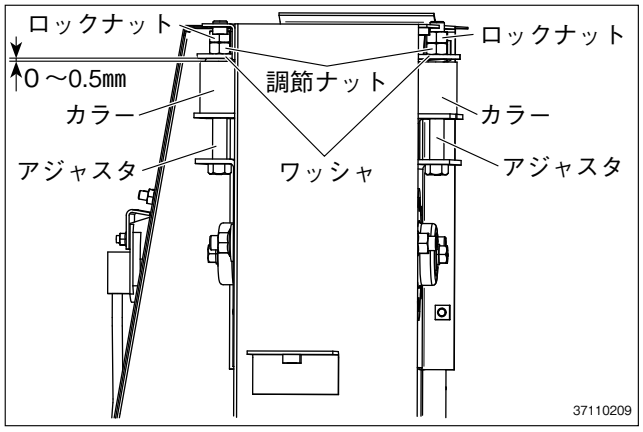
⑶ ワッシャとカラーのすき間を調整してください。

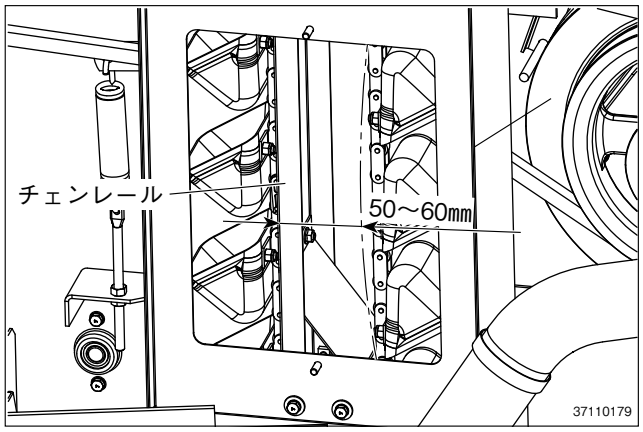
⑷ ロックナットを締付けて固定してください。

取扱いのポイント

●調節後に，コンベアチェンのたわみ量を，1番バケットコンベア，2番スラットコンベアの掃除口から確認してください。チェンとチェンレールを指でつまんで，50〜60㎜ であるか確認してください。







「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

8. 走行ベルト

❶ 点検

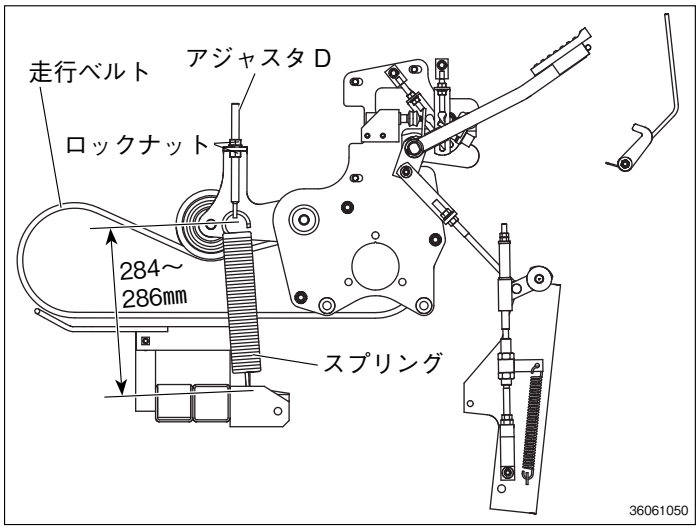
⑴ スプリング長さが 284～286㎜ になっていますか。

❷ 調整

・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

⑴ アジャスタDのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑵ 作業後足元カバーを取付けます。



9. コンプレッサ［キャビン仕様］

❶ 点検

コンプレッサベルトの下側の中央部を[10kg]で押して，タワミ量が 7～10㎜ となっていますか。

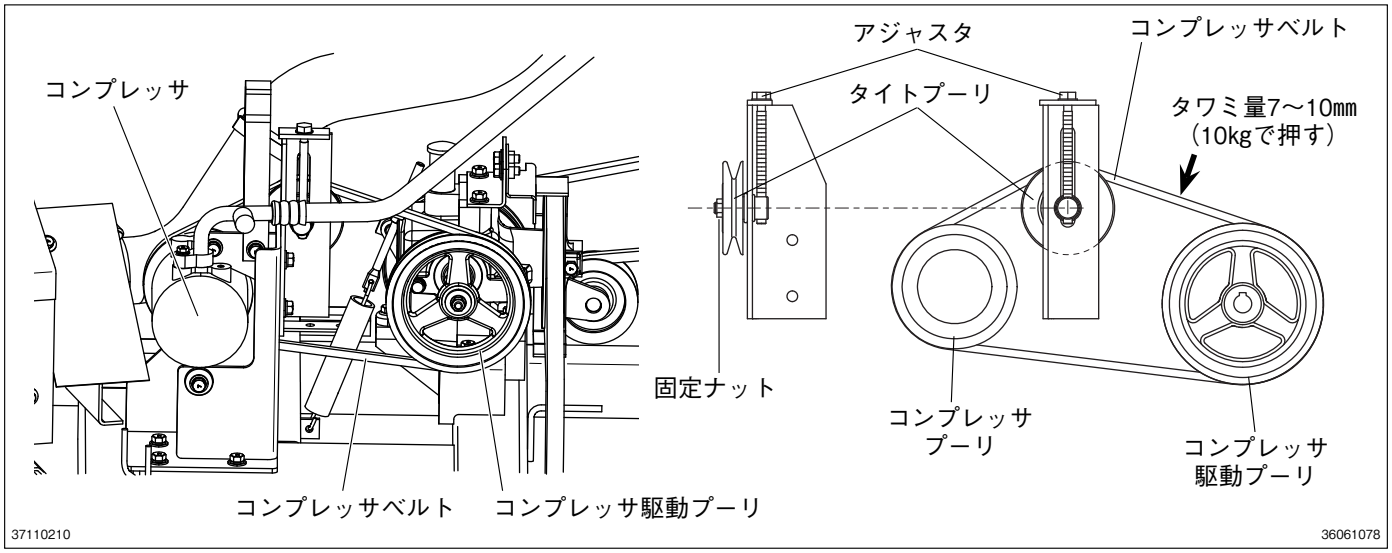
❷ 調整

⑴ グレンタンクを回動してください。（108～109ページ参照）点検・調整後は，元通りにしてください。

⑵ タイトプーリの固定ナットをゆるめます。

⑶ アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。

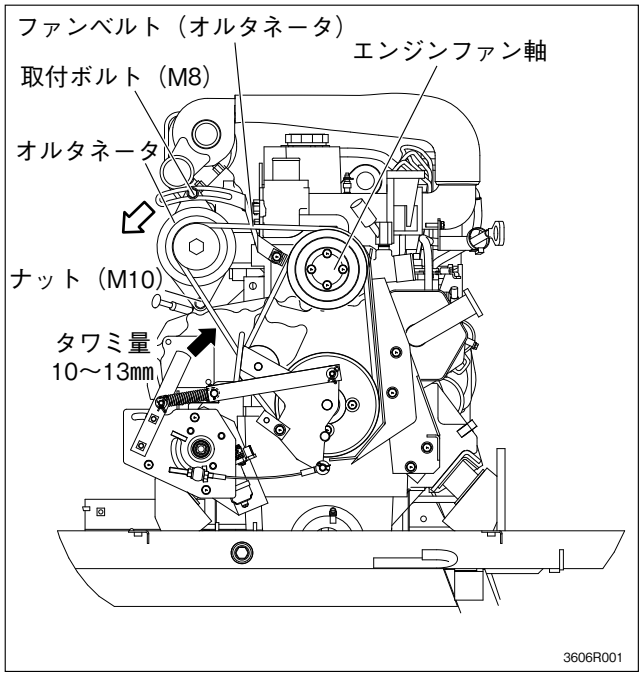
⑷ 調整後固定ナット締付けます。



10. ファンベルト（オルタネータ）

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行なってください。



❶ 点検

ファンベルト（オルタネータ）の長い方の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13㎜ となっていますか。

❷ 調整

・グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を取外します。（108～109ページ参照）

オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒し，ベルトを張ります。

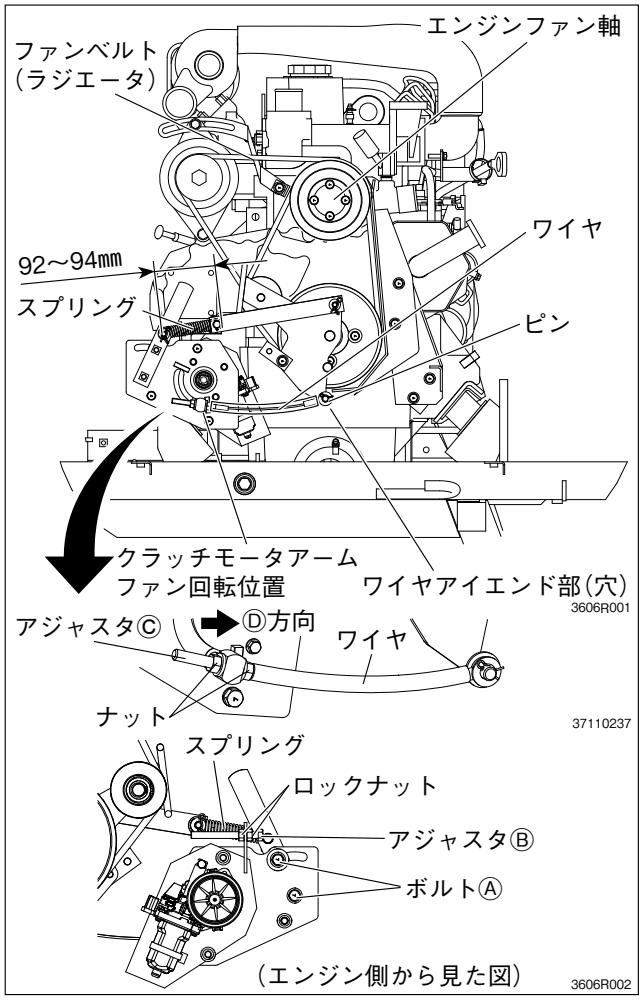
調整後，取付ボルトナットを締付けます。

作業後にカバーを取付けます。

11. ファンベルト（ラジエータ）

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行なってください。



❶ 点検

スプリング長さが 92～94㎜ となっていますか。

❷ 調整

⑴ クラッチモータアーム位置がファン回転位置であることを確認します。

⑵ ワイヤにたるみがある状態でボルトⒶ（２ヶ）をゆるめます。

⑶ アジャスタⒷのロックナットをゆるめスプリング長さを 92～94㎜ に調整し，ボルトⒶ（２ヶ）を締付けます。

⑷ 上記調整後，アジャスタⓒ部のナットをゆるめて，ワイヤを真直ぐに張った位置から 12～14㎜ アジャスタⓒをⒹ方向へずらしてナットを締付けます。（ワイヤの遊び量が12～14㎜となります。）

12. リール変速ベルト

リールチェンカバー右後を取り外してください。
点検・調整後は元通りに取付けてください。

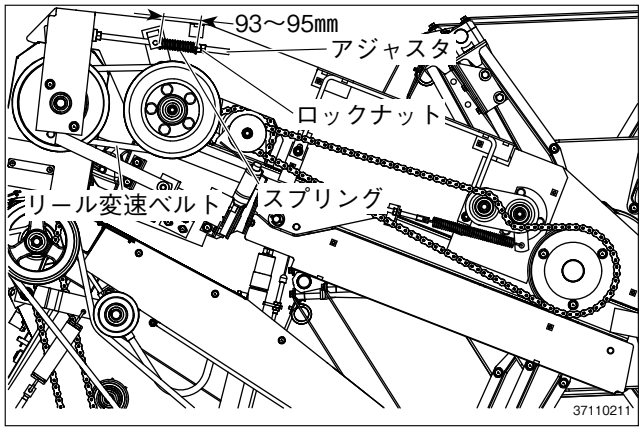


❶ 点検

・リール速度を最低速で回転させてからの点検となります。

最低速にする手順

1．副変速レバーを《**中立**》にします。
2．エンジンを始動し，回転を作業速度に合わせます。
3．パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にします。
4．リール回転ダイヤルスイッチを《**ＯＦＦ**》にし，ダイヤルを最左（低速）にします。
5．主変速レバーを前進側にします。（リールが回転し始める）
6．リールを10秒以上回転させます。
7．パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを切り，エンジンを停止させます。
8．この状態でリールチェンカバー右後を取外し，スプリング長さを確認します。



スプリング長さが 93～95㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
⑵ ロックナットを締付けて固定してください。

13. 刈刃駆動ベルト

プラットホーム右カバーを取り外してください。
点検・調整後は元通りに取り付けてください。
（99ページ参照）

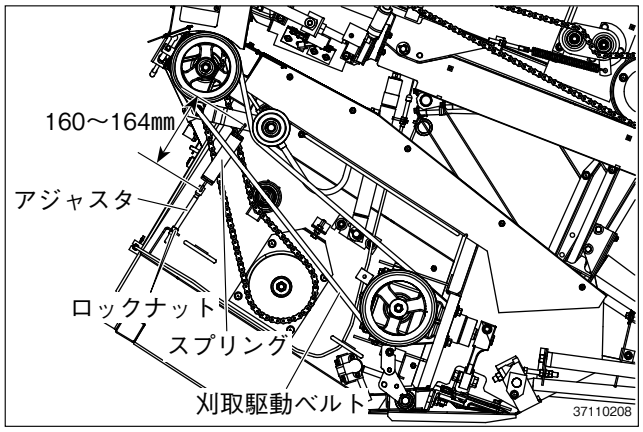
❶ 点検

スプリング長さが 160～164㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



14. 脱こく駆動ベルト

グレンタンクを回動してください。
点検・調整後は元通りにセットしてください。
（108～109ページ参照）

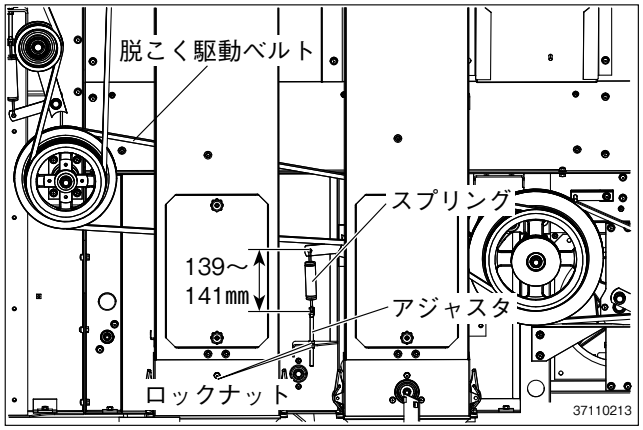
❶ 点検

スプリング長さが 139～141㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



15. 脱こくカウンタベルト

グレンタンクを回動してください。
点検・調整後は元通りにセットしてください。
（108～109ページ参照）

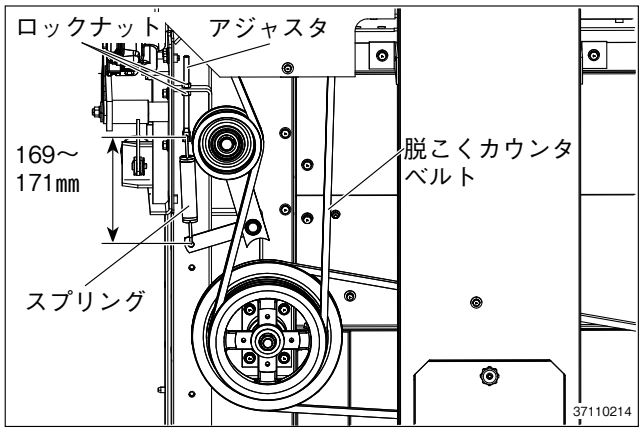
❶ 点検

スプリング長さが 169～171㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



16. 1番上方横ラセン駆動ベルト

1番上方横ラセン駆動ベルトカバーを取り外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

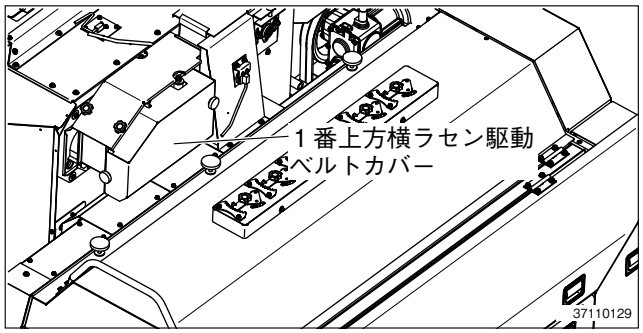
❶ 点検

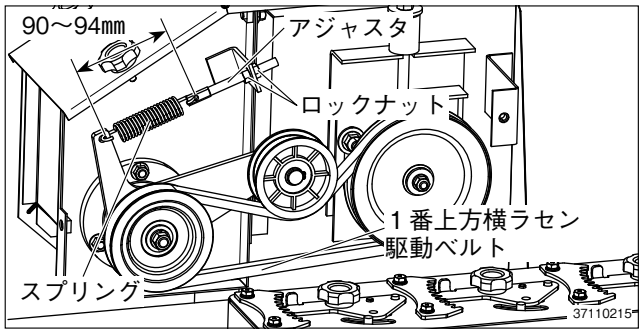
スプリング長さが 90〜94㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。





17. ロータ駆動ベルト

ロータ後カバーを取り外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。
（102ページ参照）

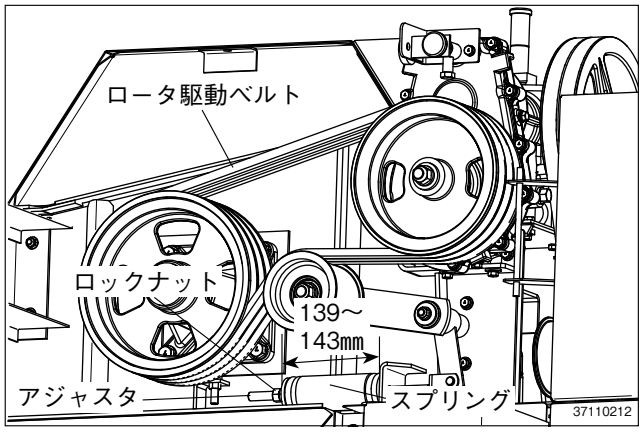
❶ 点検

スプリング長さが 139〜143㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



18. トウミ駆動ベルト

脱こく左前カバーを取り外してください。

点検・調節後は元通りに取付けてください。
（101ページ参照）

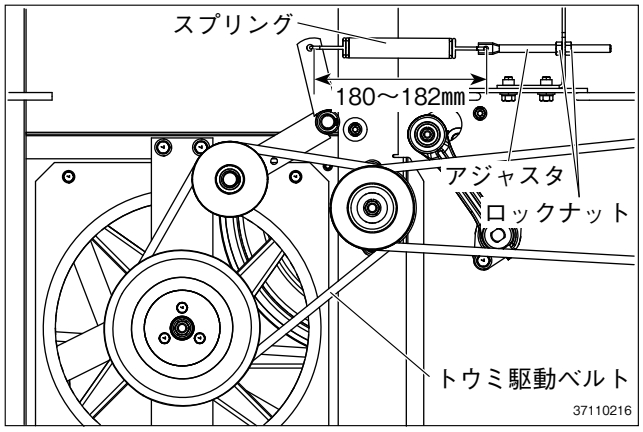
❶ 点検

スプリング長さが 180〜182㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



19. 1番ラセン駆動ベルト

脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取り外してください。(101ページ参照)

点検・調整後は元通りに取付けてください。

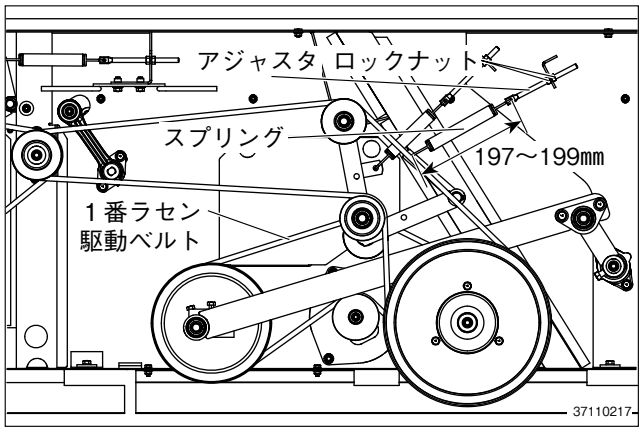
❶ 点検

スプリング長さが 197～199㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。

(2) ロックナットを締付けて固定してください。



20. 選別ベルト

脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取り外してください。(101ページ参照)

点検・調整後は元通りに取付けてください。

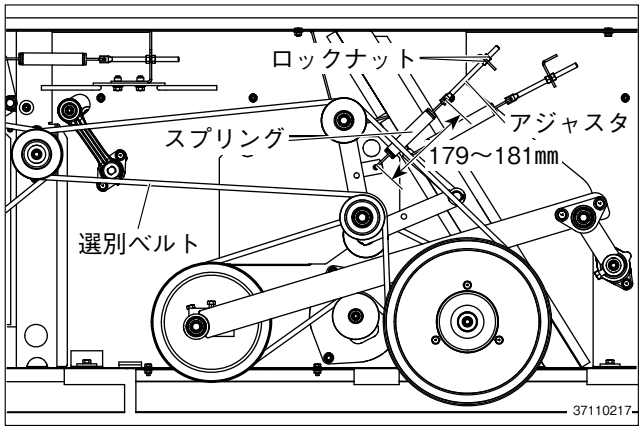
❶ 点検

スプリング長さが 179～181㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。

(2) ロックナットを締付けて固定してください。



21. グレン入力ベルト

グレンタンクを回動してください。

点検・調整後は元通りにセットしてください。(108～109ページ参照)

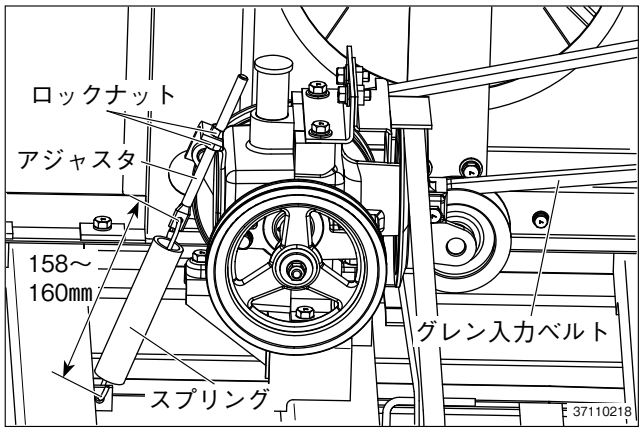
❶ 点検

スプリング長さが 158～160㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。

(2) ロックナットを締付けて固定してください。



22. グレンタンク横ラセン駆動ベルト

❶ 点検

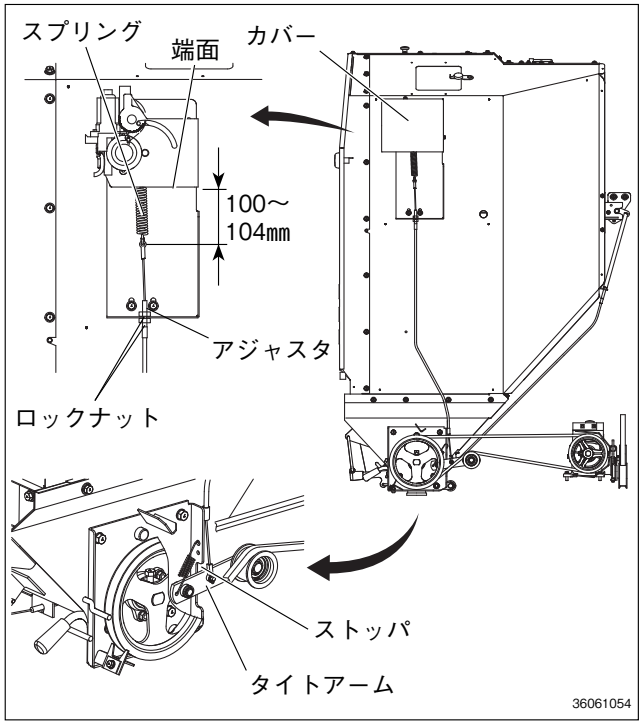
(1) カバーを外します。(キャビンなし仕様のみ)

(2) エンジンを始動し周囲の障害物に注意して排出オーガをこく粒排出範囲に移動させます。(46ページ参照)

(3) こく粒排出スイッチを《**入**》にします。このときグレンタンク内および排出オーガ内にこく粒が残っていると排出されるので注意してください。

(4) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止します。

(5) スプリング長さが 100～104㎜ であるか確認してください。



❷ 調整

(1) キースイッチを《**入**》にしスプリングの張りを元にもどします。(エンジンを始動する必要はありません。)

(2) グレンタンクを回動してください。(108～109ページ参照)

点検・調整後は，元通りにセットしてください。

(3) ワイヤのロックナットをゆるめアジャスタ部で調整します。

(4) エンジンを始動しこく粒排出スイッチを《**入**》にします。

(5) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止し，スプリング長さを確認します。

(6) カバーを取付けます。

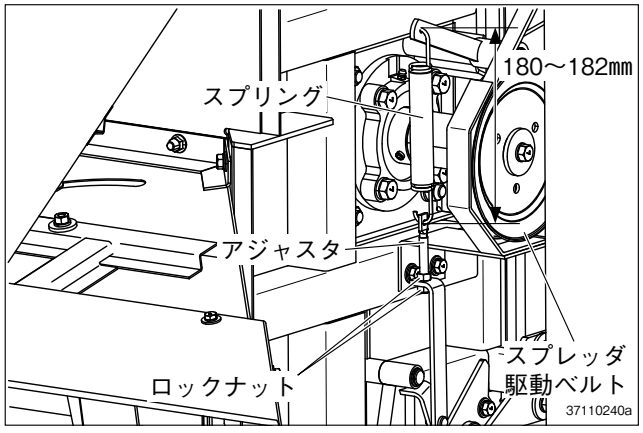
23. スプレッダ駆動ベルト

チョッパ右カバーを取り外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。(102～103ページ参照)

❶ 点検

スプリング長さが 180～182㎜ であるか確認してください。



❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整してください。

(2) ロックナットを締付けて固定してください。

「クローラの点検・調整」

24. クローラ

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

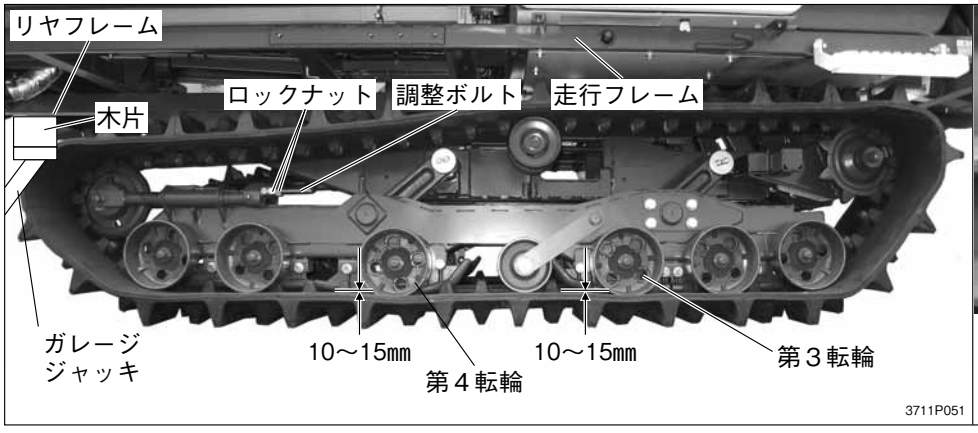
❶ 点検

⑴ 図示のように，トランスミッション部後フレームとリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせ，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませ固定します。

⑵ クローラ下面を地面から浮かせた状態で，第３転輪および第４転輪とクローラのすき間量が 10～15㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第３転輪および第４転輪とクローラの隙間が 10～15㎜ になるまで張ります。





取扱いのポイント

- **クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。**
- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損するおそれがありますので，行なわないでください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・ヘッダ部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したり漏れている場合は，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンク・フィーダハウス・プラットホームのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（104～114ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面に食品機械用潤滑油を塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆びないようにします。

フィーダチェン，１番バケットコンベアチェン，２番スラットコンベアチェン等については，指定のグリス，オイルを用いてください。

❸ 塗装が剥げた箇所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーは，いっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（76～77ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（70～71ページ参照）

取扱いのポイント

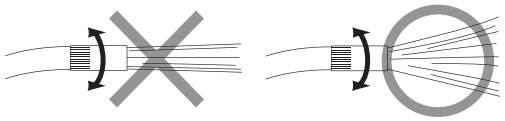
●**エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。**

⚠**注意** 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

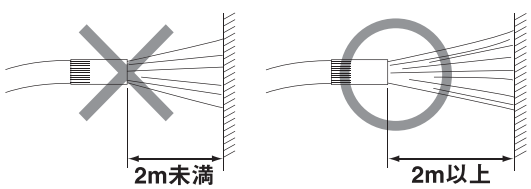
1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）（1）シール・ラベルの剥がれ
（2）電装部品，エンジン，ラジエータキャビン内等への侵入による故障
（3）クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
（4）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



直射 **拡散**

近距離洗車厳禁



5．格　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

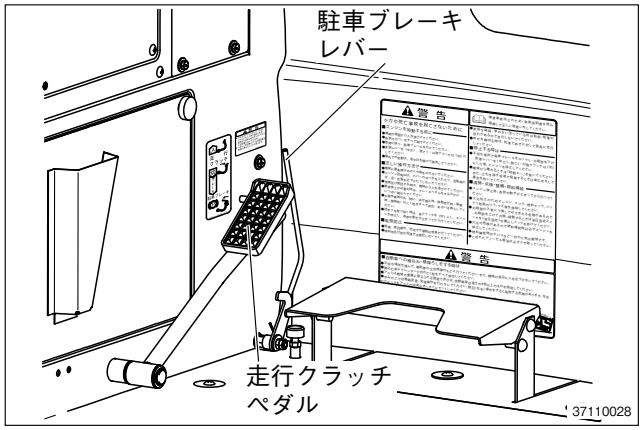
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》（**中立**）の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左右）**」を収納し，デバイダを取外し，プラットホーム左側に固定します。

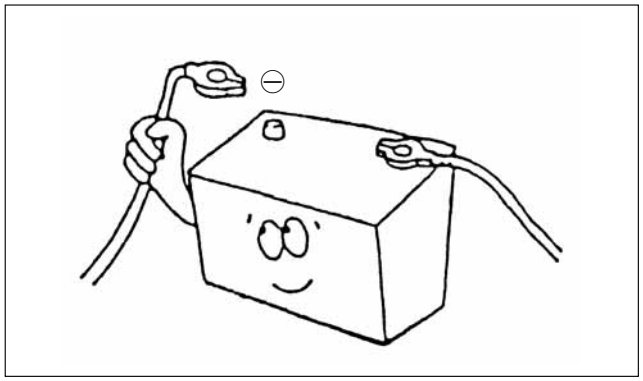
❹ ヘッダ部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



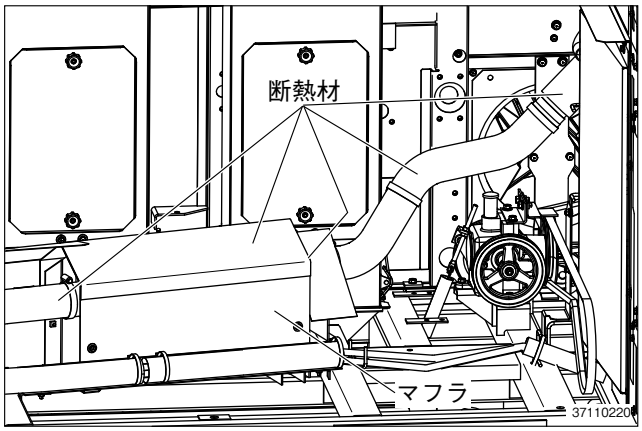
❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，㊀側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **マフラ部断熱材の損傷（破れ，剥れ）を確認し，損傷の場合は，火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。**



6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元してください。**

不調時の処置

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

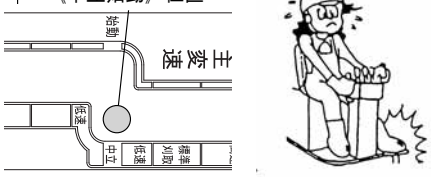
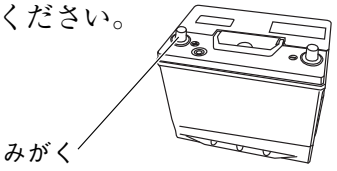
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意

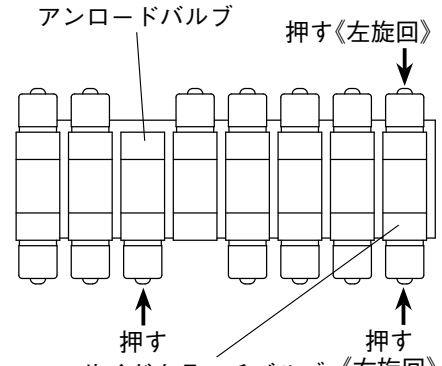
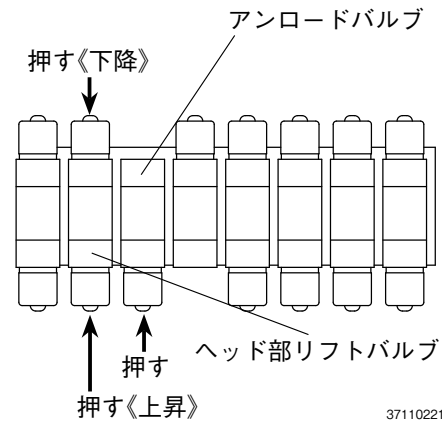
◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

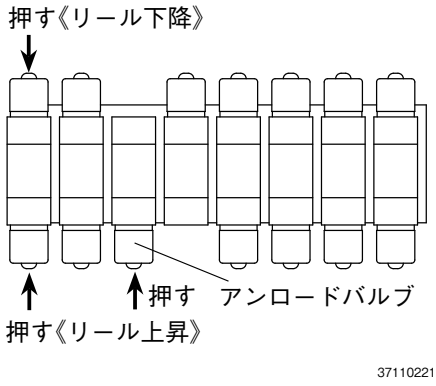
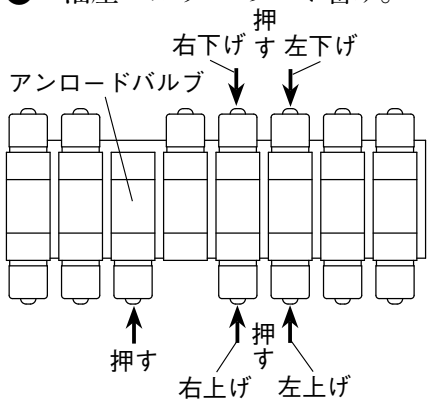
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶　主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。 主変速レバー 《中立始動》位置 	26
	❷　バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けてください。  みがく	92
	❸　メインヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，メインヒューズ（60A）を交換してください。	88～91
	❹　バッテリが放電している。	●バッテリを充電してください。	92～98
	❺　《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●スタータヒューズ（10A）を交換してください。	88～91

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをしてください。（ディーゼル軽油…60Ｌ）	74 87～88
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをしてください。	87～88
	❸　**《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器ヒューズ（15Ａ）を交換してください。	88～91
	❹　**《キー切り》**ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10Ａ）を交換してください。	88～91
	❺　燃料コックが**「閉」**のままになっている。	●燃料コックを開けてください。	86～87
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をしてください。 ●燃料フィルタを交換してください。	86～87
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換してください。	86
	❸　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換してください。	74～75
	❹　冷却水の不足。	●冷却水を補給してください。	76～77
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整してください。	128
	❻　**《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器ヒューズ（15Ａ）を交換してください。	88～91
	❼　**《キー切り》**ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10Ａ）を交換してください。	88～91

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《**N**》（**中立**）位置になっている。	●条件に合わせ《**標準**》，または《**走行**》位置にセットしてください。	17
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給してください。	78～79
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《**操向・リフトリール**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 操向・リフトリールヒューズ…15A マイコンヒューズ……10A	88～91
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えてください。	17
マルチステアリングレバーを操作してもヘッダ部が上昇または下降しない	❶ 《**操向・リフトリール**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 操向・リフトリールヒューズ…15A マイコンヒューズ……10A	88～91
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押したり，ヘッダ部リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にしてください。	11

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
リール上下スイッチを押しても作動しない	❶ 《**マイコン**》ヒューズまたは《**バルブ**》ヒューズまたは《**操向・リフトリール**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 マイコンヒューズ……10A バルブヒューズ……20A 操向・リフトリールヒューズ…15A	88～91
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押したり，ヘッダ部リールバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にしてください。	11
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	❶ 《**オーガ排出・水平**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**操向・リフトリール**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 オーガ排出・水平ヒューズ…10A マイコンヒューズ……10A 操向・リフトリールヒューズ…15A	88～91
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動してください。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。)	ー

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶ 《**ランプ･計器**》ヒューズ,《**作業灯**》ヒューズ,《**マイコン**》ヒューズ，が切れている。	●ヒューズを交換してください。 ランプ・計器ヒューズ……15Ａ 作業灯ヒューズ……30Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	88～91
	❷ バッテリの放電。	●バッテリを充電・交換してください。	92～98
方向指示器が点灯しない	《**フラッシャ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 フラッシャヒューズ……15Ａ	88～91
刈高さポジションコントロールが作動しない	《**操向・リフトリール**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 操向・リフトリールヒューズ…15Ａ マイコン……10Ａ	88～91
選別調節が作動しない	❶ 《**選別**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別ヒューズ……15Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	88～91
	❷ 揺動流板部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をしてください。	12
リール変速作動しない	《**リール変速**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**ＩＧリレー**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リール変速ヒューズ……15Ａ マイコンヒューズ……10Ａ ＩＧリレーヒューズ……10Ａ	88～91
リール前後が作動しない	❶ 《**リフト前後**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズ，または《**ＩＧリレー**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リール前後ヒューズ……30Ａ マイコンヒューズ……10Ａ ＩＧリレーヒューズ……10Ａ	88～91
	❷ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にしてください。	11

4. ヘッダ部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
ヘッダ部が作動しない	❶　搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置してください。 ①パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《切》**にしてください。 ②エンジンを停止してください。 ③ヘッダ部の詰まり箇所を取除いてください。 ④エンジンを始動してください。 ⑤パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《刈取》**にして確認してください。 ※副変速**《中立･N》**で主変速を**《前進・低速》**にしてください。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	38～39 114
	❷　刈取クラッチスプリングの調整不良。(ベルトがスリップしている)	●刈取クラッチスプリングの調整をしてください。	123
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油してください。	84
	❷　刈刃の調整不良。(刈刃のすき間が広い)	●調整ライナですき間を調整してください。	116
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換してください。	ー
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●急激な操作は避けてください。	19
ヘッダ部でロスが多い	❶　刈刃の前で作物が滞留している。	●リールの高さを低くセットし，作物が刈刃からプラットホームオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	19，43
	❷　プラットホームが高すぎて，作物を短く刈りすぎている。	●作物をプラットホームオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまでプラットホームを低くしてください。	19，43
	❸　向い刈りで，リールが作物を押さえつけている。	●リール高さを適正にしてください。	43
リールに巻き上げや巻き付きがある	❶　タイン角度が小さすぎている。	●タイン角度を適正にしてください。	119～120
	❷　リール高さが低すぎている。	●リール高さを適正にしてください。	43

5. 脱こく部

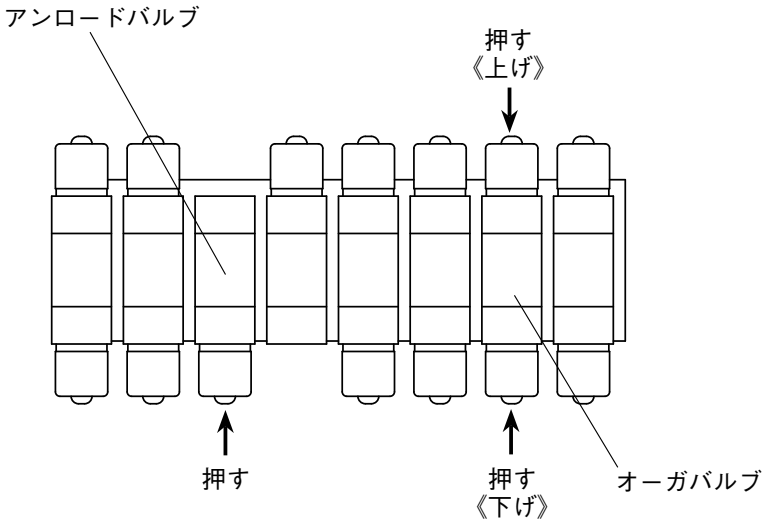
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく部１番，２番詰まりでエンジンが停止した	１番，２番に詰まりがある。（回転していない）	●つぎの手順により処置してください。 ①パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《切》**にしてください。 ②脱こく部１番，２番関係の詰まり箇所を取除いてください。 ③エンジンを始動してください。 ④パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《脱こく》**にして確認してください。 **取扱いのポイント** **●処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	112～113
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，作業回転の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	8
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく駆動ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	130～132
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	109
	❹　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	38～39
	❺　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●ノブナットをしっかり締付けてください。	113

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	109
	❷ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，作業回転の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	8
	❸ 刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をしてください。	16〜17
	❹ 送じんがスムースでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節してください。 （必要に応じてガイドを固定します。）	59
	❺ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	38〜39
	❻ 作物が朝つゆなどでぬれている。	●よく乾燥してから刈取ってください。	—
	❼ ロータの回転数が低くなっている。	●回転数を見ながらエンジンコントロールレバーで規定回転数にしてください。	16
	❽ 作業速度が速すぎる。	●現在の速度より少し落として作業してください。	—
	❾ 作物の不均一な送り込みがある。	●不均一な送りの原因を調べて，取り除いてください。	—

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
スレッシングロスが多い	❶　エンジンの回転数が高くなっている。	●回転数を見ながら，エンジンコントロールレバーで規定回転数にしてください。	16
	❷　作業速度の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をしてください。	16〜17
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	109
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をしてください。	38〜39
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	38〜39
こぎ残しが多い	❶　ロータの回転が低い。	●回転計を見ながら，エンジンコントロールレバーで規定回転に合わせて，マークの範囲内になるようにして作業をしてください。	16
	❷　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去してください。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	38〜42
	❸　作物の供給量が不十分になっている。	●作業速度を少し速くしてください。	16
	❹　送じん量調節が《**多い**》方向になっている。	●送じん量調節を《**少ない**》方向へ調節してください。	59
	❺　作物の不均一な送り込みがある。	●作業速度を少し速くしてください。リールが前過ぎていれば，後に下げてください。	16

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
選別が悪い	❶　エンジンの回転数が低すぎる。	●回転を見ながら，エンジンコントロールレバーで規定回転数にしてください。	16
	❷　トウミの風路，および風路入口にワラくずなどがたまっている。	●ワラくずなどを取除いてください。	—
	❸　トウミの回転数調節が適正でない。	●正しく調節してください。	37
	❹　作物の供給量が不充分になっている。	●作業速度を少し速くしてください。	16
損傷粒が多い	❶　供給量が不適正になっている。	●作業速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは，作業速度を落として作業してください。	16
	❷　作物の不均一な送り込みがある。	●不均一な送りの原因を調べて，取り除いてください。	—
	❸　１番，２番部に土が付着している。	●土をきれいに落としてください。	—
	❹　ロータ回転が高くなっている。	●回転計を見ながら，エンジンコントロールレバーで規定回転数にしてください。	16

6. グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
排出オーガを操作しても，動かない	❶ 《**オーガ排出・水平**》ヒューズ，《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 オーガ排出・水平ヒューズ…10A マイコンヒューズ……10A	88〜91
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《**上げ**》および《**下げ**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）  	—
	❸ オーガレスト「**格納**」位置でリールが最下げになっていない。	●リール上下スイッチでリールを最下限まで下ろしてください。	19
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない	❶ グレン入力ベルト・グレンタンク横ラセン駆動ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整してください。	132〜133
	❷ 《**排出クラッチ・フラップ**》，《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 排出クラッチ・フラップヒューズ…20A マイコンヒューズ……10A	88〜91

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

7. キャビン部［キャビン仕様］

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ 《**ワイパ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……15A	88〜91
ウォッシャ液が出ない	❶ ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給してください。	82
	❷ 《**ワイパ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……15A	88〜91
クーラが作動しない	❶ 《**エアコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 エアコンヒューズ……20A	88〜91
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除してください。	—
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換してください。	—
	❷ 《**室内灯・カーステ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	88〜91
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換してください。	—
	❷ 《**作業灯**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 作業灯ヒューズ……30A	88〜91
	❸ その他。	●「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。	—
カーステレオが作動しない	❶ 《**室内灯・カーステ**》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	88〜91
シガライタが作動しない	❶ 《**室内灯・カーステ**》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	88〜91
クーラが冷えない	❶ ガスがない。	「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。	—

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
モニタに映像が映らない	❶　カメラの配線が正しく接続されていない。	●カメラ用の配線，コネクタの接続を確認してください。	―
	❷　AUXスイッチが「ON」になっている。	●AUXスイッチを「OFF」にしてください。	65
モニタの電源が入らない	❶　電源の配線が正しく接続されていない。	●配線を確認してください。	―
	❷　《モニタ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 モニタヒューズ……5A 再度切れる場合は，「お買いあげ先」にご相談ください。	88～91
モニタの映像が薄い	❶　使用状況が悪い。	●車内温度が0℃以下，または60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認してください。	―

・上記の対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，「お買いあげ先」にご相談してください。

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

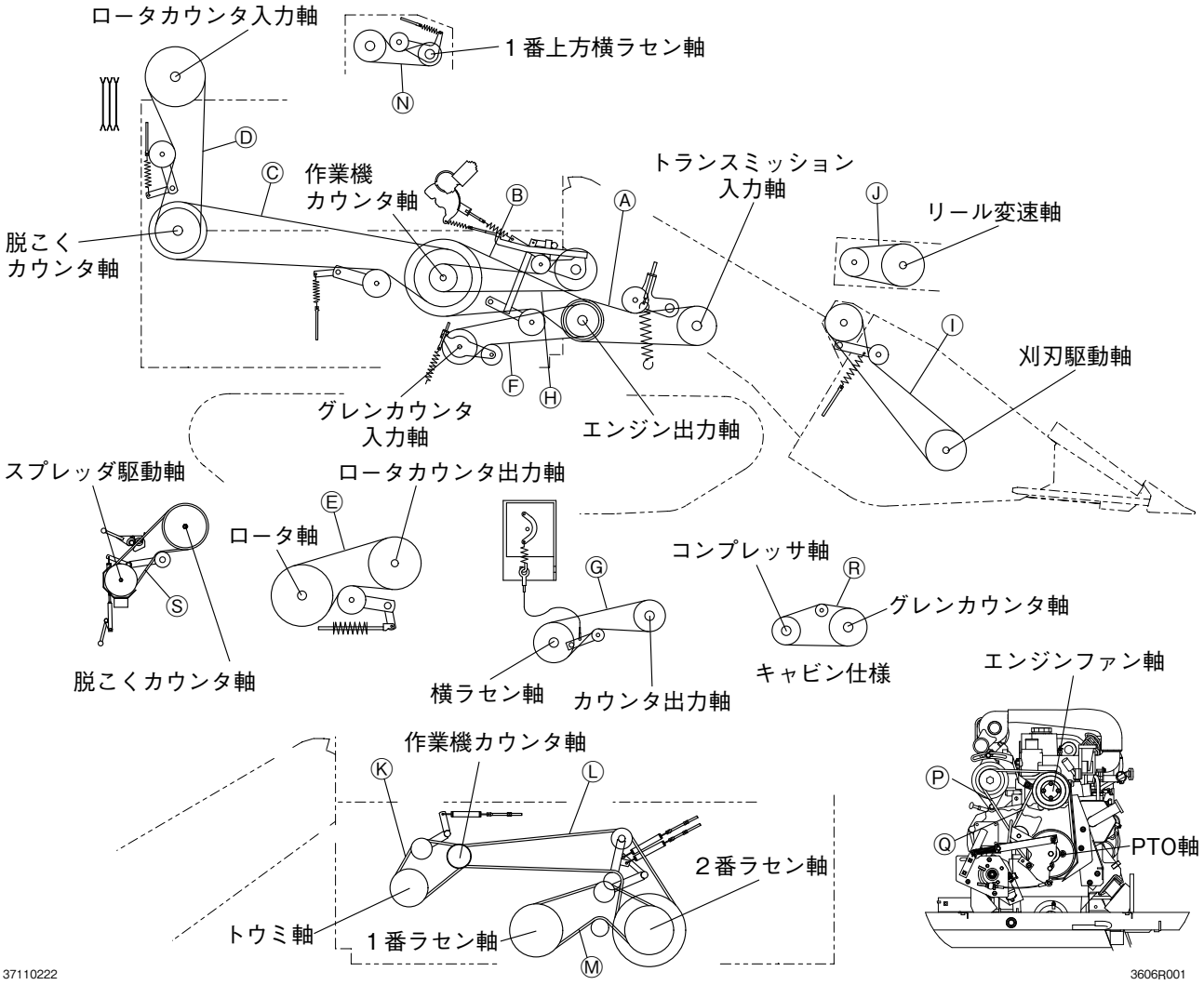
付　表

1．主要諸元

型式名			三菱 VCH650		
区分			－	S	XS
車両型式名			三菱 KDN－VC63B		
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	4850	5510	
	全幅	(mm)	2140		2150
	全高	(mm)	2610		2630
機体質量（重量）		(kg)	3400	3570	3720
エンジン	型式		三菱 S4Q2－T12C		
	種類		水冷4サイクル４気筒ディーゼルターボ		
	総排気量	(L {cc})	2.505 {2,505}		
	出力／回転速度	(kW {PS}/rpm)	46.6 {63.4} /2800		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	(L)	60		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ	(V・Ah)	12・55		
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	450×1670		
	クローラ 中心距離	(mm)	1080		
	クローラ 平均接地圧	(kPa {kgf/cm²})	0.23 {22.2}	0.24 {23.3}	0.25 {24.3}
	変速方式		油圧モータ式（HST）		
	変速段数（段）		前進無段，後進無段（副変速２段）		
	走行速度（m/s） 前進		標準０～1.40，走行０～2.28		
	走行速度（m/s） 後進		標準０～1.40，走行０～2.28		
ヘッダ部	デバイダ先端間隔	(mm)	1700		
	刈取装置形式		往復動刈刃式（シングル）		
	刃幅	(mm)	1590		
	リール 回転径×幅	(mm)	1000×1450		
	リール 回転速度	(rpm)	23～33		
	刈高さ範囲（最低～最高）	(mm)	－25～830		
脱こく部	形式		軸流式		
	ロータ径×幅	(mm)	600×1700		
	選別方式		揺動方式および順風選別		
	選別幅	(mm)	700		
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク式（オーガ排出）		
	タンク容量	(L)	1300		
排わら処理装置			－	チョッパスプレッダ	

2. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸 ～ トランスミッション入力軸	2	3553 0054 001	LB59	走行ベルト
B	エンジン出力軸 ～ 作業機カウンタ軸	2	3711 6281 000	LB80	作業機カウンタベルト
C	作業機カウンタ軸 ～ 脱こくカウンタ軸	1	3711 6282 000	LC120	脱こく駆動ベルト
D	脱こくカウンタ軸 ～ ロータカウンタ入力軸	2	3711 6283 000	SC79	脱こくカウンタベルト
E	ロータカウンタ出力軸 ～ ロ ー タ 軸	3	3711 6125 000	LC63	ロータ駆動ベルト
F	エンジン出力軸 ～ グレンカウンタ入力軸	1	3553 0054 001	LB59	グレン入力ベルト
G	グレンカウンタ出力軸 ～ 横 ラ セ ン 軸	1	3559 9023 000	SB69	グレンタンク横ラセン駆動ベルト
H	作業機カウンタ軸 ～ ヘッダ駆動軸	1	3574 6541 000	LC63	ヘッダ駆動ベルト
I	刈取カウンタ軸 ～ 刈 刃 駆 動 軸	1	3711 4926 000	SC75	刈刃駆動ベルト
J	リール変速入力軸 ～ リール変速出力軸	1	3711 4337 000	B34.5(コグ)	リール変速ベルト
K	作業機カウンタ軸 ～ ト ウ ミ 軸	1	0852 1500 035	SB35	トウミ駆動ベルト
L	作業機カウンタ軸 ～ 2 番 ラ セ ン 軸	1	3711 6658 000	LB98	選別ベルト
M	2 番 ラ セ ン 軸 ～ 1 番 ラ セ ン 軸	1	3711 6645 000	SB65	1 番ラセン駆動ベルト
N	1番上部ラセン入力軸 ～ 1番上方横ラセン軸	1	0852 1500 035	SB35	1 番上方横ラセン駆動ベルト
P	エンジンＰＴＯ軸 ～ エンジンファン軸	1	05910 10041	1060㎜	ファンベルト（オルタネータ）
Q	エンジンＰＴＯ軸 ～ エンジンファン軸	1	3606 0234 500	LA36	ファンベルト（ラジエータ）
R	コ ン プ レ ッ サ	1	3583 3959 000	FM37	コンプレッサベルト［キャビン仕様］
S	脱こくカウンタ軸 ～ スプレッダ駆動軸	1	3553 0054 001	LB59	スプレッダ駆動ベルト［スプレッダ仕様］



3. 主な消耗部品

No.	名　　称	部品番号	個数	備　　考
1	走行ベルト LB59（AG8A）	3553 0054 001	2	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸
2	作業機カウンタベルト LB80（ベアバック）	3711 6281 000	2	エンジン出力軸～作業機カウンタ軸
3	脱こく駆動ベルト LC120	3711 6282 000	1	作業機カウンタ軸～脱こくカウンタ軸
4	脱こくカウンタベルト SC79	3711 6283 000	2	脱こくカウンタ軸～ロータカウンタ入力軸
5	ロータ駆動ベルト LC63（ベアバック）	3711 6125 000	3	ロータカウンタ出力軸～こぎ胴軸
6	グレン入力ベルト LB59	3553 0054 001	1	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸
7	グレンタンク横ラセン駆動ベルト SB69	3559 9023 000	1	グレンカウンタ出力軸～横ラセン軸
8	ヘッダ駆動ベルト LC63	3574 6541 000	1	作業機カウンタ軸～ヘッダ入力軸
9	刈刃駆動ベルト SC75	3711 4926 000	1	ヘッダカウンタ軸～刈刃駆動軸
10	リール変速ベルト B34.5（コグ）	3711 4337 000	1	リール変速入力軸～リール変速出力軸
11	トウミ駆動ベルト SB35	0852 1500 035	1	作業機カウンタ軸～トウミ軸
12	選別ベルト LB98	3711 6658 000	1	作業機カウンタ軸～２番ラセン軸
13	１番ラセン駆動ベルト SB65	3711 6645 000	1	２番ラセン軸～１番ラセン軸
14	1番上方横ラセン駆動ベルト SB35	0852 1500 035	1	１番上部ラセン入力軸～１番上方横ラセン軸
15	ファンベルト（オルタネータ）1060㎜	05910 10041	1	エンジンPTO軸～エンジンファン軸
16	ファンベルト（ラジエータ）LA36	3606 0234 500	1	エンジンPTO軸～エンジンファン軸
17	コンプレッサベルト FM37	3583 3959 000	1	コンプレッサ［キャビン仕様］
18	スプレッダ駆動ベルト LB59	3553 0054 001	1	脱こくカウンタ軸～スプレッダ駆動軸［スプレッダ仕様］
19	チェン46L	3711 5831 000	1	ヘッダ入力軸～FH駆動軸
20	フィーダチェン80L	3711 5505 000	2	FH
21	チェン168L	3711 5795 000	1	FH駆動軸～ヘッダカウンタ軸
22	チェン110L	3711 5321 000	1	ヘッダカウンタ軸～PFオーガ
23	チェン64L	0871 9130 646	1	刈取カウンタ軸～リール変速入力軸
24	チェン41L	0870 2130 41A	1	リール変速出力軸～リールカウンター軸
25	チェン130L	0870 2131 306	1	リールカウンタ軸～リール
26	エレベータチェン112L	3711 6341 000	1	１番バケットコンベアチェン
27	エレベータチェン118L	3711 6441 000	1	２番スラットコンベア
28	タイン	3711 4011 000	72	リールタイン
29	フィンガ	3711 5112 000	9	PFオーガ
30	刈刃駆動アイボルト	3711 4903 000	1	刈刃駆動用のボールジョイントボルト
31	刈刃	3711 4701 000	1	刈刃アッシ
32	ワイヤー	3711 4622 000	1	リール高さ検出用ワイヤー
33	スラット	3711 5508 000	14	FHスラット
34	扱歯A	3711 6035 000	23	前側
35	扱歯B	3711 6035 500	44	後側
36	ボルト	H144 0106 012	17	シリンダスパイラル前側補強取付
37	六角穴ボルト	A544 0706 012	5	シリンダスパイラル
38	六角穴ボルト	A544 0706 016	118	シリンダスパイラル
39	六角穴ボルト	A544 0706 020	16	シリンダスパイラル
40	受網A	3711 7201 000	1	18P
41	受網B	3711 7202 000	1	25P

No.	名　　称	部品番号	個数	備　　考
42	受網C	3711 7203 000	1	18P
43	受網D	3711 7204 000	1	25P
44	補強プレート前	3711 6038 000	2	シリンダスパイラル補強
45	補強プレート	3711 6036 000	1	シリンダスパイラル補強
46	補強プレート	3711 6037 000	1	シリンダスパイラル補強
47	補強プレート	3711 6039 000	4	シリンダスパイラル補強
48	排稈羽根	3711 6041 000	3	シリンダ後側排わらフィンガ
49	フィン	3711 6824 000	4	撥水加工フィン（駆動）
50	フィン	3711 6834 000	14	撥水加工フィン（従動）
51	シール	3553 7609 001	2	シリンダカバー部
52	シール	3711 7405 000	4	シリンダカバー部
53	シール	3711 7406 000	2	シリンダカバー部
54	シール	3711 7621 000	2	シリンダサイドカバー部
55	シール	3711 7622 000	2	シリンダサイドカバー部
56	シール	1050 6235 000	1	２番コンベア上
57	シール	4356 6212 000	2	２番還元口
58	シール	1050 6235 000	1	１番コンベア上
59	スパイラルシャフト１－１	3711 6601 000	1	１番コンベアラセン
60	スパイラルシャフト１－２	3711 6354 000	1	１番上方横ラセン
61	プレート	3711 6355 000	2	１番上方横ラセン終端の跳ね出し板
62	バケット	3711 6342 000	28	１番バケット
63	スパイラルシャフト２－１	3711 6651 000	1	２番コンベアラセン
64	プレート	3711 6443 000	29	２番スラット
65	スパイラスシャフト２－２	3711 6451 000	1	２番還元ラセン
66	プレート	3711 6452 000	2	二番ラセン上ラセンの終端部の跳ね出し板
67	スパイラルシャフト	3583 9071 001	1	グレンタンク下コンベアラセン
68	スパイラスシャフトA	3574 9321 001	1	オーガ縦ラセン
69	スパイラルシャフトB	3583 9366 000	1	オーガ横ラセン
70	スパイラルシャフトD	3574 9385 000	1	オーガ横ラセン
71	フィルタ１０	3544 1855 000	1	HST
72	エアクリーナエレメント	3559 0501 200	1	
73	フィルタ	0980 6000 00B	1	油圧タンク注油口
74	フィルタアッシ	3446 2-30 030	1	燃料フィルタ
75	エンジンオイルフィルタ	MD162326	1	
76	バッテリー	F987 080D 26R 4	1	
77	ナイフ　T5	3711 8415 000	16	チョッパの回転刃
78	ナイフ	3711 8425 000	15	チョッパの固定刃
79	ヒューズ	1037 5502 200	－	60A（メイン）
80	ヒューズ	3559 0861 200	－	40A（グレンオーガ旋回モータ）
81	ヒューズ	0980 1001 006	－	10A
82	ヒューズ	0980 1001 506	－	15A
83	ヒューズ	0980 1002 006	－	20A
84	ヒューズ	0980 1003 006	－	30A

4. 付属品一覧表

No.	品　　名	個　数	備　　考
1	取扱説明書	1	
2	コンバインシート	1	
3	保証書	1	
4	メンテナンスノート	1	

5. アタッチメント（別売り）

	型　　式	商　品　名	備　　考
基本作業機・部品	K－VCH65B1	大豆専用キット	大豆の作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－VCH65B2	小径大豆専用キット	小径大豆等の作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－VCH65K	標準共通キット	大豆・小径大豆等を収穫するときに装着する共通交換部品
	K－VCH65SLAT	ビーンスラットキット	大豆等のヘッドロス低減のためにリールに装着する専用追加部品
	K－VCH65PFDS	ＰＦオーガ回転減速キット	大豆等のヘッドロス低減のためPF回転を低減する専用交換部品
	K－VCH65REDS	リール回転減速キット	大豆等のヘッドロス低減のためリール回転を低減する専用交換部品
	B1100－SM	大豆直接排出キット	大豆をバケットコンベアで排出する専用追加部品
	K－VCH65BHT	大豆直接排出取付キット	大豆直接排出キットを本機に取付るための専用追加部品
	K－VCH65M2IN	２インチ刈刃キット	大豆等のヘッドロス低減のため装着する専用交換部品
	K－VCH65J	対地平行・刈高さ自動キット	刈高さ等を一定に保つ制御を行うための専用追加部品
	K－VCH65CSS	チョッパスプレッダ	排稈，排塵をほ場へ均一に拡散するためのアタッチメント（排塵ケース仕様用）
	K－VCH65FAN	防塵ファンキット	FH内部等のホコリ等を機外へ排出するための専用ファン
	部品No：9495-0006-320	リフタ	倒伏材収穫時等に追加装着するデバイダ 部品No：9495-0006-280　リフタコマ（別売り） 部品No：9495-0000-890　角ボルト（別売り）
	CH60	フード	作業機No：31804-10431
	K－VCH65MOC	オーガ先端カメラ	オーガの先端に追加するＣＣＤカメラ（キャビン仕様用）
	K－RCVSVCH	オーガ無線リモコン	離れた場所からオーガを操作するための追加部品

6. 潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ（SAE・10W－30）
JX日鉱日石エネルギー	ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－4）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

取扱いのポイント

●トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

4. グリス

メーカ	商品名
三菱農機純正油	ヤナセのグリス

5. 防錆・潤滑油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	NX-127

取扱いのポイント

●各部の潤滑，防錆等は，指定のオイルを使用してください。守らないと，焼付きや作動不良を起こすことがあります。

7. 専門用語

名称	略称	機能の説明
クイックアップ		ヘッダリフトと同時にリールを下降させる稈こぼれを低減するための自動機能
クイックセット		クイックアップ直前のヘッダ高さ，リール高さに自動で戻す自動機能
リフトシャット		ヘッダを一定高さ以上上昇させたときにヘッダ回転を止める機能
機体水平制御		機体を水平に保つ機能
対地平行制御		地面に対して刈刃が平行になるように機体を傾ける機能
オーガ自動収納		排出後，オーガレストのある位置にオーガを自動で戻す（収納する）機能
刈高さポジションコントロール	刈高ポジコン	地面の状態に関係なくヘッダの高さを一定以下に下がらない用にコントロールするための自動制御機能
対地刈高さコントロール	対地刈高	常に地面に対する刈刃の位置（地面と刈刃のすき間）を一定にコントロールする自動制御機能
強制かき込み		ヘッダ高さ，車速信号の有無に関係なく，主変速レバーに取り付けられたボタンを押している間はリールが下がり，ヘッダ全体が最高速で回転する機能
倒伏モード		主変速レバーに取り付けられたボタンを押すとリールが下がり，前に出ると共にリール回転速度が上昇する機能。もう一度押すと元に戻る
ヘッダー	ヘッダ	作物を刈り取り，脱こく部に供給する部分
フィーダハウス	FH	作物をプラットホームオーガから脱こく部に搬送する部分
プラットホームオーガ	PFオーガ	作物をフィーダ入口に寄せるラセンのついている円筒の部分
刈刃		ヘッダ部に取り付けてある作物を切断する刃
デバイダ		ヘッダ部の左右の最前部にある作物を分草する部分
ナローガイド		デバイダ外側に取り付けられている分草した作物の倒れ込みを防止するガイド
リール		回転して作物を引き起こすヘッダ部の六角形状の部分
リール変速		リールの回転数を任意（あるいは自動）で変更する部分
脱こく部		ヘッダから供給された作物からこく物とわらを分離し，こく物だけを回収する装置
軸流式ラセンロータ	ロータ	FHから搬送された作物を脱こくするドラム
ロータ変速ギヤケース	ロータギヤケース	ロータの回転速度を切り替えるための変速機
ロータカバー		軸流ラセンロータを覆う送じんガイドが取り付けられた開閉式のカバー
送じんガイド		ロータカバー内の被処理物の処理の度合いをコントロールするためのガイド
ロータサイドカバー		脱こく部の左面上側の跳ね上げ式のカバー
トウミファン		選別部最前部分に設置されている選別風を発生させるファン
ターボファン		一番ラセンと二番ラセンの間に設置されている選別風を発生させる補助ファン
バケットコンベア		一番ラセンから搬送されたこく粒をグレンタンクへ縦搬送するバケット付きコンベア
スラットコンベア		二番ラセンから搬送されたこく粒を二番上部ラセンに縦搬送するスラットコンベア
撥水揺動流板	撥水揺動	揺動のチャフシーブ（あるいは波板と両方）にフッ化樹脂コーティング塗装を施した揺動
グレンシーブ		受網から漏下されたこく粒と茎等を選別する短冊状の部品
チャフシーブ		こく物を選別する揺動の網状の部分
排じんケース		排稈，排じんをそのまま排出する時に取り付ける部品
チョッパスプレッダ	チョッパ	排稈，排じんを切断し，ほ場に均一に拡散する装置
排出オーガ	オーガ	グレンタンクに入れたこく粒を排出するための筒
オーガレスト		オーガを格納するためのステー
オーガリモコン		運転シート後方に取り付けられた排出オーガをコントロールするためのワイヤードリモコン
グレンタンク	タンク	脱こくされたこく粒をためておくタンク
ヘッドロス		ヘッダ部で発生する作物損失
スレッシングロス		脱こく部で発生する作物損失

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

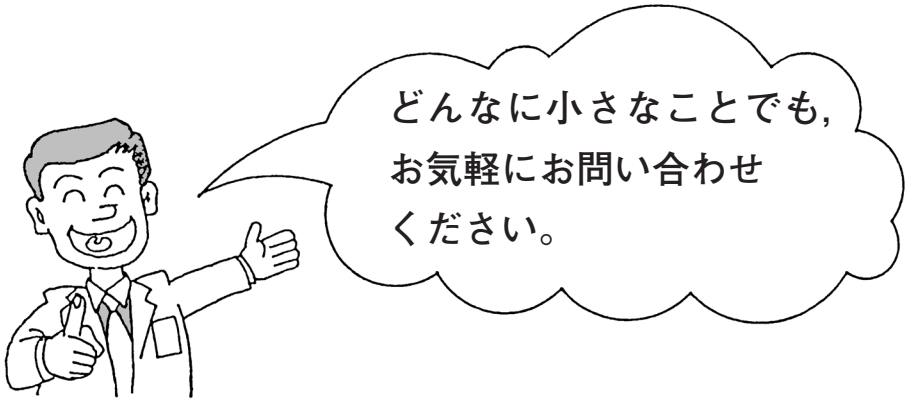
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）